

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 病院における研究（課題別研究費）

<研究課題 1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

<研究者氏名>

所属部：放射線診断・IVR部

研究者氏名：稲葉吉隆

共同研究者：山浦秀和、佐藤洋造、鹿島正隆、加藤弥菜、川田紘資、村田慎一

【目的】

肝動注化学療法のためのカテーテル留置法として、留置血管でのカテーテル先端の動きに伴う機械的刺激または注入される抗がん剤の化学的刺激によって生じると推測されている肝動脈閉塞を軽減させる目的で側孔型カテーテル先端固定留置法が開発され、中でもカテーテル先端部を胃十二指腸動脈（GDA）に金属コイルで固定するGDAコイル法が普及している。当初総肝動脈（CHA）でカテーテル先端を固定するCHAコイル法も考案されたが、コイルが抗がん剤を注入しなければならない固有肝動脈に逸脱するリスクがあり、難易度が高い手技とされ現在では殆ど用いられなくなっている。しかし、時にCHAコイル法が妥当と考えられる症例も経験され、GDAコイル法の普及後に、CHAコイル法により肝動注カテーテルを留置した症例において、その実行性を検証した。

【方法】

平成14年～24年に当院でCHAコイル法による肝動注カテーテル留置を試みた症例は5例であり、男性2例、女性3例、平均年齢62.8（54～75）歳で、大腸癌肝転移4例、食道癌肝転移1例であった。

CHAコイル法を用いた理由、カテーテル留置形態、使用した留置カテーテル、使用した金属コイル、動注継続期間、カテーテル位置移動の有無を調査した。

【結果】

CHAコイル法が選択された理由は、CHA狭窄+GDA求肝性血流状態2例、腹腔動脈（CA）狭窄+GDA求肝性血流2例、CA閉塞1例であった。全例で側孔型カテーテル（ロングテーパー型ダブルスパイラルカテーテル4例、ロングテーパー型アンスロンPUカテーテル1例）が左鎖骨下動脈経由で挿入され、4例ではCAから右胃大網動脈まで、CA閉塞の1例では上腸間膜動脈からGDAを逆行性に脾動脈まで留置された。側孔位置は全例でGDA近位部であった。右大腿動脈からのカテーテル操作でCHAの留置カテーテル周囲にコイル（18コイル4例、35コイル1例）が留置され、CHAの塞栓と留置カテーテルの固定が行われた。コイルの逸脱はなく、カテーテル留置は

全例で成功しており、5FUによる肝動注（1例はシスプラチン併用）が72～685（中央値136）日間継続された。肝動注期間内でのカテーテル移動は認めなかった。

【考察】

CHAコイル法はCA閉塞やCA～CHA狭窄のためにGDAが求肝性血流となっている症例で安定したカテーテル留置法として利用できる。これらの症例では、CHAが狭いことやCHAでの血流が遠肝性となっており、CHAへのコイル留置は比較的容易と考えられた。

<研究課題 2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk

<研究者氏名>

所属部：乳腺科部

研究者氏名：岩田広治

共同研究者：藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、吉村章代

【1年間の総括】

この1年間にも乳癌の術前後薬物療法に関する膨大な情報が世界中から流入し、我々が参加している国内・国外の臨床試験も多方面にわたって進行した。

1：術後内分泌療法に関する研究

報告：ホルモンレセプター陽性乳癌の再発時期は、晩期再発が多い。晩期再発のリスクファクターを検討する試みが世界中で活発化している。現時点では明確な予後予測ツールはないが、遺伝子解析を用いたPAM50などは予測ツールとして期待されている。

晩期再発の予測が難しい現状で、長期内分泌治療を漫然と行うことには議論があり、特に閉経後患者におけるアロマターゼ阻害剤の長期投与は、副作用とのバランスにおいて考える必要があり、日本で行われているN-SAS-BC05試験や他国で行われている試験の結果が今後注目されている。

2：術後化学療法に関する研究

報告：術後化学療法の適応をmolecular subtypeで考えようとする方向性は定着したが、以前“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんでは化学療法の是非がカンファレンスでよく議論になる。OncotypeDXが解決の1つのツールであるが、保険適応がなく高額な為、普及していないのが現状である。薬剤の開発はADR, Taxan系抗がん剤以降、術後新規抗がん剤のエビデンスはでていない。日本でluminal type乳癌を対象に、経

口5FU (S-1) の有効性を検証する先進医療の枠組みで行っているPOTENT試験の結果が期待されるエビデンスとしては重要である。

3：術後分子標的治療に関する研究

報告：2013年度には分子標的薬の大規模臨床試験の結果は報告されず、HER2陽性乳癌には術後Trastuzumab 1年投与が現在の標準治療である。新たな動きとしては2014年度にはlapatinibを使った大規模診療試験 (ALLTO study) の結果が報告される見込みであり、再発乳癌で極めて大きな有用性を示したPertuzumab (Affinity試験) やT-DM1 (Kaitlin試験) を使った大規模臨床試験が現在登録終了、登録中である。さらに高齢者HER2陽性乳癌患者における化学療法省略の是非を問うN-SAS-BC07試験 (PI：当院の澤木先生) も引き続き登録中である。この分野は、今後も新薬の開発、新規治療法の検証試験などが計画されている。

4：術前化学内分分泌療法に関する研究

報告：日本で実施された閉経前ホルモン感受性乳癌に対してZoladex+TAM vs Zoladex+ANAの比較試験 (STAGE試験) の結果がLancet Oncologyに掲載され世界中に大きなインパクトを与えた。閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する第III相多施設共同比較試験 (NEOS study：PIは岩田) の登録が2013年10月をもって終了した。

5：術後denosumab投与に関する研究

報告：denosumab (RANKL抗体) を、術後再発high risk乳癌患者に再発予防で使用する世界共同大規模臨床試験の登録はすべて終了して、経過観察中である。

上記のような世界の潮流、エビデンスを踏まえ、当院での術後治療指針を改訂し、東海地区を中心にして広く流布している。

<研究課題 3>

臨床検査における各種がん診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

<研究者氏名>

所属部 臨床検査部

研究代表者 谷田部 恭

共同研究者 岡田恭孝、遠山由美子、長谷川かおり、

板倉英二、早川 登、柴田典子、尾関順子

【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学部門では、蛋白分画の測定装置の更新を行い、従来のセパ膜を用いる方法からキャピラリー電気泳動法に変更した。全自動のシステムを導入した事もあり、以前と比較して短時間で鮮明な分画像を得ることができるようになった。これにより血液疾患等の患者の診断・治療に迅速に対応できるようになった。消化器内科からの依頼も多く病態の把握などに利用されていると思わ

れる。血液検査部門では、外来患者の採血業務を円滑に行う目的で採血支援システムを導入した。導入により採血管の自動準備、ディスプレイによる呼出・誘導、採血時の患者照合や採血者の登録が可能となった。昨年度に実施した採血室のレイアウト変更との相乗効果で、より安全で確実な採血体制が構築できた。日常業務ではフローサイトメトリー法によるCD34陽性細胞絶対数測定について内部標準ビーズを用いたシングルプラットフォーム法への移行に向け、現在、臨床検体を用いたデータを集積中である。生理検査部門では呼吸機能測定装置更新を機に、予測式を日本呼吸器学会のもの (JRS2001) に変更し、2013年4～9月にCHESTAC-8900 αD型で肺機能検査を実施した男性758名 (平均64.2歳)、女性739名 (平均57.9歳) を対象に、以下の方法でその影響を検討した。①男女別に%VC、%FVC、%FEV1.0を算出し、変更前と比較した。②%VCの正常値を80%以上とした換気機能障害分類による評価を変更前と比較した。①男性は、%VCが平均で10%、%FVCが2%、%FEV1.0が7%低下し、女性は、%VCが平均で11%低下、%FVCが2%上昇、%FEV1.0が7%低下した。②変更前は正常であった男性57名と女性25名が拘束性換気障害の判定となった。逆に変更により%VCが高値を示した例 (男性19例、女性8例) は、全体と比較すると年齢が高く、身長が低かった。JRS2001による%VCは変更前より低下する傾向があるため、拘束性換気障害の判定が増加し、高齢で身長が低いと%VCを過大評価する可能性がある。今後はこの検討結果を考慮して評価する必要があると思われる。

病理検査部門では、通常のHE染色に加え、癌の確定、補助診断に必要な免疫染色を行っている。今年度は、SALL4、PMS2、MSH6、STAB2、GATA-3、ERA等の抗体について、より早く、安定した情報を得るために、抗体希釈倍率、最適不活化の方法等を検討し、自動免疫染色機を用いて染色する方法を確定した。また、骨組織脱灰では、EDTA脱灰液を用い、マイクロウェーブを照射しつつ従来よりも温度を上げ (15℃→25℃) 常温に保つことで、検体の収縮を抑え、抗原性の発現を保持したまま、従来よりも短時間で品質の良い標本が作成可能となった。また、昨年に引き続き、ホルマリン固定液を希釈調整毎に濃度測定することにより、安定した組織標本作製に欠かせない適切な濃度管理を的確に行っている。細胞診検査室では、唾液腺腫瘍の新しい疾患単位として提言されたmammary analogue secretory carcinoma (MASC) についての形態学的検討を行った。この腫瘍群は従来、腺房細胞癌と診断されていることが多いが、疾患特異的にETV6-NTRK3融合遺伝子を有することが見出されている。そこで、当施設におけるETV6遺伝子再構成が確認できた症例の細胞診標本を再度観察し、特徴となる所見について検討した結果、嚢胞性背景、血管間質を伴う乳頭状集塊、細胞内分泌物、胞体内空胞、採取細胞量が多いという特徴が認められた。これらの結果を認知し、今後より正確な細胞診判定のために有効な所見として取り入れていく。細菌検査部門では、コロニウム-ESBL培地の有用性について検討を行った。ESBL (基質特異拡張型βラクタマーゼ) とはAmblerの分類でクラスAに属するペニシラーゼ (ペニシリン分解酵素) をコードする遺伝子の突然変異により、通常分解できない第III世代セファロスポリン系抗菌薬なども分解できるようになった酵素のことである。CLSI (Clinical Laboratory Standards Institute) では Escherichia

coli、Klebsiella pneumoniae、Klebsiella oxytoca、Proteus mirabilis の 4 菌種についてスクリーニング基準および確認試験法が定められているが、通常はESBLが疑われてから上記確認試験を実施するため、結果報告が1日遅れてしまうこととなる。また、上記の 4 菌種以外にも多くのグラム陰性桿菌（主に腸内細菌群）で本酵素の産生が確認されていることも考慮すると、結果報告の遅れは治療や感染対策上問題と考えられる。コロニー-ESBL培地を使用することにより、早い段階でESBLを疑う事が可能となり、同定感受性検査と並行して確認試験を実施できるため、通常の結果と遅れることなくESBLであることを報告できるので有用となる。今後はESBL以外の耐性菌についてもスムーズな結果報告ができるよう検査法の見直しをする計画である。遺伝子検査部門では主に分子標的薬の効果予測としての検査を行っており、中でも肺癌においては治療選択において不可欠なため、正確な検査結果を迅速に報告することが求められている。そこで正確な検査結果を得る一方法として、検査検体の有効な利用方法を検討した。未固定の胸水、心嚢液、穿刺検体など新鮮細胞を検査する細胞診検体に注目し、保存法や有効な利用法を検討した。その結果、通常作製に加え、捺印標本作製する、あるいはセルブロック作製を追加することにより、一つの検体からのRNA、DNA抽出、さらに免疫染色、FISH法など様々な検査方法が実施可能となった。この検体処理体制を確立し、正確な検査結果を感度良く臨床に報告している。また、検体の半永久的な保存が可能となったため、新規治療薬への対応、不応症例における二次耐性変異の検出など、将来必要となるかもしれない新規検査項目にも対応可能となった。

以上臨床検査部の各部門で取り組んだ課題の報告とする。

<研究課題 4>

骨軟部肉腫進行例に対する治療法の研究

A clinical trial of novel therapy for cases with advanced musculoskeletal sarcomas.

<研究者氏名>

所属部 整形外科部

研究者氏名 杉浦英志

共同研究者 吉田雅博、長谷川弘晃

<目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

【目的】 進行性・転移性の骨軟部肉腫症例の予後は極めて悪く、有効な治療がないのが現状である。今回、局所進行性の肉腫症例あるいは再発性・転移性症例に対してカルボプラチン、エトポシドによる動注化学療法を行い、その有効性と安全性を確認したので報告する。

【対象および方法】 血管造影により腫瘍血管を確認。血管造影後にカテーテルをmain feederにおき、病室にてカルボプラチン300mg/m²（2時間）・エトポシド200mg/body（2時間）を順に計4時間にわたって投与した。上記動注療法を2クール以上行っても縮小効果の見られなかった症例では放射線療法を追加した。照射法は分割照射とし、一回2-3Gy、totalで30-

60Gyとした。動注療法を施行した骨軟部腫瘍症例は14例であり、14例中放射線療法を併用した症例は8例であった。放射線線量は30-60Gy、平均44.9Gyであった。経過観察期間は平均4.2年（1-13年）であった。14例の内訳は男性6例、女性8例、平均年齢は42.0歳（22-73歳）であった。腫瘍の組織型は、骨腫瘍では骨肉腫1例、Ewing肉腫1例、骨MFH1例、軟部腫瘍では平滑筋肉腫4例、MFH4例、滑膜肉腫2例、類上皮肉腫1例であった。腫瘍発生部位は骨腫瘍では肩甲骨1例、上腕骨1例、脊椎1例であり、軟部腫瘍では大腿部4例、臀部2例、下腿部1例、頭部1例、肩部1例、会陰部1例、後腹膜1例であった。

【結果】 治療効果については14例中11例がPR、3例はNCであった。PR11例のうち3例は60%以上の著明な腫瘍縮小が認められた。著明な腫瘍縮小の見られた症例は滑膜肉腫1例と平滑筋肉腫2例であった。また、PRを呈した11例中4例では縮小手術が可能となった。最終経過観察時の予後はCDF4例、NED1例、AWD1例、DOD8例であった。副作用としては軽度の悪心を訴えたが、嘔気が持続することはなく、外来通院でも治療可能であった。血液検査では、初期の2コースでは白血球の軽度の減少を見るのみであったが、3コース以後は、白血球のみならずヘモグロビン、血小板いずれも減少する汎血球減少症を呈した。

【考察】 神経血管束等の重要臓器に近接した軟部肉腫進行例では、機能温存のために切除縁を縮小した手術が試みられるが、これには術前計画に基づいた一定の治療方針が必要である。放射線照射は、脂肪肉腫等の比較的感受性が高いものを除き、大部分の軟部肉腫に対してはその有用性は明らかではない。また、化学療法においては、小円型細胞肉腫を除き軟部腫瘍の感受性は乏しい。今回、腫瘍の縮小と安全な切除縁の確保を目的に、カルボプラチン・エトポシドによる動注療法を行い、14例中11例（79%）に腫瘍縮小効果を得ることができた。本法が重要臓器の機能温存に対して有益であることが示唆されたが、生命予後については14例中8例（57%）がDODとなっており、更なる治療法の確立が必要であると考えられた。

<研究課題 5>

標準的前立腺6カ所生検に内側生検を加えることによる前立腺がん検出率の向上

Improvement of the accuracy of prostate cancer detection by additional midline biopsies to standard sextant prostate biopsy.

<研究者氏名>

所属部 泌尿器科部

研究代表者 林 宣男

共同研究者 曾我倫久人、小倉友二

<研究目的>

前立腺生検において、近年、標準的6カ所生検では診断的

に不十分とされている。そこで、標準的6カ所生検に辺縁領域の内側生検を加えることにより、診断率が向上するかを検証した。

【研究の対象と方法】

1995年2月から、2012年12月までに、prostate specific antigen (PSA) が4ng/ml以上で前立腺癌が疑われ、初回に経直腸的超音波ガイド下前立腺生検が施行された1281例を対象とした。その内訳は、6カ所生検402例(1995年から2002年)、中央部内側左右1カ所を追加した8カ所生検488例(2003年から2006年)、8カ所生検に尖部内側生検左右1カ所を追加した10カ所生検が391例(2007年から2012年)であった。群間の統計学的検定は、 χ^2 検定、もしくはT-testで行った。

【研究結果】

平均年齢は、6カ所生検で67.8±6.8歳、8カ所生検で67.8±7.5歳、10カ所生検で67.0±7.5歳だった。平均年齢において3群間に有意差はなかった。PSA値は、6カ所生検で17.0±38.7 ng/ml、8カ所生検で15.6±30.5 ng/ml、10カ所生検で11.5±14.7 ng/mlだった。PSA値は、6カ所生検で有意に高かった(P=0.009)。各生検数別の癌検出率は、6カ所生検で30.1%、8カ所生検で43.5%、10カ所生検で53.0%であり、有意に陽性率は上昇した(P<0.0001)。PSA≤20ng/mlの症例で陽性率は有意に上昇したが(P<0.001)、PSA>20.0ng/mlの症例においては、陽性率の上昇は無かった。内側生検片のみ陽性である比率は、8カ所生検で6.6%、10カ所生検で15.8%であった。10カ所生検において、内外側(内側と6カ所生検)ともに陽性であった症例では有意にGleason scoreが高く(P<0.05)、内側生検のみ陽性であった症例と、6カ所生検のみ陽性であった症例のGleason scoreの分布に有意差は存在しなかった(P=0.24)

【結果】

前立腺生検において、6カ所生検に内側生検を追加することにより、有意に癌検出率は向上した。内側生検のみ陽性例において、6カ所生検のみ陽性例と同等にhigh Gleason scoreが含まれていた。今回の検討においては、標準6カ所生検部位より内側に孤立性癌が存在している可能性が高いことが示唆された。

<研究課題 6>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究
Development of molecular analysis on cancer diagnosis

<研究者氏名>

所属部 遺伝子病理診断部
研究代表者 谷田部 恭
共同研究者 細田和貴、佐々木英一、村上善子

【研究成果】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつ

つある。これら情報の一部は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じているなどの問題点も多い。そこで、それらの点を踏まえた新たなアッセイ系の確立を検討した。

本年度はmRNAとDNAをベースにしたアッセイの違いについて検討を行った。対象とする遺伝子変異は実際に臨床に取り入れられているEGFR変異についてこれまでの結果をもとに解析した。2001年から2012年に行われたEGFR遺伝子検査は2128件あり、DNA-RNAの結果比較を行うことが可能であったのは、1961件であった(表1)。そのうち、両者の結果が一致したのは1889テストであり、一致率は96%であった。62テストではDNAは野生型であったが、RNAを用いた解析では変異型を示した。逆に、10テストではDNAのみに変異型が観察された。変異率で考えるとこれら不一致例の86%ではRNAのみで遺伝子変異を示しており、DNAでの検討では検出限界以下であった可能性が示唆された。RNA発現はその臓器や細胞特異性が観察されるのに対し、DNAはどの細胞でもほぼ同量認められることから、その特異性が検出率に貢献していると考えられた。一方で、RNAはDNAよりも不安定であり、検体採取後の適切な処理が不可欠とされる。今回の結果は解析成功率が92%と高い値を示した。病院内での解析という点で、採取後の迅速な処理が可能であったことが良い結果が得られた原因と考えられる。

表1 EGFR遺伝子変異解析におけるテンプレートDNA/RNAの比較(遺伝子病理診断部2001-2012で検討された結果を元に検討)

RNA	DNA		Total
	Mutated	Wild type	
no RNA	39	128	167
Mutated	642	62	704
Wild-type	10	1247	1257
Total	691	1437	2128

<研究課題 7>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用

<研究者氏名>

所属部 放射線治療部
研究者氏名 古平 毅
共同研究者 立花弘之、富田夏夫、牧田智誉子

【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー(TomoTherapy社 TomoTherapy Hi-Art System)が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性

の評価を行うことを目的とした。

【方法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィを実施してきた。

2006/6-2013/12に頭頸部癌に対しヘリカルトモセラピーを用い473例の頭頸部癌へのIMRT治療の経験を得た。上咽頭および中咽頭はIMRTによる耳下腺の線量低減のメリットが大きいと考えられ、積極的にIMRTの適応を勧めてきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するにとどめる。対象は1990年以降2011年までに化学放射線療法を行った上咽頭がん患者で年齢は中央値53歳（11-76）、男性76例・女性23例、臨床病期は I:II: III: IVA:IVBB=5:15 : 47 : 16:16という内訳だった。WHOの病理組織分類のtype Iは19例type II-IIIは79例、のこり1例は組織型判別不能であった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は48.2月（16-93 ヶ月）、無病生存は170例、担癌生存は17例、原病死が9例、他病死7例の内訳だった。3/5年粗生存率は84.2/80.7%、3/5年無増悪生存率は72.2/66.5%という結果であった。G2の口腔乾燥割合は6ヶ月：1年：2年で64:24:15%と経時的な改善傾向を認めた。非IMRT治療では経時的な記録は評価できないが治療後の経過観察時点で80%の症例でG2の口腔乾燥を認めた。

【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

2. 研究所における研究（人当研究費）

疫学・予防部

<研究課題> 1

（主題） がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

（副題） 日本と米国の造血器腫瘍の記述疫学研究：罹患率の差から病因を探る

<研究者氏名>

千原 大¹⁾、伊藤秀美、松尾恵太郎²⁾、松田智大³⁾、片野田耕太³⁾、柴田亜希子³⁾、祖父江友孝⁴⁾、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

造血器悪性腫瘍は非常に多様な疾患の集合体であり、その分類は疾患の研究が進むにつれ年々詳細になってきている。造血器悪性腫瘍も含め、悪性腫瘍の発症は遺伝的背景、環境因子への暴露などを反映している側面があることから、異なる集団での各疾患の罹患率の差を検証することは病因を探るきっかけになると考えられる。このような背景を元に、我々は日本と米国の造血器悪性腫瘍の年齢調整罹患率をそれぞれの国のがん登録データから詳細分類別に算出した。対象とした集団は日本側の症例総数が125,148人、米国側の症例総数が172,925人であった。2008年における造血器悪性腫瘍の罹患率は日本人男性で10万人年あたり18.0人、女性で12.2人、米国人男性では34.9人、女性で23.6人であった。研究で検証した期間（1993～2008年）においては日本では有意に全造血器悪性腫瘍の罹患率が増加している[年間変化率：+2.4%（95%信頼区間：1.7, 3.1）]ことにに対し、米国では有意な変化は見られないことが確認された[年間変化率：+0.1%（95%信頼区間：-0.1, 0.2）]。また罹患率の差が非常に大きい疾患は造血器腫瘍の中でもホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫といった成熟リンパ球の疾患であったが、その中でも特に慢性リンパ性白血病、ホジキンリンパ腫（結節性硬化型）、菌状息肉症の罹患率の差が顕著であり、特に慢性リンパ性白血病の罹患率は米国において日本の20倍であることが確認された。程度の差はそれぞれの疾患で大きく異なるものの、造血器腫瘍は成人T細胞白血病とNK細胞リンパ腫を除き、ほぼ全ての病型で米国のほうが日本よりも罹患率が高かった。

<今後の方向>

罹患率の差が特に激しい慢性リンパ性白血病、ホジキンリンパ腫結節性硬化型、菌状息肉症などは人種間の遺伝的、後天的な暴露の相違を考慮した研究が進むことにより、罹患に関わる因子を同定できる可能性がある。日本では悪性リンパ腫を中心に継続的に造血器悪性腫瘍が増加していることにに対し、米国では増加はみられていない。登録精度の向上の可能性も考慮されるが、今後生活習慣の欧米化などが罹患リスクなのかを検証することが必要と考えられる。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 九州大学大学院医学研究院、

³⁾ 国立がん研究センター、

⁴⁾ 大阪大学医学部大学院医学系研究科

<研究課題> 2-1

（主題） がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

（副題） 日本人におけるPSCA遺伝子多型、ピロリ感染、喫煙状況別の累積胃がんリスク

<研究者氏名>

伊藤秀美、尾瀬 功、細野覚代、渡邊美貴、田中英夫、松尾恵太郎¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

近年のGenome-wide association study (GWAS) により、胃がんリスクと関連する遺伝子多型が見いだされている。また、既存の環境要因を含む疫学的知見も累積されており、今後、遺伝的ならびに環境要因を組み合わせた個別化予防の期待が大きい。

個別化予防においては、個々人がより具体的な自分自身のリスクをイメージすることが重要である。従来、分析疫学においては、相対リスクによるリスク提示がなされているが、具体性に欠ける面も指摘されている。そこで、本研究では、個別化予防を実施する際に、正しいリスク認知に有用な情報フィードバックにおける提示法の一つとして、PSCA遺伝子多型、ピロリ菌感染、喫煙習慣で層別化した胃がん累積リスクの可能性を検討した。

対象は、2001年から2005年に愛知県がんセンター疫学プログラムに参加した、胃がん患者692例と性、年齢を適合させた非がん者1372例である。PSCA遺伝子多型（rs2294008）をTaqMan法、ピロリ菌感染はIgG抗体により測定し、喫煙習慣は自記式質問表により把握した。PSCA遺伝子多型のリスクアレル数（0、1・2）、ピロリ菌感染の有無、喫煙経験の有無により、リスクグループを8つ作成し、ロジスティック回帰分析を用いてオッズ比と95%信頼区間にて、胃がんリスクとの関連を評価した。さらに、オッズ比、対照群におけるリスクグループの頻度分布、日本人人口、地域がん登録より得られる5歳年齢階級別罹患率を用いて、リスクグループ別の累積リスクを推計した。

75歳までの累積リスクは、リスクアレル数を持たない遺伝的低リスク群（リスクアレル数0）でピロリ菌感染がなく喫煙経験のない人の0.9%（95%信頼区間、0.3-3.3）から、遺伝的高リスク群（リスクアレル数1・2）でピロリ菌感染があり喫煙経験のある人の13.4%（13.3-13.4）と、広く分布していた。遺伝的高リスク群では、ピロリ菌感染があり喫煙経験のある場合の累積リスクは13.4%であったが、ピロリ菌感染がなく喫煙経験もない場合には2.0%（1.9-2.0）、ピロリ菌感染がなく喫煙

経験がある場合には3.9% (3.8-3.9)。ピロリ菌感染があり喫煙経験がない場合には9.4% (9.4-9.5)であった。つまり、遺伝的高リスク群であっても、その他のリスク要因を排除することにより、胃がん累積リスクを低下させることができることを意味する結果であった。以上より、累積リスクによるリスク提示は、個別化がん予防の実現において有用な情報フィードバック方法である可能性が示唆された。

<今後の方向>

他の症例対照研究やコホート研究で再現性を評価し、より正確なリスク予測に基づく累積リスクの提示を行う。

¹⁾九州大学大学院医学研究院

<研究課題> 2-2

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) 日本人女性におけるDNA修復遺伝子多型と子宮体がんリスクとの関連

<研究者氏名>

細野覚代、松尾恵太郎¹⁾、伊藤秀美、尾瀬 功、渡邊美貴、田島和雄²⁾、田中英夫、広瀬かおる³⁾、中西 透

<目的・概要・進捗状況>

近年日本人において子宮体がん (EC)は増加している。また、DNAの修復の障害は皮膚がんや大腸がんなど様々な悪性腫瘍のリスクと関連することが知られている。今回は種々のDNA修復遺伝子の遺伝子多型 (SNP) とECリスクとの関連について検討した。また、ECの重要な危険因子である肥満との交互作用についても検討した。

2001年1月から2005年11月までに愛知県がんセンターを受診した閉経子宮体がん91例と非がん閉経女性261名を研究対象とした。また、12のDNA修復遺伝子 (*OGG1*, *MUTYH*, *XRCC1*, *APE1*, *ADPRT*, *XPA*, *XPC*, *XPD*, *ERCC1*, *RAD23B*, *XPG*, *ERCC6*) の15のmissense SNPと1 intron SNPを選び、ECリスクとの関連を調べるために症例対照研究を行った。自記式調査票から生活習慣情報を収集した。非条件付きロジスティック回帰分析を用いて交絡因子調整オッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI) を調べた。また、肥満 [Body Mass Index (BMI) 25以上] との交互作用も調べた。ジェノタイピングはTaqMan法を用いた。

XRCC1遺伝子多型rs1799782 (C > T) は多変量解析においてCTでOR=1.74 (95%CI: 0.99-3.04)、TTでOR=2.76 (95%CI: 1.23-6.16) と有意な正の関連を示した (trend $p = 0.007$)。一方、XRCC1遺伝子多型rs25487 (G > A) では、GAでOR=0.66 (95%CI: 0.39-1.12)、GGでOR=0.15 (95%CI: 0.02-1.16) と有意な負の関連を示した (trend $p = 0.019$)。また、ADPRT (rs1136410) とXPG (rs17655) でも、ECリスクと関連する可能性が示された (trend $p = 0.076/0.082$)。肥満との交互作用については、rs25487で統計学的に有意な交互作用を示した

(interaction $p = 0.038$)。

以上の結果よりDNA修復遺伝子多型はECリスクと関連する可能性が示された。統計学的に有意な肥満との交互作用はrs25487でのみ示された。予防の観点から見た場合これらの遺伝子情報が子宮体がん予防の個別化に有用である可能性が示された。

<今後の方向>

子宮体がんの予防に関するエビデンスを集積するため、今後さまざまな生活習慣や遺伝的要因に関する研究を実施していく。

¹⁾九州大学大学院医学研究院、²⁾三重大学医学系研究科、

³⁾愛知県衛生研究所

<研究課題> 2-3

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) アジア人における葉酸摂取と胃がんリスク-症例対照研究とメタ解析より

<研究者氏名>

尾瀬 功、細野覚代、伊藤秀美、渡邊美貴、田島和雄¹⁾、田中英夫、Daehee Kang²⁾、Kai-Feng Pan³⁾、Wei-Chen You³⁾、湯浅保仁⁴⁾、松尾恵太郎⁵⁾

<目的・概要・進捗状況>

水溶性ビタミンの1種である葉酸はDNAメチル化やDNA合成に必須の栄養素であり、欠乏によりがんリスクが高まるといわれている。しかし、葉酸摂取と胃がんリスクの関連は定かではない。そこで我々は、葉酸摂取と胃がんリスクの関連を明らかにするため、症例対照研究を行った。

対象は2001年から2005年の愛知県がんセンター中央病院初診患者で、胃がんと診断された1273名を症例、性・年齢を一致させた非がん患者3819名を対照とした。葉酸の摂取量は食物摂取頻度調査票で推定した。交絡因子として飲酒・喫煙・ヘリコバクター・ピロリ菌感染・BMIを調整した。メタ解析はMEDLINE, China National Knowledge Infrastructure, Wanfang data, Koreanstudies Information Service System, Korean Association of Medical Journal Edition (KoreaMed), Research Information Sharing Service (RISS), 医学中央雑誌で検索を行い、葉酸摂取と胃がんリスクについて相対リスクと95%信頼区間を報告している論文を収集した。

5分位で最も多く葉酸を摂取している集団では、それ以外と比較してオッズ比0.76 (95%信頼区間0.63-0.91) と有意に胃がんのリスクが低かった。メタ解析では13件の研究が対象となった。全体では葉酸摂取と胃がんリスクに有意な関連は見られなかった (OR 0.94, 0.79-1.13)。しかし、アジア人について報告した3報について検討すると、葉酸摂取と胃がんリスク有意な関連が見られた (0.73, 0.58-0.92)。

葉酸摂取と胃がんの関連は人種により異なる可能性がある。今後、アジア人での更なる研究結果が望まれる。

- 1) 三重大学大学院医学系研究科、
 2) Seoul National University College of Medicine、
 3) Peking University School of Oncology, Beijing Cancer Hospital & Institute、
 4) 東京医科歯科大学大学院医歯学研究所、
 5) 九州大学大学院医学研究院

<研究課題> 3

- (主 題) 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究
 (副 題) 禁煙治療受療者のバレニクリンによる体重増加抑制効果：ニコチンパッチとの比較

<研究者氏名>

田中英夫、谷口千枝¹⁾、伊藤秀美、尾瀬 功

<目的・概要・進捗状況>

禁煙治療を受ける者では、体重増加が必発する。体重増加を避けるために再喫煙するなど、禁煙治療効果の妨げになることがある。そこで、禁煙治療受療者の体重コントロールが重要になるが、本研究では、禁煙補助薬バレニクリンの体重コントロール効果を、ニコチンパッチのそれと比較し、示す。

当がんセンター中央病院他、計4施設での多施設共同研究として実施した、禁煙外来受療者のうち、5回の外来治療を全て受け、かつ、治療終了12か月後の自宅郵送調査による喫煙状況に回答した、バレニクリン使用群 (A群) 307例、ニコチンパッチ使用群 (B群) 45例を対象とした。

初回治療から治療終了までの平均の体重変化は、A群+0.94kg (SD: 3.59)、B群+2.78kg (SD: 4.88) と、B群で有意に増加量が大きかった (P=0.003)。体重の変化に影響すると思われる禁煙継続状況、年齢、性別、合併症の有無、ペースライン時の肥満度、FTND、喫煙衝動の強さ、禁煙治療中の嘔気の有無を調整して重回帰分析を行ったところ、A群はB群に比べて、有意に体重増加が小さかった (coefficient: -1.787、95%信頼区間: -2.98 to -0.59)。

<今後の方向>

これまで、ニコチン補充療法であるニコチンパッチは、体重増加抑制効果があると言われてきたが、バレニクリンの方が、さらに大きな体重増加抑制効果があることが初めて示唆された。アジア人での追試が待たれる。

¹⁾ 国立病院機構名古屋医療センター

<研究課題> 4

- (主 題) がん治療の長期予後 (効果) に影響する要因の分析
 (副 題) 術前血清D-dimer値と肺癌手術症例における予後との関連

<研究者氏名>

福本紘一^{1, 2)}、松尾恵太郎³⁾、尾瀬 功、細野覚代、伊藤秀美、横井香平²⁾、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

悪性腫瘍患者はしばしば凝固系が亢進した状態にあり、深部静脈血栓症 (DVT) や肺梗塞などを合併しやすいといわれている。D-dimerは血栓が分解される際に血中に放出され、血清D-dimer値はDICや深部静脈血栓症などで上昇することが知られている。また明らかな血栓症がない場合でも悪性腫瘍患者、特に進行がんにおいては血清D-dimer値の上昇がしばしばみられる。血清D-dimer値の上昇が悪性腫瘍の予後と関連しているとの報告が散見されるが、原発性肺癌における報告は極めて少ない。原発性肺癌手術患者における術前血清D-dimer値と予後との関連を明らかにすることを目的に研究を行った。

2005年から2007年の間に名古屋大学呼吸器外科にて手術を施行した原発性肺癌患者247例のうち、術前に画像にて肺梗塞が明らかとなった1例を除く246例を対象とした。血清D-dimer値は術前1ヶ月以内に測定した。血清D-dimer値によってA群 ($\leq 0.5 \mu\text{g/ml}$, $n = 79$)、B群 ($0.5 \sim 0.86 \mu\text{g/ml}$, $n = 81$)、C群 ($> 0.86 \mu\text{g/ml}$, $n = 86$) の3群に分類した。Kaplan-Meier法を用いて生存率の算出を行いLog-rank法にて生存曲線の比較を行った。年齢・性別・喫煙歴・組織型・術式・病理病期・完全切除の有無・腫瘍マーカー (CEA)・術前血清D-dimer値などの諸因子でCox比例ハザードモデルを使用して単変量・多変量解析を行った。

3群の5年生存率は、A群が89.7% (95%CI: 77.8-95.4)、B群が80.1% (67.3-89.4)、C群が72.7% (55.1-84.4) であり、3群の予後に有意な差を認めた (Trend $P < 0.001$)。多変量解析では、年齢 (HR 1.05, 95%CI 1.01-1.06)、性別 (男性 vs. 女性: HR 2.06, 1.16-3.66)、病理病期 (stage II vs. stage I: HR 2.3, 1.13-4.68, stage III vs. stage I: HR 2.7, 1.38-5.29)、CEA (> 5 vs. ≤ 5 : HR 2.38, 1.33-4.28)、および術前血清D-dimer値 (B群 vs. A群: HR 4.14, 1.63-10.51, C群 vs. A群: HR 4.45, 1.79-11.05) が独立した予後因子であった。

<今後の方向>

肺癌患者における術前血清D-dimer値は年齢・性別・病理病期・CEAなどと同様に独立した予後因子であった。血清D-dimer値の測定は肺梗塞やDVTなどの検出だけでなく、肺癌患者の予後や再発の予測の一助になると考えられる。肺癌以外でのがん腫においても検討が望まれる。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 名古屋大学 呼吸器外科、

³⁾ 九州大学大学院医学研究院

腫瘍病理学部

<研究課題> 1-1

(主題) 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究

(副題) 固形癌細胞膜表面レセプター CXADR (CAR) を介する増殖制御機構の解析

<研究者氏名>

近藤英作、齋藤 憲、飯岡英和¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

従来ウイルスレセプターとして同定されている分子は多種類のヒトがん細胞で、ウイルス非存在下に恒常的な発現を維持する現象が認められる。これはウイルス感染以外に重要かつ必須の役割を細胞において果たしているからと推察される。われわれは、アデノウイルスレセプター CXADR (Coxsackie and Adenovirus receptor; CAR) に注目し、その恒常的な発現ががん細胞の動態にいかなる役割を担っているのかを検討した。約20種類のヒト悪性腫瘍細胞株についてqPCR法を用いてCARの発現の特徴を解析し、高発現する固形癌の代表として頭頸部扁平上皮癌細胞系でCARの発現抑制を行ったところ、増殖能の顕著な低下が認められた。また増殖抑制の分子機序としてCARが細胞骨格の制御に重要な役割を果たす酵素 (ROCK) の機能を制御していることを明らかにし、研究成果を学術誌Oncogene (vol.33 (10), 2014) に発表した。

<今後の方向>

CARとROCKの相互反応を詳細に検討し、扁平上皮癌増殖制御 (抑制) 医薬のデザインをめざす。

¹⁾ 客員研究員 (愛知医科大学先端医学研究センター)

<研究課題> 1-2

(主題) 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究

(副題) 腺癌細胞における上皮極性制御分子Crb3aの発現と機能の研究

<研究者氏名>

飯岡英和¹⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

上皮極性制御分子は正常器官の発生・分化・機能に必須の分子群である。この中でわれわれは管腔形成に関わるCrb3aに注目し、腺がんを中心とする悪性腫瘍における発現・機能異常の解析を進めている。

<今後の方向>

がんにおけるCrb3aの異常点を具体的に洗い出し、がん (とくに腺がん) 制御のための基盤戦略構築のための手掛かりをつかんでいきたい。

¹⁾ 客員研究員 (愛知医科大学先端医学研究センター)

<研究課題> 1-3

(主題) 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究

(副題) がん幹細胞の探索的研究

<研究者氏名>

中田 晋、齋藤 憲、飯岡英和¹⁾、中西速夫、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

がん幹細胞は近年多大な注目を集める医生物学研究領域で、がんの発生・再発の根幹を成す細胞群として真の治療標的ではないかとの議論が高まっている。われわれは、膵がん、胃がん、大腸がんなどの消化器がんや脳腫瘍 (グリオーマ)、また難治性リンパ腫などを解析材料に、がん幹細胞としての特徴を備えるマーカーの同定やその細胞学的特徴を分子病理学的に解析している。さらに、これら細胞群の分子標的薬などを中心とする抗腫瘍薬に対する耐性の分子機序を併せて明らかにすべく研究を進めている。

<今後の方向>

具体的ながん幹細胞マーカーの洗い出し、その分子機能を特定する。この結果から、がん幹細胞の増殖を制御する方策を構築していく。

¹⁾ 客員研究員 (愛知医科大学先端医学研究センター)

<研究課題> 2-1

(主題) 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

(副題) がん細胞選択的吸収性ペプチド (腫瘍ホーミングペプチド) の開発

<研究者氏名>

近藤英作、齋藤 憲、飯岡英和¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

我が国の制がん医療における先進医療の新しいレパトリーを創出することを目標に、選択的にがん細胞上の細胞膜透過能を発揮する新規ペプチドを開発し、これを基盤材料とした細胞内分子輸送システムや分子標的治療システム、疾患診断用イメージングシステムの構築を目指している。現在まで発生系統の異なる約10種類のヒト悪性腫瘍細胞に対して選択的勾配を示して高透過能を発揮する新規配列をコードする細胞膜透過ペプチドを得た (特許申請済み)。さらにこれらの中から白血病・肝細胞がん標的ペプチドと癌抑制遺伝子p16INK4aの機能を代償する配列を融合した抗腫瘍ペプチドを作成、さらに現在機能の大幅な増強を目指した改変技術を検討した。一連の研究成果は「がんに吸収されるペプチド」として、Nature Communicationsに掲載されるとともに、新聞 (日経、読売、中日、時事通信各社など) やTV (NHKニュース、東海テレビなど) のメディアに取り上げられた。

<今後の方向>

今後はこれらペプチドを用いた腫瘍イメージングやペプチド医薬の創成など、がん医療への応用のための具体的な開発研究を推進していく。

¹⁾ 客員研究員（愛知医科大学先端医学研究センター）

<研究課題> 2-2

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） ゲフィティニブ耐性肺がんに対する抗腫瘍性細胞内分子機能制御ペプチドの開発研究

<研究者氏名>

斎藤 憲、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

肺がんにおける先進医療の領域ではgefitinib（イレッサ）、erlotinib（タルセバ）などの分子標的薬がベッドサイドに登場し活躍しているが、近年、現行の分子標的薬による耐性クローン腫瘍の出現が新たに大きな治療学上の大きな問題となっている。このような現状に鑑みて、われわれはゲフィティニブ不応性肺がん焦点を当て、耐性がんと感受性がんの分子学的特徴の差異を解析し、増殖抑制に大きな影響を与える分子p14ARFの誘導反応の違いを明らかにした。さらにこの結果に基づいて、肺がん標的ペプチド（抗腫瘍ペプチド）の作成に成功し、その研究成果をアメリカ癌学会（AACR）機関誌Molecular Cancer Therapeutics（vol. 12, 2013）に学術論文として報告した。なお本論文は同誌掲載号のハイライトに取り上げられ注目された。

<今後の方向>

作成した抗腫瘍ペプチドのin vivo tumor modelマウスにおける実効性の検討、さらに機能増強を企図したペプチドの修飾改良、また治療対象を肺がんのみならず多彩な悪性腫瘍に適用拡大するための基礎研究などを次段階として行っている。

<研究課題> 2-3

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） 新規血液中循環がん細胞（CTC）デバイスの開発とその臨床応用

<研究者氏名>

中西速夫、遊佐亜希子¹⁾、舎人 誠²⁾、寺澤佳世子¹⁾、伊藤誠二²⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

近年、血液中循環がん細胞（Circulating tumor cells=CTC）がLiquid biopsyとして注目を集めている。我々は愛知県「知

の拠点」重点研究プロジェクトの一環として簡便、低コストにCTCを分離検出することのできるバイオデバイスの開発を名大工学部などと医工連携で進めている。開発したフィルター型デバイスは簡便、高感度にCTCを検出し、かつ生きたまま1個ずつ単離でき、その後各種の遺伝子解析が可能である。また、本デバイスはこれまでブラックボックスとされてきたCTCの生体内動態解析にも有用でGFP遺伝子を導入したマウスCTCモデル（転移モデル）を作成してその一端を明らかにした。本研究成果は2014年2月に第一段階の成果をPLoS ONEに報告した。（vol. 11, 2014）

<今後の方向>

今後、本デバイスを用いて臨床研究を進め、転移の早期診断や治療効果判定のバイオマーカーとしての有用性について検討してゆく予定である。

¹⁾ 研修生、²⁾ 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 2-4

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） 消化器がん転移に対する近赤外蛍光腹腔鏡イメージング法の研究

<研究者氏名>

中西速夫、伊藤彰洋¹⁾、三澤一成²⁾、伊藤友一²⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

腹腔微小転移巣を特異的かつ高感度に検出する近赤外蛍光腹腔鏡イメージング法の開発を進めている。ICG直接標識EGFR抗体（ICG封入リボゾーム標識抗体）を、あらかじめ腹膜転移を作成したヌードマウスの腹腔内あるいは静脈内に接種し、ICG用CCDカメラを装着した新規腹腔鏡試作機とレーザー光源（波長800 nm）を組み合わせ構築したICG蛍光腹腔鏡により1 mm以下のサイズの腹膜転移を特異的かつほぼリアルタイムに検出することに成功した。近赤外蛍光標識抗体を用いた光イメージング法は、胃がんの腹膜転移に対して高い感度・特異性を有し、蛍光腹腔鏡による光イメージング法として臨床応用の可能性が示唆された。本研究成果は2013年11月のGastric Cancerに学術論文として報告した。（Nov18, 2013）

<今後の方向>

臨床的に重要なリンパ節転移についても独自にマウスの胃リンパ節転移モデルを開発しており、今後これを用いてリンパ節転移巣の蛍光イメージングについても検討する予定である。

¹⁾ 研修生、²⁾ 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 3

（主題） 病理剖検症例の病理組織学的研究

<研究者氏名>

山下大祐¹⁾、中西速夫、斎藤典子、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

本年度（平成25年4月～平成26年3月）は6体の病理解剖を行い、開所以来の総剖検数を2,642体とした。これらの症例は組織検査後、病理診断・解剖所見を付して担当医に報告されると同時に、日本病理学会の剖検輯報に掲載される。学問的に貴重な症例、臨床的（診断並びに治療上）に重要で検討を要する症例に関しては、担当医との意見の交換は勿論であるが、適時行われるCPC（臨床病理検討会）に提出し相互討議を深め、当がんセンターの医療水準の向上の一役を担ってきた。本年度は肺癌の1症例（退形成性腺癌 巨細胞型）についてCPCを開催した。また、診断の大変困難な症例として右肺原発肉腫疑いの巨大悪性腫瘍を経験したが、本症例についてはその組織型を含めてできる限り精査を重ねている（引き続き解析中）。

<今後の方向>

がんの診断技術、制がん手段（手術・照射・制がん剤・免疫療法）の進歩によって、根治例の増加は勿論、非根治例でも長期間寛解をもたらす機会が開かれつつある。悪性リンパ腫等に対する幹細胞移植を組み合わせた超大量化学療法や分子標的治療、食道がん、脳転移巣への分割照射の治療効果などがその代表で、剖検時腫瘍の顕著な縮小、瘢痕治癒を認めることが少なくない。しかし一方で感染症をはじめ出血、血栓症などの合併症が死因となる例も決して稀ではない。かかる症例を疾患の自然史的立場から系統的な病理学的検討を行い、良好な予後に導く要因を引き出すのが今後の重要な課題である。また近年増加傾向にある臨床試験（治験）が行われている症例や医療事故が疑われる症例の剖検については臨床側との密接な協力、また第三者機関へのコンサルテーション等により積極的に症例報告、情報開示を行ってゆくことが大切である。

¹⁾ リサーチレジデント

分子腫瘍学部

<研究課題> 1

（主題） 肺癌の発症・進展機序の解明と分子標的療法の探索
（副題） 肺癌の浸潤・転移に関連する新規遺伝子CLCP1の機能解析と治療への応用

<研究者氏名>

長田啓隆、立松義朗、関戸好孝、谷田部恭、八木香澄¹⁾、赤塚淳一¹⁾、小野健一郎¹⁾、加藤省一²⁾、柳澤 聖²⁾、高橋 隆²⁾

<目的・概要・進捗状況>

多くの先進諸国において癌死亡率第一位を占める難治性の肺癌の予後改善のために革新的な新規治療法の開発が求められており、そのために肺癌の発生・進展機序に関する分子生物学

的な解析が精力的になされ、肺癌に特徴的な遺伝子発現プロファイルが、肺癌の病理組織像や臨床予後と強い関連を持つことが明らかとなってきている。そのような知見の蓄積のもと、現在我々は、高転移性の肺癌細胞株で高発現している新規遺伝子CLCP1の機能解析を進め、その知見を新規のがん診断治療法へ応用することを目的とし研究を進めている。これまでに細胞膜貫通分子CLCP1が、肺癌の病態に重要な寄与をする受容体型チロシンキナーゼ（RTK）分子EGFR及びMETと相互作用することや、相互の機能的クロストークを示唆する知見も得てきた。平成25年度は、これらの知見に基づき、内因性のCLCP1とRTKの相互作用の機能的な制御関係を中心にCLCP1の機能解析を更に進めた。まず免疫沈降法により内因性のCLCP1とRTKとの間の複合体形成を確認した。また、細胞をスライドガラス上で培養したまま蛋白分子の相互作用を検出できるProximity ligation assay（PLA）法を用いて検討したところ、CLCP1と代表的なRTKのMETとの複合体形成が確認された。更に蛋白分子のリン酸化修飾を検出できるPhos-tagゲル解析により、内因性CLCP1がリン酸化修飾を受け、そのリン酸化が相互作用するRTKの活性により、強く制御されていることが判明した。一方、CLCP1ノックダウンによって、HGFによるMETの活性化が抑制されることが示され、CLCP1とRTKのMETとの間で機能的なクロストークがあることが確認された。更にCLCP1ノックダウンが細胞運動能・浸潤能だけでなく細胞増殖にも関与することを示す結果も得た。以上の研究結果は、CLCP1が肺癌細胞の病態に深く関与するRTKシグナル伝達に関わり、肺癌の転移・悪性化に寄与することを強く示唆した。

<今後の方向>

本研究で得られた研究成果は、CLCP1の極めて腫瘍特異的な発現と相まって、分子標的候補としての有望性を強く示唆している。このようなCLCP1を分子標的とする研究開発は、高い独自性を持つ新規診断・治療法の実現につながる成果をもたらすことが期待される。

¹⁾ 医学生物学研究所、

²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科分子腫瘍学分野

<研究課題> 2

（主題） 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究
（副題） 中皮腫細胞におけるHippoシグナル伝達系の不活性化の解明

<研究者氏名>

田中一大、長田啓隆、藤井万紀子、深津明日樹、関戸好孝

<目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度な腫瘍に

比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子異常は稀である。近年、NF2遺伝子産物、Merlinの下流カスケードの1つであるHippoシグナル伝達系が各種臓器の発がんに関与していることが明らかになってきた。中皮腫においてはNF2-Hippoシグナル伝達系の構成分子のうち、我々のグループではLATS2やSAV1遺伝子がジェネティックに不活化することを明らかにしており、約70%の中皮腫症例でNF2-Hippoシグナル伝達系が不活化していることを明らかにしてきた。NF2-Hippo伝達系の不活性化の結果、YAPがん遺伝子産物（転写コアクチベーター）の活性化が生じ、サイクリンD1やFOXM1といった細胞周期を促進する遺伝子群や結合組織成長因子（CTGF）の転写亢進が引き起こされることが今までの研究で明らかとなった。しかし、悪性中皮腫においてYAPが恒常的に活性化する機構についての詳細はまだまだ明確ではない。

昨年度、中皮腫細胞株においてHippoシグナル伝達系の構成分子として最近、新たに報告された複数の分子の発現をウエスタンブロット法にて検討し、LIMドメイン蛋白であるAJUBA分子が高頻度に発現低下していることを明らかにした。本年度は、AJUBA遺伝子ファミリーの他の2つのメンバーであるLIMD1およびWTIP1に関して検討を進めた。LIMD1およびWTIP1の遺伝子発現レベルについてウエスタンブロット法で検討したところ、中皮腫細胞株24株とコントロール細胞株（不死化正常中皮細胞株）の発現レベルは大きな差は認められなかった。AJUBAおよびLIMD1, WTIP1をそれぞれRNA干渉法にてノックダウンし、YAPの活性化を検討したところ、AJUBAのノックダウンはYAPを活性化（低リン酸化）する一方、LIMD1あるいはWTIP1のノックダウンはYAPを不活性化（高リン酸化）することが明らかとなった。YAPが転写を亢進する遺伝子（CCDN1およびCTGF）の発現もAJUBAは転写亢進、LIMD1およびWTIP1は転写抑制に働くことが示された。これらの結果は、AJUBAが悪性中皮腫細胞に対して腫瘍抑制性に機能する一方、LIMD1およびWTIP1は逆に腫瘍を促進する方向に機能することを示唆した。本年度の解析により、悪性中皮腫におけるNF2-Hippoシグナル伝達系に関わるAJUBA遺伝子ファミリーの機能がより詳細に明らかとなった。

<今後の方向>

悪性中皮腫細胞において腫瘍抑制性に機能するNF2-Hippoシグナル伝達系の高頻度の不活性化が認められる。悪性中皮腫細胞において、何故、NF2-Hippo伝達系が特徴的に不活性化しているのか、その生物学的な意味についての本体は未だ明らかになっていない。本年度の研究により、NF2-Hippoシグナル伝達系におけるLIMドメイン蛋白ファミリーであるAJUBA、LIMD1、WTIP1の役割が明らかとなり、その本質的な意味の一端が明らかとなった。本シグナル伝達系を制御することが新たな中皮腫治療法開発のための新規分子治療戦略となり得る可能性が強く示唆された。

<研究課題> 3

（主題） 消化器がんの発症におけるエピジェネティクス関与の解明

<研究者氏名>

市村典久¹⁾、近藤 豊

<目的・概要・進捗状況>

【目的】 発がんにはゲノム異常に加えてエピゲノム異常が蓄積している。大腸がんの中には遺伝子発現制御領域のCpGアイランドが同時多発的にDNAメチル化をきたすCIMP (CpG island methylator phenotype) とよばれる一群が存在し、特徴的な臨床病理組織像を示すことが知られている。しかしCIMPの発現機序および発がんへの影響については未だ不明な点が多い。我々は、DNA脱メチル化に関わるTET (Ten-eleven translocation) 遺伝子群に着目し、CIMPとの関連について解析を行った。

【方法】 大腸がん細胞株、165例の臨床検体を用いmRNAおよびタンパクレベルでTET遺伝子群の発現を解析し、発現の低下を認めた遺伝子についてパイサルファイト・パイロシークエンス法を用いプロモーター領域のメチル化レベルを解析した。また、22例の臨床検体を対象にMethylated CpG island amplification-microarray (MCAM) 法を用いゲノムワイドなメチル化解析を行った。

【結果】 TET2,TET3はCIMP陽性、陰性細胞株間で発現パターンに差を認めなかったが、TET1の発現は大腸がん細胞株のうちCIMP陽性細胞株において著明に低下しており、プロモーター領域におけるCpGアイランドは高度にメチル化されていた。同様に、臨床検体においてもCIMP陰性症例 (n=87) と比較してCIMP陽性症例 (n=28) で有意にTET1のmRNA発現レベルの低下を認めた (P<0.05)。さらにTET1のメチル化レベルはCIMP陽性症例では52例中23例 (44%) の症例でメチル化陽性を認める一方で、CIMP陰性症例では113例中4例 (4%) の症例でメチル化陽性を認めるのみであった。ゲノムワイドなメチル化遺伝子プロファイルでは、TET1のメチル化陽性例は陰性例と比較し、DNAメチル化遺伝子数が有意に多く蓄積していた。さらにTET1のメチル化はCIMP陽性ポリープでも高頻度に観察され、発がん過程の早期事象であると考えた。

【考察】 TET1のメチル化による遺伝子発現抑制はCIMP陽性症例に集積を認めたことから、TET1のメチル化はDNAメチル化異常を誘導・亢進している可能性が示唆された。

<今後の方向>

細胞株を用いてTET1の発現抑制もしくは発現増強がDNAメチル化状態に与える影響について解析を行なう予定である。

¹⁾ 研修生

遺伝子医療研究部

〈研究課題〉 1-1

- (主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用
- (副題) 慢性型成人T細胞性白血病の分子機構、ならびに急性転化機構の解明

〈研究者氏名〉

吉田稚明¹⁾、宇都宮 興²⁾、塚崎邦弘³⁾、今泉芳孝³⁾、平良直也⁴⁾、鶴池直邦⁵⁾、都築 忍、大島孝一⁶⁾、瀬戸加大

〈目的・概要・進捗状況〉

成人T細胞性白血病 (adult T-cell leukemia: ATL) は human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1) 感染者に発症するT細胞性腫瘍である。ATLは、特徴的な臨床所見に基づき4つのサブタイプ (急性型、リンパ腫型、慢性型およびくすり型) に分類される。このうち慢性型ATLは緩徐進行性の予後良好な病型と考えられてきたが、約半数の慢性型が急性型へと移行 (急性転化) していることが判明した。今回、我々は慢性型ATLの分子病態ならびに、その急性転化に関与する分子機構を解明する目的で、慢性型および急性型ATLのゲノム異常を oligo-array comparative hybridization を用い解析し、両者を比較した。両病型のゲノム異常様式は良く似通っていたが、急性型でのみ認められるゲノム異常部位が存在していた。慢性型のみで特徴的なゲノム異常はなかった。これら異常の中で、我々は細胞周期の脱制御をもたらす *CDKN2A* の欠失が慢性型と比べて特に急性型で特徴的であることを見出した。更に、免疫逃避機構をもたらす *CD58* の欠失も急性型で特徴的であることに着目した。慢性型ATL患者の臨床情報と関連させると、細胞周期の脱制御ないし免疫逃避機構に関する遺伝子異常を有する慢性型ATLは、それら異常を有しない群に比べて急性転化率が有意に高かった。この結果は、細胞周期の脱制御ならびに免疫逃避機構が慢性型ATLの急性転化に関与することを示唆するものである。また、これら異常は今後慢性型ATLの急性転化予測マーカーとして有用となる可能性がある。

〈今後の方向〉

予測マーカーとなりうる遺伝子異常については、より多数の検体で評価する必要がある。また、臨床に還元するためにFACS、免疫染色などでの評価を検討する。慢性型、急性型両方に共通する異常はHTLV-1感染と協調して、ATL発症に関与している可能性がある。これらについても今後検討を実施する。

¹⁾ 連携大学院生、²⁾ 今村病院分院・血液内科、

³⁾ 長崎大学医学部・血液内科、⁴⁾ 沖縄ハートライフ病院・内科、

⁵⁾ 九州がんセンター・血液内科、⁶⁾ 久留米大学医学部・病理

〈研究課題〉 1-2

- (主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

- (副題) マントル細胞リンパ腫における、染色体1番短腕上に存在するがん抑制遺伝子の同定

〈研究者氏名〉

高原大志¹⁾、吉田稚明、都築 忍、瀬戸加大

〈目的・概要・進捗状況〉

マントル細胞リンパ腫 (mantle cell lymphoma: MCL) は成熟B細胞腫瘍の一種である。マントル細胞リンパ腫の特徴とされる、サイクリンD1、免疫グロブリン重鎖遺伝子転座t(11;14) (q13;q32) 以外にも、多くのゲノム異常がマントル細胞リンパ腫では認められる。その中で最も多いものの一つが、染色体1番短腕におけるゲノム欠失である。この領域に存在すると想定されるがん抑制遺伝子を同定するために、MCL患者検体とMCL細胞株に対して、oligo-array comparative hybridization解析を行った。この結果から明らかにされた微小欠失領域に存在する遺伝子を、がん抑制遺伝子の候補とした。さらに、これらの候補遺伝子のうち、健康人末梢血CD19陽性B細胞とMCL検体の発現解析で、mRNA発現に有意差が認められた遺伝子を、MCL細胞株に導入し、機能解析を行った。

〈今後の方向〉

候補遺伝子抽出のための同様の解析を、公開された発現解析データを用いて行う。また、機能解析により同定されたがん抑制遺伝子を欠損している細胞株に対して、有効な薬剤を探索する。

¹⁾ リサーチレジデント

〈研究課題〉 1-3

- (主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用
- (副題) 悪性リンパ腫におけるクローナルエボリューションの有無と臨床的意義の検討

〈研究者氏名〉

片山 幸、吉田稚明¹⁾、在田幸太郎²⁾、竹内一郎³⁾、Toby Dylan Hocking⁴⁾、都築 忍、瀬戸加大

〈目的・概要・進捗状況〉

クローナルエボリューションは、腫瘍に更なる染色体異常等が加わり、腫瘍クローンが“進化”することで、一般に腫瘍の更なる悪性化を伴う。このクローナルエボリューションの有無を、6種の悪性リンパ腫計333例に対して、アレイCGH法を用いて検討し、さらにその原因および予後との関連についても検討した。その結果、クローナルエボリューションを示す割合は25%-69%と、疾患によって大きく異なっていた。クローナルエボリューションのある症例に多い染色体異常は、8q24.1領域の増幅 (MYC)、9p21.3領域の欠失 (CDKN2A/ 2B)、17p13領域の欠損 (TP53) であり、これらのがん遺伝子 (MYC) の機能亢進や、がん抑制遺伝子 (CDKN2A/ 2B、TP53) の機能低下がク

ローナルエボリューションと関与していることを突き止めた。また、クローナルエボリューションを示す症例は予後不良であることが判明した。以上より、これまで報告されてきた種々の予後因子とは異なった側面からリンパ腫の性質を反映する、新たなバイオマーカーを同定することができた。

〈今後の方向〉

同様の解析を、これまで他の研究グループが発表しているアレイCGH解析のデータを用いて行い、今回の結果と同様に、クローナルエボリューションのある症例が予後不良であるか、がん遺伝子やがん抑制遺伝子と関連するのかどうかを確認する。

¹⁾ 連携大学院生、²⁾ リサーチレジデント、³⁾ 名古屋工業大学、⁴⁾ McGill University

〈研究課題〉 1-4

- (主 題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用
(副 題) びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫における初発時及び再発時の腫瘍共通祖先細胞の同定

〈研究者氏名〉

片山 幸、在田幸太郎¹⁾、高原大志¹⁾、吉田稚明²⁾、垣内辰雄²⁾、春日井由美子、竹内一郎³⁾、Toby Dylan Hocking⁴⁾、都築 忍、瀬戸加大

〈目的・概要・進捗状況〉

近年、一部の悪性腫瘍において、ごく少数の腫瘍共通祖先細胞が、その腫瘍を引き起こす原因であることが分かってきた。白血病において、この腫瘍共通祖先細胞は、治療後も残存し、再発源となることが示されている。一方、悪性リンパ腫において、このような初発/再発時の腫瘍共通祖先細胞の存在の有無についてほとんど示されていない。このため我々は悪性リンパ腫の最多数を占めるびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫(DLBCL)において、このような細胞が存在するのか、また存在した場合、どの分化段階に位置するのかについての検討を行った。10例の再発したDLBCLの患者を対象とし、初診時と再発後のDNA検体から、腫瘍のゲノム異常と点突然変異の有無を調べた。その結果、10例中10例で、それぞれの症例に初発時と再発時に共通祖先となるゲノム異常を持った細胞が存在することが推定された。そしてこの共通祖先細胞が、更なるゲノム異常を獲得することで、初診時及び再発時のリンパ腫を発症していたことが判明した。また、これらの初発時/再発時の腫瘍共通祖先細胞は、B細胞分化の後期段階(点突然変異挿入前後)に位置する事が判明した。

〈今後の方向〉

これまでの研究において、悪性リンパ腫における初発時及び再発時の腫瘍共通祖先細胞の存在を確認することができた。このような共通祖先細胞を根絶することで、悪性リンパ腫の再発を防ぐことを目標とし、まずは、DLBCLにおける、腫瘍共通

祖先細胞のリンパ節内の局在についての検討を行う。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 連携大学院生、³⁾ 名古屋工業大学、⁴⁾ McGill University

〈研究課題〉 2-1

- (主 題) 造血器細胞の分化・増殖に関する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究
(副 題) 正常成熟リンパ球への遺伝子導入による新規リンパ腫マウスモデル

〈研究者氏名〉

都築 忍、在田幸太郎¹⁾、春日井由美子、大島孝一²⁾、瀬戸加大

〈目的・概要・進捗状況〉

成熟B細胞リンパ腫は染色体転座、ゲノムコピー数異常、遺伝子変異などが種々の組み合わせで蓄積することで生じる。これらの異常の中から真に腫瘍化に寄与する組み合わせが抽出できれば、適切な治療標的を提案していくことができるが、現状の遺伝子改変マウスを掛け合わせる方法では、多数の候補遺伝子をスクリーニングすることが困難である。そこで我々は、*in vitro*で誘導した成熟B細胞にレトロウイルスを用いて遺伝子導入し、この細胞をマウスに移植することで腫瘍形成能を評価する系を確立した。本年度はパーキットリンパ腫で見出された変異遺伝子につき、その組み合わせによりはたしてリンパ腫が生じうるかどうかにつき検討した。*In vitro*で誘導したマウス胚中心細胞にパーキットリンパ腫関連遺伝子*c-Myc*、*TCL1A*、*Akt*及び変異*Ccnd3(Ccnd3T283A)*、変異*E47(E47V557E)*の5遺伝子を各々代替マーカーとともに発現させ、マウスに移植したところ、全例が1か月でリンパ腫を発症した。一方、5遺伝子のいずれか1つを欠いた4遺伝子の組み合わせでは、リンパ腫の発症は大きく遅延し、発生率も低下することが判明し、リンパ腫発生における5遺伝子の協調作用が明らかとなった。

〈今後の方向〉

全ゲノムシークエンスの時代に入り、多数の遺伝子変異が報告されるようになってきた。これら遺伝子変異が本当に腫瘍化に寄与するのかどうか、他のどの因子と協調作用を示すのかについて検討していく。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 久留米大学医学部・病理

〈研究課題〉 2-2

- (主 題) 造血器細胞の分化・増殖に関する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究
(副 題) 不死化中皮細胞株に対する遺伝子導入による悪性化の検討

〈研究者氏名〉

垣内辰雄¹⁾、高原大志²⁾、吉田雅明¹⁾、片山 幸、中西速夫³⁾、
長田啓隆⁴⁾、関戸好孝⁴⁾、都築 忍、瀬戸加大

〈目的・概要・進捗状況〉

悪性中皮腫においても造血管腫瘍と共通する遺伝子異常がみられることがあるため、悪性中皮腫の増殖、腫瘍化における遺伝子異常の役割について検討した。これまで悪性中皮腫に関連する遺伝子異常が報告され、中皮腫の細胞株を用いてそれら遺伝子の役割は評価されてきた。一方、それらの遺伝子は正常中皮細胞から悪性中皮腫への形質転換の役割に関して評価されていない。今回それらの遺伝子が、ヒトパピローマウイルスE6/E7-hTERTにより不死化させた中皮細胞株における形質転換能について検討を行った。

悪性中皮腫臨床検体や細胞株においてHippo経路の不活化が高頻度に認められている。Hippo経路の不活化により、転写活性化補助因子YAPのリン酸化が抑制され、その結果YAPは核内に移動し、特定の遺伝子発現を制御する。

今回我々はNF2をknockdownすると、YAPのリン酸化が抑制され、これに伴って不死化中皮細胞株は、形態学的変化（接触阻止の喪失）を起こし、増殖能を亢進させ、ヌードマウスへの皮下移植にて腫瘍を形成することを見出した。同様の結果は、野生型YAPもしくは変異型YAP（活性型YAP）を過剰発現させた不死化中皮細胞株においても認めた。今回の結果は、Hippo経路の不活化が正常中皮細胞から悪性中皮腫への形質転換に重要な役割を持っていることを示唆するものである。

〈今後の方向〉

YAP遺伝子導入前後の不死化中皮細胞株に対して発現解析を行い、YAPによる形質転換において重要な役割を担う遺伝子を明らかにする。

¹⁾ 連携大学院生、²⁾ リサーチレジデント、

³⁾ 愛知県がんセンター愛知病院 臨床研究検査科、

⁴⁾ 愛知県がんセンター分子腫瘍学部

腫瘍免疫学部

〈研究課題〉 1

（主題） 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

（副題） 卵巣がんを傷害するCTLが認識する標的抗原の解析

岡村文子、山田英里、近藤紳司¹⁾、葛島清隆

〈目的・概要・進捗状況〉

細胞傷害性Tリンパ球(CTL)表面のT細胞抗原受容体(TCR)は標的細胞表面にあるヒト白血球抗原(HLA)と抗原由来のペプチドを複合体として認識する。このためがん抗原を特異的に認識するCTLの標的抗原の同定は免疫療法の構築において必須である。今年度は卵巣明細胞がん細胞株TOV21Gをベースとした人工抗原提示細胞を用いて樹立したCTLクローンが認識す

る抗原の同定を行った。

卵巣明細胞がんから樹立されたTOV21G細胞のHLA発現をshort interfering (si)RNAで一時的に抑制した。コドン変換によってsiRNA耐性となったHLA-A*24:02をレンチウイルスベクターで導入し、HLA-A*24:02のみ発現するTOV21G細胞を抗原提示細胞として使用した。この細胞とHLA-A*24:02を保有する健康人末梢血CD8陽性Tリンパ球を、サイトカインの存在下で共培養しCTL株を樹立した。さらに限界希釈法でCTLクローンを得た。本CTLクローンはHLA-A*24:02を導入したTOV21G細胞とKOC7C細胞を反応するため、卵巣がんに関連して発現する抗原に特異的であると考えられた。次にTOV21G細胞のmRNAからcDNAライブラリーを作製し、各プラスミドをHLA-A*24:02導入293T細胞にトランスフェクションしCTLクローンと共培養後、上清中のIFN- γ を指標に標的遺伝子を探索した。標的とする抗原としてRNA binding motif protein 4 (RBM4)を同定し、短縮遺伝子を用いた解析を行って9アミノ酸から成るエピトープペプチドVRTPYTMYSYを決定した。ところがこのペプチドは293T細胞に導入したHLA-A*24:02ではなく、293T細胞がもともと保有するHLA-Cw*07:02によって提示されていることが明らかとなった。誘導に用いたCD8陽性Tリンパ球のドナーはHLA-Cw*07:02を保有していなかったことから、本CTLクローンは自己のHLA-A*24:02拘束性に抗原Xを認識するのに加えて、HLA-Cw*07:02上に提示されているRBM4由来ペプチドも認識していると考えられた。

〈今後の方向〉

交差アロ反応性のTCRの報告はあまり多くなく、貴重なクローンである。そのためHLA-A24拘束性に認識する抗原由来のエピトープペプチドを同定して、構造的な解析を行う予定である。

¹⁾ 愛知県がんセンター中央病院・婦人科部

〈研究課題〉 2

（主題） 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究

（副題） 多能性幹細胞に由来する抗原提示細胞の創出とがん免疫療法への応用

張エイ、劉天懿¹⁾、春田美和²⁾、廣澤成美³⁾、植村靖史、
坂本 安³⁾、菌田精昭⁴⁾、千住 覚²⁾、葛島清隆

〈目的・概要・進捗状況〉

がんの免疫療法は、手術、化学療法、放射線療法などの標準治療に続く新たな治療法の1つと考えられている。特に免疫制御の中心的役割を果たす樹状細胞(DC)は生体内に潜在する「がん抗原特異的T細胞」を活性化することで、がんの選択的排除を誘導することができるため、これを細胞ワクチンとして投与する治療法に期待が寄せられている。近年、米国デンドレオン社によって開発されたDCワクチン(プロベンジ)は、その有効性が証明されて米国食品医薬局(FDA)の認可を得て臨床応用が開始されている。ところが、この治療は、1) DC

の前駆細胞を得るために、免疫不全状態に陥っているがん患者から大量の成分採血を必要とすること、2) 治療費が高額(3回投与で9万3000ドル)であること等の理由により、広く応用されていないのが現状である。したがって、患者採血の負担、経済的負担を減らすDCワクチン法の開発が必要不可欠である。近年、我々は多能性幹細胞よりDCを誘導する技術を開発し、がん免疫療法への有用性を示してきた。この方法は、無限の増殖能と多分化能を有する多能性幹細胞をソースとするために無限にDCを供給することを可能にしたが、DCを作製するのに1ヶ月以上の時間を要するという問題があった。そこで本研究課題では、短時間で無限に供給が可能なDC前駆細胞を構築することを目的とした。

iPS細胞を骨髄ストローマ細胞OP9上で培養することで中胚葉分化を誘導した。さらに、GM-CSF, M-CSF存在下、OP9上で培養することでミエロイド分化を誘導した。これにc-Myc遺伝子を導入して、無限に増殖するミエロイド細胞(proliferating myeloid cell: pMC)を作製した。この細胞はGM-CSF依存性に3ヶ月間以上増殖し続けた。これにIL-4を加えることで増殖が低下し、DC同様の表面分子発現パターンを示した。また、LPSによる成熟刺激を加えるとCD40, CD86, MHC-II発現上昇、IL-12p70、TNF α 産生、アロMLR誘導活性など成熟DCと同様の機能が認められた。このDC様細胞(pMC-DC)にモデル抗原を負荷して生体内に投与すると抗原特異的T細胞応答を誘導し、モデル抗原を発現するがんの生着を抑制するとともにマウスの生存を延長した。サイトカイン依存性に増殖するミエロイド細胞は、DCワクチンを応用する際に直面する多くの問題点を解決するものと考えられる。

<今後の方向>

DC機能を向上させたpMC-DC、およびがんを直接傷害するエフェクターpMC-DCなどを構築し、高い抗腫瘍効果が期待できるDCワクチン法を開発する。

- 1) 中華人民解放軍総院腫瘍学、
- 2) 熊本大学大学院生命科学研究部 免疫識別学、
- 3) 埼玉医科大学 中央研究施設 機能部門、
- 4) 関西医科大学大学院医学研究科 幹細胞生物学分野

感染腫瘍学部

<研究課題> 1-1

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) EBNA1蛋白質の宿主細胞染色体付着機構の解析

<研究者氏名>

神田 輝、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBNA1蛋白質は、分裂増殖するEBウイルス潜伏感染細胞のすべてにおいて発現し、ウイルスゲノムの核内維持やトランスフォーム蛋白質の発現制御などにおいて中心的役割を果たす。

EBNA1蛋白質は異なるドメインを介して宿主染色体およびウイルスゲノムに同時に結合することで、ウイルスゲノムを宿主染色体上につなぎ止める働きをする。従ってEBNA1蛋白質の染色体付着を低分子化合物で阻害することができれば、EBウイルスゲノムが不安定化して細胞から失われると考えられ、これは新たな抗ウイルス療法につながる可能性がある。そこで宿主染色体がヒストンH2B-GFP融合蛋白質でラベルされ、かつEBNA1蛋白質の染色体付着ドメインを赤色蛍光蛋白質との融合蛋白質として発現するHeLa細胞を樹立した。この細胞に既知の抗がん剤や各種阻害剤を添加し、顕微鏡観察により染色体付着阻害効果を調べる予備的実験を行った。

<今後の方向>

今後はhigh content screening法の導入により、EBNA1蛋白質の染色体局在を特異的に阻害する低分子化合物をさらに探索する。

<研究課題> 1-2

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) EBウイルス初期遺伝子産物による後期遺伝子の転写制御

<研究者氏名>

川島大介¹⁾、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスのウイルス産生感染においては、ウイルスの前初期遺伝子、初期遺伝子、後期遺伝子の順にウイルス遺伝子発現が段階的に進むが、後期遺伝子の発現において初期遺伝子が果たす役割は不明な点が多い。そこで本研究では、最近、後期遺伝子転写において必須であると報告されたEBウイルスのBcRF1遺伝子、BVLF1遺伝子(Murine γ -herpesvirus MHV68のORF18のホモログ)について、これを欠損させることで後期遺伝子発現がどのように変化するかを検討した。その結果、BcRF1欠損ウイルス、およびBVLF1欠損ウイルスは、いずれもウイルスゲノム複製、初期遺伝子発現は正常であったが、感染性ウイルス粒子の発現が認められなかった。さらにこれらの欠損ウイルスにおいて、後期遺伝子の転写が起きていないことを明らかにした。

<今後の方向>

本研究により、BVLF1およびBcRF1はEBウイルスの後期遺伝子発現にそれぞれ機能していることが明らかになった。ほぼ全ての後期遺伝子プロモーターに、TATA配列に代ってTATTという配列が存在することが知られており、複数のウイルス初期遺伝子産物が相互作用して後期遺伝子の転写制御を行う可能性が考えられる。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 1-3

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) EBウイルスポリメラーゼのN末端保存領域の変異によるウイルスゲノム複製阻害の分子機構

<研究者氏名>

成田洋平, 村田貴之, 鶴見達也, 木村 宏¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスは多くの健常成人のBリンパ球などで潜伏感染しており、刺激により再活性化し、溶解感染に至る。このようなウイルス感染様式は単にウイルスの増殖のみならず、EBウイルス陽性がんの細胞増殖性とも密接な関係にあるため、そのメカニズムの解明や制御方法の開発は重要である。今回我々は、EBウイルスがコードするDNAポリメラーゼBALF5のN末端側にあるヘルペスウイルス間で高度に保存されたアミノ酸モチーフ配列の重要性を、変異導入により解析した。その結果、このモチーフへの変異導入により、ウイルスゲノム複製が起きなくなること、しかも変異導入によりポリメラーゼ活性そのものは影響を受けないことを明らかにした。

<今後の方向>

N末端の保存モチーフ内の特定のーアミノ酸に変異を導入しただけでも、著しくウイルスゲノム複製が損なわれたことから、BALF5の当該モチーフは他のウイルス複製蛋白質との相互作用を担うなどの重要な機能があることが推察された。今後、こうした相互作用について検証していく。

¹⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科・ウイルス学

<研究課題> 2

- (主題) 遺伝子組み換えウイルスを用いた発がん研究
(副題) EBウイルスによるヒト上皮細胞がん化メカニズムの解析

<研究者氏名>

神田 輝、鶴見達也

<目的・概要・進捗状況>

ヒト腫瘍ウイルスであるEBウイルスは、Bリンパ球を主な感染宿主細胞とする一方で、咽頭や胃の上皮細胞へも感染し、その発がんに関与すると考えられている。しかしEBウイルスによる上皮細胞がん化のメカニズムの詳細は不明である。近年の研究により、EBウイルス陽性胃がん・上咽頭がんにおいて、ウイルス由来マイクロRNA(miRNA)が高発現していることが報告され、ウイルス由来miRNAはEBウイルスによる上皮細胞発がん過程において関与する可能性が考えられる。そこでEBウイルスゲノムのBART (BamHI A Rightward Transcript)領域にコードされるmiRNA遺伝子を欠損ないし修復した組換えウイルスが潜伏感染した上皮細胞株を樹立した。ウイルスmiRNAによる宿主細胞の遺伝子発現変化を解析した結果、上

皮細胞特異的に発現する転移抑制因子をターゲット候補遺伝子として同定した。さらに複数のBART miRNAが協調して、当該標的因子の発現抑制に関与することを明らかにした

<今後の方向>

ウイルス由来miRNAによるターゲット候補遺伝子の発現抑制が、EBウイルスによる上皮細胞がん化においてどのような意義を有するのか、その解明をめざす。

分子病態学部

<研究課題> 1-1

- (主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究
(副題) 腸管腫瘍形成におけるJNK/mTORC1経路の活性化機構

<研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられている。Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス(以下Apc変異マウス)では、腸上皮細胞のApc遺伝子座でのヘテロ接合性の消失(LOH)によりAPCタンパクの機能が失われる結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々はこれまでに、Apc変異マウスの腸管ポリープの成長にはWnt経路の活性化に加えて、mammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1)経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1はJNKによるRaptorのリン酸化によって活性化されることなどを明らかにしてきた。しかしながら、Apc変異マウスのポリープでJNKが活性化する機序については不明であった。平成25年度は、野生型マウスの小腸正常陰窩およびApc変異マウスのポリープに由来するオルガノイド培養を作成し、JNK経路の活性化が細胞自律的なものか細胞外因子によるものか検討したところ、JNKの活性化は細胞外因子によることを示唆する結果が得られた。一方、JNKはTLR経路や炎症性サイトカイン等の自然免疫応答に関わる因子により活性化されることが知られている。また、腸組織には免疫細胞が多く存在しており、腸内細菌叢の状態が免疫機能に影響を及ぼすことが明らかになってきている。そこで、Apc変異マウスに抗生剤を投与して腸内細菌を除去したところ、大腸における腫瘍形成が抑制された。

<今後の方向>

腸管腫瘍におけるJNK活性化の分子機序、腸管腫瘍の形成・進展における自然免疫の関与、さらにJNK活性化と自然免疫との関係を解明していきたい。

＜研究課題＞ 1-2

（主題） マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

（副題） 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割

＜研究者氏名＞

藤下晃章、梶野リエ、武藤 誠¹⁾、青木正博

＜目的・概要・進捗状況＞

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである*Apc*変異マウスは良性の腺腫性ポリープを発症し、さらに*Smad4*遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ*cis-Apc/Smad4*マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。我々はこれまでに、*Apc*変異マウスの腸管ポリープの成長にはmTORC1経路の活性化が重要な役割を果たし、mTORC1選択的阻害薬RAD001によって腫瘍形成が顕著に抑制されること、さらに腸管に局所浸潤性の腺がんを発症する*cis-Apc/Smad4*マウスにおいてもRAD001投与により、大きな腫瘍の数が有意に減少して生存期間が延長すること、mTORC1、mTORC2の両方を阻害するmTORキナーゼ阻害薬AZD8055はより強力に腫瘍形成を抑制することなどを見出していた。平成25年度は、mTORキナーゼ阻害薬AZD8055の投与により*cis-Apc/Smad4*マウスにおける腸がんの形成は強く阻害されるが、悪性化の指標である浸潤そのものは抑制されないことを明らかにした。さらに、mTORキナーゼ阻害薬投与によるフィードバック経路で受容体型チロシンキナーゼとそのシグナル経路が顕著に活性化していることを見出した。現在、このフィードバック経路の活性化機序、およびmTOR阻害薬に対する抵抗性獲得における役割の詳細について解析を進めている。

＜今後の方向＞

大腸がんがmTOR経路阻害薬に対する抵抗性を獲得する機構を、マウスモデルを用いて分子レベルで明らかにし、その克服戦略を確立したい。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

＜研究課題＞ 1-3

（主題） マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

（副題） マウスモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

＜研究者氏名＞

小島 康、青木正博

＜目的・概要・進捗状況＞

近年、腫瘍の進展には、腫瘍細胞の遺伝子異常のみならず腫瘍間質が重要な役割を果たしていることが明らかとなり、腫瘍間質は抗がん治療の重要な標的となると考えられている。がん関連線維芽細胞（がん随伴線維芽細胞）carcinoma associated

fibroblasts (CAF) は、上皮性腫瘍の間質中に存在する、線維芽細胞と筋線維芽細胞とが混じり合った集団で、乳がん、肺がんなどの原発腫瘍の成長に重要な役割を果たすことが分かっている。しかしながら、CAFが腫瘍の浸潤、転移に与える影響については不明な点が多い。我々は、浸潤性腸がんを発症する*cis-Apc/Smad4*マウスを用いて、浸潤プロセスにCAFが果たす役割の解明に取り組んでいる。

免疫組織学的検討から、*cis-Apc/Smad4*マウスの腺がんの浸潤先端部では、受容体型チロシンキナーゼであるc-Kitの発現上昇、およびc-KitのリガンドであるSCFの発現上昇を認めた。これらの結果は、間質細胞から分泌されたSCFが、がん細胞のc-Kitシグナルを活性化して、腫瘍進展を促進している可能性を示唆していると考えられた。そこで、c-Kit中和抗体(ACK2クローン)を*cis-Apc/Smad4*マウスに投与して、ポリープ数、ポリープ径長を検討したところ、ACK2投与群と非投与群の間に有意な差は認められず、ACK2クローンによるc-Kitシグナル遮断だけでは、*cis-Apc/Smad4*マウスの腺がんの進展を抑制できない可能性が高いことが明らかとなった。

＜今後の方向＞

*cis-Apc/Smad4*マウス腫瘍組織の発現解析から、腫瘍組織の間質、特にCAFで活性化しているシグナル経路の候補をいくつか見出しているため、それらの役割について解析を行う。

＜研究課題＞ 2

（主題） がん悪液質の病態生理理解明と治療戦略の基盤構築

（副題） マウスモデルを用いた網羅的解析

＜研究者氏名＞

小島 康、藤下晃章、梶野リエ、青木正博

＜目的・概要・進捗状況＞

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status(PS)、Quality of Life (QOL)を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、大腸がんマウスモデルの*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad4*複合変異マウスの解析に取り組んでいる。

*Apc*変異マウスでは約20週齢から、*cis-Apc/Smad4*変異マウスでは14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。生化学的検査を実施したところ、高脂血症、AST、ALT、LDHの上昇が認められた。ALPに関しては、野生型と比較して、その活性が有意に低下していた。ALPは亜鉛依存性酵素で、臨床上也ALP活性低値は亜鉛欠乏症の指標であるため、血清亜鉛濃度を測定したところ、その低下を認めた。亜鉛は、生体必須微量元素で、ヒトゲノム配列の解析からは、ヒト遺伝子産物の最大10%相当の約2800種類の蛋白質が亜鉛結合部位を持つと推定されて

いる。悪液質と低亜鉛血症には密接なリンクがあることを想定し、生体内亜鉛の経時的変化、および生体内亜鉛変化が悪液質病態に与える影響を検討している。

<今後の方向>

我々は、慶應義塾大学の曾我朋義教授との共同研究で、悪液質を発症した*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad4*複合変異マウスの肝臓、骨格筋、血漿、腫瘍組織の代謝変化に関して、キャピラリー質量分析法（CE-MS）を用いた解析を開始している。今後は、高脂血症、低亜鉛血症の知見に加えて、CE-MSによるメタボローム解析データと腫瘍組織や肝臓のトランスクリプトームデータの知見を統合的に解析して、悪液質において重要な役割を果たしている代謝経路の同定を目指す。

<研究課題> 3-1

- (主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出
(副題) 腸管腫瘍形成におけるPLEKHG1の役割

<研究者氏名>

青木正博、佐久間圭一朗、後藤嘉子、武藤 誠¹⁾、藤下晃章

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんは、2020年には我が国で最も罹患率の高いがん種になると予想されている。CDX1及びCDX2は消化管上皮細胞の分化に重要な役割を果たすホメオドメイン転写因子で、大腸がんの抑制因子と考えられている。我々はこれまでに、クロマチン免疫沈降法により、DBLファミリーに属するGEF (guanine nucleotide exchange factor) をコードすると予想されるPLEKHG1 (*pleckstrin homology domain containing, family G (with RhoGef domain), member 1*) をCDX1とCDX2の新規標的遺伝子として同定し、PLEKHG1がCDX1、CDX2の直接の標的遺伝子であること、*Plekhg1*が*Apc*変異マウスの大腸腫瘍形成に重要な役割を果たすことなどを見出していた。平成25年度は、大腸がん細胞に上皮間葉転換 (EMT) を誘導するとPLEKHG1の発現が著しく増加し、大腸がん細胞株にPLEKHG1を強制発現させるとマトリックス浸潤能が亢進することを見出した。また、これまで腸管組織でPLEKHG1を発現する細胞種については不明であったが、*in situ hybridization*法により主に腸上皮細胞が発現していることが分かった。これらの結果から、PLEKHG1は大腸がんの発生初期過程では抑制的に働くが、浸潤・転移は促進する可能性が示唆された。

<今後の方向>

腸管腫瘍の悪性化におけるPLEKHG1の役割をさらに明らかにする。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 3-2

- (主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出

- (副題) 大腸がんマウスモデルを用いた転移抑制遺伝子の生体内スクリーニング

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんは日本で近年顕著な増加傾向にある悪性腫瘍であり、その死因の大半に転移が関係していることから、転移を制御する手段の開発が急務となっている。しかしながら、転移の機序は十分に解明されておらず、遠隔転移を自然発生するような大腸がんマウスモデルも未だ開発されていない。また、これまでに大腸がんの転移を促進する遺伝子は数多く同定されている一方、転移抑制遺伝子は少数しか同定されていない。我々は、shRNAライブラリーを用いたマウス生体スクリーニング系を構築した。具体的には、C57BL/6マウス由来の大腸がん細胞株 (CMT93) を蛍光タンパクVenusで標識し、shRNAライブラリーを導入後、同系マウス直腸粘膜下へ移植し、約4ヶ月後に肺、肝臓、リンパ節から転移巣を回収し、導入されたshRNAを同定するという手法である。前年度までに、このスクリーニング系を用いて、転移巣から10個以上のshRNA配列を同定していた。平成25年度は、それらのshRNAが標的とする遺伝子のうち、選択的スプライシングに関与することが知られているRNA結合タンパクをコードする*Hnrpl1*に着目し、その予備的機能解析を行った。その結果、*Hnrpl1*の発現低下は大腸がん細胞のマトリックス浸潤能を亢進させることが分かった。

<今後の方向>

*Hnrpl1*の浸潤・転移における役割を解明するとともに、標的となるRNA分子の同定を試みる。また、同定した他のshRNAの標的遺伝子について、文献やデータベースも利用しながら、転移抑制効果の検証を進める。将来的には本研究により同定した転移抑制遺伝子の変異マウスと*cis-Apc/Smad4*マウスとの交配によって、転移性大腸がんを自然発症するマウスモデルを作出したい。

<研究課題> 3-3

- (主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出
(副題) 肺がんの微小環境と悪性化機構に関する研究

<研究者氏名>

前田 亮、小島 康、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

肺がんは我が国のがん死の第一位であり、年間約5万人以上が肺がんで死亡している。肺がん患者の特徴としては、高齢者が多く、また慢性閉塞性肺疾患や間質性肺疾患などの呼吸器疾患を基礎疾患に持つ患者が多いことがあげられる。間質性肺炎合併肺がんの研究領域において、間質性肺炎と発がんとの関連や、肺がん治療に関連した間質性肺炎急性増悪因子の同定に関する研究は多くなされているが、間質性肺炎合併肺がんの生

物学的特性そのものに関する報告はこれまでなかった。我々は、間質性肺炎の肺の微小環境自体が肺がんの悪性度を高める因子として働いているのではないかという仮説を立てた。この仮説を検証し、そのメカニズムを解明することにより、治療困難な間質性肺炎合併肺がん患者の診療及び治療成績を向上させるための革新的治療戦略を構築したい。平成25年度は、C57BL/6マウスにプレオマイシンを経気道的に投与することで、プレオマイシン誘導性間質性肺炎を発症するモデル、および同じくC57BL/6マウスの左肺に同系マウス由来の肺がん細胞株であるLLC(Lewis lung carcinoma cell)を移植する肺がん同所性肺移植モデルを確立した。さらに、C57BL/6系統の遺伝子背景をもったK-ras^{LSL-G12D/+}; p53^{fl/fl}(KP)マウスを導入し、Cre発現アデノウイルスベクターを経気道的に投与することで肺がんが発症するマウスモデルを確立した。

<今後の方向>

既に確立した間質性肺炎マウスモデルと肺がんマウスモデルとを組み合わせ、間質性肺炎の微小環境が肺がんの進展、特にリンパ節転移・対側肺転移に及ぼす影響を解析する。さらに、間質性肺炎の肺微小環境で形成された腫瘍の間質細胞の性状を調べる。

腫瘍医化学部

<研究課題> 1

(主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケード

(副題) がんの分子標的Aurora-Aキナーゼの制御機構

<研究者氏名>

笠原広介¹⁾, 後藤英仁²⁾, 川上和孝³⁾, 清野 透⁴⁾,
米村重信⁵⁾, 河村義史³⁾, 江良沙穂⁶⁾, 小堀恭子,
川本恵理子, 五島直樹³⁾, 松崎文雄⁵⁾, 稲垣昌樹²⁾

<目的・概要・進捗状況>

細胞は、自身の染色体の複製・分配過程を緻密に制御することによって、その遺伝情報を正確に2つの娘細胞に伝達している。しかし、様々な要因により染色体の複製・分配過程に異常が生ずると、染色体の恒常性が維持できなくなる(染色体の不安定性)。このような染色体の不安定性は、がんや細胞老化に起因する種々の疾患の基盤になっていると考えられている。染色体の複製・分配過程の調節には、状況に反応して特異的に活性化されるタンパク質リン酸化酵素(キナーゼ)が中心的な役割を果たしている。

Aurora-Aは、大腸癌などの組織において遺伝子増幅が認められたり、多くのがん腫で発現が上昇したりすることが知られているキナーゼである。現在、Aurora-Aは、がん治療の分子標的としても注目され、多くの薬剤メーカーがAurora-A阻害剤を抗がん剤として開発している。これまで、Aurora-Aは、分裂期特異的に活性化するキナーゼとして位置づけられてきた。最近、我々は、Aurora-Aが分裂間期においても活性を有し、一次線毛(primary cilia; 一次繊毛)と呼ばれる細胞内小器官

の形成を抑制することによって、細胞を増殖に向かわせていることを明らかにした。また、この一次線毛の形成過程におけるAurora-Aの活性化因子としてTrichopleinを同定した。

細胞が増殖停止期(G0期)に入り、一次線毛が形成される際には、Trichopleinがユビキチン・プロテアソーム依存的にタンパク分解されるためにAurora-Aが不活性化することを新たに我々は見出した。分解されないTrichoplein変異体(Lys50→Ala/Lys57→Ala)を発現する細胞では、G0期に入っても一次線毛が形成されないことから、一次線毛の形成にはTrichopleinのタンパク分解が必要不可欠であることが示された。そこで、Trichopleinの分解を担う酵素(ユビキチンE3酵素)の網羅的スクリーニングを進めた結果、KCTD17を同定した。RNA干渉法によりKCTD17の発現を抑えた細胞は、G0期に入ってもTrichopleinが分解されないため、Aurora-A活性が失われず、一次線毛の形成は阻害されることが分かった。

一次線毛には、がんと密接に関与する多くのシグナル伝達分子(受容体型チロシンキナーゼPDGF-Rやヘッジホッグ因子群)が局在し、それらが厳密な制御を受けている。多くのがん細胞では一次線毛を形成する能力を失っているために、これらのシグナル伝達に異常が生じていることが報告されている。そのため、一次線毛の形成不全とがんの関連が取り沙汰されている。今後、Trichoplein-Aurora-A経路による一次線毛の制御が、がんの発生・進展に与える影響を検証することは重要な意味を持つと考えられる。

<今後の方向>

これまで培養細胞を用いた実験系で、KCTD17-Trichoplein-Aurora-A経路による一次線毛の制御メカニズムを明らかにしてきた。今後、現在作製中であるKCTD17ノックアウトマウスを用いて、がんや線毛病との関連を検討する予定である。

- 1) 名市大院・薬・腫瘍制御(兼任),
- 2) 名大院・医・細胞腫瘍(兼任),
- 3) 産総研・創薬分子プロファイリング,
- 4) 国がんセンター・ウイルス,
- 5) 理研(CDB), 6) リサーチレジデント

<研究課題> 2-1

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析

(副題) 一次線毛退縮の分子機構～がんにおける一次線毛の消失の意義～

<研究者氏名>

稲葉弘哲¹⁾, 後藤英仁²⁾, 猪子誠人, 何東偉¹⁾, 五島直樹³⁾,
山野荘太郎⁴⁾, 鰐淵英樹⁴⁾, 熊本香奈子⁵⁾, 広常真治⁵⁾,
清野 透⁶⁾, 稲垣昌樹²⁾

<目的・概要・進捗状況>

一次線毛は細胞増殖停止期(G0期)に形成される細胞表面から突出したアンテナ様の構造物で、化学的/物理的刺激を受容し細胞増殖を制御する。その骨格は母中心体から変化した基底

小体から伸びた微小管からなる。一次線毛の形成、機能不全は、腎嚢胞などの線毛病を引き起こすことが知られている。一方で、多くのがん細胞においては一次線毛の形成能が欠失しており、一次線毛形成、退縮の分子機構を明らかにすることは、がん細胞が無秩序に増殖する仕組みの解明に繋がると考えられる。

我々はこれまでに、TrichopleinとAurora-Aの複合体が一次線毛の形成に抑制的に働くことを示した。今回我々は、Trichoplein類縁タンパク質群 (TPHD群) 81因子についてヒト網膜色素上皮細胞(RPE1-hTERT)においてsiRNAスクリーニングを行った。その結果、4因子が一次線毛形成に抑制的に働く可能性が示唆された。今回は、その1つであるNdel1について解析を進めた。Ndel1は中心体局在タンパク質で、神経発生や細胞分裂などの様々な現象に関与することが知られている。また、Ndel1のノックアウトマウスは初期胚致死であることが報告されている。

まず、増殖中のRPE1細胞においてsiRNAによりNdel1をノックダウン(KD)したところ、48時間後に約40%の細胞で一次線毛を形成し、G0期での細胞周期停止がみられた。また、血清飢餓により増殖を停止した細胞に血清を加えたところ、Ndel1をKDした細胞では一次線毛の退縮が阻害され、細胞周期への再進入がみられなかった。Ndel1のKDによる細胞周期停止が一次線毛の形成によるものであるかを検討するため、一次線毛形成に必須であるIFT20をNdel1と同時にノックダウンしたところ、一次線毛を形成せず、細胞増殖がみられた。

次にNdel1のhypomorphic mutantマウスの腎臓を調べたところ、生後0日齢において尿管の一次線毛長が野生型と比較して長いことがわかった。このマウスの尿管では、若干の細胞増殖の低下がみられ、生後7日齢において尿管腔の面積の増大が認められた。以上より、Ndel1の欠損は一次線毛形成を引き起こし、その結果、細胞増殖を阻害することが示唆された。

<今後の方向>

これまでにNdel1の欠損による一次線毛の表現型を見てきたが、その分子機構は不明である。Ndel1のオルソログであるNdel1も一次線毛の退縮に必要なことが報告されている。そこで、これらの関係性を探ると共に、これまでに報告のある一次線毛の制御因子との相互作用を調べ、Ndel1による一次線毛形成・退縮の分子機構を明らかにしたいと考えている。また、TPHD群の中から見出した他の3因子についても同様に検討したい。

¹⁾ リサーチレジデント, ²⁾ 名大・医・細胞腫瘍(兼任),

³⁾ 産総研・創薬分子プロファイリング,

⁴⁾ 大阪市大院・医・分子病理,

⁵⁾ 大阪市大院・医・細胞機能制御, ⁶⁾ 国がんセ・研・ウイルス

<研究課題> 2-2

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析

(副題) Trichoplein, Albatrossをはじめとした中心小体動態を制御する蛋白質群によるがん研究

<研究者氏名>

猪子誠人, 林 裕子, 五島直樹¹⁾, 清野 透²⁾, 稲垣昌樹³⁾

<目的・概要・進捗状況>

私共の研究では、小さな中心小体構造変化が影響を及ぼす生理現象とその分子基盤を細胞増殖休止やそれに伴う組織分化制御の面で開拓することで、がん治療効果の高い標的分子をこれまでにない視点で見出すことを目的とする。中心小体は細胞内のサブミクロンの構造であるが、動態変化に富み、複製や一次線毛形成によって細胞増殖や分化などの大きな生命現象に関わる。そして、がんには一次線毛形成能がないとされる。このように小さい作用点で大きい現象に関わる中心小体構造は、治療標的としての期待を持たせる。

この領域における私共の先駆的貢献は、①中心小体優位な細胞現象として、一次線毛を正常二倍体細胞に強制的に形成させると増殖培地中でも細胞増殖休止が誘導される現象を発見したことと、②この動態制御分子機構は内因性にも存在し、それが中心小体内におけるTrichoplein蛋白質の局在の有無によるAurora-A(分裂期キナーゼの一種)の活性切り替えであることを高い時空間精度で提示した点にある。この分子機構の発見は、一次線毛が形成できない培養がん細胞はAurora-A阻害で特異的に分裂期障害を起こし死滅する可能性を同時に提示した。これは、中心小体動態の持つ鋭い影響力が、治療標的となり得る一例である。

これまでに、中心小体で動態制御にあずかる新規標的分子群を局在と機能の両面から検索し、新たに補填した。具体的には産総研が保有する蛋白質局在情報データベース(HGPD)に基づき、中心体局在を示す遺伝子約680個およびTrichoplein類似配列蛋白質約100個を抽出した。これらを配列特性やRPE1-hTERT細胞(不死化正常二倍体)を用いた遺伝子ノックダウンスクリーニングで絞り込み、Trichopleinと同じく一次線毛形成を機能欠失表現型とする蛋白質群十数個と、新たな注目点として中心小体複製停止に伴う細胞増殖休止を示したAlbatross蛋白質を見出した段階にある。

現在は先行してこのAlbatrossの中心小体機能を確認中である。まず作成した特異抗体により正しいノックダウンの表現型であることをU2OS細胞およびRPE1-hTERT細胞で確認した。この抗体による細胞免疫染色と強制発現でAlbatrossが詳細には中心小体遠位端付属物に局在することを確認した。また小腸上皮の免疫組織染色でも、Albatross中心小体局在と機能が培養細胞の知見と相関することを確認している。一方で、気管多線毛上皮の基底小体にもAlbatrossは局在することから、組織種によっては特異性の高い分化への寄与も考えられる。

<今後の方向>

このように、先行解析中のTrichoplein, Albatrossをはじめとし、数的補強を施した中心小体制御分子群を用い、細胞増殖および分化に及ぼす影響の可能性を分子レベルで検討するため、①相互作用分子の検索、②正常細胞分化・未分化アッセイ系の確立、③それらを用いた遺伝子欠失表現型の確認を行う。

¹⁾ 産総研・創薬分子プロファイリング,

²⁾ 国立がんセ・研, ³⁾ 名大・医・細胞腫瘍(兼任)

<研究課題> 3

(主題) がん細胞の細胞骨格・増殖にかかわる遺伝子の遺伝子改変マウスの作製

<研究者氏名>

田中宏樹¹⁾, 後藤英仁²⁾, 猪子誠人, 松山 誠¹⁾, 米村重信³⁾, 近藤英作⁴⁾, 糸原重美⁵⁾, 小堀恭子, 林 裕子, 谷川順美, 井澤一郎, 稲垣昌樹²⁾

<目的・概要・進捗状況>

中間径フィラメントは、アクチンフィラメント、微小管ともに細胞骨格を形成する主要な構成成分である。中間径フィラメントの基本構造は、ヘッド、ロッド、テイルの3つのドメインから構成されており、フィラメントの重合・脱重合は、ヘッドドメインのリン酸化修飾によって時空間的に制御される。当研究室では世界に先駆けて部位特異的リン酸化状態を認識する抗リン酸化ペプチド抗体の開発し、細胞周期特異的なリン酸化部位の同定およびその酵素の同定をしてきた。また、リン酸化の生理的意味を理解するために、リン酸化部位がリン酸化されない変異を導入した細胞では、細胞質分裂が終了したにもかかわらず娘細胞間が断裂されない架橋構造を認め、リン酸化が細胞質分裂の完了に必要であることを示した。しかしながら、マウスなどを用いた個体レベルにおいて、それらのリン酸化シグナルの生理的機能は、ほとんど解明されていない。そこで、我々は細胞分裂期特異的リン酸化部位の11カ所のリン酸化部位をセリンからアラニンに置換したマウスを作製・解析を行った。

現在までに、変異マウスでは目の水晶体の形態形成不全、白内障の発症、皮膚の損傷治癒遅延を観察した。さらに詳細に解析すると、変異マウスでは水晶体上皮細胞の数の減少、細胞質分裂障害によると考えられる2核の細胞の出現といったこれまで試験管レベルで観察されたことが、個体内でも起きていることをあきらかにした。赤道面の水晶体上皮細胞や水晶体線維細胞では、染色体数の異常を呈した。損傷治癒部位においても、変異マウスでは線維芽細胞数の減少、さらには、DNA損傷反応が起きていること、染色体数の異常、細胞老化に陥る細胞も認めた。中間径フィラメントリン酸化不全による細胞質分裂障害は、染色体不安定性の亢進、さらには細胞老化に至ることを個体レベルで明らかにした。

染色体異数性はがんのhallmarkとして考えられている。我々のマウスは、染色体異数性を示すことから、高発がんモデルマウスとなりうると予期された。しかしながら、生後2年以上にわたりマウスを観察したが自然発がんの亢進を認めなかった。また、皮膚に3週間おきに損傷を与えて、腫瘍形成の亢進を検討したが野生型と同様、全く腫瘍形成を認めなかった。そこで、化学発がんによる腫瘍形成を検討したところ、野生型に比べ変異マウスにおいて腫瘍発生の遅延および腫瘍による個体死の遅延を認めた。この腫瘍を組織学的に検討したところ、すべての遺伝子型で線維肉腫を形成し、染色体異数性を呈した。この結果から、腫瘍形成初期における染色体異数性 (Aneuploidy) が誘導する細胞老化 (AIS; Aneuploidy-induced senescence) はがん化へのセーフガードとしての役割をしている可能性を示唆している

<今後の方向>

ビメンチン点変異マウスでは染色体不安定性、細胞老化を認めましたが、老化の主要な因子であるp53-p21経路依存的にこれらの現象が起きている可能性が考えられる。p53遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスを解析することにより、発がんにおけるビメンチンリン酸化の役割を個体レベルで明らかでき、発がんの分子機構の一端が明らかになる。

中間径フィラメントのリン酸化の *in vivo* における生理的意義の解明するために、デスミンのリン酸化部位に変異を導入したマウスを作製している。

白内障、損傷治癒遅延をきたすビメンチン変異マウスに加えて、筋組織、皮膚、肝臓、脳などの特異的組織でAneuploidyを生じて老化をきたす細胞質分裂障害型中間径フィラメント・ノックインマウスを作製する。その後、種々の組織およびその損傷治癒モデルにおいて時系列発現プロファイル解析を通じてAneuploidyからの老化誘導に必須の分子群の同定を試みる。

¹⁾ リサーチレジデント, ²⁾ 名大・医・細胞腫瘍 (兼任),

³⁾ 理研 (CDB), ⁴⁾ 腫瘍病理, ⁵⁾ 理研 (BSI)

中央実験室

<研究課題> 1

(主題) 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究

(副題) ミトコンドリアDNAの多型と食道がん発がんリスク

<研究者氏名>

組本博司, 松尾恵太郎¹⁾, 田中英夫¹⁾, 田島和雄²⁾

<目的・概要・進捗状況>

ミトコンドリアゲノムDNA (mtDNA) は核ゲノムDNA と比べ、一般に変異が生じやすいといわれている。また最近では老化やがん化に伴ってmtDNAに変異を生じることも報告されている。我々は、食道がんについて高頻度にmtDNAの変異が蓄積していることを以前明らかにした。もともと食道は、喫煙・飲酒の影響を直接受ける器官であり、これらの生活習慣によって発がんリスクも上昇することが示されている。mtDNAに多くの多型が存在することで、酸化的リン酸化の過程で電子が漏れ、活性酸素がより多く産生されることが考えられる。そこで、本研究では、mtDNAのD-loop領域に存在する多型の数を数え、食道がんの発がんリスクとの関連を解析することを計画した。また、生活習慣に関わる発がんリスクとmtDNAの多型の数との関連も解析する。

本研究には、HERPACC (the Hospital based Epidemiologic Research Program at the Aichi Cancer Center) のデータベースより食道がん患者185例、食道がん患者に性、および年齢を一致させた非がん患者対照185例を用いた。喫煙、飲酒習慣を含む生活習慣に関する情報、さらに、血液からDNAを得た。

mtDNAのD-loop領域は、複製、転写をコントロールする領域であり、多型、変異が多数見つかっている領域でもある。現在、市販のリシーケンシングプライマーセットを用い、食道がん患

者および、非がん患者由来のDNAの塩基配列を決定すると同時に、これらの解析した塩基配列と、mtDNAの基準配列であるrCRSと比較することによって、D-loop領域の多型を網羅的に検出している。現在のところ、平均で、食道がん患者で7.5多型/人、非がん患者で6.8多型/人の多型が検出されている。そのうち、塩基置換であり、がん患者、5.9多型/人、非がん患者5.4多型/人の多型が検出された。

<今後の方向>

今後、これらの結果を用いて食道がんリスクを与える多型の探索や、多型の数と食道がんリスクとの関連、さらに飲酒・喫煙のリスクを修飾する多型の探索を行う。また、核だけでなくミトコンドリアでも働いていることが明らかとなっている修復遺伝子、hOGG-1の多型(Ser326Cys)をそれぞれのサンプルについて解析し、mtDNAの変異と喫煙・飲酒に関連があるかどうか解析する。さらに、これらの解析によって、mtDNAの変異と飲酒・喫煙習慣との関連を明らかにし、食道がんにおけるmtDNAの変異がどのような過程で生じるかを考察する。

¹⁾ 疫学・予防部、²⁾ 三重大学医学部

3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

<研究課題 1>

肺癌・中皮腫細胞の解析と診断、治療法への応用

Analysis of lung cancer and mesothelioma cells for clinical application

<研究者氏名>

所属部 呼吸器内科部

研究者氏名 樋田豊明

共同研究者 堀尾芳嗣、清水淳市、朴 将哲、小栗知世、
田中広祐、谷田部恭、関戸好孝

<目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

肺がんではドライバーがん遺伝子の発見により、それぞれの遺伝子異常に対する治療薬が開発され、患者さん個々の遺伝子を調べることにより個別化治療が行われている。そのうち肺がんの5%程度を占めるEML4-ALK融合遺伝子異常症例ではALK阻害薬を投与する事により著効が得られている。ただその診断過程において通常の検査センターにおける検査では遺伝子異常の確定に2週間程度を要しており、EML4-ALK症例を絞り込む補助的診断方法の開発が待たれている。今回、より簡便にALK融合遺伝子症例を臨床所見から推測できる方法について放射線画像所見の特徴から検討を行った。

当センターで2006年7月から2012年10月までに診断、治療したEML4-ALK遺伝子異常の36例を詳細に解析した。EML4-ALK融合遺伝子の診断は、免疫染色法かRT-PCR法によりスクリーニングを施行し、FISH法にて確定した。36例中22例(61.1%)が女性で14例(38.9%)が男性、平均年齢は48.4歳であった。28例は非喫煙者で、3期と4期の肺腺癌であった。転移部位は骨転移が16例(44.4%)、脳転移が9例(25%)、対側肺転移が7例(19.4%)、肝転移が5例(13.9%)、胸郭外リンパ節転移が4例(11.1%)、副腎転移が2例(5.6%)、胃、腎、脾臓転移がそれぞれ1例(2.8%)で見られた。CT検査は5～10mmスライス厚で撮影し、画像所見の特徴について検討した所、mass(直径3cmを越えるもの)とnodule(直径3cm以下のもの)の画像を呈したものはそれぞれ17例(47.2%)と16例(44.4%)であり、原発病変は4割以上が比較的小さい腫瘍像を呈した。

進展形式では、31例(86.1%)でリンパ節の腫脹がみられ、7例(19.4%)でextranodal lymph node invasionが、3例(8.3%)でリンパ管症が認められ、また、胸水は15例(41.7%)にみられた。また、Ground-glass opacity(GGO)所見を伴う症例は1例を除いて認められなかった。EGFR遺伝子変異症例と異なりEML4-ALK融合遺伝子異常症例の画像所見の特徴としては、原発層はGGOを伴わない比較的小さいsolid growth patternであるがリンパ節には早期から進展する悪性度の高い腫瘍であることが推測された。これらの画像所見の特徴は、症例の初診時に画像所見からALK-EML4症例を絞り込むのに有用と考えられた。

難治性でがん死亡原因第一位の肺がんであるが、遺伝子異常

症例を早急に絞り込み、がん遺伝子に対する最適な分子標的薬を選択(個別化治療)することにより治療成績の向上が期待される。

<研究課題 2>

機能温存を目指す頭頸部癌の外科治療

Organ preservation surgery for head and neck cancer

<研究者氏名>

所属部 頭頸部外科部

研究者氏名 長谷川泰久

共同研究者 花井信弘、小澤泰次郎、平川 仁、鈴木秀典

<目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

下咽頭がん頸部リンパ節転移の対応の検討

1. はじめに

下咽頭がんでは、50%を超える頻度で治療時に頸部リンパ節転移をきたしているといわれており、頸部リンパ節転移の有無は予後を決める重要な因子の一つとなっている。頸部リンパ節転移への対応として基本となるのは、やはり頸部郭清術である。しかし、初期治療時に、臓器温存を目的とした化学放射線治療の占める割合が増加している現在、郭清のタイミング、郭清の範囲などが複雑化してきている。今回一次治療別に頸部リンパ節転移への対応について報告する。

2. 手術治療例

① 郭清範囲について

下咽頭がんにおいて、まず微小転移をきたす最もリスクの高いリンパ節はlevel II、IIIおよびIVの上方で、level II-IVに転移がなくVにスキップすることは通常見られないため、N0症例においては、予防的にlevel II-IVの選択的郭清をすることで、コンセンサスが得られている。N+症例について、NCCNガイドラインを参照すると、N1-2a-cは選択的頸部郭清もしくは全頸部郭清(変法)、N3では全頸部郭清(変法)とされている。また、本邦で行われた頸部郭清術の手術式の均一化に関する研究より報告された、頸部郭清術手順指針(案)によると、副神経部を郭清する場合に、下咽頭癌では「僧帽筋前縁付近まで」の症例と「僧帽筋前縁を確認」とした症例では、「僧帽筋前縁を確認」の症例のほうが有意に頸部の制御率が高く、僧帽筋前縁を確認したほうがよいとされている。

下咽頭がんにおける気管周囲リンパ節郭清の有用性は、1) 術前に触診や画像評価が難しい、2) Occult metastasisが否定できない 3) 再発の早期発見が難しく予後が不良といった点より、行うことが有用とされている。

3. 放射線治療例

① 治療後の評価方法と頸部郭清のタイミング

放射線単独治療が主体であったころは、cN2-3症例で臨

床的CRが得られた場合に、経過観察を選択するか頸部郭清(planned neck dissection)を行うかが議論されていた。しかし、化学放射線治療が主体となった現在では、頸部の制御率が向上し、治療後の画像評価により頸部郭清をやるかどうかを判断することが多くの施設で受け入れられている。CT、MRI、PET-CTを用いて評価するが、PET-CTにて評価する場合、放射線治療後12週後に行うことで最も偽陰性率を下げられるとされている。NCCNガイドラインに放射治療後の頸部評価のアルゴリズムが掲載されている。これによると、治療後4-8週の間臨床的に残存が疑われれば画像評価を行い、残存が確かめられれば頸部郭清を行う。臨床的にCRの場合、12週後にPETを行いその評価で頸部郭清をやるかどうか判断する。PE-CTができない場合は、6週後にCTもしくはMRIにて評価するのがよいとされている。

4. まとめ

下咽頭がんに限らず、頸部リンパ節転移に対する対応としては、基本的に頸部郭清術となる。今まで述べてきたように、郭清の範囲、時期、後治療についてはある程度の治療指針が確立されつつある。しかし、検討すべき項目も多く、更によりよい治療指針を確立していくためには、多施設共同前向き臨床試験を行っていく必要があると考える。

4. プロジェクト研究（共同研究費）

<研究課題 1>

免疫療法の標的となる卵巣がん抗原の検索

Identification of new ovarian cancer-associated antigens and their evaluation for immunotherapy

<研究者氏名>

腫瘍免疫学部 山田英里

共同研究者 岡村文子、葛島清隆、近藤紳司、中西 透

細胞傷害性Tリンパ球(CTL)表面のT細胞抗原受容体(TCR)は、標的細胞表面にあるHLAと抗原由来のペプチドを複合体として認識する。がん抗原を特異的に認識するCTLの標的抗原の同定は免疫療法の構築において必須である。本研究では、卵巣がんに発現する新規のがん抗原の同定を目的とした。

卵巣明細胞がんから樹立されたTOV21G細胞のHLA発現をshort interfering (si)RNAで一時的に抑制した。コドン変換によってsiRNA耐性となったHLA-A*24:02をレンチウイルスベクターで導入し、HLA-A*24:02のみ発現するTOV21G細胞を抗原提示細胞として使用した。この細胞とHLA-A*24:02を保有する健康人末梢血CD8陽性Tリンパ球を、サイトカインの存在下で共培養しCTL株を樹立した。さらに限界希釈法でCTLクローンを得た。HLA-A*24:02導入TOV21G細胞を傷害し、正常細胞を傷害しないクローンを選別した。TOV21G細胞のmRNAからcDNAライブラリーを作製した。各プラスミッドをHLA-A*24:02導入293T細胞(HLA-A*02:01, HLA-B*07:02, HLA-Cw*07:02を発現)にトランスフェクションしCTLクローンと共培養後、上清中のインターフェロンを指標に標的遺伝子を探索した。遺伝子短縮法や合成ペプチドを用いてエピトープペプチドを決定した。

CTLクローンは、HLA-A*24:02を導入したTOV21G細胞とKOC7C細胞に反応するため、卵巣がんに共通して発現する抗原に特異的であると考えられた。標的とする抗原としてRNA binding motif protein 4 (RBM4)を同定し、9アミノ酸からなるエピトープペプチドVRTPYMTSYを決定した。ところがこのペプチドは293T細胞に導入したHLA-A*24:02ではなく、293T細胞がもともと保有するHLA-Cw*07:02によって提示されていることが明らかになった。誘導に用いたCD8陽性Tリンパ球のドナーはHLA-Cw*07:02を保有していなかった。

CTLクローンは、自己のHLA-A*24:02拘束性に抗原X(現在までのところ同定できず)を認識するのに加えて、交差反応性にアロ抗原であるHLA-Cw*07:02上に提示されているRBM4由来のペプチドも認識していると考えられる。TCRレパトアの一部には、このような交差アロ反応を有するものが含まれていることが知られている。近年、特定のHLA上のがん抗原ペプチドを認識するTCR遺伝子を導入したリンパ球輸注療法が臨床応用されつつある。その際に、導入されたTCRが目的のHLA上のペプチドを認識すると同時に、患者が持つ他のHLAに対して予期せぬアロ反応を惹起する可能性が示唆された。

<研究課題 2>

悪液質の診断基準の確立を目指した予備研究

<研究者氏名>

分子病態学部 小島 康

共同研究者 田近正洋、原 和生、丹羽康正、

青木正博

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者の Performance Status(PS)、Quality of Life (QOL)を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん患者の20~30%は、悪液質が直接の死因で死亡していると推定されている。臨床的に重要であるにもかかわらず悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。悪液質研究の最大の課題として、悪液質という疾病定義や診断基準が確立されていないことが挙げられる。2011年に、専門家により、6ヶ月以上にわたる進行性の5%以上の体重減少を悪液質とするという提案がなされたが (*Lancet Oncology, 2011*)、依然として悪液質の定義は定まっていない。本研究では、大腸がんマウスモデルと臨床症例の解析から消化器がんの悪液質に特徴的な客観的、定量的所見の同定を試みている。

<大腸がんマウスモデルを用いた解析>

大腸がんマウスモデルの*Apc*変異マウスと*Apc/Smad4*複合変異マウスがヒトの悪液質に極めて類似した病態を呈する。*Apc*変異マウスでは約20週齢から、*Apc/Smad4*変異マウスでは14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。

平成25年度は、*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad4*複合変異マウスの腫瘍組織、肝臓、筋肉、血漿を経時的に採材し、慶應義塾大学先端生命科学研究所首我朋義教授との共同研究として代謝産物の網羅的一斉解析を行った。特に腫瘍組織と肝臓に関して、特徴的な代謝変化を認め、現在その詳細に関して各種方法で検証を行っている。

<臨床症例を用いた解析>

臨床で、骨格筋の萎縮はCT、MRIにより体系的に評価することができる。実際、悪液質では、第3腰椎周囲の体幹筋をCTで評価することにより骨格筋萎縮の評価が可能であることが既に報告されている。消化器がんの悪液質に関する解析は、欧米のグループを中心に行われているため、アジア人患者を対象にした解析は殆ど行われていない。

画像解析ソフト、SliceOmaticを用いて、HERPACCデータベースから抽出した非がん患者61名、胃がん患者44名、大腸がん患者138名の第3腰椎レベルのCT画像を解析して、骨格筋量、骨格筋平均CT値、皮下脂肪量、内臓脂肪量を試みた。最終的に、非がん患者22名、胃がん患者34名、大腸がん患者

64名のデータを取得することができた。現在、それらのデータセットに臨床情報を付加して統計学的解析を行っている。

<今後の方針>

本研究プロジェクトにて、大腸がんモデルマウス実験系、臨床症例を用いた解析とも基礎的データを取得することに成功した。特に大腸がんモデルマウスに関しては、この予備研究により得られたデータをさらに詳細に解析し検証することにより、大腸がんに伴う悪液質に特徴的な客観的・定量的所見の同定につながることを期待される。

<研究課題 3>

FDG-PET/CTのHD法とOSEM法による画像診断能力の検討

Comparison of the ability for diagnosis of FDG-PET/CT between HD method and OSEM method.

<共同研究者>

所属部 頭頸部外科部
研究代表者 鈴木秀典
共同研究者 長谷川泰久、中西速夫

<研究成果(経過)>

癌診断の日常診療で一度に全身を診断できる特性と高い診断能からFDG-PET/CTは、我々も重複癌診断能を報告してきたが更なる診断能の向上が望まれる。我々は、FDG-PET/CT検査の解析法として2-DのOSEM法で行ってきたが、今後3-DのHD法による診断能の向上が期待される。現在各解析法の詳細な比較検討は行われておらず、今回頭頸部癌症例でOSEM法とHD法の診断能力の違いを臨床的評価や病理学評価を行い更なるFDG-PET/CTの診断能向上を目指すことを目的とした。

FDG-PET/CTの診断能は、頭頸部扁平上皮癌の原発巣や頭頸リンパ節転移に対する感度や特異度が、我々 (Detection of FDG-PET and FDG-PET/CT in head and neck squamous cell carcinoma, Nippon Jibiinkoka Gakkai Kaiho, 2007, Suzuki h et al.) や他の研究者が過去に報告したように80-90%と非常に高いという背景がある。したがって元々感度や特異度の高い部位では、両者の比較をしても診断能の差が検知できないことを放射線診断医との研究実施計画の協議によって予想された。そこで、過去に我々が報告した頭頸部中下咽頭扁平上皮癌初診時の同時上部消化管癌T1病変の感度がFDG-PET/CTにおいて0%であったことに着目した。(Limitations of FDG-PET and FDG-PET with computed tomography for detection synchronous cancer in pharyngeal cancer, Arch Otorhinolaryngol Head Neck Surg, 2008, Suzuki h et al) 以上の背景から、頭頸部中下咽頭癌における同時上部消化管癌の診断能を標的とし、当院での上部消化管内視鏡検査後の病理検査結果と東名古屋放射線診断クリニックでのFDG-PET/CTの診断結果とを比較した上で、OSEM法とHD法の比較検討をすることを研究手法とした。

2008年1月から2013年8月までに当院頭頸部外科に初診

中下咽頭扁平上皮癌と診断され当院で上部消化管内視鏡検査をうけ、かつ東名古屋放射線診断クリニックでFDG-PET/CTの検査をうけた126名と既報のOSEM法にてFDG-PET / CTを施行された43名を対象とした。主要な結果として頸胸部食道重複扁平上皮癌26名が診断され、OSEM法にては4名中0名(0%)とだれも異常集積を診断されず、HD法にては22名中13名(59.1%)が異常集積を診断可能であった。 χ^2 乗検定にてHD法にてFDG-PET/CTにて異常集積が有意に指摘された結果であった。これらを2013年第155回日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会連合会や2014年東海頭頸部腫瘍研究会にて口演発表した。

<研究課題 4>

加齢性EBウイルス関連リンパ増殖性疾患の分子標的治療の確立をめざした病態解析

Investigation for molecular pathogenesis of age-related EBV-positive B-cell lymphoproliferative disorders: Establishment of molecular target therapy

<研究者氏名>

所属部: 血液・細胞療法部
研究者氏名: 加藤春美
共同研究者: 山本一仁、木下朝博、瀬戸加大

<背景・目的>

びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)は、悪性リンパ腫の中で約4割を占める最多の病型である。多様な亜群に分類されるが、加齢性EBV関連B細胞性リンパ増殖性疾患(AR-EBVLPD)は2008年WHO分類で新たにDLBCLの亜分類として定義付けられた。難治性リンパ腫に属すると考えられているAR-EBVLPDについて、本研究では、AR-EBVLPDの分子標的治療薬の開発を目的に病態解析を行った。

<方法および結果>

マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子発現解析手法を用いて、5例のAR-EBVLPD(EBV陽性DLBCL)および7例のEBV陰性DLBCLの臨床検体を用いた遺伝子発現レベルによる2群の比較検討をおこなったところ、AR-EBVLPDに特徴的なパスウェイとして、JAK-STATシグナル経路およびNF- κ B経路に関する遺伝子群がAR-EBVLPDの症例で高発現していた。これらの結果を検証するために、*in-vitro*の実験として、GCBタイプのDLBCL 2細胞株(SUDHL6とOCI-Ly7)とABCタイプのDLBCL 1細胞株(OCI-Ly3)を用いてEBVを感染させ、EBV感染前後での比較をおこなったところ、EBV陽性細胞株でJAK-STATシグナル経路およびNF- κ Bシグナル経路に関する遺伝子群が発現上昇していた。タンパク発現レベルでの確認を行うために、ウェスタンブロット法およびEMSA (Electrophoretic mobility shift assay)法を用いてEBV感染DLBCL細胞株とEBV非感染DLBCL細胞株での比較を行ったところ、EBV感染DLBCL細胞株でSTAT3およびNF- κ Bの活性化の上昇が確認された。さらに臨床検体を用いてリン酸化STAT3抗体(p-STAT3)

を用いて免疫染色を行ったところ、AR-EBVLPDの症例では、DLBCLと比較してSTAT 3が高頻度に活性化していることが示された[p-STAT3陽性率 AR-EBVLPD: 80.0%, (n=20/25) vs. EBV-negative DLBCL: 38.9% (n=14/36)]。(Kato H et al. *Cancer Sci.* 2014;105:537)

<結果>

AR-EBVLPDでは、JAK-STATシグナル経路およびNF- κ B経路が活性化していることが示された。AR-EBVLPD症例において、これらのシグナルパスウェイを標的とした治療法が応用されうる可能性が示唆された。

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（名誉総長・総長）

名誉総長

- 001 **Nimura Y**: An advanced HCC with intravascular tumor thrombus - Tumor necrosis after selective hepatic arteriography. Turkish Hepatopancreatobiliary Surgery Association, 2013, (Istanbul, Turkey), [Symposium]
- 002 **Nimura Y**: Surgical challenges to hilar cholangiocarcinoma - the past and present. The 2nd International Congress of Hepatobiliary and Pancreatic Surgery & Minimally Invasive Surgery, 2013, (Hangzhou, China), [Lecture]
- 003 **Nimura Y**: Current treatment strategy for perihilar cholangiocarcinoma. 10th Congress of European-African Hepato Pancreato Biliary Association, 2013, (Belgrade, Serbia), [Lecture]
- 004 **Nimura Y**: Pre-operative assessment - determining operability / cholangitis. 10th Congress of European-African Hepato Pancreato Biliary Association, 2013, (Belgrade, Serbia), [Symposium]
- 005 **Nimura Y**: Arterial resection for hilar cholangiocarcinoma. 10th Congress of European-African Hepato Pancreato Biliary Association, 2013, (Belgrade, Serbia), [Symposium]
- 006 **Nimura Y**: Techniques of bilio digestive anastomosis. 10th Congress of European-African Hepato Pancreato Biliary Association, 2013, (Belgrade, Serbia), [Round-table]
- 007 **Nimura Y**: Surgical planning and techniques of radical resection of hilar cholangiocarcinoma. The 17th Surgery Conference of Chinese Medical Association, 2013, (Xi'an, China), [Lecture]
- 008 **Nimura Y**: Surgical challenges to biliary cancers. 11th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2014, (Seoul, Korea), [Lecture]
- 009 **二村雄次**: 創始と継志: 胆道癌外科の創始—悪戦苦闘. 第113回日本外科学会定期学術集会, 2013, (福岡), [記念講演]
- 010 **二村雄次**: がん治療の最前線から. 一宮中日文化センター特別講演会, 2013, (一宮), [特別講演]
- 011 **二村雄次**: 柔道による頭部外傷の実態と司法判断. 第41回日本小児神経外科学会, 2013, (大阪), [教育講演]
- 012 **二村雄次**: 胆道癌手術の過去・現在・未来. 第25回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2013, (宇都宮), [特別企画]
- 013 **二村雄次**: 胆道癌への外科の挑戦: その軌跡と次世代へのメッセージ. 第68回日本消化器外科学会総会, 2013, (宮崎), [教育講演]
- 014 **二村雄次**: がん医療の最前線. 豊橋座談倶楽部講演会, 2013, (豊橋), [特別講演]

総長

- 001 **木下 平**: 胃癌肝転移切除例に関する他施設共同研究. 第113回日本外科学会定期学術集会, 2013, (福岡), [ワークショップ]
- 002 **木下 平**: 胃癌の診療ガイドラインと外科治療. 中日文化センター 愛知県がんセンター提携講座第2回, 2013, (名古屋), [講演]
- 003 **木下 平**: 今後のがん対策の展望と愛知県がんセンターの未来. 第10回豊田加茂外科医会学術講演会, 2013, (豊田), [特別講演]
- 004 **木下 平**: がん医療の進歩—地域からの発信—. 栃木県立がんセンターオープンキャンパス 講演会, 2013, (宇都宮), [特別講演]
- 005 **木下 平**: レジデント修了30年後の私. 第21回国立がん研究センター医局同窓会, 2014, (東京), [特別講演]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

消化器内科部

- 001 **Kazuo Hara** : EUS-HGS : Really safe?. BONA SUMMIT, 2013,(韓国),[講演]
- 002 **Tanaka T, Tajika M, Kondo S, Yamao K, Mizuno N, Hara K, mu Hijioka S, Imaoka H, Nagashio Y, Hasegawa T, Obayashi T, ide Shinagawa A, Sekine M, Goto H, Niwa Y** : Prospective evaluation of flexible spectral imaging color enhancement (FICE) endoscopy using a transnasal endoscope for detecting pharyngeal and esophageal cancer. DDW, 2013,(Orland, Florida),[ポスター]
- 003 **Mizuno N, Valle JW, Furuse J, Jitlal M, Beare S, Wasan H, Bridgewater J, Okusaka T** : Cisplatin and gemcitabine for advanced biliary tract cancer: a meta-analysis of two randomised trials. Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (ASCO), 2013, (Chicago, IL, USA),[ポスター]
- 004 **Kazuo Hara** : EUS screening. 2013 10th Beijing International Digestive Disease Forum, 2013,(北京),[口演とライブ]
- 005 **Kazuo Hara** : Techniques of EUS-BD. T-CAP 2013,2013, (東京),[講演]
- 006 **Mizuno N** : Role of CD133 in amelioration of fibrosis of type 1 autoimmune pancreatitis. The International Pancreatic Research Forum (IPRF), 2013, (Sendai),[口演]
- 007 **Mizuno N, Nagashio Y, Yamao K** : Is cyst fluid examination useful for selecting surgical candidate? Cons : Symposium IX : Controversies in Clinical Pancreatology I: Pancreatic Cystic Disease Diagnostic performance of cyst fluid analysis and cytology in pancreatic cystic lesions. Joint Meeting of the International Association of Pancreatology and the Korean Pancreatobiliary Association 2013, 2013,(Seoul, Korea),[シンポジウム]
- 008 **Niwa Y, Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Yamao K** : Endoscopic submucosal resection for remnant early gastric cancer . 23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, 2013, (Bucharest), [口演]
- 009 **Niwa Y, Tajiri M, Ishihara M, Tanaka T, Yamao K** : Long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer. 23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2013, (Bucharest),[口演]
- 010 **Okusaka T, Ueno M, Omuro Y, Isayama H, Fukutomi A, Ikeda M, Mizuno N, Fukuzawa K, Hyodo I, Boku N** : A Randomized Phase II Study of S-1 plus Leucovorin versus S-1 alone in Patients with Gemcitabine-Refractory Advanced Pancreatic Cancer. ESMO 2013, 2013,(Amsterdam, Netherland),[ポスター]
- 011 **Furuse J, Ishii H, Ohkawa S, Sasaki Y, Maguchi H, Mizuno N, Ohashi Y, Tsunoda T** : Phase II open-label single-arm trial of combining the epitope peptide derived from Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 with gemcitabine for patients with unresectable biliary tract cancer: OTS102 Study202. ESMO , 2013, (Amsterdam, Netherland),[ポスター]
- 012 **Kazuo Hara** : EUS-CDS for inoperable malignant lower biliary tract obstruction. SGI 2013,2013.(ソウル),[口演]
- 013 **Susumu Hijioka** : EUS –guided choledochoduodenostomy for malignant lower biliary tract obstruction : Single center experience of 81 cases. Taiwan DDW, 2013,(台北),[口演]
- 014 **Mizuno N, Hara K, Yamao K** : Role of endoscopic ultrasonography (EUS) in differential diagnosis of type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis (AIP). JDDW, 2013, (東京), [シンポジウム]
- 015 **Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka M, Nagashio Y, Sekine M, Fujiyoshi T, Tsutsumi H, Sakamoto Y, Sato T, Yogi T, Bhatia V, Yamao K, Niwa Y** : The risk of adenomas and carcinomas in the ileal pouch and rectum after surgical treatment in patients with familial adenomatous polyposis. UEGW, 2013, (Berlin) , [ポスター]
- 016 **Niwa Y, Ohbayashi T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Goto H, Yamao K, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H** : HER2 Heterogeneity in gastric cancer: the comparison between biopsy and resected specimens. UEGW, 2013, (Berlin), [ポスター]
- 017 **Sekine N, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Yamao K** : Retrospective study of diagnostic performance of EUS-FNA and clinical course for gastric gastrointestinal stromal tumors (GISTs) of less than 20 mm. SGI, 2013,(韓国),[ポスター]
- 018 **Kenji Yamao, Kazuo Hara, Susumu Hijioka, Nobumasa Mizuno, Hiroshi Imaoka, Masanari Sekine, Reiko Ashida** : Interventional EUS for Pancreatic Cancer. AIDDS,2013,(Korea),[講演]
- 019 **Imaoka H, Sekine M** : Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration : A technical review. 新華医院学会,2013,(上海),[講演]
- 020 **Kazuo Hara** : EUS-BD. ASIAN EUS GROUP “TRAIN-THE-TRAINER” EUS COURSE, 2013,(神奈川),[特別講演とライブ]
- 021 **Kazuo Hara** : Troubleshooting of EUS-HGS. Asian Pancreato-biliary Endoscopist Future Forum, 2013,(東京),[シンポジウム]

- 022 **Susumu Hijioka** : Interventional EUS in pancreatubiliary disease. EUS Corse,2014, (Ekaterinburg),[ライブ・講演]
- 023 **K Hara, S Hijioka, K Yamao** : EUS-CDS for malignant lower biliary tract obstruction. JDDW,2013, (東京),[シンポジウム]
- 024 **脇岡 範** : 膵内分泌腫瘍の診断と治療. ノバルティス社内講演会, 2013,(名古屋),[講演]
- 025 **脇岡 範** : 胆道ドレナージのすべて. ポストン東海特約店講習会, 2013,(名古屋),[講演]
- 026 **原 和生** : 肝門部はこう攻めろ. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013,(京都),[サテライトシンポジウム]
- 027 **山雄健次** : 膵腫瘍におけるEUS-FNAの有用性・pNETを中心に. 第85回日本消化器内視鏡学会総会,2013,(京都),[講演]
- 028 **永塩美邦, 脇岡 範, 原 和生** : 膵嚢胞性病変の鑑別診断における囊液分析・細胞診の臨床的意義. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013,(京都),[ワークショップ]
- 029 **原 和生** : EUSガイド下治療全国登録. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013,(京都),[口演]
- 030 **原 和生** : EUS-BD標準化に向けて. 第85回日本消化器内視鏡学会総会,2013,(京都),[口演]
- 031 **原 和生, 脇岡 範, 山雄健次** : 切除不能中下部悪性胆管狭窄に対する超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術(EUS-guidedcholedochoduodenostomy:EUS-CDS)のコツ. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013,(京都),[シンポジウム]
- 032 **田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 大林友彦, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 山雄健次** : 家族性大腸腺腫症患者の大腸切除術後の残存腸管の観察および治療における工夫. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013,(京都),[一般講演]
- 033 **関根匡成, 原 和生, 山雄健次** : "20mm未満の胃GISTに対する臨床的取扱いとEUS-FNAの位置づけ". 第85回日本内視鏡学会総会, 2013,(京都),[ワークショップ]
- 034 **坂口将文, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 吉澤尚彦, 石原健二, 丹羽康正, 山雄健次** : 膵腫瘍に対するRepeated EUS-FNAの有用性. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013,(京都),[ポスター]
- 035 **脇岡 範** : How do you diagnosis?GB wall thinking. 第85回日本内視鏡学会総会meet the prof, 2013,(京都),[口演]
- 036 **脇岡 範** : 膵内分泌腫瘍のEUSによる診断. 北海道MIT研究会, 2013,(札幌),[講演]
- 037 **山雄健次, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大** : 胆膵疾患に対する超音波内視鏡の役割. 第37回日本消化器内視鏡学会セミナー, 2013,(京都),[講演]
- 038 **田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 大林友彦, 丹羽康正** : 異所性胃粘膜に発生した食道線癌の1例. 第220回日本内科学会東海地方会, 2013,(名古屋), [一般演題]
- 039 **堤 英治, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 丹羽康正** : S-1/CDDP 併用化学療法にて組織学的完全寛解が得られた進行胃癌の1例. 第118回日本消化器病学会東海支部例会, 2013,(浜松),[一般演題]
- 040 **藤吉俊尚, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 大林友彦, 関根匡成, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 坂本康成, 山雄健次, 丹羽康正** : ESD後に根治化学放射線療法を追加したにも関わらず早期に再発し死亡した表在食道癌の1例. 第118回日本消化器病学会東海支部例会,2013,(浜松),[一般演題]
- 041 **原 和生** : Interventional EUS. 第11回神奈川胆膵癌研究会, 2013,(神奈川),[特別講演]
- 042 **原 和生** : Interventional EUS, 基礎から応用まで. 三重胆膵治療研究会, 2013,(津),[特別講演]
- 043 **関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 林 彦至, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 藤本正夫, 山雄健次** : 粘膜下腫瘍の形態を呈した胆嚢悪性リンパ腫の1例. 第14回臨床消化器病研究会, 2013,(東京),[一般演題]
- 044 **山雄健次** : 一般演題 膵癌診断1. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[座長]
- 045 **山雄健次** : ランチョンセミナー 膵癌の新たな治療戦略を求めて～ ASCO2013updateとEPA含有栄養剤のClinical Study ～. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[座長]
- 046 **水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 清水泰博, 山雄健次** : シンポジウム3「自己免疫性膵炎の新たな展開: 自己免疫性膵炎の国際コンセンサス基準と改訂診断基準2011の検証」自己免疫性膵炎(AIP)新旧診断基準の検証と本邦における2型AIPの実態. 第44回日本膵臓学会大会, 2013,(仙台),[シンポジウム]
- 047 **脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 山雄健次** : IPMC微小浸潤癌の臨床病理学的検討. 第44回日本膵臓学会, 2013,(仙台),[ポスター]
- 048 **関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次** : 壁在結節を伴わないIPMN上皮内癌2例の検討. 第44回日本膵臓学会大会, 2013,(仙台),[ポスター]
- 049 **永塩美邦, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 長谷川俊之, 品川秋秀, 関根匡成, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次** : EUS-FNAによる膵腫瘍の診断診一診断能と正診率に及ぼす因子の検討から見えてくるもの一. 第44回日本膵臓学会大会, 2013,(仙台),[トピックスセッション]
- 050 **原 和生, 永塩美邦, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 関根匡成, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次** : 画像検査にて膵漿液性嚢胞腫瘍(SCN)と鑑別困難であった膵管癌の1例. 第44回日本膵臓学会大会, 2013,(仙

- 台),[ポスター]
- 051 原 和生：膵癌術前EUS-FNAの現状について. 第1回消化器癌セミナー, 2013,(名古屋),[一般演題]
- 052 関根匡成：初心者が初心者に教えるEUS-FNA施設の教育法も含めて. 第12回FNAクラブ, 2013.(東京),[一般演題]
- 053 原 和生：EUS-FNAの教育と普及に向けて. 第12回 FNA-Club Japan, 2013,(東京),[司会]
- 054 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 清水泰博, 谷田部 恭, 細田和貴, 越川 卓：胆膵疾患に対するEUS-FNA. 第7回診断病理サマーフェスト,2013,(京都),[講演]
- 055 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次：cStage I食道癌のMM以深におけるEMRとESDの治療成績の比較検討. 第11回日本臨床腫瘍学会総会, 2013,(仙台),[一般演題]
- 056 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正, 山雄健次：アフィニートールによる間質性肺炎を惹起するも継続治療できている症例. 第11回日本臨床腫瘍学会, 2013,(仙台),[ポスター]
- 057 山雄健次：イブニングセミナー みなさんと考える今後の膵癌の治療. 第59回日本消化器画像診断研究会,2013,(尾道),[座長]
- 058 脇岡 範：シンポジウム14がん患者さんを多職種でサポートする. 第7回緩和医療薬学会年会, 2013,(幕張),[司会]
- 059 脇岡 範：経口抗がん剤治療患者の多職種間連携における医師の果たすべき役割. 第7回緩和医療薬学会年会, 2013,(幕張),[シンポジウム]
- 060 脇岡 範, 原 和生, 山雄健次：Spybiteを用いた胆道癌に対する経乳頭の胆管マッピング生検のコツと成績. 第48回胆道学会, 2013,(千葉),[ビデオシンポジウム]
- 061 原 和生, 脇岡 範, 山雄健次：中下部悪性胆道狭窄に対するEUSガイド下胆管十二指腸吻合術の検討. 第49回日本胆道学会学術集会, 2013,(千葉),[シンポジウム]
- 062 山雄健次：シンポジウム1 「胆道ドレナージの現状と新たな展開」. 第49回日本胆道学会学術集会,2013,(浦安),[司会]
- 063 関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 林 彦至, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次：脈管浸潤の評価に対する超音波内視鏡 (EUS) の有用性. 第49回日本胆道学会学術集会, 2013,(千葉),[一般演題]
- 064 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次：NECの臨床病理学的検討. 第1回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2013,(京都),[ポスター]
- 065 原 和生：Interventional EUS. 東京FNAクラブ,2013,(東京),[特別講演]
- 066 脇岡 範, 原 和生, 山雄健次：EUS-CDSのコツとピットフォール. 第84回内視鏡学会総会, 2013,(東京),[ビデオシンポジウム]
- 067 原 和生：Endoscopic Intervention of pancreato-biliary disease. IVR懇話会,2013,(名古屋),[特別講演]
- 068 今岡 大, 水野伸匡, 山雄健次：切除不能進行膵癌に対するGEM+erlotinib併用化学療法における,皮膚疹の治療効果予測因子としての検討 一当院での治療成績とメタアナリシス. 第55回JDDW, 2013,(東京),[パネルディスカッション]
- 069 関根匡成, 原 和生, 清水泰博：悪性胆道疾患の脈管浸潤に対する超音波内視鏡 (EUS) の有用性. JDDW2013, 2013,(東京),[ワークショップ]
- 070 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 山雄健次, 丹羽康正：Barrett食道表在癌に対する治療方針の検討. JDDW,2013,(東京),[ポスター]
- 071 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 山雄健次：食道表在癌に対するEMRとESDの治療成績の検討. 第55回日本消化器病学会大会, 2013,(東京),[ポスター]
- 072 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡：壁肥厚はworriesome featureか? . JDDW, 2013,(東京),[パネルディスカッション]
- 073 小室泰司, 上野 誠, 奥坂拓志, 伊佐山浩通, 福富 晃, 池田公史, 水野伸匡, 福澤謙吾, 兵頭一之介, 朴 成和：ゲムシタピン耐性膵癌患者を対象としたS-1/LV併用療法S-1療法のランダム化比較試験. 第51回日本癌治療学会, 2013,(京都),[口演]
- 074 脇岡 範：膵内分分泌腫瘍に対するmTOR阻害薬の位置づけ～How to use it～. 第51回日本癌治療学会, 2013,(京都),[イブニングセミナー]
- 075 原 和生：超音波内視鏡に関する最近の話題. 第2回NEXT Endoscopic Forum, 2013,(沖縄),[特別講演]
- 076 中泉明彦, 山雄健次：グローバルアジアフォーラム Cytology Quality Improvement：Hepatobiliary System and Pancreas. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会,2013,(大阪),[座長]
- 077 脇岡 範：当科における膵腫瘍に対するEUS-FNAの検体採取法. 第52回日本臨床細胞学会, 2013,(大阪),[基調講演]
- 078 山雄健次：膵がん：最新の診断方法とは? . 第102回日本消化器病学会,2013,(宮崎),[特別講演]
- 079 脇岡 範：消化管に対する内視鏡的アプローチ. 第12回日本インターベンショナルラジオロジー学会, 2013,(名古屋),[講演]
- 080 原 和生：EUS-FNA ハンズオンセミナー. オリンパス EUS-FNAハンズオンセミナー, 2013,(東京),[座長]
- 081 原 和生：科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン” 改定のポイントと胆道癌に関する最新の話題. 名古屋 胆膵懇話会,2013,(名古屋),[講演]
- 082 山雄健次：日本における膵・消化管神経内分泌腫瘍ガイドラインの紹介. NET Expert Seminar,2013,(横浜),[講演]
- 083 脇岡 範：“NET Education Seminar in Aichi～内科的治療膵NETを中心に～”. 愛知NET研究会, 2013,(名古屋),[講演]
- 084 原 和生：膵・消化管神経内分泌腫瘍 (NET) 診療ガイドラインについて. 第1回愛知educational NETセミナー,2013,(名古屋),[講演]
- 085 山雄健次：EUS-FNA 今昔. 第10回肝胆膵画像病理研究

会,2013,(津),[講演]

- 086 山雄健次：膵・胆のEUS-FNA 消化器内視鏡医が病理診断および病理医・細胞診検査士に求めること. 第63回日本病理学会近畿支部学術集会,2013,(京都),[特別講演]
- 087 與儀竜治, 田近正洋, 丹羽康正：当院で経験した潰瘍性大腸炎に合併したColitic cancerの検討. 第119回日本消化器病学会東海支部例会, 2013,(名古屋),[シンポジウム]
- 088 脇岡 範：WHO2010分類におけるNECの臨床病理学的検討. 第9回NETWork Japan,2014,(福岡),[一般演題]
- 089 脇岡 範：膵癌の診断から薬物治療の最前線～多職種で膵癌と闘う～. 薬剤師セミナー,2014,(名古屋),[講演]
- 090 山雄健次：達人に学ぶ基礎と応用テクニック. 第2回神奈川県胆膵エキスパートセミナー,2014,(横浜),[特別講演]
- 091 山雄健次：Interventional EUS-FNA からEUSガイド下治療まで. 第78回比叡山画像カンファレンス,2014,(京都),[特別講演]
- 092 脇岡 範：膵臓Ⅲ. 第60回日本消化器画像診断研究会,2014,(東京),[座長]
- 093 脇岡 範：EUSの実技指導および膵癌の診断治療. 研修会(長崎県対馬いづはら病院),2014,(対馬),[講演]
- 094 山雄健次：State-of-the-Lecture1「EUS FNA - a new era in EUS guided tissue acquisition. 第13回国際消化器内視鏡セミナー,2014,(横浜),[司会・ライブ]

内視鏡部

- 001 *Tanaka T, Tajika M, Kondo S, Yamao K, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Nagashio Y, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Sekine M, Goto H, Niwa Y* : Prospective evaluation of flexible spectral imaging color enhancement (FICE) endoscopy using a transnasal endoscope for detecting pharyngeal and esophageal cancer. DDW2013, (Orland), [ポスター]
- 002 *Niwa Y, Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Yamao K* : Endoscopic Submucosal Resection for Remnant Early Gastric Cancer . 23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, 2013, (Bucharest), [口演]
- 003 *Niwa Y, Tajika M, Ishihara M, Tanaka T, Yamao K* : Long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer. 23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists,2013,(Bucharest),[口演]
- 004 *Niwa Y, Ohbayashi T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Goto H, Yamao K, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H* : HER2 Heterogeneity in gastric cancer; the comparison between biopsy and resected specimens. UEGW, 2013, (Berlin), [ポスター]
- 005 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara*

- K, Hijioka S, Imaoka M, Nagashio Y, Sekine M, Fujiyoshi T, Tsutsumi H, Sakamoto Y, Sato T, Yogi T, Bhatia V, Yamao K, Niwa Y* : The risk of adenomas and carcinomas in the ileal pouch and rectum after surgical treatment in patients with familial adenomatous polyposis. UEGW, 2013, (Berlin), [ポスター]
- 006 丹羽康正：一般演題10 「胃癌例2」. 第52回日本消化器がん検診学会, 2013, (仙台), [司会]
- 007 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 大林友彦, 丹羽康正：異所性胃粘膜に発生した食道線癌の1例. 第220回日本内科学会東海地方会, 2013,(名古屋), [一般演題]
- 008 田近正洋：一般演題 消化器1. 第220回日本内科学会東海地方会, 2013, (名古屋),[座長]
- 009 丹羽康正, 大澤 恵：第5回専門医セミナー. 第118回日本消化器病学会東海支部例会, 2013, (浜松), [司会]
- 010 堤 英治, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 丹羽康正：S-1/CDDP併用化学療法にて組織学的完全寛解が得られた進行胃癌の1例. 第118回日本消化器病学会東海支部例会, 2013, (浜松), [一般演題]
- 011 藤吉俊尚, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 大林友彦, 関根匡成, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 坂本康成, 山雄健次, 丹羽康正：ESD後に根治化学放射線療法を追加したにも関わらず早期に再発し死亡した表在食道癌の1例. 第118回日本消化器病学会東海支部例会, 2013, (浜松), [一般演題]
- 012 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正：当院における残胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の治療成績の検討. 第118回日本消化器病学会東海支部例会, 2013, (浜松), [シンポジウム]
- 013 丹羽康正：一般演題ポスター 胃一抗血栓薬1. 第86回日本消化器内視鏡学会総会, 2013, (東京), [座長]
- 014 丹羽康正, 堀木紀行：シンポジウム1 消化管疾患における内視鏡的診断・治療の工夫と進歩. 第56回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2013, (名古屋), [司会]
- 015 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 山雄健次, 丹羽康正：Barrett食道表在癌に対する治療方針の検討. JDDW, 2013, (東京), [ポスター]
- 016 田近正洋, 松尾恵太郎, 丹羽康正：H. pylori陽性胃MALTリンパ腫の除菌後の多重がんの発生に関する検討. 第99回日本消化器病学会総会, 2013, (鹿児島), [シンポジウム]
- 017 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 大林友彦, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 山雄健次：家族性大腸腺腫症患者の大腸切除術後の残存腸管の観察および治療における工夫. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013, (京都), [一般演題]
- 018 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正：食道癌における化学放射

線治療後の遺残・再発病変に対する内視鏡的切除の長期予後. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013, (京都), [シンポジウム1]

- 019 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次: cStage I食道癌のMM以深におけるEMRとESDの治療成績の比較検討. 第11回日本臨床腫瘍学会総会, 2013, (仙台), [一般演題]
- 020 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 山雄健次: 食道表在癌に対するEMRとESDの治療成績の検討. 第55回日本消化器病学会大会, 2013, (東京), [ポスター]
- 021 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 山雄健次, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 丹羽康正: 残胃早期癌の臨床病理学的検討. JDDW, 2013, (東京), [ポスター]
- 022 関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 林 彦至, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次: 脈管浸潤の評価に対する超音波内視鏡 (EUS) の有用性. 第49回日本胆道学会学術集会, 2013, (千葉), [一般演題]
- 023 関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 林 彦至, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 藤本正夫, 山雄健次: 粘膜下腫瘍の形態を呈した胆嚢悪性リンパ腫の1例. 第14回臨床消化器病研究会, 2013, (東京), [一般演題]
- 024 関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次: 壁在結節を伴わないIPMN上皮内癌2例の検討. 第44回日本膵臓学会大会, 2013, (仙台), [ポスター]
- 025 関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 藤本正夫, 山雄健次: 粘膜下腫瘍の形態を呈した胆嚢悪性リンパ腫の1例. 第46回肝胆膵治療研究会, 2013, (名古屋), [一般演題]
- 026 坂口将文, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 吉澤尚彦, 石原健二, 丹羽康正, 山雄健次: 膵腫瘍に対するRepeated EUS-FNAの有用性. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 2013, (京都), [ポスター]
- 027 與儀竜治, 田近正洋, 丹羽康正: 当院で経験した潰瘍性大腸炎に合併したColitic cancerの検討. 第119回日本消化器病学会東海支部例会, 2013, (名古屋), [シンポジウム]

呼吸器内科部

- 001 *Nakagawa K, Kiura K, Nisnio M, Seto T, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yamamoto N, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N.* : phase I/II study with a highly selective ALK inhibitor CH5424802 in ALK-positive non-small cell lung cancer (NSCLC) patients: Updated safety and efficacy results from AF-001JP.49th ASCO,2013,(シカゴ),[ポスターディスカッション]
- 002 *Benjamin JS, Gettinger SN, Riely GJ, Gadgeel SM, Nokihara H, YounHan J, Hida T, Satouchi M, Baldini E, Siena S, Yamamoto N, Horn L* : Subgroup analysis of crizotinib versus either pemetrexed(PEM) or docetaxel(DOC) in the phaseIII study (PROFILE 1007) of advanced ALK-positive non-small cell lung cancer(NSCLC). 49th ASCO,2013,(シカゴ),[ポスター]
- 003 *Takeda K, Hirai F, Yamanaka T, Taguchi K, Daga H, Shimizu J, Kogure Y, Kimura T, Tanaka K, Iwamoto Y, Ono A, Sasaki H, Fukuoka J, Nishiyama K, Seto T, Ichinose Y, Nakagawa K, Nakanishi Y.* : A multicenter prospective study of carboplatin and paclitaxel for advancedthymic carcinoma : West Japan Oncology Group 4207L.49th ASCO,2013,(シカゴ),[Poster Discussion Session]
- 004 *Tanaka K, Takeshita J, Hata A, Kaji R, Fujita S, Oguri T, Park J, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K, Hida T, Katakami N.* : EGFR-TKI Re-challenge with Erlotinib after Gefitinib for Central Nervous System Metastases of EGFR Mutated NSCLC. European Society of Medical Oncology, Annual Meeting 2013,(Amsterdam), [ポスター]
- 005 *Atagi S, Yokoyama A, Okamoto H, Tkahashi T, Ohe Y, Sawa T, Semba H, Takeda k, Nogami N, Mori K, Nakagawa K, Harada M, Kudoh S, Tomizawa Y, Takeda Y, Hida T, Katakami N, Ishikura S, Fukuda H, Tamura T.* : Thoracic radiotherapy with or without concurrent daily low-dose carboplatin in elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer: updated results of the JCOG0301 and pooled analysis with the JCOG9812 trial. 15th World Conference on Lung Cancer, 2013, (シドニー), [Mini Oral]
- 006 *Maemondo M, Nishio M, Yamamoto N, Chikamori K, Katakami N, Hida T, Seto T, Yoshioka H, Kozuki T, Ohishi N, Tamura T.* : Variability of epidermal growth factor receptor(EGFR) mutations in serum during erlotinib therapy and its clinical implications: exploratory analysis of a phase II study of erlotinib in patients with advanced non-small-cell lung cancer(NSCLC) harboring. 15th World Conference on Lung Cancer, 2013, (シドニー), [Mini Oral]
- 007 *Kris MG, Camidge DR, Giaccone G, Hida T,*

- O'Connell J, Taylor I, Zhang H, Goldberg Z, Janne PA* : Results with dacomitinib(PF-00299804), an irreversible pan-HER tyrosine kinase inhibitor, in a phase II cohort of patients with HER2-mutant or amplified lung cancers. 15th World Conference on Lung Cancer, 2013,(シドニー), [Exhibit Showcase]
- 008 *Takahashi T, Yamamoto N, Takeda K, Kudoh S, Nakagawa K, Hida T, Kiura K, Takigawa N, Seto T, Tsukuda H, Masuda N, Fukuoka M* : Dose adjustment of single agent amrubicin in lung cancer patients with impaired hepatic function. 15th World Conference on Lung Cancer, 2013,(シドニー), [Poster]
- 009 *Inoue A, Nishio M, Kiura K, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Hida T, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Murakami H, Takeuchi K, Kikuchi K, Asakawa T, Yokoyama S, Tamura T* : One-year follow-up of a Phase I/II study of a highly selective ALK inhibitor CH5424802/RO5424802 in ALK-rearranged advanced non-small cell lung cancer(NSCLC). 15th World Conference on Lung Cancer, 2013, (シドニー), [Poster]
- 010 *Park J, Itoh T, Shin W, Sato K, Sakumura Y, Horio Y, Hida T* : Analysis of exhaled breath for screening of lung cancer patients. 15th World Conference on Lung Cancer, 2013,(シドニー), [Poster]
- 011 *Shimizu J, Hirai F, Yamanaka T, Taguchi K, Daga H, Kogure Y, Kimura T, Tanaka K, Iwamoto Y, Ono A, Sasaki H, Fukuoka J, Nishiyama K, Takeda K, Seto T, Ichinose Y, Nakagawa K, Nakanishi Y* : A multicenter prospective study of carboplatin and paclitaxel for advanced thymic carcinoma: West Japan Oncology Group 4207L. 15th World Conference on Lung Cancer, 2013,(シドニー), [Poster]
- 012 *Park J, Itoh T, Shin W, Sato K, Sakumura Y, Horio Y, Hida T* : Analysis of exhaled breath for screening of lung cancer patients.第72回癌学会総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 013 *Nakagawa K, Tamura T, Hida T, Satouchi M, Takahashi T, Wilner KD, Polli A, Hashigaki S, Shaw AT, Seto T, Inoue A* : Crizotinib vs. pemetrexed or docetaxel in Jaonese patients with advanced ALK+ NSCLC: subanalysis of PROFILE 1007. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [プレナリーセッション]
- 014 *Hida T, Kiura K, Nishio M, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Yamamoto N, Takeuchi K, Tamura* : Updated results of a phase I/II study of ALK inhibitor CH542802 in ALK-positive non-small cell lung cancer: AF-001JP. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [シンポジウム]
- 015 *Yamamoto N, Nokihara H, Youn Han J, Hida T, Riely GJ, Baldini E, Salvatore S, Horn L, Polli A, Satouchi M* : Crizotinib vs.pemetrexed or docetaxel in advanced ALK+ non-small cell lung cancer: subgroup analysis in PROFILE 1007. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 016 *Kaneda H, Satouchi M, Chiba Y, Yamamoto N, Nishimura Y, Fujisaka Y, Kudoh S, Hida T, Atagi S, Nakagawa K* : Additional analysis of WJTOG0105 comparing second and third-generation regimens with TRT in unresectable stage III NSCLC. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 017 *Hida T, Nishio M, Satouchi M, Yoshida K, Horio Y, Horiike A, Yanagitani N, Noguchi K* : Phase I study of ombrabulin in combination with docetaxel and cisplatin administered every 3 weeks to Japanese patients. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [ポスター]
- 018 *Nishio M, Inoue A, Katakami N, Atagi S, Goto K, Hida T, Horai T, Seki Y, Ebisawa Y, Shahidi M, Yamamoto N* : Individualized afatinib dose adjustments facilitate continuous treatment. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ワークショップ]
- 019 石黒 崇, 岡本 勇, 吉岡弘鎮, 坂 英雄, 工藤新三, 澤 祥幸, 樋田豊明, 山本雅史, 中川和彦, 中西洋一: 未治療進行非小細胞肺癌に対するCBDCA+S-1とCBDCA+PTXの第Ⅲ相試験(WJTOG3605): LETS studyの組織型によるサブセット解析. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 020 駄賀晴子, 武田晃司, 山本信之, 工藤新三, 中川和彦, 樋田豊明, 木浦勝行, 瀧川奈義夫, 瀬戸貴司, 米阪仁雄, 福岡正博, 益田典幸: 肝機能異常を有する肺癌患者を対象としたアムルビシン塩酸塩の薬物動態試験. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [一般演題 (口演)]
- 021 澤 祥幸, 安宅信二, 横山 晶, 岡本浩明, 高橋利明, 大江裕一郎, 千場 博, 武田晃司, 野上尚之, 森 清志, 中川和彦, 原田真雄, 工藤新三, 富澤由雄, 竹田雄一郎, 樋田豊明, 片上信之, 石倉 聡, 田村友秀: 高齢者切除不能局所進行型非小細胞癌に対するランダム化比較試験JCOG9812/0301の統合解析. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ワークショップ]
- 022 吉岡弘鎮, 西尾誠人, 木浦勝行, 瀬戸貴司, 中川和彦, 前門戸 任, 井上 彰, 樋田豊明, 原田真雄, 大江裕一郎, 野上尚之, 村上晴泰, 竹内賢吾, 島田 忠, 田中智宏, 田村友秀: CH5424802のALK陽性非小細胞肺癌患者に対する第I/II相臨床試験の追跡データ (AF-001JP). 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [シンポジウム]
- 023 清水淳市, 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 谷田部 恭, 坂尾幸則: サルベージ手術を行った小細胞肺癌症例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [一般演題 (ポスター)]
- 024 田中 薫, 平井文彦, 山中竹春, 田口健一, 武田晃司, 駄賀晴子, 清水淳市, 小暮啓人, 木村達郎, 岩本康男, 小野 哲, 佐々木秀文, 福岡順也, 西山健一, 瀬戸貴司, 一瀬幸人, 中川和彦, 中西洋一: 進行胸腺癌に対

- するCarboplatin+Paclitaxel併用療法の臨床第2相試験(WJOG4207L).第54回日本肺癌学会総会,2013,(東京),[ワークショップ]
- 025 朴 将哲, 田中広祐, 小栗知世, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部 恭, 山浦秀和: 切除不能ALK融合遺伝子陽性肺癌の臨床像と画像所見についての検討. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [一般演題 (ポスター)]
- 026 小栗知世, 田中広祐, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 坂尾幸則, 谷田部 恭, 樋田豊明: EGFR遺伝子変異・RET融合遺伝子を其々有した同時性多発肺腺癌の一例. 第54回日本肺癌学会総会,2013,(東京), [一般演題 (ポスター)]
- 027 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 谷田部 恭, 古平 毅, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹: ALK、EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌(手術不能3期)における根治的放射線化学療法の有効性. 第54回日本肺癌学会総会,2013,(東京), [一般演題 (口演)]
- 028 松本 健, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘: 局所麻酔下胸腔鏡検査を必要とした癌性胸膜炎症例に関する検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会,2013,(東京), [ポスター]
- 029 中川 淳, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 松本 健, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 門浄彦, 高松寛史, 康希全, 柴田祐美, 玉木 彰: 慢性呼吸器疾患を有する患者に対する病病連携リハビリテーションプログラム. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 030 大塚今日子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 川村卓久, 門田和也, 松本 健, 竹下純平, 田中広祐, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 当院における薬剤性間質性肺炎の臨床的検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 031 玉井浩二, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 肺非結核性抗酸菌症患者における血清ANCA陽性率と病的意義の検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 032 藤本大智, 大歳丈博, 川村卓久, 玉井浩二, 田中広祐, 松本健, 門田和也, 竹下純平, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 泰明登, 立川 良, 大塚浩二郎, 浜川博司, 片上信之, 高橋 豊, 今井幸弘, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺腺癌とepidermal growth factor receptor(EGFR)遺伝子変異の関係. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 033 川村卓久, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 門田和也, 松本健, 竹下純平, 田中広祐, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 超音波気管支鏡ガイド下生検(EBUS-TBNA)施行例の検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 034 竹下純平, 田中広祐, 泰明 登, 加地玲子, 藤田史郎, 片上信之: 肺腺癌のEGFR-TKI既治療例に対するEGFR-TKI+bevacizumab治療の成績. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 035 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 松本 健, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 渥美生弘, 富井啓介: 重症市中肺炎に対するNPPV成功例と失敗例の比較検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 036 松本 健, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下, 田中広祐, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 藤田史郎, 片上信之: 気管支鏡検査時の鎮静薬投与方法の違いによる患者満足度の検討. 第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2013, (埼玉), [一般演題 (ポスター)]
- 037 福嶋敬子, 山口真澄, 濱口由美子, 清水淳市, 佐藤洋造, 岩田広治: 当院における電子バス導入から現在までの取り組み報告. 第14回日本クリニカルバス学会学術集会, 2013, (盛岡), [ポスター]
- 038 小栗知世, 吉田公秀, 田中広祐, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則, 谷田部 恭: 気管神経鞘腫の1例. 第46回日本呼吸器内視鏡学会中部地方会, 2013, (名古屋), [口演]

血液・細胞療法部

- 001 *Kinoshita T*: Reappraisal of Multicentric Castleman's Disease: Proposal of a novel Japanese Variant of TAFRO Syndrome. Clinicaal Lymphoma&Leukemia,2013.04,京都,[ポスター]
- 002 *Ueda N, Kato H, Yamamoto K, Taji H, Murakami S, Hirano S, Yatabe Y, Kinoshita T*: A Case of Multiple Extramedullary Plasmacytoma Surviving for a Long Term without Systemic Therapy. Clinical Lymphoma & Leukemia,2013.04,京都,[ポスター]
- 003 *Kinoshita T*: Reappraisal of Multicentric Castleman's Disease Associated with Serositis and Terombocytopenia: Proposal of A novel Japanese Variant of TAFRO Syndrom (Castleman-Kojima Disease). 12th International Conference on Malignant Lymphoma,2013.06, Lougano,Switzerland,[口演]
- 004 *Kinoshita T*: DA-EPROCH-R Combined with High-Dose Methotrexate for newly Diagnosed CD5-Positive Diffuse Large B-Cell Lymphoma. 12th International Conference on Malignant Lymphoma, 2013.06, Lougano, Switzerland,[口演]
- 005 *Kato Harumi, Yamamoto Kazuhito, Taji Hirofumi,*

- Murakami Satsuki, Hirano Daiki, Ueda Norihiro, Yatabe Yasushi, Tomohiro Kinoshita** : Favorable outcomes of involved-node radiation therapy plus chemotherapy for limited-stage diffuse large B-cell lymphoma. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会,2013.08,仙台, [口演]
- 006 **Hirano Daiki, Kato Harumi, Yamamoto Kazuhito, Taji Hirofumi, Murakami Satsuki, Ueda Norihiro, Yatabe Yasushi, Kinoshita Tomohiro** : Clinical outcome for lymphoblastic lymphoma treated with the hyper-CVAD regimen. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013.08,仙台,[口演]
- 007 **Murakami Satsuki, Kato Harumi, Yamamoto Kazuhito, Taji Hirofumi, Hirano Daiki, Ueda Norihiro, Yatabe Yasushi, Kinoshita Tomohiro** : Secondary malignant neoplasms in patients with follicular lymphoma treated with rituximab. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会,2013.08,仙台,[口演]
- 008 **木下朝博** : 血管内大細胞型B細胞リンパ腫の治療戦略. 第53回日本リンパ網内系学会総会,2013.05,京都,[口演]
- 009 **木下朝博** : 胸腹水と血小板減少を伴った多中性Castleman病の一亜型; 新規疾患概念TAFRO症候群. 第53回日本リンパ網内系学会総会,2013.05,京都,[ポスター]
- 010 **上田格弘, 加藤春美, 山本一仁, 田地浩史, 村上五月, 平野大希, 谷田部 恭, 木下朝博** : 長期生存している多発性の髄外性形質細胞腫の一例. 第53回日本リンパ網内系学会総会,2013.05,京都,[ポスター]
- 011 **木下朝博** : 悪性リンパ腫治療の進歩. 日本内科学会東海支部主催第58回生涯教育講演会,2014.02,名古屋, [口演]
- 012 **村上五月, 加藤春美, 山本一仁, 田地浩史, 平野大希, 谷田部 恭, 木下朝博** : 日本語: Gemcitabineを含む救援療法に引き続いて造血幹細胞移植を行った再発・難治悪性リンパ腫の検討.
英語: Outcomes of gemcitabine containing salvage regimen for relapsed/refractory malignant lymphoma. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 2014.03, (沖縄), [ポスター]
- 013 **水野友絵, 森園元美, 田地浩史, 伊藤 妙, 笹田朋美, 平野大希, 村上五月, 加藤春美, 岡田泰孝, 西尾充代, 翠邦治, 山本一仁, 長谷川泰久, 木下朝博** : 末梢血幹細胞採取における臨床工学技士の役割. 第36回日本造血細胞移植学会総会,2014.3.7,(沖縄) 【ポスター】
- 薬物療法部**
- 001 **Muro K** : Biomarker Driven Chemotherapy in Gastric and Colorectal Cancer. The 1st International Symposium of KOREAN SOCIETY of GASTROINTESTINAL CANCER 2013, 2013, (Seoul), [Session VIII/講演]
- 002 **Muro K** : Multicenter Phase II Study of TAS-102 Monotherapy in Patients with Pretreated Advanced Gastric Cancer. ESMO2013, 2013, (アムステルダム), [poster]
- 003 **Kadowaki S, Fuse N, Kuboki Y, et al.** : Prognostic impact of epidermal growth factor receptor status on overall survival of advanced gastric cancer patients treated with standard chemotherapy: a Japanese multicenter collaborative retrospective study. ESMO2013,アムステルダム. 9月Abstr #2647.
- 004 **Muro K** : Observational study of the first-line chemotherapy including cetuximab in patients with metastatic colorectal cancer: CORAL trial. ASCO-GI, 2013, (San Francisco), [poster]
- 005 **Nomura M** : Implications for the American Joint Committee on Cancer staging systems on esophageal squamous cell cancer patients receiving multimodality therapy. ASCO-GI, 2013, (San Francisco), [poster]
- 006 **Yamaguchi K** : Phase II trial of combined chemotherapy with S-1, oral leucovorin, and bevacizumab in heavily pretreated patients with metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2013, (San Francisco), [poster]
- 007 **Komori A** : Association of bevacizumab-free interval with efficacy of anti-EGFR therapy in patients with metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2013, (San Francisco), [poster]
- 008 **Muro K** : P2 Study of Two PI3K/mTOR Inhibitors in Endometrial Ca. – Japan Lead-in-Cohort第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 009 **室 圭** : 食道癌化学療法の現状と展望～ブレイクスルーはどこに?～. 第67回日本食道学会学術集会, 2013, (大阪), [ランチョンセミナー/演者]
- 010 **室 圭** : 食道癌に対する化学放射線療法の新しい展開～. 第67回日本食道学会学術集会, 2013, (大阪), [ワークショップ/司会]
- 011 **宇良 敬** : 食道癌に対するタキサン系薬剤の部分的交叉耐性に関する検討. 第67回日本食道学会学術集会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 012 **山口和久** : 標準的化学療法に不応不耐と成った食道癌に対するirinotecan使用成績. 第67回日本食道学会学術集会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 013 **安藤正志** : HER2過剰発現のない乳癌に対する術前化学療法におけるCarboplatinの有用性の検討. 第21回日本乳癌学会学術総会, 2013, (浜松), [口演]
- 014 **安藤正志** : 乳癌化学療法におけるナベルピンの位置付け. 第21回日本乳癌学会学術総会, 2013, (浜松), [モーニングセミナー/演者]
- 015 **室 圭** : 進行再発結腸・直腸癌におけるレゴラフェニブの位置付け. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [ランチョンセミナー/司会]
- 016 **室 圭** : 消化器がん患者における緩和ケアと栄養の諸問題. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [モーニングセミナー/演者]

- 017 小森 梓：腹膜転移を有する進行再発胃癌に対するオキサリプラチン併用療法の症状緩和効果. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 018 高張大亮：胃癌：胃癌薬物療法のコンセンサス. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [教育講演/演者]
- 019 村山巖一：固形腫瘍症例の化学療法においてB型肝炎対策ガイドラインによるスクリーニングを施行した際のHBVマーカーの陽性率. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [ポスター]
- 020 門脇重憲：小腸がん、その他希少がん. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [ポスター/司会]
- 021 新田壮平：当院に置ける原発不明癌に対する治療状況. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 022 野村基雄：食道癌化学放射線治療患者におけるリンパ節転移部位の検討. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 023 野村基雄：食道癌化学放射線治療患者における血液データに関する検討. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 024 野村基雄：頭頸部化学放射線療法に置けるマレイン酸イルソグラジンの口腔粘膜炎症抑制効果. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [口演]
- 025 上垣史緒理：当院でのがん化学療法中の血栓塞栓症. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2013, (仙台), [ポスター]
- 026 高張大亮：術後補助療法の今後の展開. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [臓器別シンポジウム]
- 027 野村基雄：根治的放射線治療が施行された食道癌患者における血液データに関する検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [ポスター]
- 028 野村基雄：根治的放射線治療が施行された食道癌患者におけるリンパ節転移部位の検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [ポスター]
- 029 谷口浩也：大腸癌化学療法アンケート調査ーオキサリプラチンのリスクベネフィットバランス. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 030 成田有季哉：大腸がん補助化学療法アンケート調査ー患者と医療者との再発リスク低下への意識の違い. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 031 室 圭：最適な結腸癌術後補助化学療法を考える～患者が望む術後補助化学療法レジメンとは～. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [学術セミナー]
- 032 宇良 敬：食道癌に対するDCF療法とFP化学放射線療法との通過障害改善効果の比較検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 033 宇良 敬：食道がんの原発巣通過障害に対する姑息的化学放射線療法の成績. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 034 谷口浩也：癌患者における栄養学的アプローチ. 第51回日本癌治療学会学術集会, 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [ランチョンセミナー/演者]
- 035 室 圭：Treating mCRC patients with biologic agents and future for personalized treatment. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [スポンサーシンポジウム/司会]
- 036 室 圭：大腸癌一次化学療法における抗EGFR抗体薬のアドバンテージ. 第75回日本臨床外科学会総会, 2013, (名古屋), [ランチョンセミナー/演者]
- 037 室 圭：大腸癌の化学療法. 第75回日本臨床外科学会総会, 2013, (名古屋), [若手外科医のための教育セッション/司会]
- 038 室 圭：胃・大腸がん化学療法と医看薬連携. 第7回日本薬局学会学術総会, 2013, (大阪), [ランチョンセミナー/演者]
- 039 室 圭：大腸癌化学療法～エビデンスに基づいてベストプラクティスを考える～. 日本消化器病学会東海支部第30回教育講演会, 2013, (名古屋), [講師]
- 040 室 圭：転移・再発胃癌に対する化学療法. 日本消化管学会総会学術集会, 2013, (福島), [教育講演/演者]
- 041 室 圭：HER2陽性胃癌の治療実態～HER2検査とトラスツズマブ治療の最適化. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [スポンサーシンポジウム/座長]
- 042 室 圭 (演者)：胃癌化学療法の前線副作用マネジメントを含めてー. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [ランチョンセミナー/演者]
- 043 室 圭 (座長)：胃癌に対する化学放射線療法の適応と治療成績. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [ワークショップ/座長]
- 044 成田有季哉：進行再発胃癌における血清CA125測定の意義. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [ワークショップ]
- 045 宇良 敬：切除不能進行胃癌に対するoxaliplatinによる後治療の存続利益. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [ポスター]
- 046 小森 梓：当院での進行再発胃癌における髄膜癌腫症発症例の検討. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [ポスター]
- 047 高張大亮：conversino surgery1. 日本胃癌学会総会, 2013, (京都), [口演/座長]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Yatabe Y*：Debate：Screening for ALK:FISH.6th International Workshop on Molecular Targeted Therapy in Lung Cancer,2013,Sorrento,Italy,[講演]
- 002 *Yatabe Y*：How do Experts manage difficult cases. ATS,2013,Philadelphia,[ワークショップ]
- 003 *Yatabe Y*：Radiological Characteristics of ALK-Positive Lung Cancer.Fleischner Society 総会, 2013,Jeju Korea,[講演]
- 004 *Yatabe Y*：Molecular Diagnosis and Multidisciplinary Approach of ALK Testing in Japan.Taiwan-Japan Scientific Exchange Meeting in NSCLC,2013,Taiwan,[講演]
- 005 *Yatabe Y*：Molecular diagnostics in Lung Cancer. Pulmonary Pathology Society 2013 Biennial Meeting,2013,Grenoble France[講演]
- 006 *Yatabe.Y*：EGFR mutation testing in Asia:established

- best practice.8th Asia Pacific IAP Congress,2013,Busan Korea,[講演]
- 007 **Yatabe Y** : Lung Cancer Pathology.69th Korea Congress of Radiology, 2013,Seoul Korea,[講演]
- 008 **Yatabe Y** : Molecular approach in lung cancer diagnosis and treatment.69th Korea Congress of Radiology, 2013,Seoul Korea,[講演]
- 009 **Yatabe Y** : AIS and the well differentiated spectrum. 15th World Conference on Lung Cancer,2013,Sydney Australia,[講演]
- 010 **Waki Hosoda, Eiichi Sasaki, Yoshiko Murakami, Yasushi Yatabe** : GNAS mutations are frequent in pancreatic adenocarcinomas with mucinous phenotype. United States and Canadian Academy of Pathology, 2014 (San Diego) [ポスター]
- 011 **谷田部 恭** : マルチマーカーを対象としたコンパニオン診断薬のニーズと開発・運用の課題.BIOteck2013第12回国際バイオテクノロジー展/技術会議,2013,東京,[講演]
- 012 **谷田部 恭** : 肺癌病理診断の臨床へのアウトカム.肺癌臨床病理コンセンサス会議,2013,名古屋, [講演]
- 013 **谷田部 恭** : 肺癌診断における問題点.第54回日本肺癌学会総会,2013,東京,[講演]
- 014 **谷田部 恭** : 病理診断と生体標本バンキング 病理診断-5年後の治療への影響およびその応用.第54回日本肺癌学会,2013,東京,[シンポジウム]
- 015 **細田和貴** : 中皮腫の細胞診.日本臨床細胞学会東海支部連合会,2013,(名古屋), [講演]
- 016 **細田和貴, 真砂勝泰, 山田 舞, 長坂 暢, 村上善子, 佐々木英一, 山雄健次, 清水泰博, 谷田部 恭** : 腺腫瘍263例におけるGNAS遺伝子変異の検討.日本病理学会総会,2013,(札幌),[口説]
- 017 **細田和貴** : EUS-FNA 基礎から実践へ、病理の立場から.日本臨床細胞学会岡山県支部会,2013,(岡山), [講演]
- 018 **村上善子** : 医療安全セミナー 細胞診検査におけるヒヤリ・ハット防止対策.第54回日本臨床細胞学会総会, (春期大会) ,2013,(東京),[口演]
- 019 **大野文栄, 尾関順子, 柴田典子, 長谷川俊之, 佐々木英一, 植田菜々絵, 村上善子 (MD), 細田和貴 (MD), 越川 卓 (MD), 谷田部 恭 (MD)** : Mammary analogue secretory carcinomaの細胞像の検討.第33回日本臨床細胞学会東海連合会学術集会,2014,(名古屋)
- 020 **羽佐田香代, 遠山由美子, 濱崎光生, 谷田部 恭** : ラスリテック投与中・投与後の尿酸測定について. 第52回中部圏支部医学検査学会,2015,(岐阜),[口演]
- 021 **柴田典子, 尾関順子, 野中綾子, 谷田部 恭** : 病理・細胞診検体を用いた分子標的治療薬効果予測検査. 第62回日本医学検査学会,2013,(高松), [シンポジウム]
- 022 **柴田典子** : パラフィン包埋組織 (FFPE) 標本からのDNA抽出. 愛知県臨床検査技師会遺伝子染色体検査研究会,2013,(名古屋), [講演]
- 023 **柴田典子, 尾関順子, 植田菜々絵, 谷田部 恭** : 治療戦略を見据えた細胞診-遺伝子検査. 第52回日本臨床細胞学会

秋期大会,2013,(大阪), [シンポジウム]

- 024 **柴田典子** : 病理細胞診検体からの遺伝子検査. 愛知県臨床検査技師会研究班基礎講座,2014,(名古屋), [講演]

輸血部

- 001 **水野友絵, 森園元美, 田地浩史, 伊藤 妙, 笹田朋美, 平野大希, 村上五月, 加藤春美, 岡田泰孝, 西尾充代, 翠 邦治, 山本一仁, 長谷川泰久, 木下朝博** : 末梢血幹細胞採取における臨床工学技士の役割. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 2014.3.7, (沖縄), 【ポスター】

頭頸部外科部

- 001 **Hirakawa H, Uemura H, Miura K, Yoshimoto S, Shiotani A, Kosuda S, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Hasegawa Y** : Sentinel node navigation surgery for oral cancer : A prospective multi-institutional phaseII trial. Joint International Oncology(Sentinel Node and Cancer Metastasis)Congress, 2013, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 002 **Hasegawa Y** : Head and Neck Surgery and Oncology (Sentinel node biopsy on Head and Neck Cancer). 20th International Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies World Congress, 2013, (ソウル), [パネディスカッション]
- 003 **Hanai N** : Case discussion for LA1, Early experiences using cetuximab at Aichi Cancer Center. EAN Expert Meeting for Japanese doctors. 2014, (リスボン), [口演]
- 004 **花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 長谷川泰久** : chemo-selectionでの頸部リンパ節の反応は化学放射線療法による予後を予測する. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2013, (札幌), [口演]
- 005 **別府慎太郎, 平川 仁, 花井信広, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 小出祐介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 長谷川泰久** : 喉頭全摘後の遅発性舌動脈瘤破裂の2例. 第153回東海地方部会連合講演会, 2013, (名古屋), [口演]
- 006 **長谷川泰久, 藤井正人, 久保田彰, 吉野邦俊, 富田吉信, 甲能直幸, 川端一嘉, 塚原清彰, 手良向聡, 福島雅典** : 頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法多施設無作為化比較試験(ACTS=HNC). 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 007 **花井信広, 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介, 別府慎一郎, 西川大輔, 中多祐介, 木村隆浩, 長谷川泰久** : 化学放射線療法後の頸部郭清術. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [シンポジウム]
- 008 **小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 中多祐介, 西川大輔, 木村隆浩, 別府慎一郎, 長谷川泰久** : 下咽頭癌における導入化学療法後化学放射線療法の短期治療成績. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]

- 009 鈴木秀典, 藤本保志, 中島 務, 長谷川泰久: 中下咽頭癌におけるFDG-PET/CTによる予後予測. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 010 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 長谷川泰久: 上顎癌T4症例における臨床病理学的検討. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 011 西川大輔, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎一郎, 長谷川泰久: 当科における頭頸部扁平上皮癌N3症例の検討. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 012 別府慎太郎, 鈴木秀典, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 長谷川泰久: 口腔癌と鼻副鼻腔癌における臨床的頸部リンパ節転移症例の病理学的検討. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 013 木村隆浩, 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 長谷川泰久: 頭頸部癌患者におけるシスプラチンによる腎障害抑制の工夫. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 014 岩江信法, 川端一嘉, 林 隆一, 吉野邦俊, 鬼塚哲郎, 長谷川泰久, 加藤孝邦, 大上研二, 丹生健一, 藤井正人: 下咽頭癌に対する治療の現状 多施設による後ろ向き観察研究. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 015 欄 慎一郎, 中西速夫, 伊地知圭, 長谷川泰久, 小川徹也, 渡部啓孝, 村上信五: ポドブランin高発現の頭頸部扁平上皮癌細胞株は癌幹細胞様形質を有する. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 016 小出祐介, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 中多祐介, 西川大輔, 木村隆浩, 別府慎太郎: 当科における弘毅高齢者の頭頸部癌手術. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [口演]
- 017 花井信広: 頭頸部領域におけるEnergy Device のTips & Pitfalls. 第37回日本頭頸部癌学会, 2013, (東京), [学術セミナー口演]
- 018 花井信広, 平川 仁, 福田裕次郎, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 長谷川泰久: 頭頸部悪性腫瘍に対する頭蓋底手術後再発症例の検討. 第25回日本頭蓋底外科学会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 019 平川 仁, 花井信広, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 長谷川泰久: 鼻副鼻腔癌における化学療法感受性と予後との相関に関する臨床的検討. 第25回日本頭蓋底外科学会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 020 中多祐介, 平川 仁, 花井信広, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 岡田 健, 立花栄二, 長谷川泰久: 当科における嗅神経芽細胞腫の検討. 第25回日本頭蓋底外科学会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 021 花井信広, 別府慎太郎, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久: 栄養機能食品「プロシユア」を用いた癌免疫栄養療法による頭頸部癌周術期の栄養管理に関する研究. がん免疫栄養療法研究会 第三回症例検討会, 2013, (宮崎), [口演・優秀演題]
- 022 長谷川泰久: 上咽頭 (のど) がんにについて. 平成25年度愛知県がんセンター公開講座[第5回がん研究と医療の最前線]. 2013, (名古屋), [口演]
- 023 長谷川泰久: 頭頸部癌に対する薬物療法の本邦の知見. 第26回日本口腔・咽頭科学会, 2013, (名古屋), [ランチョンセミナー口演]
- 024 澤部 倫, 花井信広, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 福田裕次郎, 鈴木秀典, 小澤泰次郎, 長谷川泰久: 中・下咽頭癌における放射線単独療法と化学放射線療法の比較. 第26回日本口腔・咽頭科学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 025 木村隆浩, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久: 当科におけるセツキシマブの使用経験. 第154回東海地方会連合講演会, 2013, (名古屋), [口演]
- 026 長谷川泰久, 吉本世一, 松塚 崇, 甲能直幸, 本間明宏, 塩谷彰浩, 横山純吉, 大倉康男, 小須田茂, 近松一朗, 小柏靖直, 吉崎智一, 上村裕和, 三浦弘規, 菅澤 正, 鈴木幹男, 宮崎眞和, 平野 滋, 尾瀬 功, 谷田部 恭, 川北大介, 塚原清彰, 鈴木基之, 村上善子: 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術多施設共同研究. 第15回SNNS研究会学術集会, 2013, (釧路), [口演]
- 027 中多祐介, 花井信広, 越川 卓, 福田裕次郎, 鈴木秀典, 平川 仁, 小澤泰次郎, 谷田部 恭, 長谷川泰久: 当科における頸部リンパ節超音波ガイド下穿刺細胞診一診断率向上への取り組み. 第31回日本乳腺甲状腺超音波医学会, 2013, (神戸), [口演]
- 028 花井信広: 症例報告1. 東海頭頸部癌分子標的薬セミナー, 2013, (名古屋), [口演]
- 029 久場潔実, 菅澤 正, 甲能直幸, 塩谷彰浩, 小須田茂, 長谷川泰久: ICG蛍光法とRI法を用いた頭頸部がんセンチネルリンパ節生検術の実行可能性の検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 030 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 中多祐介, 西川大輔, 木村隆浩, 別府慎太郎, 都築秀典, 澤部 倫, 向山宣昭, 長谷川泰久: 内頸動脈血流遮断試験における無侵襲脳内酸素飽和度監視装置INVOSの使用経験. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [ポスター]
- 031 岩江信法, 林 隆一, 大上研二, 本間明宏, 米宏一郎, 鬼塚哲郎, 長谷川泰久, 加藤健吾, 加藤孝邦, 太田一郎, 田原 信, 藤井正人: 進行下咽頭癌に対する根治的放射線療法の治療成績 多施設共同による後ろ向き研究. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 032 加納里志, 本間明宏, 林 隆一, 川端一喜, 吉野邦俊, 岩江信法, 長谷川泰久, 丹生健一, 加藤孝邦, 志賀清人, 松浦一登, 門田伸也, 藤井正人: 中咽頭癌に対する放射線化学療法の検討 多施設による後方視的観察研究. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 033 高後友之, 山下徹郎, 上田倫弘, 林 信, 重富俊夫, 宮本

- 大規, 長谷川泰久, 立花弘之: 頭頸部癌治療における放射線性口内炎重篤化予防のための特製アミノ酸配合物の有効性. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 034 向山宣昭, 花井信広, 都築秀典, 澤部 倫, 木村隆浩, 西川大輔, 中多祐介, 別府慎一郎, 福田裕次郎, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 長谷川泰久: 縦隔手術を行った頭頸部癌の臨床的検討. 第65回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2013, (東京), [口演]
- 035 小澤泰次郎, 長谷川泰久, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典: 気管切開後の気管狭窄に対して気管支ファイバー下にレーザー切除を行った1例. 第65回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2013, (東京), [口演]
- 036 長谷川泰久: 「最新の癌治療」頭頸部がん. 第8回日本癌治療学会市民公開講座, 2013, (名古屋), [口演]
- 037 花井信広: 化学放射線療法後救済手術における選択的頸部郭清術. 厚生労働科学研究 (がん臨床研究) 推進事業 頸部郭清術研修会, 2013, (名古屋), [口演]
- 038 都築秀典, 鈴木秀典, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 福田裕次郎, 西川大輔, 別府慎一郎, 中多祐介, 木村隆浩, 向山宣昭, 澤部 倫, 長谷川泰久: 当科における中・下咽頭癌における上部消化管重複癌の検討. 第155回東海地方部会連合講演会, 2013, (名古屋), [口演]
- 039 都築秀典, 鈴木秀典, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 福田裕次郎, 西川大輔, 別府慎一郎, 中多祐介, 木村隆浩, 向山宣昭, 澤部 倫, 長谷川泰久: 中・下咽頭癌における上部消化管重複癌画像診断の比較検討. 第31回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 040 西川大輔, 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎一郎, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久: 内視鏡的咽喉頭手術(ELPS)症例の検討. 第31回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 041 鈴木秀典: PETに基づく頭頸部癌の個別化治療に向けての病院因子との比較検討. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2014, (高松), [シンポジウム]
- 042 花井信広: Energyデバイス・私はこう使う～術者の視点から撮影した頭頸部手術の実際. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2014, (高松), [モーニングセミナー]
- 043 花井信広: 化学放射線治療後の頸部郭清術の検討-feasibility study-. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2014, (高松), [受賞講演]
- 044 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 中多祐介, 西川大輔, 木村隆浩, 別府慎太郎, 都築秀典, 澤部 倫, 向山宣昭, 長谷川泰久: 頭頸部癌における急性動脈出欠に対する血管塞栓術一傾向と合併症の検討-. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2014, (高松), [口演]
- 045 花井信広, 別府慎太郎, 長谷川泰久, 立花英二, 岡田 健: Zygomatic approachにて摘出した副咽頭-頭蓋底神経鞘腫の1例. 東海頭蓋底研究会, 2014, (名古屋), [口演]
- 046 向山宣昭, 花井信広, 都築秀典, 澤部 倫, 木村隆浩, 西

川大輔, 別府慎太郎, 中多祐介, 福田裕次郎, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 平川 仁, 長谷川泰久: 縦隔手術を行った甲状腺腫瘍の検討. 第156回東海地方部連合講演会, 2014, (名古屋), [口演]

形成外科部

- 001 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 内堀貴文, 亀井 譲: 遊離腹直筋皮弁採取部の長期経過. 第55回日本形成外科学会学術集会, 2013, (東京), [一般演題]
- 002 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 福島正則, 亀井 譲: 異時両側乳癌におけるfreeMS2TRAMflapによる同時再建の経験. 第55回日本形成外科学会学術集会, 2013, (東京), [一般演題]
- 003 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 自家組織再建による1次乳房再建における胸部皮膚の評価～ICG蛍光造影を用いて～. 第55回日本形成外科学会学術集会, 2013, (東京), [一般演題]
- 004 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 内堀貴文, 亀井 譲: 咽喉食摘後遊離空腸再建における術後吻合部狭窄の検討. 第37回日本頭頸部癌学会学術集会, 2013, (東京), [一般演題]
- 005 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 1次乳房再建における胸部皮膚の評価～ ICG蛍光造影を用いて～. 第21回日本乳癌学会学術総会, 2013, (浜松), [ポスター討論]
- 006 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 乳癌における抗血管新生療法中に右母指爪周囲の感染・壊死を発症し、保存的に加療した1例. 第5回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2013, (京都), [ポスター]
- 007 奥村誠子: 乳房再建 中日新聞社「健康フェア」共催セミナー, 2013, (名古屋), [講演]
- 008 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 上甲状腺動脈切離後の甲状腺機能に関する検討. 第80回東海マイクロサージャリー研究会, 2013, (名古屋), [一般演題]
- 009 奥村誠子, 中村亮太, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲, 堀尾章代, 岩田広治: Nipple sparing mastectomyによる乳房1次再建の乳輪乳頭壊死の検討. 第1回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2013, (福岡), [一般演題]
- 010 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 中村亮太, 亀井 譲: 遊離空腸移植における移植床血管の選択および術中再吻合に関する検討. 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会, 2013, (盛岡), [一般演題]
- 011 奥村誠子, 中村亮太, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳房再建におけるMS2 TRAM flapにてICGを用いた穿通枝選択の有用性～第2報～. 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会, 2013, (盛岡), [一般演題]
- 012 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 皮弁生着範囲とICG蛍光造影の造影時間に関する検討. 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会, 2013, (盛岡), [一般演題]

- 013 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 中村亮太, 亀井 謙 : 上甲状腺動脈切離後の甲状腺機能に関する検討. 2013, (飯塚), [一般演題]
- 014 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 謙 : 乳房再建術後患者の職業復帰に関する検討. 第62回日本形成外科学会中部支部東海地方会, 2013, (静岡県駿東郡), [一般演題]
- 015 兵藤伊久夫 : 腓骨再建後の長期経過. 第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術集会, 2014, (札幌), [シンポジウム]
- 016 奥村誠子 : 乳房再建～その再建方法の選択と術式の工夫～, 2014, (名古屋), [ディスカッション]
- 017 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 亀井 謙 : 上甲状腺動脈切離後の甲状腺機能に関する検討, 2014, (名古屋), [一般演題]
- 018 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 中村亮太, 尾澤昌悟, 吉岡 文, 浅見和哉, 亀井 謙 : 当院における眼窩内容摘出後・義眼装着例の検討. 第25回日本眼義眼床手術学会, 2014, (名古屋), [一般演題]
- 019 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 謙 : 既頸部郭清例における移植床血管剥離の工夫. 第19回日本形成外科手術手技学会, 2014, (名古屋), [一般演題]
- 020 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 謙 : 膀胱陰嚢に対し大網弁による充填を行った2例. 第63回東海形成外科学会, 2014, (名古屋), [一般演題]

呼吸器外科部

- 001 小栗知世, 吉田公秀, 田中広祐, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 気管神経鞘腫の1例. 第46回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会, 2013, (名古屋), [口演]
- 002 千葉真人, 黒田浩章, 森 俊輔, 小林祥久, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 左S1+2区域切除の2例(開胸・胸腔鏡下の比較). 第26回日本内視鏡外科学会総会, 2013, (福岡), [口演]
- 003 黒田浩章, 千葉真人, 森 俊輔, 小林祥久, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 完全胸腔鏡下手術(TS)時の出血とその対応, 手術時操作中の当院での注意点. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 2013, (福岡), [口演]
- 004 小栗知世, 田中広祐, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 坂尾幸則, 谷田部 恭, 樋田豊明 : EGFR遺伝子変異・RET融合遺伝子を其々有した同時性多発肺腺癌の一例. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ポスター]
- 005 坂倉範昭, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 谷田部 恭, 坂尾幸則 : 肺腺癌の新病理学的浸潤径を胸部HRCTで評価できるか?. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ポスター]
- 006 森 俊輔, 坂倉範昭, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則 : 当院における悪性胸膜中皮腫手術症例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ポスター]

- 007 清水淳市, 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 谷田部 恭, 坂尾幸則 : サルベージ手術を行った小細胞肺癌症例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ポスター]
- 008 黒田浩章, 千葉真人, 森 俊輔, 小林祥久, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 当院における完全胸腔鏡下肺葉切除・区域切除の導入時の工夫. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [口演]
- 009 千葉真人, 黒田浩章, 森 俊輔, 小林祥久, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 右下葉切除+S2区域切除の2例(開胸・胸腔鏡下の比較). 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ビデオ]
- 010 坂倉範昭, 森 俊輔, 千葉真人, 富沢健二, 小林祥久, 黒田浩章, 宇佐美範恭, 坂尾幸則, 北村由香, 内田達男 : 術後膿胸の治療 - 有茎骨格筋弁充填+胸郭形成+持続胸腔洗浄法. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 011 坂倉範昭, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 谷田部 恭, 坂尾幸則 : 肺腺癌の新病理学的浸潤径を胸部HRCTで評価できるか. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ポスター]
- 012 水野鉄也, 坂倉範昭, 黒田浩章, 小林祥久, 千葉真人, 森俊輔, 坂尾幸則 : 大細胞神経内分泌癌(LCNEC)の治療経験. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ワークショップ、口演]
- 013 水野鉄也, 谷口哲郎, 石川義登, 川口晃司, 福井高幸, 石黒太志, 中村彰太, 尾関直樹, 横井香平 : 転移性肺腫瘍に対する肺切除 反復切除の適応と意義. 第113回日本外科学会総会, 2013(福岡), [ワークショップ、口演]
- 014 水野鉄也, 谷口哲郎, 川口晃司, 福井高幸, 石黒太志, 中村彰太, 羽切周平, 尾関直樹, 横井香平 : 胸腺癌に対する治療経験と課題. 第32回日本胸腺研究会, 2013(札幌), [口演]
- 015 瀬戸克年, 石橋弘矩, 浅川二三火, 宇井涼子, 小林昌嗣, 吉井敏孝, 大久保憲一 : 椎体骨・肋骨破壊を伴う再発神経鞘腫に対して後方アプローチによる腫瘍摘出術を行った一例. 日本肺癌学会関東支部会2014, (東京), [口演]

乳腺科部

- 001 *Hattori M, Matsuo K, Ichikawa M, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Horio A, Yatabe Y, Iwata H* : Distant disease-free survival (DDFS) discrimination capacity of various pathologic complete response (pCR) definitions according to breast cancer subtypes. ASCO, 2013, (Chicago), [poster]
- 002 *Iwata H, Ohtani S, Fujisawa T, Taira N, Masuda N, Kashiwaba M, Yamamoto Y, Toyama T, Yamaguchi T* : N-SAS BC06: A phase III study of adjuvant endocrine therapy with or without chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant letrozole (LET): The New Primary

- Endocrine-Therapy Origination Study (NEOS). ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 003 **Ito Y, Noguchi S, Deleu I, Baselga J, Hortobagyi G.N., Bachelot T.D., Masuda N, Pistilli B, Pritchard K.I., Iwata H, Gnant M, Eakle J.F., Csösz T, Srimuninnimit V, Puttawibul P, Roila F, Panneerselvam A, Taran T, Sahmoud T, Rugo H.S.** : Incidence, management, and resolution of noninfectious pneumonitis in BOLERO-2. ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 004 **Ueno T, Masuda N, Saji S, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Sasano H, Toi M** : Relationship of tumor and stromal autophagy and endocrine responsiveness in breast cancer tissues. ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 005 **Goss P.E., Barrios C.H., Chan A, Finkelstein D.M., Iwata H, Martin M, Braun A, Ding B, Maniar T, Coleman R.E.** : Denosumab versus placebo as adjuvant treatment for women with early-stage breast cancer at high risk of disease recurrence (D-CARE): An international, placebo-controlled, randomized, double-blind phase III clinical trial. ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 006 **Kuroi K, Ohno S, Nakamura S, Iwata H, Masuda N, Sato N, Toi M** : Is ypT0/isN0 acceptable for Japanese population? JBCRG's perception. ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 007 **Ohtani S, Taira N, Kihara K, Hasegawa Y, Sakai T, Iwase T, Masuda N, Fujisawa T, Yanagita Y, Ohsumi S, Higaki K, Yamaguchi T, Iwata H** : Analysis of health-related quality of life during neoadjuvant endocrine therapy with letrozole in postmenopausal breast cancer patients: N-SAS BC06 trial. ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 008 **Iwata H, Baselga J, Campone M, Arteaga C.L., Cortes J, Jonat W, Laurentiis M.D., Ciruelos E, Janni W, Bachelot T, Lonning P.E., O'Regan C.M.R., Tomaso E.D., Bharani-Dharan B, Duval V, Lau H, Germa C, Urban P, Leo A.D.** : Ph III randomized studies of the oral pan-PI3K inhibitor buparlisib (BKM120) with fulvestrant in postmenopausal women with HR+/HER2- locally advanced or metastatic breast cancer (BC) after aromatase inhibitor (AI: BELLE-2) or AI and mTOR inhibitor (BELLE-3) treatment. ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 009 **Yamamoto N, Yamashiro H, Iwata H, Masuda N, Ohtani S, Takahashi M, Yamazaki K, Kato M, Ohno S, Kuroi K, Yamagami K, Morimoto T, Hasegawa Y, Takano T, Kadoya T, Hosoda M, Abe H, Morita S, Yasuno S, Toi M** : Safety of trastuzumab in HER2-positive primary breast cancer in Japan: Initial safety report for the large-scale cohort study (JBCRG C-01). ASCO, 2013,(Chicago),[poster]
- 010 **Goss PE, Barrios CH, Chan A, Finkelstein DM, Iwata H, Martin M, Braun A, Zhou Y, Maniar T, Coleman RE** : Denosumab versus placebo as adjuvant treatment for women with early-stage breast cancer at high risk of disease recurrence (D-CARE): A global, placebo-controlled, randomized, double-blind, phase 3 clinical trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 011 **Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Naoto K, Horio A, Gongou N, Ichikawa M, Idota A, Adachi Y, Hisada T, Kotani H, Ishiguro J, Iwata H** : Postmastectomy radiation improves loco-regional control for patients with advanced breast cancer treated with neoadjuvant chemotherapy. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 012 **Ohtani S, Masuda N, Im Y-H, Im S-A, Park B-W, Kim S-B, Yanagita Y, Takao S, Ohno S, Aogi K, Iwata H, Yoshidome K, Nishimura R, Ohashi Y, Lee S-J, Toi M** : Adjuvant capecitabine in breast cancer patients with pathologic residual disease after neoadjuvant chemotherapy: First safety analysis of CREATE-X (JBCRG-04). San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 013 **Enokido K, Watanabe C, Nakamura S, Ogiya A, Osako T, Akiyama F, Horio A, Iwata H, Ohno S, Kojima Y, Tsugawa K, Motomura K, Hayashi N, Yamauchi H, Sato N** : Feasibility of sentinel node biopsy following neoadjuvant chemotherapy in cytology-proven node positive breast cancer before chemotherapy. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 014 **Kondo N, Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Horio A, GONDO N, Idota A, Ichikawa M, Iwata H** : The difference of molecular subtypes and prognosis after surgery for breast cancer patients with each blood types. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 015 **Turner N, André F, Loibl S, Ro J, Iwata H, Harbeck N, Glück S, Verma S, Loi S, Huang Bartlett C, Thiele A, Zhang K, Koehler M, Cristofanilli M** : Phase 3, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of fulvestrant with or without PD-0332991 (palbociclib) ± goserelin in women with hormone receptor-positive, HER2-negative metastatic breast cancer (MBC) whose disease progressed after prior endocrine therapy. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 016 **Takada M, Ishiguro H, Nagai S, Ohtani S, Kawabata H, Yanagita Y, Hozumi Y, Shimizu C, Takao S, Sato N, Kosaka Y, Sagara Y, Iwata H, Ohno S, Kuroi K, Masuda N, Yamashiro**

- H, Sugimoto M, Kondo M, Naito Y, Sasano H, Inamoto T, Morita S, Toi M* : Predictive factors for pathologic complete response and disease-free survival after neoadjuvant chemotherapy with trastuzumab: A multicenter retrospective observational study in patients with HER2-positive primary breast cancer (JBCRG-C03 study). San Antonio Breast Cancer Symposium, 2013,(San Antonio), [poster]
- 017 *Hattori M, Matsuo K, Ichikawa M, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Horio A, Yatabe Y, Iwata H* : Distant disease-free survival (DDFS) discrimination capacity of various pathologic complete response (pCR) definitions according to breast cancer subtypes. Breast Cancer Symposium ,2013,(San Francisco), [Poster session]
- 018 *Hattori M, Ito Y, Takahashi S, Fukada I, Iwase T, Iwata H, Hatake K* : Risk of hepatitis B virus (HBV) reactivation in hepatitis B surface antigen negative/hepatitis B core antibody positive and/or hepatitis B surface antibody positive Japanese breast cancer patients who receive chemotherapy. CTRC-AACR San Antonio Breast Cancer Symposium,2013,(San Antonio),[Poster session]
- 019 *Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Kondo N, Horio A, Gondo N, Ichikawa M, Idota A, Kotani H, Hisada T, Adachi Y, Ishiguro J, Iwata H* : Postmastectomy radiation improves loco-regional control for patients with advanced breast cancer treated with neoadjuvant chemotherapy.36th San Antonio breast cancer symposium, 2013,(San Antonio),[Poster session]
- 020 *Kondo N, Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Horio A, Gondo N, Idota A, Ichikawa M, Iwata H* : The difference of molecular subtypes and prognosis after surgery for breast cancer patients with each blood types. 36th San Antonio breast cancer symposium, 2013,(San Antonio),[Poster]
- 021 *Horio A* : The Analysis of the local treatment of our institution based on the ACOSOG Z0011 trial. International Breast Cancer Congress, 2013,(St. Gallen) ,[Poster session]
- 022 *Ichikawa M* : The accuracy of MRI in estimating residual tumor in the breast after neoadjuvant chemotherapy (NAC) for early breast cancer patients according to each molecular subtypes. EBCC, 2014, (Glasgow) ,[Poster session]
- 023 *Idota A, Sawaki M, Ichikawa M, Gondo N, Horio A, Kondo N, Hattori M, Fujita T, Iwata H* : Bone Scan Index predicts skeletal-related events in patients with metastatic breast cancer. EBCC, 2014,(Glasgow), [Poster session]
- 024 *Sawaki M, IORT in Japan* : New surgical techniques for excellent outcome of breast cancer. Invited by Taiwan Breast Cancer Society. Trans-Asia Symposium of Intra-Operative Radiotherapy and Surgical Techniques, 2013, (Taiwan), [educational lecture]
- 025 *Iwata H* : Primary systemic therapy for early breast cancer patients-The history and perspective of Japanese clinical trial-.11th Annual Meeting of Japanese society of Medical Oncology, 2013,(仙台),[oral]
- 026 *Iwata H, Horiguchi J, Sato N, Fujiwara Y* : A phase 1b trial of trastuzumab emtansine in combination with pertuzumab. 第51回日本癌治療学会総会, 2013,(京都),[口演]
- 027 *Hattori M, Yamada M, Ushio A, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Horio A, Yatabe Y, Iwata H* : Matrix-producing carcinoma of the breast: immunohistochemical expression profiles of a rare subtype of breast carcinoma. 第113回日本外科学会定期学術集会, 2013,(福岡), [ポスター]
- 028 *Hattori M, Matsuo K, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Horio A, Yatabe Y, Iwata H* : Impact of interval from treatment initiation to trastuzumab therapy on prognosis in HER2-positive breast cancer patients.第11回日本臨床腫瘍学会学術集会,2013,(仙台), [口演]
- 029 岩田広治 : 乳がん. 癌治療学会拡大教育セミナー, 2013,(名古屋),[セミナー]
- 030 岩田広治 : 乳癌における抗HER2療法の最前線. 第72回日本癌学会学術総会腫瘍別シンポジウム4 乳がんにおける基礎・臨床の最前線, 2013,(横浜),[シンポジウム]
- 031 遊佐亜希子, 舎人 誠, 益田泰輔, 山本修平, 大河内美奈, 伊藤誠二, 岩田広治, 近藤栄作, 馬場嘉信, 本多裕之, 新井史人, 中西速夫 : 新規血中循環がん細胞 (CTC)迅速単離装置の開発と1細胞遺伝子解析. 第72回日本癌学会学術総会, 2013,(横浜),[イングリッシュオーラルセッション]
- 032 澤木正孝 : 乳がん初期治療における標準的薬物療法. 第21回日本乳癌学会総会, 2013,(浜松), [教育セミナー]
- 033 澤木正孝 : 看護師に知って欲しい高齢者乳がんの諸問題. 第10回日本乳癌学会中部地方会 看護セミナー 1, 2013,(名古屋), [基調講演]
- 034 藤田崇史, 位藤俊一, 五味直哉, 小野 稔, 矢形 寛, 大西清, 亀井桂太郎, 坂本尚美, 田口哲也, 中山貴寛, 橋本秀行, 福岡英祐, 渡邊良二 : 超音波ガイド下吸引式組織生検の精度の検討. 第30回日本乳腺甲状腺超音波医学会, 2013,(福島), [口演]
- 035 藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 牛尾 文, 権藤なおみ, 市川茉莉, 井戸田 愛, 岩田広治 : 乳房切除後腋窩リンパ節転移1-3個症例に対する胸壁・鎖骨上照射の有用性の検討. 第113回日本外科学会総会, 2013,(福岡), [ポスター]
- 036 井戸田 愛, 近藤直人, 澤木正孝, 藤田崇史, 服部正也, 堀尾章代, 牛尾 文, 権藤なおみ, 市川茉莉, 岩田広治 : 当院における家族性乳癌の検討 「HBOC外来」を開設するために. 第21回日本乳癌学会総会, 2013,(浜松), [ポスター]
- 037 近藤直人, 藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 堀尾章代, 牛尾 文, 権藤なおみ, 井戸田 愛, 市川茉莉, 岩田広治 : 乳房既治療症例に対するセンチネルリンパ節生検の妥当

- 性. 第113回日本外科学会総会, 2013,(福岡), [ポスター]
- 038 近藤直人, 藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 堀尾章代, 牛尾文, 権藤なおみ, 井戸田愛, 市川茉莉, 岩田広治: 乳癌と血液型～臨床病理・予後との関連～. 第21回日本乳癌学会総会, 2013,(浜松), [ポスター]
- 039 服部正也, 松尾恵太郎, 市川茉莉, 藤田崇史, 澤木正孝, 近藤直人, 堀尾章代, 谷田部恭, 岩田広治: 病理学的完全奏効 (pCR) の定義毎にみた乳癌サブタイプの予後とその意義. 第21回日本乳癌学会学術総会, 2013,(浜松), [ポスターディスカッション]
- 040 服部正也, 堀尾章代, 澤木正孝, 近藤直人, 藤田崇史, 岩田広治: フルベストラント療法後の内分泌療法への反応性. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013,(京都), [ポスター]
- 041 堀尾章代: センチネルリンパ節転移陽性例における郭清・非郭清群の予後の検討. 第113回日本外科学会総会, 2013,(福岡), [ポスター]
- 042 堀尾章代: ARM法による上肢からのリンパ流温存に関する検討. 第21回日本乳癌学会学術総会, 2013,(浜松), [口演]
- 043 堀尾章代: 当院における乳腺科と形成外科との連携～一次一期再建を行うために～. 日本オンコプラスチックサージェリー学会, 2013,(福岡), [口演]
- 044 堀尾章代: ARM法による上肢からのリンパ流温存に関する検討 WS. 第75回日本臨床外科学会, 2013,(福岡), [口演]
- 045 市川茉莉: 術前化学療法において造影MRIは効果予測因子となるか: サブタイプ別での検討. 第21回日本乳癌学会学術総会, 2013,(浜松), [ポスター]
- 046 市川茉莉: 内分泌療法抵抗性を示した転移性乳癌に対しエストロゲン療法が有効であった一例. 第10回日本乳癌学会中部地方会, 2013,(名古屋), [ポスター]
- 047 市川茉莉: 内分泌療法抵抗性となった転移性乳癌に対するエストロゲン療法の有効性. 癌治療学会, 2013,(京都), [ポスター]
- 048 安立弥生, 服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 近藤直人, 堀尾章代, 権藤なおみ, 井戸田愛, 市川茉莉, 石黒淳子, 小谷はるる, 久田知可, 岩田広治: 悪性化した乳管内乳頭腫の検討. 第10回日本乳癌学会中部地方会, 2013,(名古屋), [口演]
- 049 久田知可: 二次癌のadjuvant治療直後に晩期再発を認めた異時両側乳癌の1例. 第10回日本乳癌学会中部地方会, 2013,(名古屋), [口演]
- 050 小谷はるる, 堀尾章代, 藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 権藤なおみ, 井戸田愛, 市川茉莉, 石黒淳子, 安立弥生, 久田知可, 岩田広治: ステレオガイド下マンモトーム生検でDCISと診断された症例にSLNB省略が可能か?. 第23回日本乳がん検診学会総会, 2013,(東京), [ポスター]
- 051 石黒淳子: 乳腺腺様嚢胞癌の1例. 第10回日本乳癌学会中部地方会, 2013,(名古屋), [ポスター]

消化器外科部

- 001 Shimizu Y, Yamaue Y, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Hosoda W, Nakamura Y, Shinohara T, Yanagisawa A: Predictors of Malignancy in Branch Duct Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas(BD-IPMN)-Analysis of 202 Pancreatic Resection Patients At Multiple High Centers. 第21回米国消化器病機構～Digestive Disease Week～,2013, (オランダ・フロリダ州), [示説]
- 002 Ito S, Koderu Y, Ito Y, Misawa K, Kinoshita T: Neoadjuvant chemotherapy followed by surgery for gastric cancer with extensive lymphnode metastasis:Efficacy in clinical practice.第10回IGCC, 2013, (Verona), [口演]
- 003 Yoshikawa T, Tanabe K, Ito S, Nishikawa K, Matsui T, Kimura Y, Tsuburaya A, Morita S, Miyashita Y, Sakamoto J: Feasibility and safety of surgery after neoadjuvant chemotherapy (NAC) for adenocarcinoma of the esophagogastric junction(AEG):Subset analysis of a compass trial. 第10回IGCC,2013, (Verona), [口演]
- 004 Misawa K, Fujiwara M, Ito S, Yamamura Y, Watanabe T, Ishigure K, Morioka Y, Mochizuki Y, Koderu Y: LONGITUDINAL ASSESSMENT OF THE POSTOPERATIVE QUALITY OF LIFE AFTER LAPAROSCOPIC-ASSISTED AND OPEN GASTRECTOMY FOR T1-STAGE GASTRIC CANCER. 第10回IGCC,2013, (Verona), [口演]
- 005 Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Komori K, Ito S, Abe T, Kinoshita T, Nimura Y: Outcome of major hepatobiliary resection: incidence and risk factor of biliary fistula. 第45回国際外科学週間 International Surgical Week 2013,2013, (フィンランド/ヘルシンキ), [パネルディスカッション]
- 006 Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Komori K, Ito S, Abe T, Kinoshita T, Nimura Y: Bile leakage after hepatectomy for liver tumors. 第45回国際外科学週間 International Surgical Week 2013,2013, (フィンランド/ヘルシンキ), [パネルディスカッション]
- 007 Senda Y, Sano T, Shimizu Y: PATENCY OF THE MAIN PANCREATIC DUCT AFTER PANCREATICODUODENECTOMY WITH INVAGINATION ANASTOMOSIS. 第21回 United European Gastroenterology Week,2013, (ドイツ/ベルリン), [示説]
- 008 今井健晴, 伊藤誠二, 金城和寿, 伊藤友一, 三澤一成, 佐野力, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 清水泰博: 80歳以上の高齢者Stage II/III 胃癌一術後S-1療法の現状と課題. 第285回東海外科学会,2013, (名古屋), [口演]
- 009 川合亮佑, 千田嘉毅, 佐野力, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植

- 村則久, 清水泰博, 木下 平 : 脾原発inflammatory pseudotumorの1例. 第285回東海外科学会,2013,(名古屋), [口演]
- 010 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 服部憲史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 金城和寿, 川合亮佑, 大澤高陽, 二宮 豪, 清水泰博 : 直腸癌術後(根治度A)リンパ節単独再発手術(R0切除)症例の検討. 第285回東海外科学会,2013,(名古屋), [口演]
- 011 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸 : 胸部食道癌鎖骨上窩リンパ節転移症例に対する3領域郭清の有効性. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 012 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 佐野 力, 千田嘉毅, 宇佐美範恭, 伊藤志門, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博 : 当院における大腸癌肺転移再切除例の治療成績. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 013 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 植村則久, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 金光幸秀, 木下 平, 二村雄次 : 胆道再建を伴う肝葉切除の短期成績;胆汁瘻に着目して. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 014 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 木下 平, 細田和貴, 山雄健次 : who(2010)病理組織分類に基づく膵神経内分泌腫瘍(pNET)の治療成績. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [口演]
- 015 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野力, 清水泰博, 木下 平 : 胃がん肝転移の治療戦略-肝切除と化学療法施行例の比較. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 016 小森康司, 金光幸秀, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 金城和寿, 川合亮佑, 服部憲史, 大澤高陽, 今井健晴, 二宮 豪, 清水泰博 : 肛門側切離断端の病理組織学的所見からみたISRの治療. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 017 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 木下 平 : 大腸癌同時性多発肝転移に対する術前化学療法. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 018 今井健晴, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 木下 平 : 膵頭十二指腸切除後の膵液瘻からの動脈出血〜予防策と動脈塞栓術〜. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 019 伊藤友一, 中西速夫, 伊藤誠二, 三澤一成, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野力, 清水泰博, 木下 平 : 光イメージングとMRIを融合した胃癌腹膜転移に対するMultimodalityイメージング. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 020 木村賢哉, 金光幸秀, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 安部哲也, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博 : 80歳以上の超高齢者に対する大腸癌手術症例の検討. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [パネルディスカッション]
- 021 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 木下 平 : 超高齢者の胆膵悪性腫瘍に対する膵頭十二指腸切除術の治療成績. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [示説]
- 022 島田和明, 竹内義人, 小西 大, 小林達伺, 斎浦明夫, 松枝 清, 佐野 力, 金本秀行, 上坂克彦 : MDCTによる胆道膵悪性腫瘍の術前画像診断能の評価 前向き多施設共同研究. 第113回日本外科学会定期学術集会,2013,(福岡), [口演]
- 023 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 清水泰博, 佐野 力, 稲葉吉隆 : PTPE前後の肝機能評価 EOB・プリモビストを用いた検討. 第42回日本IVR学会総会,2013,(軽井沢), [口演]
- 024 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 木村賢哉, 服部憲史, 金城和寿, 二宮 豪, 川合亮佑 : 同時性大腸癌肝転移に対する当院の治療成績〜手術単独、化療後肝切除、化学療法のみと比較結果〜. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013,(宇都宮), [シンポジウム]
- 025 細田和貴, 真砂勝泰, 山田 舞, 長坂 暢, 村上善子, 佐々木英一, 山雄健次, 清水泰博, 谷田部 恭 : 膵腫瘍263例におけるGNAS遺伝子変異の検討. 第102回日本病理学会総会,2013,(札幌), [口演]
- 026 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 金城和寿, 大澤高陽, 川合亮佑, 二宮 豪, 木下 平, 山雄健次 : 膵膵変性を伴う膵神経内分泌腫瘍の治療成績. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013,(宇都宮), [示説]
- 027 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 木下 平, 二村雄次 : 左肝管十二指腸吻合後の胆管癌に対し肝右葉、尾状葉、膵頭十二指腸切除を行った1例. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013,(宇都宮), [示説]
- 028 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 二宮 豪, 篠田雅幸 : 胸骨後再建術後に発生した胃管癌切除の工夫. 第67回日本食道学会学術集会,2013,(大阪), [示説]
- 029 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸 : 重複大動脈弓を合併した胸部食道癌切除の工夫. 第67回日本食道学会学術集会,2013,(大阪), [示説]
- 030 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 川合亮佑, 大澤高陽, 二宮 豪, 金城和寿, 木下 平 : 膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法の工夫〜soft pancreas症例への陥入法の導入〜. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013,(宇都宮), [ビデオ]
- 031 金城和寿, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 大

- 澤高陽, 川合亮佑, 二宮 豪, 山田 舞, 細田和貴, 山雄健次, 木下 平: 診断に苦慮した巨大な嚢胞性腫瘍の1例. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013, (宇都宮), [示説]
- 032 川合亮佑, 千田嘉毅, 佐野 力, 小森康司, 二宮 豪, 金城和寿, 大澤高陽, 清水泰博, 木下 平: 特異な進展形式を示し原発部位の同定が困難であった膵頭部領域癌の1例. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013, (宇都宮), [示説]
- 033 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 川合亮佑, 大澤高陽, 木下 平: 退形成性膵管癌の4例. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2013, (宇都宮), [示説]
- 034 堀周太郎, 島田和明, 奈良 聡, 江崎 稔, 岸 庸二, 佐野 力, 小菅智夫: 下大静脈を合併切除した肝内胆管癌15例の検討. 第25回肝胆膵外科学会,2013, (宇都宮), [口演]
- 035 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 大澤高陽, 舎人 誠, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道癌サルベージ術後の乳び胸治療においてリンパ節造影検査が有用であった1例. 日本消化器病学会東海支部 第118回例会 第29回教育講演会,2013, (浜松), [口演]
- 036 山口真澄, 榊原由美子, 小森康司: 術後放射線療法の晩期合併症として回腸膀胱瘻をきたした1例. 第62回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会,2013, (名古屋), [口演]
- 037 舎人 誠, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: ISR (Intersphincteric resection: 肛門括約筋部分温存手術) 術後に遅発性直腸尿道瘻. 第23回骨盤外科機能温存研究会,2013, (東京), [口演]
- 038 大澤高陽, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 舎人 誠, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博: 大腸癌同時性多発肝転移に対する術前化学療法の影響. 第79回大腸癌研究会,2013, (大阪), [口演]
- 039 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 舎人 誠: ISR (Intersphincteric resection) の手術標本の病理組織学的所見は予後予測因子となるか?. 第79回大腸癌研究会,2013, (大阪), [示説]
- 040 水上高秀, 兵藤伊久夫, 神山圭史, 小森康司, 亀井 譲: 咽喉食摘後の遊離空腸再健時に腸回転異常症を指摘された1例. 第48回日本形成外科学会中部支部学術集会,2013, (岐阜), [口演]
- 041 舎人 誠, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 川上次郎, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 浅野智成, 清水泰博: S状結腸悪性黒色腫の1例. 第40回愛知臨床外科学会,2013, (名古屋), [口演]
- 042 倉橋真太郎, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博: 腹膜播種をを伴うStage IV胃癌に化学療法が著効し、胃切除術を施行した1例. 第40回愛知臨床外科学会,2013, (名古屋), [口演]
- 043 浅野智成, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: 肝細胞癌下縦隔リンパ節転移に対して、腹臥位胸腔鏡下腫瘍摘出術を施行した1例. 第40回愛知臨床外科学会,2013, (名古屋), [口演]
- 044 小森康司, 金光幸秀, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 骨盤内進展様式からみた直腸癌・再発直腸癌に対する治療戦略. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [シンポジウム]
- 045 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 二宮 豪, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 幽門側胃切除後Billroth-I再建法とRoux-Y再建法との比較. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [口演]
- 046 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 山雄健次, 廣野誠子, 金光幸秀, 佐野 力, 千田嘉毅, 柳澤昭夫: 膵管内乳頭腫瘍 (IPMN) 癌予測ノモグラムの診断能一多施設、多数切除例におけるexternal calibity. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [ワークショップ]
- 047 川合亮佑, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 大澤高陽, 木下 平: 胆管非拡張型膵胆管合流異常症例における治療成績からみた術式選択. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [示説]
- 048 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 大澤高陽: 陥入法による膵頭十二指腸切除後の主膵管開存性と術後脂肪肝発生についての検討. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [口演]
- 049 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 木下 平, 二村雄次: 表層拡大進展を伴った下部胆管癌に対する尾状葉単独切除・膵頭十二指腸切除術. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [口演]
- 050 木村賢哉, 金光幸秀, 小森康司, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博: 右側結腸癌に対するon-touch isolation techniqueによる結腸右半切除術+D3郭清. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [口演]
- 051 安部哲也, 植村則久, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 篠田雅幸, 清水泰博: 胸部食道癌切除後胸骨後胃管再建における縫合不全を減らすための工夫. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [ビデオ].
- 052 川合亮佑, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一: 胆管非拡張型膵胆管合流異常症例における治療成績からみた術式選択. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [口演]
- 053 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 清水泰博: 切除不能大腸癌肝転移化学療法例におけるconversion可能因子

- と予後因子の検討. 第68回日本消化器外科学会総会,2013,(宮崎),[口演]
- 054 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 木下 平, 山雄健次: 膵胞変性をともなった膵神経内分泌腫瘍の臨床学的検討—WHO 2010分類による悪性度評価を含めて—. 第68回日本消化器外科学会総会,2013,(宮崎県),[口演]
- 055 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 山雄健次, 廣野誠子, 小山内学, 脇岡 範, 佐野 力, 千田嘉毅, 柳澤昭夫: 分枝型IPMNの手術適応を考える—癌予測ノモグラム診断能—. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[口演]
- 056 永塩美邦, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 長谷川俊之, 品川秋秀, 関根匡成, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: EUS-FNAによる膵腫瘍の診断—診断能と正診率に及ぼす因子の検討から見えてくるもの—. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台市),[口演]
- 057 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 清水泰博, 山雄健次: 自己免疫性膵炎の新たな展開—自己免疫性膵炎の国際コンセンサス基準と改定診断基準2011の検証—自己免疫性膵炎(AIP)新旧診断基準の検証と本邦における2型AIPの実態. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[シンポジウム]
- 058 原 和生, 永塩美邦, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 関根匡成, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 画像検査にて膵液性膵腫瘍(SCN)と鑑別困難であった膵管癌の1例. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[示説]
- 059 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和夫, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 細田和貴, 丹羽康正, 山雄健次: IPMN微小浸潤癌の臨床病理学的特徴. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[示説]
- 060 関根匡成, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和夫, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美那, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次: 壁在結節を伴わないIPMN上皮内癌2例の検討. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[示説]
- 061 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 山雄健次, 木下 平, 二村雄次: PTBD後に門脈血栓を来し、1年余の化学療法後に切除しえた膵頭部癌の1例. 第44回日本膵臓学会大会,2013,(仙台),[示説]
- 062 石田秀行, 岩間毅夫, 小林宏寿, 上野秀樹, 田中屋宏爾, 赤木 究, 小西 毅, 石田文生, 山口達郎, 新井正美, 檜井幸夫, 永坂岳司, 中島 健, 隈元謙介, 松原長秀, 池永雅一, 竹之下誠一, 固武健二郎, 赤木由人, 五十嵐正弘, 池田正孝, 石岡千加史, 石川俊昭, 石川秀樹, 井上靖浩, 金光幸秀, 金沢孝満, 倉地清隆, 小泉浩一, 小森康司, 小山 基, 菅野康吉, 田村和朗, 千野晶子, 中村利夫, 長谷川博俊, 藤田 伸, 古川洋一, 松本主之, 吉田輝彦, 吉松和彦, 富田尚裕, 渡邊聡明, 杉原健一: 家族性大腸腫瘍(FAP、リンチ) 遺伝性大腸癌に関する大腸癌研究会の今後の活動の方向性. 第19回日本家族性腫瘍学会,2013,(大分),[シンポジウム]
- 063 大澤高陽, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博: 下大静脈原発平滑筋肉腫を切除した1例. 第57回東海肝臓外科懇談会,2013,(名古屋),[口演]
- 064 小森康司: 直腸癌手術の実際. 第25回東海ストーマリハビリテーション講習会,2013,(名古屋),[教育講演]
- 065 浅野智成, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和夫, 水野伸匡, 山雄健次: 通常型膵癌の3年以上無再発生存例に関する臨床病理学的検討. 第47回肝胆膵治療研究会,2013,(名古屋),[口演]
- 066 関根匡成, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美那, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 藤本正夫, 山雄健次: 粘膜下腫瘍の形態を呈した胆膵悪性リンパ腫の1症例. 第47回肝胆膵治療研究会,2013,(名古屋),[口演]
- 067 吉澤尚彦, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美那, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 坂口将文, 関根匡成, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 清水泰博, 谷田部 恭, 山雄健次: 術前診断困難であったIPMCの1症例. 第47回肝胆膵治療研究会,2013,(名古屋),[口演]
- 068 前田教行, 上坂克彦, 福富 晃, 朴 成和, 金本秀行, 小西 大, 松本逸平, 清水泰博, 中森正二, 坂本裕彦: JASPAC-01: Randomized phase III trial of adjuvant chemotherapy with gemcitabine versus S-1 for patients with resected pancreatic cancer. 第11回日本臨床腫瘍学会,2013,(仙台),[口演]
- 069 岩田至紀, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 大澤高陽, 山雄健次, 細田和貴, 木下 平: 膵体部癌切除後の残膵に発生した多発膵癌の1例. 第40回日本膵切研究会,2013,(高松),[示説]
- 070 坂本康成, 原 和生, 永塩美那, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 画像検査にて漿液性膵腫瘍(SCN)と鑑別困難であった膵管癌の1例. 第59回日本消化器画像診断研究会,2013,(広島県),[口演]
- 071 平田正保, 松崎哲朗, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 音声認識を利用したナビゲーションシステムの操作—解剖学的名称による視点移動動作. 第22回日本コンピュータ外科学会,2013,(東京),[口演]
- 072 二村幸孝, 林 雄一郎, 北坂考幸, 古川和宏, 三澤一成, 森 健策: Radial Structure Tensor解析に基づくCT像からの腹部リンパ節領域の自動抽出に関する予備的検討. 第22回日本コンピュータ外科学会,2013,(東京),[口演]
- 073 ちょ成文, 小田昌宏, 北坂考幸, 三澤一成, 藤原道隆, 林雄一郎, 二村幸孝, 森 健策: 手術ナビゲーションにおける腹部臓器領域抽出に用いるデータ収集のための3次元CT像の画像間類似関係の調査. 第22回日本コンピュータ外科学会,2013,(東京),[口演]
- 074 林 雄一郎, 三澤一成, 小田昌宏, 森 健策: 腹腔鏡下手

- 術ナビゲーションシステムの臨床応用と位置合わせ誤差の評価。第22回日本コンピューター外科学会,2013,(東京),[口演]
- 075 佐藤健司, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 検索対象の継続時間を考慮した腹腔鏡手術映像のタグ付け。第22回日本コンピューター外科学会,2013,(東京),[口演]
- 076 関根匡成, 原 和生, 清水泰博: 脈管浸潤の評価に対する超音波内視鏡(EUS)の有用性。第49回日本胆道学会学術集会,2013,(東京都),[口演]
- 077 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 先天性胆道拡張症に合併した多発胆管癌の1例。第49回日本胆道学会学術集会,2013,(東京都),[示説]
- 078 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 山雄健次, 木下 平: 当科におけるIPNB切除例の検討。第49回日本胆道学会学術集会,2013,(東京都),[口演]
- 079 小森康司: ストーマ造設の実際について 癌治療専門病院における人工肛門。平成25年度がん看護ジェネラリストナース育成プログラム～「皮膚・排泄ケア 中級コース ストーマケア」～,2013,(名古屋),[教育講演]
- 080 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 長谷川俊之, 清水泰博, 山雄健次: NECの臨床病理学的検討。第1回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2013,(京都),[示説]
- 081 堤 英治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエベロリムスの使用経験。第1回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2013,(京都府),[示説]
- 082 小森康司: 平井先生から教えて頂いた大腸癌手術の基本手技。第30回東海大腸外科治療研究会,2013,(名古屋),[特別講演]
- 083 金光幸秀, 志田 大, 小森康司: 術前3Dシミュレーションを併用した, 下部進行直腸癌・重点領域に対する側方郭清術。第21回日本消化器外科学会総会,2013,(東京),[ビデオシンポジウム]
- 084 関根匡成, 原 和生, 清水泰博: 悪性胆道疾患の脈管浸潤に対するEUSの有用性の検討。第55回日本消化器病学会大会,2013,(東京都),[ワークショップ]
- 085 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介: IPMN新コンセンサス診療ガイドラインの検証2012年IPMN診療ガイドラインの検証一多施設, 多数切除の解析から一。第55回日本消化器病学会大会,2013,(東京都),[パネルディスカッション]
- 086 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 木下 平, 二村雄次: 下大静脈原発平滑筋肉腫の1切除例。第21回日本消化器関連学会週間 JDDW,2013,(東京都),[示説]
- 087 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 服部憲史, 金城和寿, 大澤高陽, 今井健晴, 二宮 豪, 清水泰博: 腹膜転移巣(P1)の病理組織学的所見からみた根治度B大腸癌の予後。第21回日本消化器関連学会週間 JDDW,2013,(東京都),[示説]
- 088 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 篠田雅幸: 食道癌における胸部下行大動脈背側領域へのリンパ節転移。第66回日本胸部外科学会定期学術集会,2013,(仙台),[示説]
- 089 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 清水泰博, 篠田雅幸, 木下 平: 高位前方切除術後にS状結腸軸捻転を発症した1例。第286回東海外科学会,2013,(岐阜),[口演]
- 090 大澤高陽, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 舎人 誠, 清水泰博: 同時性大腸癌肝転移を伴った大腸SM癌の一例。第286回東海外科学会,2013,(岐阜),[口演]
- 091 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 大澤高陽, 舎人 誠, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道癌心膜合併切除時における心膜補填の工夫。第286回東海外科学会,2013,(岐阜),[口演]
- 092 倉橋真太郎, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 岩田至紀, 浅野智成, 川上次郎, 舎人 誠, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博: 化学療法が著効し治癒切除となったStage IV胃癌の2例。第286回東海外科学会,2013,(岐阜),[口演]
- 093 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院での切除不能進行膵癌に対する化学療法の成績一GEMとerlotinib併用療法を中心に一。第51回日本癌治療学会学術集会,2013,(京都),[示説]
- 094 舎人 誠, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 中西速夫: 低分化型大腸がんのEGFR 標的薬感受性に関する細胞株を用いた実験的研究。第51回日本癌治療学会学術集会,2013,(京都),[口演]
- 095 谷口浩也, 成田有季哉, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 小森 梓, 上垣史緒理, 野村基雄, 新田壮平, 山口和久, 門脇重憲, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭: 大腸癌補助化学療法アンケート調査-オキサリプラチンのリスクベネフィットバランス。第51回日本癌治療学会学術集会,2013,(京都),[口演]
- 096 成田有季哉, 谷口浩也, 小森 梓, 上垣史緒理, 新田壮平, 山口和久, 野村基雄, 門脇重憲, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 木下敬史, 木村賢哉, 小森康司, 室 圭: 大腸癌補助化学療法アンケート調査-患者と医療者との再発リスク低下への意識の違い。第51回日本癌治療学会学術集会,2013,(京都),[口演]
- 097 清水泰博, 上坂克彦, 福富 晃, 朴 成和, 金本秀行, 小西 大, 松本逸平, 金岡祐次, 中森正二, 坂本裕彦, 森永聡一郎: 膵癌治療の最前線JSPAC01の結果と膵癌術後補助療法の今後の展望。第51回日本癌治療学会学術集

- 会,2013,(京都府),[シンポジウム]
- 098 吉川貴己, 田邊和照, 西川和宏, 伊藤誠二, 松井隆則, 木村 豊, 円谷 彰, 森田智視, 宮下由美, 坂本純一: 進行胃癌に対する術前補助化学療法の至適なコース数の探索 COMPASS早期解析結果. 第51回日本癌治療学会学術集会,2013,(京都),[口演]
- 099 今岡 大, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 大澤高陽, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次: 当院における膵癌の術後補助化学療法の治療成績. 第51回日本癌治療学会学術集会,2013,(京都府),[口演]
- 100 野崎功雄, 後藤田直人, 藤谷恒明, 福島紀雅, 伊藤誠二, 藤田淳也, 大下裕夫, 栗田 啓: 患者に優しいクリニカルパス より早期の食事開始を目指した胃全摘パスの安全性と効果. 第14回日本クリニカルパス学会,2013,(岩手),[口演]
- 101 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: 病理組織学的所見の観点からみたISRの手術成績. 第68回日本大腸肛門病学会学術集会,2013,(東京),[口演]
- 102 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 舎人 誠, 川上次郎, 清水泰博: 下部進行直腸癌の治療戦略 高度局所進行直腸癌の治療戦略—Diverting stoma造設後、二期的に原発巣を切除した症例の検討—. 第75回日本臨床外科学会総会,2013,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 103 清水泰博, 山上裕機, 山雄健次, 廣野誠子, 脇岡 範, 柳澤昭夫: 膵IPMNの手術適応と術式 2012年IPMN国際診療ガイドラインの検証—“worrisome features”の臨床的扱い—. 第75回日本臨床外科学会総会,2013,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 104 岩田至紀, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 木下 平: 通常型膵癌切除後に発生した膵癌の3切除例. 第75回日本臨床外科学会総会,2013,(名古屋),[示説]
- 105 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 今岡 大, 山雄健次: 通常型膵癌の3年以上無再発生存例に関する臨床病理学的検討. 第75回日本臨床外科学会総会,2013,(名古屋),[口演]
- 106 木村賢哉, 木下敬史, 小森康司, 川合亮佑, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野力, 清水泰博: 管理困難なストーマを減少させる工夫 肛門温存手術における一時的回腸双孔式人工肛門の工夫. 第75回日本臨床外科学会総会,2013,(名古屋),[ワークショップ]
- 107 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平: 非拡張型膵胆管合流異常を伴った胆嚢、膵臓異時性重複癌の1例. 第75回日本臨床外科学会総会,2013,(名古屋),[示説]
- 108 大橋紀文, 小林大介, 田中千恵, 藤谷和正, 伊藤誠二, 吉川貴己, 福島紀雅, 小寺泰弘, 佐野 武: Stage IV臓器癌に対する治療戦略(食道・胃)胃癌治療ガイドラインにおけるStage IV胃癌に対する対応. 第75回日本臨床外科学会,2013,(名古屋),[口演]
- 109 小寺泰弘, 伊藤誠二, 藤谷和正, 大橋紀文, 吉川貴己, 福島紀雅, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 佐野 武: 各種ガイドラインの日常臨床への対応と留意点 胃癌治療ガイドラインにおける「切除可能M1胃癌」への対応. 第75回日本臨床外科学会,2013,(名古屋),[口演]
- 110 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 川合亮佑, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野力, 清水泰博: 当院における腹腔鏡下直腸切除時の直腸切除・吻合の工夫. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡県),[口演]
- 111 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博, 篠田雅幸: 腹臥位鏡腔鏡下食道癌手術における鏡腔ドレーン留置の工夫. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡県),[口演]
- 112 田中伸孟, 石樽 清, 渡邊卓哉, 小林大介, 森岡祐貴, 三澤一成, 望月能成, 伊藤誠二, 田中千恵, 藤原道隆, 小寺泰弘: RS14-10肥満症例に対する腹腔鏡下幽門側胃切除と開腹幽門側胃切除の比較検討CCOG0802の結果より. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡),[口演]
- 113 小林大介, 三澤一成, 渡邊卓哉, 田中千恵, 石山聡治, 望月能成, 伊藤誠二, 藤原道隆, 小寺泰弘: 腹腔鏡下胃切除術後QOL評価に関する施設間格差についての検討. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡),[口演]
- 114 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野力, 清水泰博, 木下 平: 食道・胃外科領域の手術法の工夫 腹腔鏡下胃全摘(LATG)術後の再建法~Endo-Stichを用いた食道一空腸吻合とY脚空腸パウチ作成~. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡),[パネルディスカッション]
- 115 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上二郎, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 篠田雅幸: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の安全な導入をめざした当院での取り組みと成績. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡県),[口演]
- 116 小林大介, 三澤一成, 渡邊卓哉, 田中千恵, 石山聡治, 望月能成, 伊藤誠二, 藤原道隆, 小寺泰弘: 腹腔鏡下胃切除術後QOL評価に関する施設間格差についての検討. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡),[口演]
- 117 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野力, 清水泰博: 腹腔鏡手術ナビゲーションシステムの開発と臨床応用. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡県),[パネルディスカッション]
- 118 浅野智成, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 大澤高陽, 清水泰博: 肝細胞癌下縦隔リンパ節転移に対して、腹臥位鏡腔鏡下腫瘍摘出を施行した1例. 第26回日本内視鏡外科学会総会,2013,(福岡県),[口演]

- 119 清水泰博：外科的治療。第9回NET Education Seminar in Aichi,2013, (名古屋市), [口演]
- 120 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 舎人 誠, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 清水泰博：直腸癌術後に肝再発、膈再発、骨盤内局所再発を来した1例。日本消化器病学会東海支部 第119回例会 第30回 教育講演会,2013, (愛知県), [口演]
- 121 小森康司：根治性を重視した大腸癌の手術療法。愛知県がんセンター提携 がん治療の最前線から④ 大腸がんの予防と治療,2014, (名古屋), [特別講演]
- 122 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史：当科における術前化学放射線療法施行後、原発巣切除を施行した直腸癌症例について。第80回大腸癌研究会,2014, (東京), [口演]
- 123 倉橋真太郎, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 岩田至紀, 浅野智成, 川上次郎, 大澤高陽, 川合亮佑, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野力, 清水泰博, 篠田雅幸, 木下 平：血行性子宮転移を来した大腸癌の1例。第41回愛知臨床外科学会,2014, (名古屋), [口演]
- 124 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史：狭窄症状を伴う高度局所進行直腸癌の治療戦略-Diverting stoma造設後、二期的に原発巣切除の有用性について-。第10回日本消化管学会総会,2014, (福島), [ワークショップ]
- 125 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 清水泰博：Oncology emergencyのピットフォールがん専門病院における緊急手術の現状。第50回日本腹部救急医学会総会,2014, (東京), [ワークショップ]
- 126 伊藤誠二, 佐野 武, 笹子三津留：高度リンパ節転移胃癌に対する術前化学療法。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [パネルディスカッション]
- 127 望月能成, 石樽 清, 伊藤誠二, 松井隆則, 石山聡治, 大島由紀子, 中山裕史, 小寺泰弘：胃癌術後にS-1/CDDP療法は施行可能か。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [パネルディスカッション]
- 128 小林大介, 三澤一成, 田中千恵, 岩田直樹, 神田光郎, 山田 豪, 中山吾郎, 藤井 努, 杉本博行, 小池聖彦, 野本周嗣, 藤原道隆, 小寺泰弘：CY1胃癌に対する根治を目指した集学的治療戦略。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [ワークショップ]
- 129 中西速夫, 古屋朋美, 齋藤卓也, 伊藤誠二, 近藤英作：FGFR2増幅胃癌の特性解析と分子標的治療の検討。第68回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [ワークショップ]
- 130 齋藤卓也, 伊藤誠二, 谷田部 恭, 山道啓吾, 近藤英作, 中西速夫：HER2陽性(IHC2+)肝転移性胃癌の臨床病理学的特徴と肝転移巣由来胃癌細胞株のTtastuzumab感受性の検討。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [口演]
- 131 伊藤友一, 吉川貴己, 伊藤誠二, 三澤一成, 望月能成, 松井隆則, 中山裕史, 清水泰博, 木下 平, 小寺泰弘：胃全摘術におけるR-Y再建とAboral pouch再建を比較する第III

相試験。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [口演]

- 132 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 木下 平：“いつものLAGのように” 行う胃がんReduced Port Surgery。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [示説]

- 133 浅野智成, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平：当院における胃がん肝転移の治療成績。第86回日本胃癌学会総会,2014, (横浜), [示説]

整形外科部

- 001 *Sugiura H, Yoshida M, Hasegawa H, Yamada K, Yamada Y, Tsukushi S, Nishida Y*：Surgical Margin and Local Re-recurrence for patients with Locally Recurrent Soft-Tissue Sarcomas. International Society of Limb Salvage 17TH General Meeting, 2013, (Bologna-Italy), [ポスター]
- 002 吉田雅博, 中島浩敦, 宮本健太郎：後腹膜発生軟部肉腫の治療成績。第120回中部整形外科災害外科学会学術集会, 2013, (和歌山), [口演]
- 003 長谷川弘晃：30歳 男性 右大腿骨腫瘍用人工関節感染例。第1回名古屋結合組織腫瘍研究フォーラム, 2013, (名古屋), [口演]
- 004 二村尚久, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 中島浩敦, 杉浦英志, 山田芳久, 石黒直樹, 西田佳弘：四肢長管骨発生骨巨細胞腫の発生部位-骨端線-の位置関係に関する考察-。第86回日本整形外科学会学術総会, 2013, (広島), [口演]
- 005 濱田俊介, 杉浦英志, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 二村尚久, 生田国大, 石黒直樹：隆起性皮膚線維肉腫の局所浸潤性と線維肉腫成分の検討。第86回日本整形外科学会学術総会, 2013, (広島), [口演]
- 006 杉浦英志, 山田健志, 奥田洋史, 西田佳弘, 中島浩敦, 山田芳久, 石黒直樹：骨・軟部腫瘍切除後骨欠損に対する温熱処理骨再建法。第86回日本整形外科学会学術総会, 2013, (広島), [シンポジウム]
- 007 杉浦英志, 山田健志, 奥田洋史, 西田佳弘, 石黒直樹：脊椎転移に対する脊髄打ち抜き原体照射法の有用性。第86回日本整形外科学会学術総会, 2013, (広島), [ポスター]
- 008 山田健志, 奥田洋史, 西田佳弘, 石黒直樹, 杉浦英志：小円形細胞肉腫に対する治療戦略の将来展望。第86回日本整形外科学会学術総会, 2013, (広島), [ポスター]
- 009 杉浦英志：骨軟部腫瘍の治療。平成25年度認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野, 2013, (名古屋), [口演]
- 010 長谷川弘晃：腎細胞癌骨転移病変に対し、放射線療法とBiophosphonate製剤の併用療法を行った一例。第5回自由ヶ丘整形医会, 2013, (名古屋), [口演]
- 011 吉田雅博：大腿発生異型脂肪腫の1例。第5回自由ヶ丘整形医会, 2013, (名古屋), [口演]
- 012 杉浦英志：病的骨折をきたした骨巨細胞腫の1例。第5回自由ヶ丘整形医会, 2013, (名古屋), [口演]
- 013 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃：右上腕骨悪性骨腫瘍の

- 1例. 第29回骨軟部腫瘍治療法検討会, 2013, (名古屋), [口演]
- 014 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 筋肉内に発生した浸潤型血管脂肪腫の1例. 第232回整形外科集談会東海地方会, 2013, (名古屋), [口演]
- 015 小澤英史, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 二村尚久, 杉浦英志, 石黒直樹: 骨・軟部肉腫に対して腓骨遠位部合併切除を要した症例における術後機能と合併症. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [口演]
- 016 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 二村尚久, 濱田俊介, 杉浦英志, 中島浩敦, 石黒直樹: 骨・軟部腫瘍切除再建に移植した自家骨および自家処理骨の成績. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 017 杉浦英志, 吉田雅博, 奥田洋史, 西田佳弘, 中島浩敦, 山田健志, 山田芳久, 石黒直樹: 軟部肉腫における広範切除術後の局所再発と切除縁についての検討. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [パネルディスカッション]
- 018 杉浦英志, 吉田雅博, 奥田洋史, 西田佳弘, 中島浩敦, 山田健志, 山田芳久, 石黒直樹: 再発軟部肉腫に対する切除縁と瘢痕組織の取り扱いについての検討. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [口演]
- 019 山田芳久, 細野幸三, 長谷川弘晃, 清水光樹, 高橋 満, 片桐浩久, 杉浦英志, 中島浩敦, 西田佳弘, 石黒直樹: 再発転移巣切除を繰り返して長期無病生存を維持できた滑膜肉腫の1例. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 020 吉田雅博, 杉浦英志, 奥田洋史, 中島浩敦: 後腹膜軟部肉腫に対する動注化学療法の有効性. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 021 山田健志, 杉浦英志, 高橋 満: 高リスク小円形細胞肉腫に対する大量化学療法の適応と限界. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 022 二村尚久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 生田国大, 濱田俊介, 杉浦英志, 中島浩敦, 石黒直樹: 骨外Ewing肉腫の切除縁設定に関する考察: 化学療法後の画像に基づいてよいか. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 023 奥田洋史, 杉浦英志, 吉田雅博, 西田佳弘, 石黒直樹, 山田健志: 嚢胞を有する滑膜肉腫の画像的特徴と診断法についての検討. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 024 奥田洋史, 杉浦英志, 吉田雅博, 濱田俊介, 西田佳弘, 石黒直樹, 山田健志: 脂肪系腫瘍のECRIと病理像との関係. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2013, (東京), [ポスター]
- 025 中野健二, 中島浩敦, 高津哲郎, 山本拓也, 大野徹二郎, 酒井康臣, 安藤友樹, 伊藤茂彦, 小西 滋, 杉浦英志: 背部軟部腫瘍と鑑別を要した落下胆石による後腹膜腔・腹壁腫瘍の1例. 第233回整形外科集談会東海地方会, 2013, (名古屋), [口演]

- 026 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 下腿に発生した粘液線維肉腫の1例. 第233回整形外科集談会東海地方会, 2013, (名古屋), [口演]
- 027 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 腫瘍用人工関節置換術後も深部感染を来した3例. 第121回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2013, (名古屋), [口演]
- 028 大田剛広, 山田健志, 細野幸三, 杉浦英志: 骨軟部腫瘍と鑑別を要したgossypibomaの2例. 第121回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2013, (名古屋), [口演]
- 029 杉浦英志, 吉田雅博, 長谷川弘晃: 悪性軟部腫瘍に対するパゾパニブの治療効果と投与方法についての検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 030 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃: 頭頸部癌における骨転移の治療成績. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 031 杉浦英志: 日常診療における骨軟部腫瘍診断のポイント. 名東区整形外科開業医会, 2013, (名古屋), [講演]

泌尿器科部

- 001 *Soga N, Yatabe Y, Ogura Y, Hayashi N*: The impact of prostate cancer Gleason score variations depended on pathologists for clinical risk classification after Gleason grading consensus decided by international society of urological pathology (ISUP: 2005). 2013, 5.7 108th Annual AUA Congress, 2013, SD, USA (moderated poster)
- 002 *Norihito Soga, Kennichiro Ishii, Norio Hayashi, Yoshiki Sugimura*: Evaluation of the function of Manserin in prostate cancer. 第72回日本癌学会, 2013, 横浜, [示説]
- 003 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 愛知県がんセンター中央病院における2012年入院手術統計. 第53回三重泌尿器科医会, 2013, 津, [口演]
- 004 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: Gleason score grading コンセンサス (2005年) 以後の、前立腺生検組織における院外病理医と院内病理医のGleason scoreの相違が臨床病期risk分類に与える影響. 第2回日本泌尿器病理研究会, 2013, 東京, [口演]
- 005 高木治行, 曾我倫久人, 神田英輝, 中塚豊真, 浦城淳二, 藤森将志, 山中隆嗣, 長谷川大輔, 長谷川貴章, 有馬公伸, 杉村芳樹, 佐久間 肇, 山門亨一郎: T1b腎癌に対するRFAと腎摘除術の治療成績の比較. 日本Interventional radiology学会33回関西地方会, 2013, 大阪.
- 006 富田夏夫, 古平 毅, 立花弘之, 大島幸彦, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺癌に対する内分泌治療併用強度変調放射線治療におけるIPSSによる排尿機能の評価. 第72回日本医学放射線学会総会, 2013, 横浜
- 007 曾我倫久人, 谷田部恭, 小倉友二, 林 宣男: Gleason score grading コンセンサス (2005年) 以後の、前立腺生検組織における院外病理医と院内病理医のGleason scoreの

相違が、臨床病期risk分類に与える影響. 第101回日本泌尿器科学会総会, 2013, 札幌, [示説]

- 008 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: 経直腸の前立腺生検における、標準6カ所生検に内側生検を追加する有益性. 第54回三重泌尿器科医会, 2013, 津, [口演]
- 009 小倉友二, 曾我倫久人, 林 宣男: テンプレートを用いた経会陰的前立腺saturation生検の検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, 京都, [示説]
- 010 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺標準6カ所生検に内側生検を加えることによる、がん検出率への影響. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 2013, 名古屋, [口演]

婦人科部

- 001 笹本香織, 河合要介, 近藤紳司, 中西 透: 術前化学療法が無効であった漿液性境界悪性腫瘍の3症例. 第96回愛知産科婦人科学会学術講演会, 2013, (名古屋), [口演]
- 002 水野美香, 中西 透, 伊藤富士子, 葛谷和夫, 近藤東臣: 愛知県におけるベセスダシステム導入後の実態調査 実施状況に関する第2回アンケート調査より. 第132回東海産科婦人科学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 003 近藤紳司, 河合要介, 笹本香織, 中西 透: 当院で再開腹によるstaging laparotomyを施行した20例の臨床的検討. 第132回東海産科婦人科学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 004 中西 透, 河合要介, 笹本香織, 近藤紳司: 子宮頸癌FIGO Ib2期の検討. 第65回日本産科婦人科学会学術講演会, 2013, (札幌), [ポスター]
- 005 近藤紳司, 河合要介, 笹本香織, 中西 透: 当院における子宮頸部小細胞癌IB1期の検討. 第65回日本産科婦人科学会学術講演会, 2013, (札幌), [ポスター]
- 006 笹本香織, 河合要介, 近藤紳司, 中西 透: カルボプラチン過敏反応が再発卵巣癌の予後に及ぼす影響についての検討. 第65回日本産科婦人科学会学術講演会, 2013, (札幌), [ポスター]
- 007 宮城悦子, 沼崎令子, 中西 透, 片岡史夫, 猿木信裕, 伊藤則雄, 吉田憲生, 新原温子, 村松孝彦, 山本浩史, 高須万里子, 山門 實, 青木大輔, 平原史樹: 血漿中アミノ酸プロファイルを指標とした新規婦人科癌スクリーニング法の有用性. 第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2013, (東京), [口演]
- 008 中西 透, 渡部 洋, 青木大輔, 齋藤俊章: 白金製剤感受性再発卵巣癌に対するリボゾーム化ドキシソルビシン+カルボプラチンの第II相臨床試験. 第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2013, (東京), [口演]
- 009 笹本香織, 河合要介, 近藤紳司, 中西 透: 再発子宮体癌のdisease free Intervalを規定する因子についての検討. 第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]
- 010 河合要介, 笹本香織, 近藤紳司, 中西 透: プラチナ抵抗性再発卵巣がんに対するノギテカンの有効性および安全性

の検討. 第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2013, (東京), [ポスター]

- 011 近藤紳司, 河合要介, 笹本香織, 中西 透: 子宮峡部に発生した子宮体癌の臨床的検討. 第133回東海産科婦人科学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 012 河合要介, 笹本香織, 近藤紳司, 中西 透: 子宮体部・卵巣同時発生重複癌の臨床的検討 子宮体癌卵巣転移との比較検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [口演]
- 013 笹本香織, 河合要介, 近藤紳司, 中西 透: CBDCA過敏症が再発卵巣癌予後へ及ぼす影響. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [ポスター]

放射線診断 I V R部

- 001 *Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kashima M, Aramaki T, Takeuchi Y, Arai Y*: Colorectal stenting: risk of delayed multidisciplinary management. The 7th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention 2013, (Seoul), [Invited Lectures]
- 002 *Kawada H, Inaba Y, Sato Y, Yamaura H, Kashima M, Kato M, Murata S*: Penetrating rigid esophageal obstruction using a stylet needle followed by successfully stenting. The 7th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention 2013, (Seoul), [Poster]
- 003 *Sato Y, Ura T, Yamaura H, Kato M, Nishiofuku H, Takahari D, Tanaka T, Muro K, Inaba Y*: Phase I/II study of hepatic arterial infusion using oxaliplatin combined with intravenous 5-fluorouracil and l-leucovorin for pretreated unresectable liver metastases from colorectal cancer (Oha!Study). The 7th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention 2013, (Seoul), [Poster]
- 004 *Murata S, Sato Y, Yamaura H, Kashima M, Kato M, Kawada H, Inaba Y*: Interventional procedures via the blind end of the jejunum limb after biliary tract reconstruction. European congress of Radiology 2014, (Vienna), [Poster]
- 005 *Sato Y, Matsushima S, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Ishiguchi T*: Preoperative estimation of remnant liver function using relative enhancement following percutaneous transhepatic portal embolization on Gd-EOB-DTPA-enhanced MR imaging. European congress of Radiology 2014, (Vienna), [Oral Presentation]
- 006 *Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Inoue D, Kinoshita Y, Era S, Takahashi K, Inaba Y*: Visualization of liver uptake function using the uptake contrast-enhanced ratio in hepatobiliary phase imaging. European congress of Radiology 2014, (Vienna), [Electronic Presentation]
- 007 栗延孝至, 松島 秀, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 佐藤健司, 稲葉吉隆: EOB-MRを用い

- た肝造影率による肝細胞密度の評価. 第72回日本医学放射線学会総会, 2013, (横浜), [口演]
- 008 佐藤健司, 松島 秀, 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 稲葉吉隆: ECRIを用いた大腸癌肝転移における全身化学療法の治療効果早期予測に関する検討. 第72回日本医学放射線学会総会, 2013, (横浜), [口演]
- 009 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆: 大腸癌化学療法に伴う肝機能障害のGd-EOB-DTPA造影MRによる評価. 第72回日本医学放射線学会総会, 2013, (横浜), [口演]
- 010 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 鹿島正隆: 化学療法の基本とその使用法②動注療法. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [口演]
- 011 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆: 腸閉塞 (blind loopを含む) に対する緩和IVR. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [口演]
- 012 稲葉吉隆: Angio-CT使いこなしていますか? ランチョンセミナー. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [座長]
- 013 稲葉吉隆: 中心静脈アクセスにおけるCVポートの位置づけについて-Power Injectable-Portの今後の展望-ランチョンセミナー. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [座長]
- 014 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 荒井保明: CHAコイル法による肝動注カテーテル留置. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [口演]
- 015 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 清水泰博, 佐野 力, 稲葉吉隆: PTPE前後の肝機能評価 EOB・プリモビストを用いた検討. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [口演]
- 016 佐藤洋造: 動注. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [コメンテーター]
- 017 福嶋敬子, 奥田孝光, 長岡洋子, 服部寿史, 米澤祐司: 看護師の立場からIVRの変遷から見て診療放射線技師に求めるもの、期待するもの. 第42回日本IVR学会総会, 2013, (軽井沢), [口演]
- 018 井上大作, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆: 上腸間膜動脈経由の肝動注リザーバーカテーテル留置. 第38回リザーバー研究会, 2013, (香川), [口演]
- 019 稲葉吉隆, 小林 健, 谷川 昇, 荒井保明: 骨転移に対するIVR. 第11回日本臨床腫瘍学会, 2013, (仙台), [ワークショップ]
- 020 加藤弥菜: 肝臓癌. 第22回日本臨床腫瘍学会教育セミナー, 2013, (仙台), [講演]
- 021 池田 理, 佐藤洋造, 馬場康貴, 保本 卓, 郷原英夫, 山門亨一郎, 南 哲弥, 山本 聡, 廣田省三: 神経内分泌腫瘍肝転移に対する経動脈の治療: 後方視的研究. 第1回日本神経内分泌腫瘍研究会, 2013, (京都), [シンポジウム]
- 022 佐藤洋造: 消化管インターベンション. 消化管インターベンション講演会, 2013, (名古屋), [講演]
- 023 稲葉吉隆: 動注化学療法. 第49回日本医学放射線学会秋季大会, 2013, (名古屋), [座長]
- 024 稲葉吉隆: 放射線科でも抗癌剤を知ろう. 第49回日本医学放射線学会秋季大会, 2013, (名古屋), [座長]
- 025 稲葉吉隆: 消化管のIVR. 第3回緩和IVR研究会, 2013, (名古屋), [座長]
- 026 佐藤洋造: 消化管に対する緩和IVR: 我々ができることは?. 第3回緩和IVR研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 027 松島 秀, 佐藤洋造, 山浦秀和, 紀ノ定保臣, 惠良聖一, 米澤祐司, 高橋和也, 稲葉吉隆: 細胞外マトリクスの造影効果を考慮したGd-EOB-DTPAの肝細胞相造影率と肝細胞密度の相関性. 第41回日本磁気共鳴医学会大会, 2013, (徳島), [口演]
- 028 高橋和也, 松島 秀, 佐藤洋造, 米澤祐司, 稲葉吉隆: 肝細胞イメージングを用いた肝機能の可視化. 平成25年度日本生体医工学東海支部大会, 2013, (名古屋), [口演]
- 029 高橋和也, 松島 秀, 佐藤洋造, 米澤祐司, 稲葉吉隆: 細胞外造影効果を考慮した肝細胞イメージング. 平成25年度日本生体医工学東海支部大会, 2013, (名古屋), [口演]
- 030 黒田ひとみ, 奥村真衣, 松島 秀, 中島地康: マンモグラフィ装置の経年使用によるX線出力および線質の変化に対する検討. 第23回日本乳癌検診学会, 2013, (東京), [ポスター]
- 031 村田慎一, 山浦秀和, 川田紘資, 加藤弥菜, 鹿島正隆, 佐藤洋造, 稲葉吉隆: 経皮的胃瘻造設困難例における術後画像の検討. 日本IVR学会第36回中部・第35回関西合同地方会, 2014, (名古屋), [口演]
- 032 佐藤洋造: 内視鏡的インターベンション. 日本IVR学会第36回中部・第35回関西合同地方会, 2014, (名古屋), [座長]
- 033 川田紘資, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 鹿島正隆, 村田慎一: CV port設置後に介入を必要とした症例に関する検討. 日本IVR学会第36回中部・第35回関西合同地方会, 2014, (名古屋), [口演]
- 034 山浦秀和: 診断 その他. 日本医学放射線学会第155回中部地方会, 2014, (名古屋), [座長]
- 035 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 川田紘資, 村田慎一, 稲葉吉隆: 大腸癌の術後再発診断における定期CTの意義. 日本医学放射線学会第155回中部地方会, 2014, (名古屋), [口演]
- 036 稲葉吉隆: 腫瘍領域における画像診断と治療—IVR. 先端総合イメージングセミナー 2014, 2014, (名古屋), [講演]
- 037 稲葉吉隆: Aセッション. 第23回日本臨床腫瘍学会教育セミナー, 2014, (横浜), [司会]
- 038 稲葉吉隆: 画像診断と治療効果判定基準. 第23回日本臨床腫瘍学会教育セミナー, 2014, (横浜), [講演]
- 039 稲葉吉隆: ディーシービーズの適正な使用方法について. ディーシービーズ第1回適正使用講習会, 2014, (名古屋), [講演]
- 040 稲葉吉隆: ディーシービーズの適正な使用方法について. ディーシービーズ第2回適正使用講習会, 2014, (名古屋), [講演]

放射線治療部

- 001 **Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Oshima Y, Hirata K, Fuwa N** : Clinical efficacy of Helical TomoTherapy for nasopharyngeal cancer treated with definite concurrent chemoradiotherapy. 55th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology,2013,(Atlanta),[口演]
- 002 **Tomita N, Tachibana H, Kodaira T, Soga N, Ogura Y, Hayashi N** : Evaluation of Urinary Outcomes by International Prostate Symptom Scores (IPSS) in Intensity Modulated Radiation Therapy Combined with Androgen Deprivation Therapy for Prostate Cancer. 55th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology ,2013, (Atlanta) ,[口演]
- 003 **Kodaira T** : Japanese present status and future aspect of clinical practice for nasopharyngeal cancer. 1st annual meeting Japan-Taiwan Conference on high precision radiation therapy, 2013, (Tokyo),[口演]
- 004 **Makita C, Nakamura T, Takada A, Takayama K, Suzuki M, Ishikawa Y, Azami Y, Kato T, Tsukiyama I, Kikuchi Y** : Proton beam therapy with induction chemotherapy for unresectable stage III non-small cell lung cancer: a preliminary report. 第72回日本医学放射線学会総会,2013,(Yokohama),[口演]
- 005 富田夏夫, 古平 毅, 立花弘之, 大島幸彦, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男 : 前立腺癌に対する内分泌治療併用強度変調放射線治療におけるIPSSによる排尿機能の評価. 第72回日本医学放射線学会総会,2013,(横浜),[講演]
- 006 古平 毅 : 治療2 寡分割照射の生物学的背景 リフレクチャーコース 高精度放射線治療 座長. 第49回日本医学放射線学会秋期臨床大会,2013,(名古屋),[教育講演]
- 007 古平 毅 : シンポジウム5 進化した分子標的治療と放射線治療への寄与
セツキシマブ併用放射線治療の現状と課題. 第26回日本放射線腫瘍学会,2013,(青森),[口演]
- 008 古平 毅 : シンポジウム7 放射線治療高精度化に伴う有害事象の再評価
エビデンスからみた頭頸部癌のIMRTの有用性. 第26回日本放射線腫瘍学会,2013,(青森),[口演]
- 009 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 高後友之, 宮本大模, 重富俊雄, 古平 毅 : 頭頸部癌治療における放射線口腔粘膜炎重篤化予防における特性アミノ酸配合物の有効性. 第26回日本放射線腫瘍学会,2013,(青森),[口演]
- 010 牧田智誉子, 立花弘之, 富田夏夫, 清水亜里紗, 竹花恵一, 古平 毅 : 上咽頭癌に対する2-step法IMRT施行症例における耳下腺体積と線量変化の検討. 第26回日本放射線腫瘍学会,2013,(青森),[口演]
- 011 清水亜里紗, 富田夏夫, 竹花恵一, 牧田智誉子, 立花弘之, 古平 毅, 田地浩史, 山本一仁, 木下朝博, 谷田部 恭 : MALTリンパ腫に対する放射線治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会,2013,(青森),[口演]
- 012 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 古平 毅 : 当院におけるストロンチウム-89内用療法の治療成績. 日本医学放射線学会第154回中部地方会,2013,(金沢),[口演]
- 013 牧田智誉子, 立花弘之, 富田夏夫, 清水亜里紗, 竹花恵一, 古平 毅, 平田希美子, 溝脇尚志, 梅田雄嗣, 渡邊健一郎 : ヘリカルトモセラピーで全腹部照射を施行した線維形成性小円形細胞腫の一例. 日本医学放射線学会第154回中部地方会,2013,(金沢),[口演]
- 014 清水亜里紗, 富田夏夫, 竹花恵一, 牧田智誉子, 立花弘之, 古平 毅, 加藤春美, 田地浩史, 山本一仁, 木下朝博, 谷田部 恭 : 当院におけるMALTリンパ腫の放射線治療成績. 日本医学放射線学会第154回中部地方会,2013,(金沢),[口演]
- 015 富田夏夫, 牧田智誉子, 立花弘之, 清水亜里紗, 竹花恵一, 古平 毅 : 当院における前立腺癌に対する放射線治療の中期成績. 日本医学放射線学会第155回中部地方会,2014,(名古屋),[当番世話人 主幹]
- 016 牧田智誉子, 立花弘之, 富田夏夫, 清水亜里紗, 竹花恵一, 清水秀年, 古平 毅 : 上咽頭癌に対する2-step法でのIMRT施行症例における耳下腺体積と線量変化の検討. 日本医学放射線学会第155回中部地方会,2014,(名古屋),[当番世話人 主幹]
- 017 清水亜里紗, 竹花恵一, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅 : 頭頸部癌IMRT症例における甲状腺機能低下症発生に関するDVH解析. 日本医学放射線学会第155回中部地方会,2014,(名古屋),[当番世話人 主幹]
- 018 竹花恵一, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅 : 咽頭癌に対するIMRTを用いた化学放射線療法の治療成績. 日本医学放射線学会第155回中部地方会,2014,(名古屋),[当番世話人 主幹]
- 019 古平 毅 : 第4回頭頸部癌学会教育セミナー 放射線治療の実際 治療計画. 第37回日本頭頸部癌学会,2013,(東京),[口演]
- 020 古平 毅 : シンポジウム 化学療法の現状と役割 化学放射線療法における放射線療法. 第37回日本頭頸部癌学会,2013,(東京),[口演]
- 021 竹花恵一, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅, 鈴木秀典, 平川 仁, 小澤泰次郎, 花井信宏, 長谷川泰久 : 下咽頭癌に対するIMRTを用いた化学放射線療法の治療成績. 第32回頭頸部腫瘍研究会,2014,(名古屋),[口演]
- 022 古平 毅 : ワークショップ「絨毛性腫瘍の集学的治療」絨毛癌の放射線治療. 第31回日本絨毛疾患研究会,2013,(名古屋),[口演]
- 023 古平 毅 : アフタヌーンティーセミナー 多様化する高精度放射線治療の汎用性と専門性 -サイバーナイフとトモセラピーによる頭蓋内・頭頸部治療-トモセラピー. 第27回日本高精度放射線外部照射研究会,2014,(東京),[口演]
- 024 古平 毅, 大島幸彦 : 教育セミナーI 頭頸部腫瘍 IMRT. 第5回日本放射線外科学会,2014,(高崎),[口演]
- 025 古平 毅 : 頭頸部癌の放射線治療 高精度治療によるさ

らなる低侵襲治療をめざして. 奈良県頭頸部腫瘍研究会,2013,(奈良),[口演]

026 古平 毅: Cetuximab 併用放射線療法の実際と臨床上の留意点. 大阪大セミナー,2013,(大阪),[口演]

027 古平 毅: 頭頸部癌の放射線治療多様化する治療と個別化治療への調整. 第1回北河内放射線治療セミナー,2013,(大阪),[口演]

028 古平 毅: Cetuximab併用放射線療法の実際と臨床上の留意点. 多治見頭頸部がん放射線療法セミナー,2014,(岐阜),[口演]

緩和ケア部

001 金 有淑, 小森康永: もしもあなたが『ナラティブ・セラピー・テキストブック』を書くなら? 日本家族研究・家族療法学会シンポジウム14, 2013.6.22, (東京), [シンポジウム]

002 渡辺俊之, 小森康永, 宋 敏稿: 死別と家族と文学. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ, 東京2013.6.23, (東京), [ワークショップ]

003 小森康永: テーマ化する家族. 第20回日本家族看護学会特別講演, 2013.8.31, (静岡市), [特別講演]

004 下山理史: 家族ケアはなぜ大切なのか?. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 2013, (横浜), [口演]

005 下山理史: 消化器がんサバイバーシップを支える緩和ケア. 第68回日本消化器外科学会総会,2013, (宮崎), [要旨演題]

006 下山理史, 坂本雅樹, 杉本由佳, 渡邊紘章, 飯田邦夫: 愛知県地域の緩和ケアネットワーク構築の試み. 第51回日本癌治療学会学術集会, 2013, (京都), [ポスター]

007 下山理史: がんで配偶者を失った家族に対するケア. 第37回日本死の臨床研究会年次大会, 2013, (松江), [ポスター]

008 下山理史: 多職種チーム医療における緩和ケア. 第75回日本臨床外科学会総会, 2013, (名古屋), [パネルディスカッション]

看護部

001 藤田 恵, 中島貴子: 化学放射線療法を行う頭頸部がん患者の皮膚炎悪化要因の検討. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 2013, (横浜), [ポスター]

002 瀬古志桜, 新貝扶弥子, 服部正也: 経済的困窮に陥った終末期乳がん患者に対する在宅療養支援. 第21回日本乳がん学会, 2013, (浜松), [ポスター]

003 青山寿昭, 桑原恵美, 井上真里江: 頭頸部術後嚥下障害患者へ嚥下訓練シートを導入して. 日本嚥下障害臨床研究会, 2013, (大分), [口演]

004 八重樫裕, 北川功二, 青山寿昭: 嚥下障害を持つ患者の会の運営と今後の課題～参加者からの学びより～. 日本嚥下障害臨床研究会, 2013, (大分), [口演]

005 青山寿昭: 嚥下障害患者の患者会. 口から食べる幸せを守

る会, 2013, (横浜), [ポスター]

006 南谷志野: 一般病棟における短時間勤務者とフルタイム勤務者の協働の実態. 第17回日本看護管理学会, 2013, (東京), [口演]

007 南谷志野: 一般病棟における短時間勤務者とフルタイム勤務者の協働に関する研究～「短時間勤務者との共同意識」に関する要因の検討. 第29回産業・組織心理学会, 2013, (京都), [口演]

008 青山寿昭: 外来通院の摂食・嚥下障害患者との関わり～栄養・嚥下看護外来の取り組み～. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 2013, (岡山), [ポスター]

009 八重樫裕: 外来通院の摂食・嚥下障害患者との関わり～参加者との関わりから考える患者会運営と今後の課題～. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 2013, (岡山), [ポスター]

010 北川功二, 青山寿昭, 八重樫裕: 咽頭喉頭食道摘出術を受けた患者20名の嚥下障害の実態. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 2013, (岡山), [ポスター]

011 桑原恵美: 嚥下シート導入による効果. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 2013, (岡山), [ポスター]

012 福嶋敬子, 山口真澄, 清水淳市, 佐藤洋造, 濱口由美子, 岩田広治: 当院における電子パス導入から現在までの取り組み報告. 第14回クリニカル学会, 2013, (岩手), [発表]

013 中島貴子: 頭頸部がん化学放射線療法による皮膚炎悪化要因の検討. 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会, 2013, (青森), [示説]

014 南谷志野, 藤原奈佳子: 一般病棟における短時間勤務者とフルタイム勤務者の協働の実態. 第17回日本看護管理学会年次大会, 2013, (東京), [口演], 人的資源管理AWARD受賞

015 南谷志野, 藤原奈佳子: 一般病棟における短時間勤務者とフルタイム勤務者の協働に関する研究～「短時間勤務者との協働意識」に関連する要因の検討～. 第29回産業・組織心理学会, 2013, (京都), [口演]

016 吉川 恵, 新貝夫弥子, 大川明子, 浅場 香: ホルモン療法中の閉経前乳がん患者の更年期様症状と精神症状、心理的要因との関連. 日本がん看護学会学術会, 2014, (新潟), [口演]

017 新田都子, 山崎祥子, 永田智子, 深谷恭子, 藤田 恵: がん専門病院に勤務する看護師の支援体制を考える～がん看護に関する困難感調査を通して～. 第28回日本がん看護学会学術集会, 2014, (新潟), [ポスター]

018 柴田亜弥子, 山崎祥子, 深谷恭子: CLIMB®プログラムに参加した子どものQOLの変化. 日本がん看護学会学術会, 2014, (新潟), [口演]

019 柴田亜弥子, 山崎祥子, 深谷恭子: がんの親を持つ子どもへの介入プログラム (CLIMB) の取り組み. 日本看護医療学会, 2013, (愛知), [示説]

020 新貝夫弥子, 高木礼子, 瀬古志桜, 岩田広治: 再発乳がん患者におけるドセタキセルによる浮腫の実態と特徴. 第21回日本乳癌学会, 2013, (浜松), [示説]

021 福嶋敬子, 中山衣代, 長岡祥子, 佐野雄三, 深水ひとみ, 依田佳恵, 奥田孝光, 服部寿史, 岩政裕昭, 佐藤洋造, 稲

- 葉吉隆, 丹羽康正: PACSからの検査看護記録連携(第1報). 第14回日本医療情報学会看護学術大会, 2013, (北海道), [示説]
- 022 中山衣代, 福嶋敬子, 長岡祥子, 佐野雄三, 深水ひとみ, 依田佳恵, 奥田孝光, 服部寿史, 岩政裕昭, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 丹羽康正: PACSからの検査看護記録連携(第2報). 第14回日本医療情報学会看護学術大会, 2013, (北海道), [示説]
- 023 高畑知帆子, 小原真紀子, 戸崎加奈江, 宮谷美智子, 山田知里: レゴラフェニブ療法の治療継続に対する取り組み. 第28回日本がん看護学会学術集会, 2014, (新潟), [ポスター]
- 024 新田都子, 山崎祥子, 高木仁美: がんセンター中央病院における緩和・疼痛看護外来の開設. 第15回日本看護医療学術集会, 2013, (愛知), [示説]
- 025 山口真澄, 福嶋敬子, 清水淳市, 佐藤洋造, 濱口由美子, 岩田広治: 当院における電子クリニカルパス導入への取り組み. 第18回愛知クリニカルパス研究会, 2013, (愛知), [口演]
- 026 山口真澄, 榊原由美子, 小森康司: 術後放射線療法の晩期合併症として回腸膀胱瘻をきたした1症例. 東海ストーマリハビリテーション研究会, 2013, (愛知), [口演]
- 027 山口真澄, 深田順子, 鎌倉やよい, 榊原由美子, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 設楽紘平: 大腸がん術後患者のQOLと排便機能の変化の検討. 第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2014, (宮城), [口演]
- 028 山崎祥子, 新田都子, 永田智子, 深谷恭子, 藤田 恵: Aがん専門病院の緩和ケアに関わる認定看護師の今後の課題～緩和ケアに関する知識、実践、困難感の実態調査～. 日本緩和医療学会学術大会, 2013, (横浜), [示説]
- 029 山崎祥子, 吉田公秀, 新田都子: クリゾニチブの効果発現により投与日からオピオイドが過量となった1例. 日本がん治療学術集会, 2013, (京都), [示説]
- 030 山崎祥子, 新田都子, 藤田 恵, 深谷恭子, 永田智子: 看護師のがん看護に関する困難感及び緩和ケアに関する実践・知識の実態と関連要因. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 2013, (神奈川), [ポスター]
- 031 井上さよ子: 点滴治療を拒んだ終末期がん患者へのケアリング. 平成25年度愛知県看護研究学会, 2013, (愛知), [口演]
- 032 井上さよ子: がん終末期せん妄による患者に対して間欠的鎮静を行ったケアの検討. 第25回日本生命倫理学会, 2013, (東京), [口演]
- 033 安形真由美, 榊原由美子, 小島 瞳, 川嶋羽純: スタッフ教育や患者指導のための使用媒体の見直し. 第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2014, (宮城), [ポスター]
- 薬剤部
- 001 立松三千子: チーム医療の新しい形～医看薬連携による外来患者サポートへの取り組み～. 第21回医療薬学フォーラム, 2013, (金沢), [シンポジスト]
- 002 則竹香奈, 長谷川彩子, 立松三千子, 水谷旭良, 玉水 誠, 西川弘嗣, 鍋島俊隆, 長谷川泰久: 口腔管理医療連携モデル事業からみえてきた医歯薬連携の必要性. 第23回日本医療薬学会年会, 2013, (仙台), [口演]
- 003 高橋新次, 前田章光, 水谷旭良, 高畑知帆子, 今岡 大: 当院における肺癌患者に対するerlotinibの皮膚障害の発現状況と外用剤の使用状況. 第23回日本医療薬学会年会, 2013, (仙台), [ポスター]
- 004 井口幸子, 松崎雅英, 高橋新次, 則竹香奈, 梶田正樹, 水谷旭良: 外来初診患者の常用薬調査の取り組み. 第23回日本医療薬学会年会, 2013, (仙台), [ポスター]
- 005 立松三千子, 佐藤洋造, 小原真紀子, 秋山理恵, 佐藤由美, 室 圭: 医看薬連携～多職種による情報共有への取り組み～. 第23回日本医療薬学会年会, 2013, (仙台), [オーガナイザー・座長・シンポジスト]
- 006 松崎雅英, 前田章光, 浅野知沙, 伊藤裕子, 立松三千子, 梶田正樹, 水谷旭良: デノスマブ投与患者の血清カルシウム値に及ぼす保険薬と新カルシチュウ®D3の低減抑制効果の比較. 第7回日本緩和医療薬学会年会, 2013, (千葉), [口演]
- 007 立松三千子, 脇岡 範, 秋山理恵, 長縄弥生, 佐藤由美, 向井未年子: がん患者さんを多職種でサポートする一具体例から連携のあり方を考える～. 第7回日本緩和医療薬学会, 2013, (千葉), [オーガナイザー・座長]
- 008 長谷川彩子, 前田章光, 松崎雅英, 高畑知帆子, 小原真紀子, 水野靖也, 水谷旭良: 愛知県がんセンター中央病院におけるレゴラフェニブの有害事象の発現状況について～手足症候群を中心に～. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会, 2013, (鈴鹿), [口演]
- 009 則竹香奈, 長谷川彩子, 立松三千子, 水谷旭良, 玉水 誠, 西川弘嗣, 鍋島俊隆, 長谷川泰久: 口腔管理医療連携モデル事業からみえてきた医歯薬連携に必要なこと. 第46回東海薬剤師学術大会, 2013, (岐阜), [ポスター]
- 010 前田章光, 安藤 仁, 宇良 敬, 水谷旭良, 藤村昭夫: シスプラチン投与患者における尿中Nアセチル-β-D-グルコサミンダーゼの上昇. 第34回日本臨床薬理学会, 2013, (東京), [口演]
- 011 下村一景, 浅野知沙, 前田章光, 門脇重憲, 水野靖也, 水谷旭良: ゼレドロン酸水和物にて発症した低カルシウム血症に対してカルシウム/天然型ビタミンD3/マグネシウム配合剤を処方提案した症例. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2014, 2014, (千葉), [口演]
- 012 長谷川彩子, 前田章光, 松崎雅英, 高畑知帆子, 小原真紀子, 水野靖也, 水谷旭良: 愛知県がんセンター中央病院におけるレゴラフェニブの有害事象の発現状況について～手足症候群を中心に～. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2014, 2014, (千葉), [口演]
- 013 松崎雅英, 高橋新次, 立松三千子, 梶田正樹, 水谷旭章, 高畑知帆子, 小原真紀子, 室 圭: 外来化学療法センターにおける有害事象の発現状況と薬剤師の関与の進展に係る検討について. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2014, 2014, (千葉), [ポスター]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

疫学予防部

- 001 **Chihara D, Morton L, Ito H, Weisenburger T, Matsuo K** : The difference in the incidence and the trend of States. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2013, 2013, (Washington DC), [ポスター]
- 002 **Tanaka H, Hayakawa C, Oze I, Saka H** : A "Tobacco Craving Index" is a Useful Indicator to Predict Success of Smoking Cessation in Setting of Smoking Cessation Therapy. The 10th Asia Pacific Conference on Tobacco or Health, 2013, (千葉), [ポスター]
- 003 **Chihara D** : High-dose chemotherapy with autologous stem cell transplantation for elderly patients with relapsed/ refractory diffuse large b-cell lymphoma. 12th International conference of Malignant Lymphoma, 2013, (Switzerland), [口演]
- 004 **Ito H, Gallus S, Hosono S, Oze I, Fukumoto K, Yatabe Y, Hida T, Mitsudomi T, Negri E, La Vecchia C, Tanaka H, Matsuo K** : Time to first cigarette and lung cancer risk in Japan. 12th Annual AACR International Conference on Frontiers in Cancer Prevention Research, 2013, (Washington DC), [ポスター]
- 005 **Fukumoto K, Ito H, Park C, Tanaka H, Matsuo K, Tajima K, Takezaki T** : Cigarette smoke inhalation and lung cancer risk: Case-control study in Japan. 12th Annual AACR International Conference on Frontiers in Cancer Prevention Research , 2013, (Washington DC), [ポスター]
- 006 **Tanaka H, Ito H** : Descriptive epidemiology of cancer in "oldest-old" Jaoanese population. 第44回高松宮妃癌研究基金国際シンポジウム, 2013, (東京), [口演]
- 007 **Chihara D, Asano N, Kinoshita T, Maeda Y, Matsue K, Ohmachi K, Okamoto M, Mizuno I, Uchida T, Nagai H, Ogura M, Suzuki R** : Simplified MIPI is a valid prognostic index in the rituximab era: multicenter MCL study in Japan. Blood Abstracts 55th Annual Meeting , 2013, (New Orleans), [ポスター]
- 008 **Oze I, Matsuo K, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Ishioka K, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K, Nakamura S, Tajima K, Tanaka H** : The Aldehyde Dehydrogenase 2(ALDH2) Glu504Lys Polymorphism Interacts with Alcohol Drinking in the Risk of Stomach Cancer. The 4th JCA-AACR Special Joint Conference, 2013, (千葉), [ポスター]
- 009 **Fukumoto K, Ito H, Park C, Tanaka H, Matsuo K, Tajima K, Takezaki T** : Cigarette smoke inhalation and lung cancer risk: Case-control study in Japan. 第6回 NAGOYAグローバルリトリート, 2014, (愛知), [ポスター]
- 010 **Tanaka H** : Advance in the Japanese Multi-Institutional Collaborative Study. 7th General Assembly and International Conference of Asian Pacific Organization for Cancer Prevention (2014 APOCP), 2014, (Taiwan), [招請講演 (教育講演)]
- 011 **田中英夫, 若井建志, J-MICC Study委員会** : 個別化予防を目指したゲノムコホート研究. 第20回日本がん予防学会, 2013, (東京), [シンポジウム]
- 012 **渡邊美貴** : ヒト集団におけるドコサヘキサエン酸(DHA)摂取と血清脂質との関連 ~食事介入研究~. 第59回東海公衆衛生学会, 2013, (静岡), [ポスター]
- 013 **田中英夫** : 日本人のがん個別化予防の実現に向けたがん分子疫学研究の方向性. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [シンポジウム]
- 014 **伊藤秀美, 尾瀬 功, 細野覚代, 渡邊美貴, 田中英夫, 松尾恵太郎** : 日本人におけるPSCA遺伝子多型、ピロリ感染、喫煙状況別の累積胃がんリスク. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 015 **尾瀬 功, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 石岡久佳, 田島和雄, 田中英夫** : アジア人における葉酸摂取と胃がんリスク-症例対照研究とメタ解析より. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 016 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫** : 飲酒とALDH2 Glu504Lys遺伝子多型の交互作用と日本人子宮内膜癌リスクに関する検討. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 017 **渡邊美貴, 細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 田島和雄, 田中英夫** : 院内がん登録および外来調査の自記式調査票を用いての遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)疑い症例の拾い上げ. 日本人類遺伝学会第58回大会, 2013, (宮城), [ポスター]
- 018 **尾瀬 功, 越智宣昭, 堀田勝幸, 瀧川奈義夫, 藤原義朗, 田端雅弘, 谷本光音, 木浦勝行** : 第Ⅲ相試験からみた進展小細胞肺がんの予後と治療関連死の変換. 第54回日本肺癌学会総会, 2013, (東京), [ワークショップ]
- 019 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫** : 日本人女性の子宮内膜癌リスクに対する飲酒とALDH2 Glu504Lys遺伝子多型の交互作用の検討. 日本人類遺伝学会第58回大会, 2013, (宮城), [ポスター (示説)]
- 020 **伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田中英夫, 松尾恵太郎** : 乳がんの累積リスク-個別化がん予防戦略-. 第24回日本疫学会学術総会, 2014, (宮城), [口演]
- 021 **福本紘一, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 田島和雄, 獄崎俊郎, 田中英夫** : タバコの煙を深く吸い込むことは肺癌リスク上昇に關与している. 第24回日本疫学会学術総会, 2014, (宮城), [ポスター (示説)]
- 022 **渡邊美貴, 松尾恵太郎, 細野覚代, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 加藤久登, 田中英夫** : 日本人の出生年代別Helicobacter

- pylori感染率の推計. 第24回日本疫学会学術総会, 2014, (宮城), [ポスター (示説)]
- 023 千原 大, 伊藤秀美, 松田智大, 片野田耕太, 柴田亜希子, 谷口修一, 宇都宮興, 祖父江友孝, 松尾恵太郎: 成人T細胞白血病リンパ腫死亡率推移の検討: 人口動態統計と日本造血細胞移植学会データを用いて. 第24回日本疫学会学術総会, 2014, (宮城), [ポスター (示説)]
- 024 細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: エストロゲン代謝関連遺伝子多型と閉経女性性ホルモン濃度との関連: 日本多施設コーホート研究横断研究. 第24回日本疫学会学術総会, 2014, (宮城), [口演]
- 025 細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: 日本人女性における子宮内臓癌リスクとHSD17B2遺伝子多型との関連について. 第36回日本がん疫学・分子疫学研究会, 2013, (岐阜), [ポスター (示説)]
- 026 伊藤秀美, 末田愛子, 細野覚代, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田中英夫, 松尾恵太郎: 日本人女性の遺伝的リスク別の乳がん累積リスク. 第36回日本がん疫学・分子疫学研究会, 2013, (岐阜), [ポスター (示説)]
- 027 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: 胃がんリスクにおけるアルデヒド脱水素酵素-2遺伝子多型(ALDH2 Glu504Lys)と飲酒の相互作用. 第36回日本がん疫学・分子疫学研究会, 2013, (岐阜), [口演]
- 028 田中英夫: 日本版クイットラインの開設・普及の課題. 第23回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会・学術大会, 2014, (福岡), [口演]
- 029 田中英夫: 日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC STUDY)の進捗とBBJなどのバイオバンク、ゲノムコーホートとの連携. オーダーメイド医療の実現プログラム 平成25年度 一般公開シンポジウム, 2014, (東京), [シンポジウム]
- 030 田中英夫: ゲノムコーホート研究の「倫理的」課題とは? 「オーダーメイド医療の実現プログラム」シンポジウム, 2014, (東京), [シンポジウム]
- 性. 第102回日本病理学会総会, 2013, (札幌), [口演]
- 005 飯岡英和, 斎藤 憲, 中西速夫, 近藤英作: 肺癌におけるp14ARFペプチドの抗腫瘍効果. 第102回日本病理学会総会, 2013, (札幌), [口演]
- 006 斎藤 憲, 中西速夫, 近藤英作: プロリン水酸化酵素ファミリー OGFO-1の発現解析. 第102回日本病理学会総会, 2013, (札幌), [口演]
- 007 近藤英作, 斎藤 憲: CXADR(CAR)は扁平上皮癌増殖・転移抑制のための新規標的分子である. 第17回日本がん分子標的治療学会, 2013, (京都), [ワークショップ]
- 008 近藤英作: 腫瘍および腫瘍環境構成細胞吸収性新規細胞膜透過ペプチドの開発研究. 文部科学省新学術領域研究「がん微小環境」班会議, 2013, (東京), [口演]
- 009 近藤英作: 腫瘍ホーミングペプチドによる新しい制がん医療技術展開の研究. 第30回岐阜癌研究懇話会, 2013, (岐阜), [招聘講演]
- 010 近藤英作: ペプチドをベースとした生体低侵襲性制がん医療技術へのアプローチ. 第2回国際先端生物学・医学・工学会議(ICIBME 2013), 2013, (名古屋), [招聘講演]
- 011 斎藤 憲, 中西速夫, 近藤英作: ゲフィティニブ耐性肺癌におけるp14ARFの機能制御. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 012 飯岡英和, 斎藤 憲, 山下大祐, 住友 誠, 加藤栄史, 近藤英作: アイソフォーム特異的モノクロナル抗体を用いたがん組織におけるCrb3aの機能解析. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 013 近藤英作: 機能性ペプチドを応用した薬剤耐性肺がんの標的. Basic Biology Seminar In Okayama, 2013, (岡山), [招聘講演]
- 014 近藤英作: 標的細胞吸収性ペプチドを応用した制がんを目的とするpeptide-based DDS構築へのアプローチ. 平成25年度がん支援活動公開シンポジウム, 2014, (東京), [指定発表・ポスター]
- 015 近藤英作: 低侵襲性制がん医療技術の構築を目指した腫瘍吸収性ペプチドの開発. 第98回岡山県医用工学研究会シンポジウム, 2014, (岡山), [招聘講演]
- 016 近藤英作: プチドを応用した新規生体低侵襲性制がんDDS技術の開発研究. 第87回日本薬理学会年会, 2014, (仙台), [招聘講演 (シンポジウム)]

腫瘍病理学部

- 001 *Kondo E, Saito K, Iioka H, Watanabe R.*: Development of the Tumor-homing peptides and its application for the next-generation tumor medicine. 72nd Annual Meeting JCA, 2013, (Yokohama), [English oral session]
- 002 *Kondo E.*: Development of the Peptide-based anti-tumor DDS technology. Seoul national University Seminar, 2013, (Seoul), [invited speaker]
- 003 近藤英作, 斎藤 憲, 飯岡英和: CXADRは扁平上皮癌増殖制御の新規標的分子である. 第102回日本病理学会総会, 2013, (札幌), [口演]
- 004 中西速夫, 斎藤卓也, 古屋朋美, 近藤英作: 日本人由来HER2陽性胃がん細胞パネルの樹立とその分子標的薬感受

分子腫瘍学部

- 001 *Tanaka I, Osada H, Fujii M, Sekido Y*: A LIM protein AJUBA suppresses malignant mesothelioma cell proliferation via Hippo signaling pathway. American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting, 2013, (Washington, D.C.), [ポスター]
- 002 *Natsume A, Katsushima K, Shinjo K, Ohka F, Hatanaka A, Ichimura N, Kondo Y*: Epigenetic Plasticity Regulated by Polycomb Repressive Complex 2 in Human Glioblastoma. Gordon Research Conference,

- 2013, (Lucca), [ポスター]
- 003 **Ohka F, Natsume A, Ichimura N, Hatanaka A, Katsushima K, Shinjo K, Zong H, Kondo Y** : Loss of p53 and Nf1 and subsequent epigenetic alterations in glioblastoma mouse model. Gordon Research Conference, 2013, (Lucca), [ポスター]
- 004 **Shinjo K, Okamoto Y, Tanaka Y, Jean-Pierre Issa, Kondo Y** : Innate Immune System is Adequate for Induction of DNA Methylation after Hepatitis Viral Infection in Human Hepatocyte Chimeric Mouse. Gordon Research Conference, 2013, (Lucca), [ポスター]
- 005 **Sekido Y, Ichidai T, Fujii M, Osada H** : Hippo signaling cascade alteration in malignant mesothelioma. Keystone Symposia, 2013, (Monterey CA), [ポスター]
- 006 **Yuko Murakami-Tonami, Ichiro Takeuchi, Satoshi Kishida, Hitoshi Ichikawa, Hiroshi Murakami, Kondo Yutaka, Sekido Yoshitaka, John M Maris, Katsuhiko Shirahige, Kenji Kadomatsu** : Inactivation of Smc2 shows synergistic lethal response to MYCN amplification by regulating DNA damage response genes transcription in neuroblastoma cells. EMBO conference. The DNA damage response in cell physiology and disease, 2013, (Cape Sounio, Greece), [ポスター]
- 007 **Sekido Y** : Dysregulation of Hippo tumor-suppressive pathway in malignant mesothelioma. 15th International Association for the Study of Lung Cancer(IASLC), 2013, (Sydney), [ポスター]
- 008 **Kondo Y** : Molecular links between microenvironmental signals and epigenetic reprogramming processes via long non-coding RNA in glioblastoma. French Japanese Cancer Meeting, 2013, (Toulouse), [口演]
- 009 **Ohka F, Natsume A, Zong H, Liu C, Hatanaka A, Katsushima K, Shinjo K, Wakabayashi T, Kondo Y** : Interplay between genetic loss of p53, Nf1 and histone modifications in tumorigenesis of glioblastoma. The 18th Annual Meeting of the Society for Neuro-Oncology, 2013, (San Francisco), [口演]
- 010 **Kondo Y** : HEPATITIS VIRUS INFECTION AFFECTS DNA METHYLATION IN MICE WITH HUMANIZED LIVERS. The 18th Korea-Japan Cancer Research Workshop, 2013, (Gifu), [ポスター]
- 011 **Katsushima K, Shinjo K, Ohka F, Natsume A, Tatsuhiko S, Kondo Y** : Functional Roles of Long Non-Coding RNA in Epigenetic Reprogramming of Glioma Stem Cells. Keystone Symposia, 2014, (Santa Fe), [ポスター]
- 012 **Kondo Y** : Epigenetic Regulation of Glioma Stem Cells via NOTCH – Non-coding RNA Pathway. The 5th Symposium of A3 Foresight Program, 2014, (Jeju), [口演]
- 013 **Kondo Y** : Epigenetics of Mesothelioma and Lung Cancer. 4th Clinical Epigenetics International Meeting, 2014, (Dusseldorf), [口演]
- 014 **Osada H, Yagi K, Yanagisawa K, Akatsuka J, Tatematsu Y, Kato S, Yatabe Y, Ono K, Sekido Y, Takahashi T** : Functional analysis of CLCP1 as potential target for lung cancer diagnostics and therapeutics. 第72回日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川県), [口演]
- 015 **Osada H, Yagi K, Yanagisawa K, Akatsuka J, Tatematsu Y, Kato S, Yatabe Y, Ono K, Sekido Y, Takahashi T** : Analysis of CLCP1, a potential target for lung cancer diagnostics and therapeutics. 第36回日本分子生物学会年会, 2013, (兵庫), [ポスター]
- 016 **近藤 豊** : 脳腫瘍細胞の発生と進展に関わるエピゲノム。エピゲノム/エピジェネティクス JST・NEDO公開シンポジウム, 2013, (東京), [ポスター]
- 017 **新城恵子, 吉成晶子, 近藤 豊** : DNAメチル化を用いた肺がん血液診断法の確立. 第7回日本エピジェネティクス研究会年会, 2013, (奈良), [ポスター]
- 018 **勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 夏目敦至, 柴田龍弘, 近藤 豊** : 脳腫瘍細胞の分化に関わる長鎖非翻訳RNAに関する研究. 第7回日本エピジェネティクス研究会年会, 2013, (奈良), [ポスター]
- 019 **大岡史治, 夏目敦至, 市村典久, 畑中彬良, 勝島啓佑, 新城恵子, Hui Zong, 近藤 豊** : 膠芽腫マウスモデルを用いたp53、Nf1欠失から引き起こされるエピジェネティクス異常の解析. 第7回日本エピジェネティクス研究会年会, 2013, (奈良), [ポスター]
- 020 **近藤 豊** : エピゲノム情報を利用した新しいがんの予防・診断・治療. 第40回日本毒性学会学術年会, 2013, (千葉), [シンポジウム]
- 021 **近藤 豊** : ヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス感染後のDNAメチル化誘導機構の解明. 第5回金沢大学学際科学実験センターシンポジウム, 2013, (石川), [シンポジウム]
- 022 **近藤 豊** : がん細胞を制御するエピゲノム機構の解明と治療への展望. 第22回日本がん転移学会学術集会・総会, 2013, (長野), [シンポジウム]
- 023 **関戸好孝** : 中皮腫の複合シグナル伝達系異常とその制御. 第11回日本臨床腫瘍学会, 2013, (仙台), [シンポジウム]
- 024 **関戸好孝** : 悪性中皮腫の遺伝子シグナル伝達系異常. 4th Japan Mesothelioma Interest Group(JMIG), 2013, (京都), [セミナー]
- 025 **藤井万紀子, 長田啓隆, 田中一大, 近藤 豊, 関戸好孝** : 非上皮由来がん細胞におけるTGF- β による腫瘍増殖促進作用. 第72回日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川県), [口演]
- 026 **田中一大, 長田啓隆, 藤井万紀子, 深津明日樹, 樋田豊明, 佐藤鮎子, 長谷川好規, 辻村 亨, 関戸好孝** : LIMドメインを持つAJUBA蛋白質は、Hippoシグナル経路を介して悪性中皮腫細胞の増殖を抑制する. 第72回日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川県), [口演]
- 027 **深津明日樹, 田中一大, 新城恵子, 近藤 豊, 藤井万紀子, 長谷川好規, 富沢健二, 光富徹哉, 長田啓隆, 畑 裕, 関戸好孝** : 非小細胞肺癌におけるRASSF3の発現解析. 第72

- 回日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川), [口演]
- 028 近藤 豊: グリオブラストーマにおけるエピゲノム動的制御. 第72回 日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川), [シンポジウム]
- 029 勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 関戸好孝, 夏目敦至, 柴田龍弘, 近藤 豊: 脳腫瘍幹細胞の分化を制御する長鎖非翻訳RNAに関する研究. 第72回 日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川), [口演]
- 030 大岡史治, 夏目敦至, 市村典久, 畑中彬良, 勝島啓佑, 新城恵子, 若林俊彦, 関戸好孝, 近藤 豊: 膠芽腫発生過程においてp53, Nf1遺伝子欠失に誘導させるエピゲノム異常. 第72回 日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川), [口演]
- 031 市村典久, 新城恵子, 大岡史治, 勝島啓佑, 畑中彬良, 山本栄一郎, 近藤 豊: 大腸癌におけるCpG island Methylator PhenotypeとDNAメチル化酵素, TET遺伝子の発現様式に関する解析. 第72回 日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川), [口演]
- 032 新城恵子, 大岡史治, 勝島啓佑, 畑中彬良, 市村典久, 近藤英作, 近藤 豊: 高感度DNAメチル化検出法を用いた肺がん血液診断法の確立. 第72回 日本がん学会学術総会, 2013, (神奈川), [ポスター]
- 033 村上(渡並)優子, 岸田 聡, 竹内一郎, 加藤由紀, Jagannathan Jayanti, Maris John, 市川 仁, 近藤 豊, 関戸好孝, 白髭克彦, 村上浩士, 門松健治: SMC2はDNA損傷修復に関連する遺伝子の転写を制御し, 神経芽腫においてMYCNと合成致死性を示す. 第36回 日本分子生物学会年会, 2013, (兵庫), [ポスター]
- 034 勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 夏目敦至, 柴田龍弘, 近藤 豊: 脳腫瘍幹細胞の分化を制御する長鎖非翻訳RNAに関する研究. 第36回 日本分子生物学会年会, 2013, (兵庫), [ポスター]
- 035 大岡史治, 夏目敦至, 市村典久, 畑中彬良, 東條正幸, 勝島啓佑, 新城恵子, 若林俊彦, 関戸好孝, 近藤 豊: p53, Nf1欠失から誘導されるエピゲノム異常の同定と誘導機構の解明. 第36回 日本分子生物学会年会, 2013, (兵庫), [ポスター]
- 036 関戸好孝: 悪性中皮腫に対する新規治療法開発へ向けた中皮腫細胞株の利用. 平成25年度中部地区 医療・バイオ系シーズ発表会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 037 関戸好孝: 悪性中皮腫の遺伝子異常. 第8回中皮腫細胞診セミナー, 2014, (福岡), [口演]

遺伝子医療研究部

- 001 Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Katayama M, Tsuzuki S, Kinoshita T, Ohshima K, and Seto M: Cell cycle deregulation determines acute transformation in chronic type adult T-cell leukemia/lymphoma. 55th Annual Meeting of American Society of Hematology; Abstract no. 845, 2013, (New Orleans), [口演]

- 002 吉田稚明, 加留部謙之輔, 宇都宮 與, 塚崎邦弘, 今泉芳孝, 平良直也, 鶴池直邦, 海野 啓, 在田幸太郎, 片山 幸, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加大: Cell cycle関連遺伝子の異常が慢性型ATLの急性転化に関与する. 第53回日本リンパ網内系学会, 2013, (京都), [口演]
- 003 吉田稚明, 加留部謙之輔, 宇都宮 與, 塚崎邦弘, 今泉芳孝, 平良直也, 鶴池直邦, 海野 啓, 在田幸太郎, 片山 幸, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加大: Cell cycle関連遺伝子の異常が慢性型ATLの急性転化に関与する. 第53回日本リンパ網内系学会, 2013, (京都), [ポスター]
- 004 都築 忍, 片山 幸, 吉田稚明, 在田幸太郎, 大島孝一, 瀬戸加大: インビトロで誘導したT細胞への遺伝子導入によるマウスリンパ腫モデル. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 005 勝呂 幸, 田川博之, 竹内一郎, 吉田稚明, 在田幸太郎, 都築 忍, 瀬戸加大: リンパ腫を形成するクローン細胞の多様性は, 臨床病態を反映する. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 006 吉田稚明, 加留部謙之輔, 宇都宮 與, 塚崎邦弘, 今泉芳孝, 平良直也, 鶴池直邦, 海野 啓, 在田幸太郎, 片山 幸, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加大: Cell cycle関連遺伝子の異常が慢性型ATLの急性転化に関与する. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 007 在田幸太郎, 都築 忍, 大島孝一, 杉山敏郎, 瀬戸加大: レトロウイルスによる正常B細胞への遺伝子導入を用いたB細胞リンパ腫マウスモデル. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 008 瀬戸加大: 悪性リンパ腫発症の分子機構. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 009 都築 忍, 瀬戸加大: TEL(ETV6)-AML1(RUNX1)は自己複製能を有する胎児プロB細胞を開始する. 第75回日本血液学会学術集会, 2013, (札幌), [ポスター]
- 010 吉田稚明, 加留部謙之輔, 宇都宮 與, 塚崎邦弘, 今泉芳孝, 平良直也, 鶴池直邦, 海野 啓, 在田幸太郎, 片山 幸, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加大: Cell cycle関連遺伝子の異常が慢性型ATLの急性転化に関与する. 第75回日本血液学会学術集会, 2013, (札幌), [口演]
- 011 在田幸太郎, 都築 忍, 大島孝一, 杉山敏郎, 瀬戸加大: 新規マウス胚中心由来B細胞リンパ腫モデル. 第75回日本血液学会学術集会, 2013, (札幌), [口演]
- 012 高原大志: 卵巣原発と考えられた印環細胞を含むmucinous adenocarcinomaの一例. 第102回日本病理学会総会, 2013, (札幌), [ポスター]

腫瘍免疫学部

- 001 Inaguma Y, Akahori Y, Akatsuka Y, Murayama Y, Shiraishi K, Tsuzuki-Iba S, Endoh A, Tsujikawa J, Demachi-Okamura A, Hiramatsu K, Saji H, Yamamoto Y, Yamamoto N, Nishimura Y, Takahashi T, Kuzushima K, Emi N: Construction

- and Molecular Characterization Of a T-Cell Receptor-Like Antibody and CAR-T Cells Specific For Minor Histocompatibility Antigen HA-1H. The 55th ASH Annual Meeting, 2013, (New Orleans, USA), [ポスター]
- 002 **Okamoto S, Iwase N, Amaishi Y, Ikeda Y, Fujiwara H, Kuzushima K, Yasukawa M, Shiku H, Mineno J**: Effective and safe TCR gene therapy with silencing endogenous TCRs and high affinity TCR variants. 第19回日本遺伝子治療学会, 2013, (岡山), [口演]
- 003 **Maki H, Uemura Y, Zhang R, Liu T, Suzuki M, Hirosawa N, Takeda K, Sakamoto Y, Senju S, Kuzushima K**: Pluripotent stem cell-derived myeloid cells expressing TRAIL as a possible cell medicine for cancer. 第42回日本免疫学会総会・学術集会, 2013, (千葉), [ポスター]
- 004 **山田英里, 近藤紳司, 内海 史, 熊澤詔子, 三井寛子, 関谷龍一郎, 鈴木史朗, 梅津朋和, 水野美香, 梶山広明, 柴田清住, 吉川史隆**: 免疫療法の標的となる新たな卵巣がん抗原の検索. 第65回日本産婦人科学会学術講演会, 2013, (札幌), [口演]
- 005 **岡本幸子, 天石泰典, 池田裕明, 藤原 弘, 葛島清隆, 安川正貴, 珠玖 洋, 峰野純一**: 高親和性NY-ESO-1特異的TCR発現siTCRベクターを用いた高効率かつ安全性の高いTCR遺伝子治療. 第17回日本がん免疫学会総会, 2013, (宇部), [口演]
- 006 **朝井洋晶, 藤原 弘, 越智史博, 峰野純一, 岡本幸子, 葛島清隆, 池田裕明, 北澤莊平, 赤塚美樹, 珠玖 洋, 安川正貴**: 経静脈的に輸注されたWT1特異的人工CTLは腎糸球体たこ足細胞を傷害しない. 第17回日本がん免疫学会総会, 2013, (宇部), [口演]
- 007 **赤塚美樹, 赤堀 泰, 稲熊容子, 村山裕子, 辻川朱里, 平松可帆, 西村泰治, 葛島清隆, 恵美宣彦**: HLA-A2拘束性に提示されたマイナー抗原HA-1Hを認識する抗体の単離とCAR-Tの機能. 第17回日本がん免疫学会総会, 2013, (宇部), [口演]
- 008 **越智史博, 藤原 弘, 谷本一史, 宮崎幸大, 朝井洋晶, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 石井榮一, 安川正貴**: 抗体依存性細胞傷害活性(ADCC)を介した抗腫瘍効果を示す人工CD16陽性T細胞の開発. 第17回日本がん免疫学会総会, 2013, (宇部), [口演]
- 009 **岡村文子, 葛島清隆**: K-rasの活性変異に伴うオートファジーによるCTLエピトープの産生. 第5回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 010 **赤塚美樹, 田地浩史, 森島泰雄, 宮村耕一, 小寺良尚, 高橋利忠, 木下朝博, 葛島清隆, 恵美宣彦**: 同種移植後再発予防・治療を目的としたマイナー抗原ワクチン臨床試験. 第5回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 011 **稲熊容子, 赤塚美樹, 赤堀 泰, 村山裕子, 辻川朱里, 平松可帆, 西村泰治, 葛島清隆, 恵美宣彦**: HLA-A2拘束性に提示されたマイナー抗原HA-1Hを認識する抗体の単離とCAR-Tの機能. 第5回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2013, (名古屋), [口演]
- 012 **藤原 弘, 越智史博, 朝井洋晶, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴**: HLAクラスI拘束性白血病抗原特異的CD4陽性T細胞の抗白血病効果. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 013 **越智史博, 藤原 弘, 谷本一史, 朝井洋晶, 宮崎幸大, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴**: 抗体依存性細胞傷害活性を介した抗腫瘍効果を示す人工CD16陽性T細胞の開発. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 014 **柴川伸吾, 垣見和宏, 磯辺みどり, 和田 尚, 上中明子, 葛島清隆, 西川博嘉, 鶴殿平一郎, 岡三喜男, 中山春一**: NY-ESO-1f (NY-ESO-1 91-110) ペプチドワクチンによる抗体・CD4・CD8T細胞免疫応答の誘導. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 015 **赤塚美樹, 岡村文子, 山本幸也, 西村泰治, 高橋利忠, 葛島清隆, 恵美宣彦**: HLA-A2拘束性に提示されたマイナー抗原HA-1認識抗体の開発と応用. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 016 **岡本幸子, 天石泰典, 池田裕明, 藤原 弘, 葛島清隆, 安川正貴, 珠玖 洋, 峰野純一**: 高親和性TCR発現siTCRベクターを用いた高効率かつ安全性の高いTCR遺伝子治療. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 017 **宮原慶裕, 杉野早穂子, 王 立楠, 葛島清隆, 藤田知信, 河上 裕, 岡本幸子, 天石泰典, 峰野純一, 珠玖 洋**: HLA-A0201拘束性NY-ESO-1由来ペプチド(p157-165)特異的T細胞受容体はHLA-A0206陽性NY-ESO-1陽性腫瘍を認識する. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 018 **張 エイ, 劉 天懿, 千住 覚, 廣澤成美, 辻村邦夫, 中西速夫, 藺田精昭, 坂本 安, 西村泰治, 葛島清隆, 植村靖史**: 多能性幹細胞由来の増殖性ミエロイド細胞を用いたがん免疫療法の開発. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 019 **牧 寛之, 植村靖史, 張 エイ, 竹田和由, 劉 天懿, 鈴木元晴, 都築 忍, 岡村文子, 赤塚美樹, 西村泰治, 千住覚, 葛島清隆**: TRAILを発現する多能性幹細胞由来ミエロイド細胞を用いた細胞医薬の開発. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 020 **葛島清隆**: Artificial antigen presenting cells and basic research. 第75回日本血液学会, 2013, (札幌), [シンポジウム]
- 021 **朝井洋晶, 藤原 弘, 宮崎幸大, 越智史博, 越智俊元, 峰野純一, 岡本幸子, 葛島清隆, 池田裕明, 珠玖 洋, 安川正貴**: Preclinical evaluation for renal safety of WT1-targeting adoptive immunotherapy. 第75回日本血液学会, 2013, (札幌), [口演]
- 022 **越智史博, 藤原 弘, 谷本一史, 朝井洋晶, 宮崎幸大, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 石井榮一, 安川正貴**: Artificial CD16 positive T cells successfully display in vivo anti-tumor effect through ADCC. 第75回日本血液学会, 2013, (札幌), [口演]
- 023 **赤塚美樹, 細川晃平, 岡本晃直, 片桐孝和, 稲熊容子, 岡**

村文字, 葛島清隆, 恵美宣彦, 中尾眞二: Isolation of a HLA-B*4002-restricted CTL to HPCs from a patient with aplastic anemia with 6pLOH. 第75回日本血液学会, 2013, (札幌), [口演]

感染腫瘍学部

- 001 **Tsurumi T**: Nuclear Transport of Epstein-Barr Virus DNA Polymerase is dependent on the BMRF1 Polymerase Processivity Factor and Molecular Chaperone Hsp90. The Biology of Molecular Chaperones: From molecules, organelles and cells to misfolding diseases, 2013, (Santa Margherita di Pula, Italy), [ポスター]
- 002 **Kanda T, Murata T, Tsurumi T**: Roles of BART microRNAs in EBV-infected epithelial cells. 6th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2013, (Istanbul, Turkey), [口演]
- 003 **Murata T, Noda C, Kanda T, Tsurumi T**: Induction of EBV Oncogene LMP1 by AP-2 in NPC Cells. 6th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2013, (Istanbul, Turkey), [ポスター]
- 004 **Narita Y, Murata T, Kimura H, Tsurumi T**: The Epstein-Barr virus DNA Polymerase Catalytic Subunit BALF5 Interacts with Pin1 for Efficient Productive Viral DNA Replication. 38th Annual International Herpesvirus Workshop, 2013, (Grand Rapids, USA), [ポスター]
- 005 **Tsurumi T**: Nuclear transport of Epstein-Barr virus DNA polymerase is dependent on the BMRF1 polymerase processivity factor and molecular chaperone Hsp90. 18th World Congress on Advances in Oncology and 16th International Symposium on Molecular Medicine, 2013, (Creta Maris, Italy), [ポスター]
- 006 **Tsurumi T**: Generation of Epstein-Barr virus lacking BVLf1 ORF responsible for late gene transcription. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology: Advancing Vaccines in the Genomic Era, 2013, (Rio de Janeiro, Brazil), [ポスター]
- 007 **Kanda T**: Roles of BART microRNAs in EBV-infected epithelial cells. Epstein-Barr virus 50th anniversary, 2014, (Oxford, UK), [ポスター]
- 008 **Narita Y, Murata T, Kimura H, Tsurumi T**: A hydrophobic Motif in the Pre-N-terminal Domain of Epstein-Barr virus DNA Polymerase is Required for Formation of Viral Replication Compartments. Epstein-Barr virus 50th anniversary, 2014, (Oxford, UK), [ポスター]
- 009 村田貴之: EBウイルスの感染様式と病態. 第10回ウイルス学キャンプin湯河原, 2013, (湯河原), [招待講演]
- 010 神田 輝, 鶴見達也: EBウイルス感染上皮細胞におけるウイルス由来マイクロRNAによる宿主遺伝子発現制御. 第28

回ヘルペスウイルス研究会, 2013, (淡路), [口演]

- 011 杉本温子, 佐藤好隆, 神田 輝, 木村 宏, 鶴見達也: Replication compartment内においてEBV初期遺伝子と後期遺伝子の転写産物では異なった分布を示す. 第28回ヘルペスウイルス研究会, 2013, (淡路), [口演]
- 012 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: EBV DNAポリメラーゼのN末端保存領域の変異はポリメラーゼ活性には影響しないが、ウイルスゲノム複製を阻害する. 第28回ヘルペスウイルス研究会, 2013, (淡路), [口演]
- 013 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: EBV DNAポリメラーゼのN末端保存モチーフの変異はウイルスゲノム複製を抑制する. 第10回EBウイルス研究会, 2013, (京都), [口演]
- 014 神田 輝, 鶴見達也: ウイルス由来マイクロRNAによる上皮細胞特異的因子の発現制御. 第10回EBウイルス研究会, 2013, (京都), [口演]
- 015 鶴見達也: Epstein Barr virus Replication Factory. 第10回EBウイルス研究会, 2013, (京都), [招待講演]
- 016 神田 輝, 鶴見達也: EBウイルス感染上皮細胞におけるウイルス由来マイクロRNA発現の意義. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 017 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: EBV DNAポリメラーゼのN末端に存在する保存された疎水性の高いモチーフは、細胞でのウイルスDNA複製に必須である. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 018 川島大介, 鶴見達也: EBV早期遺伝子BVLf1およびBcRF1は後期遺伝子転写を調節する. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 2013, (神戸), [ポスター]
- 019 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: EBV DNAポリメラーゼN末端保存領域の変異によるウイルスゲノム複製阻害の機構解析. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 2013, (神戸), [口演]
- 020 神田 輝, 鶴見達也: EBウイルス由来マイクロRNAによる上皮細胞特異的因子の発現制御. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 2013, (神戸), [口演]

分子病態学部

- 001 佐久間圭一朗: 大腸がん細胞においてシアリルルイス糖鎖の発現とEMTは関連する. 第65回細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 002 青木正博, 藤下晃章, 武藤 誠: CDX転写因子の標的分子PLEKHG1の発現低下は大腸腫瘍形成を促進する. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 003 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博: mTORキナーゼ阻害薬は大腸がんマウスモデルの大腸腺がん形成を抑制する. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 004 小島 康, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 細野覚代, 田中英夫, 青木正博: 日本人胃がん患者の体組成変化. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 005 青木正博: mTORキナーゼ阻害薬は大腸がんモデルマウス

の腺がん形成を強力に抑制する. 第36回日本分子生物学会, 2013, (神戸), [ポスター]

腫瘍医化学部

- 001 **Goto H**: Novel mitotic signaling crosstalk between PI3K-Akt pathway and Plk1. 1st International Symposium on Protein Modifications in Pathogenic Dysregulation of Signaling (supported by Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Area from MEXT), 2013, (Tokyo), [シンポジウム]
- 002 **Inoko A**: Trichoplein and Aurora A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells. GCOE第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]
- 003 **Kasahara K**: Emerging role of the ubiquitin-proteasome system in primary cilia assembly. GCOE第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]
- 004 **Tanaka H**: Disorder of cytokinesis by defect of mitotic vimentin phosphorylation results in chromosomal instability. GCOE第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [シンポジウム]
- 005 **Kasahara K, Goshima N, Matsuzaki F, Inagaki M**: Emerging role of the ubiquitin-proteasome pathway in primary cilia assembly. The 25th CDB meeting "Cilia and Centrosomes, from Fertilization to Cancer", 2013, (神戸), [招待講演]
- 006 **Goto H, Inagaki M**: Screening of novel Aurora-A-associated proteins to prevent primary cilia assembly at the centrosome in proliferating cells. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [シンポジウム]
- 007 **Inoko A, Inagaki M**: Translocation of keratin-binding proteins between the cell-cell adhesion and the centrosome as the functional switch of differentiation and proliferation. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [シンポジウム]
- 008 **Kasahara K, Kawakami Y, Kawamura Y, Ibi M, Goshima N, Inagaki M**: Emerging role of the ubiquitin-proteasome system in assembly of primary cilium. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 009 **Li P, Goto H, Kasahara K, Inoko A, Izawa I, Mochizuki H, Togashi T, Kawamura Y, Kawakami Y, Goshima N, Kiyono T, Inagaki M**: Screening of novel Aurora-A-associated proteins to prevent primary cilia assembly at the centrosome in proliferating cells. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 010 **Goto H, Era S, Li P, Kasahara K, Inoko A, Izawa I, Mochizuki H, Togashi T, Kawamura Y, Kawakami Y, Goshima N, Kiyono T, Inagaki M**: Screening of novel Aurora-A-associated proteins. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [口演]
- 011 **Izawa I, Hayashi Y, Inagaki M**: Interaction of Cell Polarity Regulator Scribble with Multidrug Resistance Protein 4 (MRP4/ABCC4). 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 012 **Kasahara K, Kawakami Y, Kawamura Y, Ibi M, Kiyono T, Goshima N, Matsuzaki F, Inagaki M**: A Cul3-based ubiquitin E3 ligase controls primary cilia assembly through degradation of Trichoplein. 第72回日本癌学会学術総会, 2013, (横浜), [ポスター]
- 013 **Kasahara K**: Ubiquitin-proteasome system controls primary cilia biogenesis. GCOE第6回NAGOYAグローバルリトリート, 2014, (大府), [ポスター]
- 014 **稲垣昌樹**: ビメンチンリン酸化の生理学的意義の解明. 第13回日本蛋白質科学会年会, 2013, (鳥取), [ワークショップ]
- 015 **江良沙穂, 阿部拓也, 荒川 央, 小林俊介, 武田俊一, ダーナブランゼイ, 稲垣昌樹**: 脱SUMO化酵素SEN1の欠損は、ニワトリBリンパ球細胞において、微小管重合阻害剤の長時間処理時、早期のM期脱出 (mitotic slippage) を引き起こす. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [フラッシュトーク/ポスター]
- 016 **稲葉弘哲, 依田幸司, 足立博之**: 細胞生粘菌のGfIBは増殖期アメーバ細胞の仮足形成を制御する. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 017 **井澤一郎, 林 裕子, 稲垣昌樹**: 細胞極性制御因子ScribbleはMRP4/ABCC4と相互作用する. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [ポスター]
- 018 **田中宏樹, 猪子誠人, 松山 誠, 井澤一郎, 稲垣昌樹**: 細胞質分裂障害は染色体不安定性の亢進および細胞老化を誘導する. 第65回日本細胞生物学会大会, 2013, (名古屋), [シンポジウム/ポスター]
- 019 **稲垣昌樹**: がん細胞の本態の理解一問葉系細胞機能異常と発がん、老化について. 名古屋大学手の外科学前向き研究会. 2013, (名古屋), [招待講演]
- 020 **稲垣昌樹**: Cytokinetic failureとがん化、老化、分化. 新学術研究領域「シリア・中心体による生体情報フローの制御」第2回領域会議. 2013, (名古屋), [シンポジウム]
- 021 **後藤英仁, 渡辺信元, 猪子誠人, 稲垣昌樹**: がんの分子標的としてのAurora Aキナーゼ. 第87回日本薬理学会年会, 2014, (仙台), [口演]
- 022 **稲葉弘哲, 後藤英仁, 猪子誠人, 何 東偉, 五島直樹, 山野荘太郎, 鰐淵英樹, 熊本香奈子, 広常真治, 清野 透, 稲垣昌樹**: Ndel1の欠損は一次線毛形成を引き起こし、細胞増殖を阻害する. 第66回日本細胞生物学会大会, 2014, (奈良), [口演]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (名誉総長・総長)

名誉総長

- 001 **Nimura Y**: Resection for hilar cholangiocarcinoma.
In: Master Techniques in Surgery, Hepatobiliary and Pancreatic Surgery. Eds. Lillemoe, Jarnagin. Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, USA, 331-343, 2013.
- 002 **Sano T, Nimura Y**: Radical resection and its limits.
In: Hilar Cholangiocarcinoma. Ed. Lau WY. Springer Science and People's Medical Publishing House, Beijing, China, 195-209, 2013.
- 003 **Kamitani T, Nimura Y, Nagahiro S, Miyazaki S, Tomatsu T**: Catastrophic head and neck injuries in Judo players in Japan from 2003 to 2010. American Journal of Sports Medicine, 41:1915-1921, 2013.
- 004 二村雄次: 柔道家としての平井正文先生を偲ぶ. 日本血管外科学会雑誌, 22: 863-864, 2013.

- 005 **Kobayashi S, Gotohda N, Kato Y, Takahashi S, Konishi M, Kinoshita T**: Infection control for prevention of pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy. Hepatogastroenterology, 60:876-882, 2013.
- 006 木下 平, 木下敬弘, 斎浦明夫, 江崎 実, 坂本裕彦, 伊藤誠二: 胃癌肝転移切除例に関する多施設共同研究. 癌の臨床, 59:485-489, 2013.

総長

- 001 **Asai M, Akizuki N, Fujimori M, Shimizu K, Ogawa A, Matsui Y, Akechi T, Itoh K, Ikeda M, Hayashi R, Kinoshita T, Ohtsu A, Nagai K, Kinoshita H, Uchitomi Y**: Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. Psychooncology, 22:995-1001, 2013.
- 002 **Takahashi A, Yamamoto Y, Yasunaga M, Koga Y, Kuroda J, Takigahira M, Harada M, Saito H, Hayashi T, Kato Y, Kinoshita T, Ohkohchi N, Hyodo I, Matsumura Y**: NC-6300, an epirubicin-incorporating micelle, extends the antitumor effect and reduces the cardiotoxicity of epirubicin. Cancer Sci, 104: 920-925, 2013.
- 003 **Kinoshita Takahiro, Gotohda N, Kato Y, Takahashi S, Konishi M, Kinoshita Taira**: Laparoscopic proximal gastrectomy with jejunal interposition for gastric cancer in the proximal third of the stomach: a retrospective comparison with open surgery. Surg Endosc, 27:146-153, 2013.
- 004 **Satoi S, Yamaue H, Kato K, Takahashi S, Hirono S, Takeda S, Eguchi H, Sho M, Wada K, Shinchi H, Kwon AH, Hirano S, Kinoshita T, Nakao A, Nagano H, Nakajima Y, Sano K, Miyazaki M, Takada T**: Role of adjuvant surgery for patients with initially unresectable pancreatic cancer with a long-term favorable response to non-surgical anti-cancer treatments: results of a project study for pancreatic surgery by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. J Hepatobiliary Pancreat Sci, 20:590-600, 2013.

5. 学会誌・その他誌上発表デーマ調べ (病院)

病 院 長

001 *Yuji Tachimori, Soji Ozawa, Mitsuhiro Fujishiro, Hisahiro Matsubara, Hodaka Numasaki, Tsuneo Oyama, Masayuki Shinoda, Yasushi Toh, Harushi Udagawa, Takashi Uno* : Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2005. Esophagus, 11:1-20, 2014.

消化器内科部

[原著]

001 *Hara K, Yamao K, Hijioka S, Mizuno N, Imaoka H, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Haba S, Takeshi O, Nagashio Y, Obayashi T, Shinagawa A, Bhatia V, Shimizu Y, Goto H, Niwa Y* : Prospective clinical study of endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy with direct metallic stent placement using a forward-viewing echoendoscope. Endoscopy,45(5):392-396,2013.

002 *Ogura T, Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Sawaki A, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y* : Prognostic value of K-ras mutation status and subtypes in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration specimens from patients with unresectable pancreatic cancer. J Gastroenterol,48(5):640-646,2013.

003 *Haba S, Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W, Kawakami H, Sakamoto N* : Diagnostic ability and factors affecting accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic solid lesions: Japanese large single center experience. Journal of Gastroenterology,48(8):973-981,2013.

004 *Mizuno N, Yatabe Y, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Shimizu Y, Ko SB, Yamao K* : Cytoplasmic expression of LGR5 in pancreatic adenocarcinoma. Front Physiol, 4:269,2013.

005 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Tanaka T, Ishihara M, Yamao K* : Risk of ileal pouch neoplasms in patients with familial adenomatous polyposis. World J Gastroenterol,19(40):6774-6783,2013.

006 *Hasegawa T, Yamao K, Hijioka S, Bhatia V, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Kinoshita T, Kohsaki T, Nishimori I, Iwasaki S, Saibara T, Hosoda W, Yatabe*

Y : Evaluation of Ki-67 index in EUS-FNA specimens for the assessment of malignancy risk in pancreatic neuroendocrine tumors. Endoscopy,46(1):32-38,2014.

007 *Imaoka H, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Ogura T, Obayashi T, Hasegawa T, Niwa Y, Yamao K* : Clinical characteristics of adenosquamous carcinoma of the pancreas : a matched case-control study. Pancreas,43(2):287-290,2014.

008 *Valle JW, Furuse J, Jitlal M, Beare S, Mizuno N, Wasan H, Bridgewater J, Okusaka T* : Cisplatin and gemcitabine for advanced biliary tract cancer : a meta-analysis of two randomised trials. Ann Oncol, 25(2) : 391-398, 2014.

009 *Nakao M, Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Mizuno N, Yatabe Y, Yamao K, Niimi A, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K* : Cigarette smoking and pancreatic cancer risk: a revisit with an assessment of the enicotine dependence phenotype. Asian Pac J Cancer Prev, 14(7) : 4409-4413, 2013.

010 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Mekky MA, Nagashio Y, Sekine M, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : A novel technique for endoscopic transpapillary “mapping biopsy specimens” of superficial intraductal spread of bile duct carcinoma (with videos). Gastrointestinal Endoscopy, 2014.

011 *Matsuo K, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Ishioka K, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K, Nakamura S, Tajima K, Tanaka H* : The aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) Glu504Lys polymorphism interacts with alcohol drinking in the risk of stomach cancer. Carcinogenesis, 34(7) : 1510-1515, 2013.

012 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 山雄健次: 家族性大腸腺腫症における大腸切除術後の残存腸管に発生する腺腫および腺癌の検討. 家族性腫瘍, 13(1):17-21, 2013.

013 岡崎和一, 川茂 幸, 神澤輝実, 伊藤鉄英, 乾 和郎, 入江裕之, 西野隆義, 能登原憲司, 久保惠嗣, 大原弘隆, 入澤篤志, 藤永康成, 長谷部 修, 西森 功, 田中滋城, 下瀬川 徹, 田中雅夫, 白鳥敬子, 須田耕一, 西山利正, 内田一茂, 菅 野敦, 窪田賢輔, 洪 繁, 阪上順一, 清水京子, 杉山政則, 多田 稔, 中沢貴宏, 西野博一, 浜野英明, 廣岡芳樹, 平野賢二, 正宗 淳, 増田充弘, 水野伸匡, 山口幸二, 吉田 仁: 厚生労働省難治性膵疾患に関する調査研究班. 自己免疫性膵炎診療ガイドライン2013. 膵臓, 28(6):717-783, 2013.

[症例報告]

- 001 原 和生：スーテントが著効した1例. fizer:2013.
- 002 大林友彦, 丹羽康正, 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 菅野雅人, 谷田部 恭：食道表在癌にpyogenic granulomaを合併した1例. 胃と腸, 48(13):1961-1966, 2013.
- 003 大林友彦, 丹羽康正, 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 菅野雅人, 谷田部 恭：食道表在癌にpyogenic granulomaを合併した1例. 胃と腸, 48(13):1961-1966, 2013.
- 004 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 山雄健次, 木下 平, 二村雄次：PTBD後に門脈血栓を来たし,1年余の化学療法後に切除しえた膵頭部癌の1例. 膵臓, 28(3):543, 2013.
- [総説、その他]
- 001 山雄健次, 水野伸匡, 今岡 大, 原 和生, 脇岡 範, 清水泰博：【IPMN国際診療ガイドライン2012の解説と残された課題】診断の立場から. 膵臓, 28(2):131-135, 2013.
- 002 近藤真也, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 安藤貴文, 後藤秀実, 山雄健次, 丹羽康正：H.pylori除菌療法奏功後に組織学的再発を認めた胃MALTリンパ腫におけるwatch and waitの妥当性. 消化器内科, 57(2):157-162, 2013.
- 003 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次：切除不能胆道癌に対するGEM+シスプラチン併用療法(ABC-02試験&BT-22試験). 胆と膵, 34(8):637-641, 2013.
- 004 奥坂拓志, 水野伸匡, 庄 雅之, 福富 晃：どう変わる?膵癌化学療法の標準治療 MPACT・JASPAC 01試験の結果から. 膵・胆道癌Frontier, 3(2):68-76, 2013.
- 005 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正：EUS-FNAの現況 胆膵疾患に対するEUS-FNAの現況.最新医学, 68(8):1743-1750, 2013.
- 006 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正：胆膵疾患に対するEUS-FNAの現況. 最新医学, 68(8):1743-1750, 2013.
- 007 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正：胆道ドレナージ術 悪性中下部胆道閉塞 非切除例に対するEUS-guided choledochoduodenostomy(EUS-CDS)(解説/特集). 胆と膵, 4(臨増特大):833-840,2013.
- 008 佐藤高光, 脇岡 範, 今岡 大, 原 和生, 水野伸匡, 清水泰博, 山雄健次：MCNとSCN MCN臨床像 非典型例をどうとらえるか(男性,頭部),卵巣型間質は必須か. 肝胆膵, 67(5):725-732, 2013.
- 009 近藤真也, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 安藤貴文, 後藤秀実, 山雄健次, 丹羽康正：H.pylori除菌後長期経過による内視鏡像の変化 H.pylori除菌療法奏功後に組織学的再発を認めた胃MALTリンパ腫におけるwatch and waitの妥当性(解説/特集). 消化器内科, 57(2):Page157-162, 2013.
- 010 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次：特集 膵炎・膵腫瘍の画像診断 IPMNの画像診断. 画像診断, 33(8):899-911, 2013.
- 011 脇岡 範：ここが知りたい!膵管内乳頭粘液性腫瘍.膵炎・膵腫瘍の画像診断,33(14):1603-1604,2013.
- 012 與儀竜治, 山雄健次：見開きでズバリ解説!チャートマップで看護がみえる 手術以外の治療と検査 内視鏡的逆行性胆管膵管造影法(ERCP). 消化器外科Nursing, 19(1):38-39, 2014.
- 013 與儀竜治, 山雄健次：見開きでズバリ解説!チャートマップで看護がみえる 手術以外の治療と検査 内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST),内視鏡的乳頭バルーン拡張術(EPBD). 消化器外科Nursing, 19(1):40-41, 2014.
- 014 與儀竜治, 山雄健次：見開きでズバリ解説!チャートマップで看護がみえる 手術以外の治療と検査 超音波内視鏡下穿刺吸引生検法(EUS-FNA)(図説/特集). 消化器外科Nursing, 19(1):54-55, 2014.
- 015 石原健二, 原 和生, 山雄健次：Diagnostic and Interventional EUS-現状と将来展望 EUS下胆道ドレナージ 経十二指腸ルートを中心に. 臨床消化器内科, 28(13):1737-1743, 2013.
- 016 佐藤高光, 脇岡 範, 今岡 大, 原 和生, 水野伸匡, 清水泰博, 山雄健次：IPMN/MCN診療の転換期-日本の成績が示すものは- MCNとSCN MCN臨床像 非典型例をどうとらえるか(男性,頭部),卵巣型間質は必須か. 肝・胆・膵, 67(5):725-732, 2013.
- 017 水野伸匡, 今岡 大, 原 和生, 脇岡 範, 山雄健次：膵がん治療の新たな展開 エルロチニブをどう使うか?. 腫瘍内科, 12(3):288-292, 2013.
- 018 伊藤鉄英, 五十嵐久人, 奥坂拓志, 山雄健次, 西田俊朗, 森実千種, 今村正之：膵・胆道癌薬物療法:臨床試験を読む!-最新の動向と実地診療へのインパクト- 膵神経内分泌腫瘍に対するスニチニブの有用性. 胆と膵,34(8):657-661, 2013.
- 019 小倉 健, 山雄健次, 樋口和秀：膵臓と胆嚢・胆管疾患の診断と治療:アップデート 総論 膵臓疾患オーバービュー. 診断と治療, 101(5):666-673, 2013.
- 020 長谷川俊之, 脇岡 範, 山雄健次：神経内分泌腫瘍を知り尽くす 膵神経内分泌腫瘍の画像診断. Mebio, 30(4):34-43, 2013.
- 021 北野雅之, 中井陽介, 山雄健次：消化器疾患における超音波内視鏡検査-現況と将来展望- 消化器疾患に対する超音波内視鏡検査 欧米と日本. 最新医学, 68(8):1677-1693, 2013.
- 022 宮崎 勝, 伊藤鉄英, 山雄健次, 土井隆一郎：GEPNETの最前線 GEPNETの最前線. 肝・胆・膵, 66(5):845-858, 2013.

[分担執筆]

- 001 *Susumu Hijioka, Vikram Bhatia, Kenji Yamao*
: Chapter6 Endosonography. Intraductal Papillary
Mucinous Neoplasm of the Pancreas : 67-79, 2013.
- 002 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永
塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉
俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康
正: 十二指腸粘膜下腫瘍. これで納得! 画像で見ぬく消化管
疾患 vol.1 上部消化管:188-193, 2013.

内視鏡部

[原著]

- 001 *Hara K, Yamao K, Hijioka S, Mizuno N, Imaoka
H, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Haba S, Takeshi
O, Nagashio Y, Obayashi T, Shinagawa A,
Bhatia V, Shimizu Y, Goto H, Niwa Y* : Prospective
clinical study of endoscopic ultrasound-guided
choledochoduodenostomy with direct metallic stent
placement using a forward-viewing echoendoscope.
Endoscopy,45(5):392-396,2013.
- 002 *Ogura T, Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S,
Imaoka H, Sawaki A, Niwa Y, Tajika M, Kondo S,
Tanaka T, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda
W, Yatabe Y* : Prognostic value of K-ras mutation
status and subtypes in endoscopic ultrasound-guided
fine-needle aspiration specimens from patients with
unresectable pancreatic cancer. Journal of Gastroenterol
ogy,48(5):640-646,2013.
- 003 *Haba S, Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Hara K,
Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo
S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W,
Kawakami H, Sakamoto N* : Diagnostic ability and
factors affecting accuracy of endoscopic ultrasound-
guided fine needle aspiration for pancreatic solid lesions:
Japanese large single center experience. Journal of Gast
roenterology,48(8):973-981,2013.
- 004 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Tanaka T, Ishihara
M, Yamao K* : Risk of ileal pouch neoplasms in patients
with familial adenomatous polyposis. World J Gastroent
erol.19(40):6774-6783,2013.
- 005 *Hasegawa T, Yamao K, Hijioka S, Bhatia V, Mizuno
N, Hara K, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo
S, Tanaka T, Shimizu Y, Kinoshita T, Kohsaki T,
Nishimori I, Iwasaki S, Saibara T, Hosoda W, Yatabe
Y* : Evaluation of Ki-67 index in EUS-FNA specimens
for the assessment of malignancy risk in pancreatic
neuroendocrine tumors . Endoscopy,46(1):32-38,2014.
- 006 *Imaoka H, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S,
Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Ogura T, Obayashi T,
Hasegawa T, Niwa Y, Yamao K* : Clinical characteristics

of adenosquamous carcinoma of the pancreas: a matched
case-control study. Pancreas,43(2):287-290,2014.

- 007 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原
和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大
林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原
健二, 山雄健次: 家族性大腸腺腫症における大腸切除術後
の残存腸管に発生する腺腫および腺癌の検討. 家族性腫瘍,
13(1) : 17-21, 2013.
- 008 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正: 残胃に発生し
た未分化型早期胃癌への内視鏡治療の適応拡大. 消化器内
科, 58(3) : 325-329, 2014.
- 009 丹羽康正, 神代龍吉, 杉山敏郎, 兵頭一之介, 那須淳一
郎, 松浦文三, 山口幸二, 中山健夫, 森實敏夫, 鹿毛政義,
角谷眞澄: 消化器病専門医研修カリキュラム改訂: 総論. 日
本消化器病学会, 110(5) : 796-800, 2013.
- 010 田近正洋, 松尾恵太郎, 石原 誠, 田中 努, 丹羽康正:
特集・H. pylori除菌療法と胃癌撲滅へのロードマップ【H.
pylori関連胃癌の特徴と対策に迫る】胃MALTリンパ腫の
除菌後に発生する癌~その特徴と対策. 消化器の臨床, 16(3)
: 413-418, 2013.

[症例報告]

- 001 大林友彦, 丹羽康正, 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 水
野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 菅野
雅人, 谷田部 恭: 食道表在癌にpyogenic granulomaを合
併した1例. 胃と腸, 48(13) : 1961-1966, 2013.
- 002 大林友彦, 丹羽康正, 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 水
野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 菅野
雅人, 谷田部 恭: 食道表在癌にpyogenic granulomaを合
併した1例. 胃と腸, 48(13) : 1961-1966, 2013.

[総説、その他]

- 001 近藤真也, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇
岡 範, 今岡 大, 安藤貴文, 後藤秀実, 山雄健次, 丹羽
康正: H.pylori除菌療法奏功後に組織学的再発を認めた胃
MALTリンパ腫におけるwatch and waitの妥当性. 消化器
内科, 57(2) : 157-162, 2013.
- 002 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永
塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉
俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康
真正: EUS-FNAの現況 胆膵疾患に対するEUS-FNAの現
況. 最新医学, 68(8) : 1743-1750, 2013.
- 003 近藤真也, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇
岡 範, 今岡 大, 安藤貴文, 後藤秀実, 山雄健次, 丹
羽康正: H.pylori除菌後長期経過による内視鏡像の変化【
H.pylori除菌療法奏功後に組織学的再発を認めた胃MALT
リンパ腫におけるwatch and waitの妥当性(解説/特集). 消
化器内科, 57(2) : 157-162, 2013.
- 004 丹羽康正, 西川 孝: 胃X線造影検査専門技師になるため
の必携テキスト. ぱーそん書房, 2013.
- 005 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 清
水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 特集 膵炎・膵腫瘍の画像診

断 IPMNの画像診断. 画像診断, 33(8): 899-911, 2013.

- 006 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 胆膵疾患に対するEUS-FNAの現況. 最新医学, 68(8): 1743-1750, 2013.

[分担執筆]

- 001 田近正洋, 中村常哉, 浅香正博, 菅野健太郎, 千葉 勉: 2胃・十二指腸疾患 ②胃非上皮性腫瘍 その他のリンパ腫. 消化器病学 基礎と臨床: 763-767, 2013.
- 002 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 胆道ドレナージ術 悪性中下部胆道閉塞 非切除例に対するEUS-guided choledochoduodenostomy(EUS-CDS)(解説/特集). 胆と膵, 34(臨増特大): 833-840, 2013.
- 003 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 坂本康成, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 十二指腸粘膜下腫瘍. これで納得! 画像で見ぬく消化管疾患 vol.1 上部消化管: 188-193, 2013.

呼吸器内科部

[原著]

- 001 *Park J, Yamaura H, Yatabe Y, Hosoda W, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K, Tanaka K, Oguri T, Kobayashi Y, Hida T.*: Anaplastic lymphoma kinase gene rearrangements in patients with advanced-stage non-small cell lung cancer: CT characteristics and response to chemotherapy. *Cancer Med*, 3(1):118-123, 2014.
- 002 *Kubota K, Hida T, Ishikura S, Mizusawa J, Nishio M, Kawahara M, Yokoyama A, Imamura F, Takeda K, Negoro S, Harada M, Okamoto H, Yamamoto N, Shinkai T, Sakai H, Matsui K, Nakagawa K, Shibata T, Saijo N, Tamura T.*: Etoposide and cisplatin versus irinotecan and cisplatin in patients with limited-stage small-cell lung cancer treated with etoposide and cisplatin plus concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy (JCOG0202): a randomised phase 3 study. *Lancet Oncol*, 15(1):106-113, 2014.
- 003 *Park J, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K, Hida T.*: EGFR exon 19 insertions show good response to gefitinib, but short time to progression in Japanese patients. *J Thorac Oncol*, 9(2):e10-11, 2014.
- 004 *Ito H, Gallus S, Hosono S, Oze I, Fukumoto K, Yatabe Y, Hida T, Mitsudomi T, Negri E, Yokoi K, Tajima K, Vecchia CL, Tanaka H, Matsuo K.*: Time to first cigarette and lung cancer risk in Japan. *Ann*

Oncol, 24(11): 2870-2875, 2013.

- 005 *Park J, Yoshida K, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Hijioka S, Hida T.*: Crizotinib-induced esophageal ulceration: a novel adverse event of crizotinib. *Lung Cancer*, 81(3):495-496, 2013.
- 006 *Tanaka K, Hata A, Kaji R, Fujita S, Otoshi T, Fujimoto D, Kawamura T, Tamai K, Takeshita J, Matsumoto T, Monden K, Nagata K, Otsuka K, Nakagawa A, Tachikawa R, Otsuka K, Tomii K, Katakami N.*: Cytokeratin 19 fragment predicts the efficacy of epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor in non-small-cell lung cancer harboring EGFR mutation. *J Thorac Oncol*, 8(7):892-898, 2013.
- 007 *Katakami N, Atagi S, Goto K, Hida T, Horai T, Inoue A, Ichinose Y, Kobayashi K, Takeda K, Kiura K, Nishio K, Seki Y, Ebisawa R, Shahidi M, Yamamoto N.*: LUX-Lung 4: A phase II trial of afatinib in patients with advanced non-small-cell lung cancer who progressed during prior treatment with erlotinib, gefitinib, or both. *J Clin Oncol*, 31:3335-3341, 2013.
- 008 *Seto T, Kiura K, Nishio M, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yamamoto N, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Takeuchi K, Shimada T, Tanaka T, Tamura T.*: CH5424802 (RO5424802) for patients with ALK-rearranged advanced non-small-cell lung cancer (AF-001JP study): a single-arm, open-label, phase 1-2 study. *Lancet Oncol*, 14(7):590-598, 2013.
- 009 *Goto K, Nishio M, Yamamoto N, Chikamori K, Hida T, Maemondo M, Katakami N, Kozuki T, Yoshioka H, Seto T, Fukuyama T, Tamura T.*: A prospective, phase II, open-label study (JO22903) of first-line erlotinib in Japanese patients with epidermal growth factor receptor (EGFR) mutation-positive advanced non-small-cell lung cancer (NSCLC). *Lung Cancer*, 82(1):109-114, 2013.
- 010 堀尾芳嗣: 【施設紹介】愛知県がんセンター中央病院呼吸器疾患グループ. 気管支学, 35(1): 124-125, 2013.
- 011 清水淳市: 【治療に伴う看護特集 分子標的薬の特徴と看護2013年版】EGFRを標的とする低分子化合物. プロフェッショナルがんナーシング, 3(5): 482-483, 2013.
- 012 清水淳市: 【治療に伴う看護特集 分子標的薬の特徴と看護2013年版】ALKを標的とする分子標的薬. プロフェッショナルがんナーシング, 3(5): 487-489, 2013.
- 013 樋田豊明: 石綿関連疾患のバイオマーカー. 呼吸器内科, 24(5): 475-479, 2013.

血液・細胞療法部

- 001 *Kodera Y, Yamamoto K, Harada M, Morishima Y, Dohy H, Asano S, Ikeda Y, Nakahata T, Imamura M, Kawa K, Kato S, Tanimoto M, Kanda Y,*

- Tanosaki R, Shiobara S, Kim SW, Nagafuji K, Hino M, Miyamura K, Suzuki R, Hamajima N, Fukushima M, Tamakoshi A; for the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation, Halter J, Schmitz N, Niederwieser D, Gratwohl A* : PBSC collection from family donors in Japan: a prospective survey. *Bone Marrow Transplant*. 2013 Sep 30. doi: 10.1038/bmt.2013.147. [Epub ahead of print] (PMID: 24076552)
- 002 *Ogura Michinori, Ando Kiyoshi, Suzuki Tatsuya, Ishizawa Kenichi, Sung Yong Oh, Itoh Kuniaki, Yamamoto Kazuhito, Wing Yan Au, Hwei-Fang Tien, Matsuno Yoshihiro, Terauchi Takashi, Yamamoto Keiko, Mori Masahiko, Tanaka Yoshinobu, Shimamoto Takashi, Tobinai Kensei, Won Seog Kim* : A Multicenter Phase II Study of Vorinostat in Patients with Relapsed or Refractory Indolent B-cell Non-Hodgkin Lymphoma and Mantle Cell Lymphoma. *Br J Haematol*. 2014 Mar 12. doi: 10.1111/bjh.12819. [Epub ahead of print] (PMID: 24616310)
- 003 *Ogura Michinori, Ishida Takashi, Hatake Kiyohiko, Taniwaki Masafumi, Ando Kiyoshi, Tobinai Kensei, Fujimoto Katsuya, Yamamoto Kazuhito, Miyamoto Toshihiro, Uike Naokuni, Tanimoto Mitsune, Tsukasaki Kunihiko, Ishizawa Kenichi, Suzumiya Junji, Inagaki Hiroshi, Tamura Kazuo, Akinaga Shiro, Tomonaga Masao, Ueda Ryuzo* : Multicenter phase II study of mogamulizumab (KW-0761), a defucosylated anti-CCR4 antibody, in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma and cutaneous T-cell lymphoma. *J Clin Oncol*. 2014; 32(11):1157-63. (PMID: 24616310)
- 004 *Liu F, Yoshida N, Suguro M, Kato H, Karube K, Arita K, Yamamoto K, Tsuzuki S, Oshima K, Seto M* : Clonal heterogeneity of mantle cell lymphoma revealed by array comparative genomic hybridization. *Eur J Haematol*, 90: 51-58, 2013.
- 005 *Karube K, Tsuzuki S, Yoshida N, Arita K, Kato H, Katayama M, Ko Y-H, Ohshima K, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M* : Comprehensive gene expression profiles of NK cell neoplasms identify vorinostat as an effective drug candidate. *Cancer Lett*, 333: 47-55, 2013.
- 006 *Kanamori H, Mizuta S, Kako S, Kato H, Nishiwaki S, Imai K, Shigematsu A, Nakamae H, Tanaka M, Ikegame K, Yujiri T, Fukuda T, Minagawa K, Eto T, Nagamura-Inoue T, Morishima Y, Suzuki R, Sakamaki H, Tanaka J* : Reduced-intensity allogeneic stem cell transplantation for patients aged 50 years or older with B-cell ALL in remission: a retrospective study by the Adult ALL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. *Bone Marrow Transplant*. 2013 Nov;48(12):1513-8.
- 007 *Chihara D, Kagami Y, Kato H, Yoshida N, Kiyono T, Okada Y, Kinoshita T, Seto M* : IL2/IL-4, OX40L and FDC-like cell line support the in vitro tumor cell growth of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Leuk Res*. 2014 May;38(5):608-12. doi: 10.1016/j.leukres.2014.03.003. Epub 2014 Mar 12.
- 008 *Hirano D, Kato H, Kodaira T, Yatabe Y, Ueda N, Murakami S, Higuchi Y, Taji H, Nakamura S, Yamamoto K, Kinoshita T* : Salvage therapy with single agent L-asparaginase followed by local irradiation in an elderly patient with CD56-positive primary isolated extramedullary T-cell lymphoblastic lymphoma of the sinus. *Ann Hematol*. 2014 Jun 20. [Epub ahead of print]
- 009 *Tokunaga T, Tomita A, Sugimoto K, Shimada K, Iriyama C, Hirose T, Shirahata-Adachi M, Suzuki Y, Mizuno H, Kiyoi H, Asano N, Nakamura S, Kinoshita T, Naoe T* : De novo diffuse large B-cell lymphoma with a CD20 immunohistochemistry-positive and flow cytometry-negative phenotype: molecular mechanisms and correlation with rituximab sensitivity. *Cancer science*. 2014;105(1):35-43.
- 010 *Suguro M, Yoshida N, Umino A, Kato H, Tagawa H, Nakagawa M, Fukuhara N, Karnan S, Takeuchi I, Hocking TD, Arita K, Karube K, Tsuzuki S, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M* : Clonal heterogeneity of lymphoid malignancies correlates with poor prognosis. *Cancer science*. 2014;105(7):897-904.
- 011 *Morishima S, Nakamura S, Yamamoto K, Miyauchi H, Kagami Y, Kinoshita T, Onoda H, Yatabe Y, Ito M, Miyamura K, Nagai H, Moritani S, Sugiura I, Tsushita K, Mihara H, Ohbayashi K, Iba S, Emi N, Okamoto M, Iwata S, Kimura H, Kuzushima K, Morishima Y* : Increased Tcell responses to EBV with high viral load in patients with EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma. *Leukemia & lymphoma*. 2014:1-24.
- 012 *Kinoshita T* : [Peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified (PTCL-NOS)]. *Nihon rinsho Japanese journal of clinical medicine*. 2014;72(3):512-8.
- 013 *Kato H, Karube K, Yamamoto K, Takizawa J, Tsuzuki S, Yatabe Y, Kanda T, Katayama M, Ozawa Y, Ishitsuka K, Okamoto M, Kinoshita T, Ohshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M* : Gene expression profiling of Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly reveals alterations of characteristic oncogenetic pathways. *Cancer science*. 2014;105(5):537-44.
- 014 *Elsayed AA, Asano N, Ohshima K, Izutsu K, Kinoshita T, Nakamura S* : Prognostic significance of CD20 expression and Epstein-Barr virus (EBV) association in classical Hodgkin lymphoma in Japan: A clinicopathologic study. *Pathology international*.

- 2014;64(7):336-45.
- 015 **Takata K, Sato Y, Nakamura N, Tokunaka M, Miki Y, Yukie Kikuti Y, Igarashi K, Ito E, Harigae H, Kato S, Hayashi E, Oka T, Hoshii Y, Tari A, Okada H, Mohamad AA, Maeda Y, Tanimoto M, Kinoshita T, Yoshino T** : Duodenal follicular lymphoma lacks AID but expresses BACH2 and has memory B-cell characteristics. *Modern pathology : an official journal of the United States and Canadian Academy of Pathology, Inc.* 2013;26(1):22-31. Epub 2012/08/18.
- 016 **Ogura M, Itoh K, Ishizawa K, Kobayashi Y, Tobinai K, Kinoshita T, Hirano M, Ueda R, Shibata T, Nakamura S, Tsukasaki K, Hotta T, Shimoyama M, Morishima Y, Lymphoma Study Group of Japan Clinical Oncology G** : Phase II study of ABV (doxorubicin with increased dose, bleomycin and vinblastine) therapy in newly diagnosed advanced-stage Hodgkin lymphoma: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG9705). *Leukemia & lymphoma.* 2013;54(1):46-52.
- 017 **Nakamura M, Ohmiya N, Hirooka Y, Miyahara R, Ando T, Watanabe O, Itoh A, Kawashima H, Ohno E, Kinoshita T, Goto H** : Endoscopic diagnosis of follicular lymphoma with small-bowel involvement using video capsule endoscopy and double-balloon endoscopy: a case series. *Endoscopy.* 2013;45(1):67-70. Epub 2012/12/05.
- 018 **Kawabata H, Takai K, Kojima M, Nakamura N, Aoki S, Nakamura S, Kinoshita T, Masaki Y** : Castleman-Kojima disease (TAFRO syndrome) : a novel systemic inflammatory disease characterized by a constellation of symptoms, namely, thrombocytopenia, ascites (anasarca), microcytic anemia, myelofibrosis, renal dysfunction, and organomegaly : a status report and summary of Fukushima (6 June, 2012) and Nagoya meetings (22 September, 2012). *Journal of clinical and experimental hematopathology : JCEH.* 2013;53(1):57-61.
- 019 **Kato S, Miyata T, Takata K, Shimada S, Ito Y, Tomita A, Elsayed AA, Takahashi E, Asano N, Kinoshita T, Kimura H, Nakamura S** : Epstein-Barr virus-positive cytotoxic T-cell lymphoma followed by chronic active Epstein-Barr virus infection-associated T/NK-cell lymphoproliferative disorder: a case report. *Human pathology.* 2013;44(12):2849-52.
- 020 **木下朝博** : 悪性リンパ腫 Hodgkin リンパ腫. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズNo.23 血液症候群(第2版)—その他の血液疾患を含めて—III IX造血管腫瘍と類縁疾患 2013.5.20
- 021 **木下朝博** : リンパ腫に対する新しい選択治療 抗CD30抗体. *臨床腫瘍*, 11 (3) ,342-346,2013
- 022 **木下朝博** : 悪性リンパ腫の現状と将来. *癌の臨床* 第59巻第3号, 237-243, 2013.06
- 023 **木下朝博** : 未分化大細胞型リンパ腫の病態と治療 ; *Trends in Hematological Malignancies Vol.5 No02*, 2013
- 024 **木下朝博, 大島孝一, 鈴木律朗, 山口素子** : T/NK細胞リンパ腫の病態・治療研究の進歩. *Trends in Hematological Malignancies Vol.5 No.2*, 2013
- 025 **木下朝博** : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL) —最新データに基づく初回治療方針. *Mebio Vol.30 No.8*, 16-23, 2013
- 026 **木下朝博, 飛内賢正** : 日本血液学会による悪性リンパ腫に関する診療ガイドライン. *日本医師会雑誌* 第142巻・第5号, 1071-1075, 2014
- 027 **木下朝博** : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の診療と研究 : 現在の到達点と今後の課題. *血液内科 Vol.67 No.1:1-8*, 2013
- 028 **木下朝博, 飛内賢正** : 日本血液学会による悪性リンパ腫に関する診療ガイドライン. 別冊 *日本医師会雑誌* 第142巻 第5号 : 1071-1075, 2013
- 029 **木下朝博** : Rituximab eraにおけるB細胞リンパ腫に対する治療. *最新医学*, 第68巻第10号 (2013年10月号別冊), 90-95, 2013
- 030 **木下朝博** : 未梢性T細胞リンパ腫—非特定型. *日本臨床* 第72巻・第3号 (平成26年3月号), 512-518, 2013
- 031 **木下朝博** : 治療効果判断・経過観察、プリンシプル血液疾患の臨床 リンパ腫・骨髄腫の最新療法 中山書店, (101-107) , 2014.3.10
- 032 **加藤春美** : 濾胞性リンパ腫とマントル細胞リンパ腫患者における採取自家造血幹細胞中の微小残存病変検出の臨床的意義. *血液内科*, 第66号4号 p.521-530 2013年4月

薬物療法部

- 001 **Shitara K, Yatabe Y, Matsuo K, Sugano M, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Ito S, Muro K** : Prognosis of patients with advanced gastric cancer by HER2 status and trastuzumab treatment. *Gastric Cancer*, 16:261-267, 2013
- 002 **Shitara K, Yuki S, Yamazaki K, Naito Y, Fukushima H, Komatsu Y, Yasui H, Takano T, Muro K** : Validation study of a prognostic classification in patients with metastatic colorectal cancer who received irinotecan-based second-line chemotherapy. *J Cancer Res Clin Oncol*, 139: 595-603, 2013.
- 003 **Yamamoto N, Murakami H, Nishina T, Hirashima T, Sugio K, Muro K, Takahashi T, Naito T, Yasui H, Akinaga S, Koh Y, Boku N** : The effect of CYP2C19 polymorphism on the safety, tolerability, and pharmacokinetics of tivantinib (ARQ 197): results from a phase I trial in advanced solid tumors. *Annals of Oncology*, 24:1653-1659, 2013.
- 004 **Nomura M, Inoue K, Matsushita S, Takahari D, Kondoh C, Shitara K, Ura T, Hayashi K, Kojima**

- H, Kamata M, Tatematsu M, Hosoda R, Sawada S, Oka H, Muro K* : Serum Concentration of Fentanyl During Conversion From Intravenous to Transdermal Administration to Patients With Chronic Cancer Pain. *Clin J Pain*, 29:487-491, 2013.
- 005 *Shitara K, Sawaki A, Matsuo K, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Niwa Y, Muro K* : A retrospective comparison of S-1 plus cisplatin and capecitabine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer. *Int J Clin Oncol*, 18:539-46, 2013.
- 006 *Kato K, Eguchi Nakajima T, Ito Y, Katada C, Ishiyama H, Tokunaga SY, Tanaka M, Hironaka S, Hashimoto T, Ura T, Kodaira T, Yoshimura K* : Phase II Study of Concurrent Chemoradiotherapy at the Dose of 50.4 Gy with Elective Nodal Irradiation for Stage II-III Esophageal Carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*, 43:608-615, 2013.
- 007 *Shitara K, Matsuo K, Muro K, Doi T, Ohtsu A* : Progression-free survival and post-progression survival in patients with advanced gastric cancer treated with first-line chemotherapy. *J Cancer Res Clin Oncol*, 139(8):1383-9, 2013.
- 008 *Satoh T, Yasui H, Muro K, Komatsu Y, Sameshima S, Yamaguchi K, Sugihara K* : Pharmacokinetic Assessment of Irinotecan, SN-38, and SN-38-Glucuronide: A Substudy of the FIRIS Study. *Anticancer Res*, 33(9):3845-53, 2013.
- 009 *Doi T, Muro K, Yoshino T, Fuse N, Ura T, Takahari D, Feng HP, Shimamoto T, Noguchi K, Ohtsu A* : Phase 1 pharmacokinetic study of MK-0646 (dalotuzumab), an anti-insulin-like growth factor-1 receptor monoclonal antibody, in combination with cetuximab and irinotecan in Japanese patients with advanced colorectal cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 72(3):643-52, 2013.
- 010 *Kadowaki S, Yatabe Y, Hirakawa H, Komori A, Kondoh C, Hasegawa Y, Muro K* : Complete Response to Trastuzumab-Based Chemotherapy in a Patient with Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-Positive Metastatic Salivary Duct Carcinoma ex Pleomorphic Adenoma. *Case Rep Oncol*, 6(3):450-5, 2013.
- 011 *Koizumi W, Yamaguchi K, Hosaka H, Takinishi Y, Nakayama N, Hara T, Muro K, Baba H, Sasaki Y, Nishina T* : N Fuse11, T Esaki12, M Takagi13, M Gotoh14 and T Sasaki15 Randomised phase II study of S-1/cisplatin plus TSU-68 vs S-1/cisplatin in patients with advanced gastric cancer. *Br J Cancer*, 109(8):2079-86, 2013.
- 012 *Ohtsu A, Ajani JA, Bai YX, Bang YJ, Chung HC, Pan HM, Sahmoud T, Shen L, Yeh KH, Chin K, Muro K, Kim YH, Ferry D, Tebbutt NC, Al-Batran SE, Smith H, Costantini C, Rizvi S, Lebwohl D, Van Cutsem E* : Everolimus for Previously Treated Advanced Gastric Cancer: Results of the Randomized, Double-Blind, Phase III GRANITE-1 Study. *J Clin Oncol*, 31(31):3935-43, 2013.
- 013 *Nishina T, Takano Y, Denda T, Yasui H, Takeda K, Ura T, Esaki T, Okuyama Y, Kondo K, Takahashi Y, Sugiyama Y, Muro K* : A Phase II Clinical Study of mFOLFOX6 Plus Bevacizumab as First-line Therapy for Japanese Advanced/Recurrent Colorectal Cancer Patients. *Jpn J Clin Oncol*, 43(11):1080-6, 2013.
- 014 *Yamada Y, Takahari D, Matsumoto H, Baba H, Nakamura M, Yoshida K, Yoshida M, Iwamoto S, Shimada K, Komatsu Y, Sasaki Y, Satoh T, Takahashi K, Mishima H, Muro K, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shimada Y, Sugihara K* : Leucovorin, fluorouracil, and oxaliplatin plus bevacizumab versus S-1 and oxaliplatin plus bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer (SOFT): an open-label, non-inferiority, randomised phase 3 trial. *Lancet Oncol*, 14(13):1278-86, 2013.
- 015 *Shitara K, Yuki S, Tahahari D, Nakamura M, Kondo C, Tsuda T, Kii T, Tsuji Y, Utsunomiya S, Ichikawa D, Hosokawa A, Ishiguro A, Sakai D, Hironaka S, Oze I, Matsuo K, Muro K* : Randomised phase II study comparing dose-escalated weekly paclitaxel vs standard-dose weekly paclitaxel for patients with previously treated advanced gastric cancer. *Br J Cancer*, 110(2):271-7, 2014.
- 016 *Narita Y, Taniguchi H, Komori A, Nitta S, Yamaguchi K, Kondo C, Nomura M, Kadowaki S, Takahari D, Ura T, Andoh M, Muro K* : CA19-9 level as a prognostic and predictive factor of bevacizumab efficacy in metastatic colorectal cancer patients undergoing oxaliplatin-based chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol*, 73(2): 409-16, 2014.
- 017 *Raizer JJI, Grimm SA, Rademaker A, Chandler JP, Muro K, Helenowski I, Rice L, McCarthy K, Johnston SK, Mrugala MM, Chamberlain M* : A phase II trial of PTK787/ZK 222584 in recurrent or progressive radiation and surgery refractory meningiomas. *J Neurooncol*, 117(1):93-101, 2014.
- 018 *Boku N, Sugihara K, Kitagawa Y, Hatake K, Gemma A, Yamazaki N, Muro K, Hamaguchi T, Yoshino T, Yana I, Ueno H, Ohtsu A* : Panitumumab in Japanese Patients with Unresectable Colorectal Cancer: A Post-marketing Surveillance Study of 3085 Patients. *Jpn J Clin Oncol*, 44(3):214-23, 2014.
- 019 *Kadowaki S, Yatabe Y, Nitta S, Ito Y, Muro K* : Durable response of human epidermal growth factor receptor-2-positive gastric adenocarcinoma to trastuzumab-based chemotherapy. *Case Rep Oncol*, 19:7(1):210-6, 2014.

- 020 新田壮平, 室 圭: 食道癌 化学・放射線療法の最前線. *Frontiers in Gastroenterology*, 18, 43-50, 2013.
- 021 室 圭: 大腸がん化学療法におけるチーム医療の重要性～チーム医療で支えるがん治療～. 癌と化学療法40巻, 435-447, 2013.
- 022 小森 梓, 室 圭: 播種性血管内凝固症候群. 成人病と生活習慣病 43, 524-528, 2013.
- 023 門脇重憲: 食道炎, 口腔粘膜炎. 消化器がん化学療法レジメンブック. 編集: 室 圭. 日本医事新報社, 2013.
- 024 室 圭 (編集): 消化器がん化学療法レジメンブック. 2013.
- 025 高張大亮: 胃癌に対する術前・術後補助化学療法の新しい取り組み. 腫瘍内科 11:503-507, 2013.
- 026 門脇重憲: 大腸癌に対する術後補助化学療法の新しい展開 (OncotypeDx®含む). 腫瘍内科 11:553-561, 2013.
- 027 小森 梓, 門脇重憲: 胃癌におけるゲノム変化の包括的解析による治療標的分子間の系統的発現パターンの解明(文献紹介). 胃がんperspective vol.6 No.3:54-6, 2013.
- 028 門脇重憲, 室 圭: MET阻害薬の特徴と臨床開発. 腫瘍内科 12(3), 化学評論社:337-45, 2013.
- 029 谷口浩也: 分子標的薬がよく分かる6のポイント. プロフェッショナルがんナーシング 5:4-9, 2013.
- 030 室 圭 (序文): 大腸癌に対するレゴラフェニブ. 2013. 10月
- 031 上垣史緒理, 谷口浩也, 室 圭: PEF or OS 2)大腸がん. 腫瘍内科 12(4): 410-7, 2013.
- 032 山口和久, 室 圭: 3食道癌の薬物療法 a)切除不能・再発癌. 外科 Vol.75 No.12, 2013.
- 033 成田有季哉, 室 圭: 胃癌に対するアブラキサンのエビデンスと適応. 腫瘍内科12(5): 596-604, 2013.
034. 門脇重憲, 室 圭: StageIV胃癌化学療法における長期生存の検討. 臨床外科 68(13):1410-5, 2013.
- 035 新田壮平, 高張大亮: 術後補助化学療法の現状. 日本臨床 72巻 増刊号 1,480-4, 2014.
- 036 小森 梓, 室 圭: 5) 切除不能進行・再発大腸癌に対する化学療法のレジメン選択のコンセプト. 大腸疾患NOW 2014:67-75, 2014.
- 037 野村基雄, 室 圭: 食道がん. 日本臨床 72 増刊号2:341-5, 2014.
- 038 新田壮平, 室 圭: 大腸がん化学療法の基本的な治療方針 (ガイドラインの方向性を踏まえて). 月刊Mebio Vol.31 No.3:6-12, 2014.
- 039 成田有季哉, 谷口浩也: 大腸癌に対する抗体療法. 最新医学 69(3):107-18, 2014. 3月

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Bojesen SE, Pooley KA, Johnatty SE, Beesley J, Michailidou K, Tyrer JP, Edwards SL, Pickett HA, Shen HC, Smart CE, Hillman KM, Mai PL, Lawrenson K, Stutz MD, Lu Y, Karevan R, Woods*

- N, Johnston RL, French JD, Chen X, Weischer M, Nielsen SF, Maranian MJ, Ghousaini M, Ahmed S, Baynes C, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, McGuffog L, Barrowdale D, Lee A, Healey S, Lush M, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Vergote I, Lambrechts S, Despierre E, Risch HA, Gonzalez-Neira A, Rossing MA, Pita G, Doherty JA, Alvarez N, Larson MC, Fridley BL, Schoof N, Chang-Claude J, Cicek MS, Peto J, Kalli KR, Broeks A, Armasu SM, Schmidt MK, Braaf LM, Winterhoff B, Nevanlinna H, Konecny GE, Lambrechts D, Rogmann L, Guenel P, Teoman A, Milne RL, Garcia JJ, Cox A, Shridhar V, Burwinkel B, Marme F, Hein R, Sawyer EJ, Haiman CA, Wang-Gohrke S, Andrulis IL, Moysich KB, Hopper JL, Odunsi K, Lindblom A, Giles GG, Brenner H, Simard J, Lurie G, Fasching PA, Carney ME, Radice P, Wilkens LR, Swerdlow A, Goodman MT, Brauch H, Garcia-Closas M, Hillemanns P, Winqvist R, Durst M, Devilee P, Runnebaum I, Jakubowska A, Lubinski J, Mannermaa A, Butzow R, Bogdanova NV, Dork T, Pelttari LM, Zheng W, Leminen A, Anton-Culver H, Bunker CH, Kristensen V, Ness RB, Muir K, Edwards R, Meindl A, Heitz F, Matsuo K, du Bois A, Wu AH, Harter P, Teo SH, Schwaab I, Shu XO, Blot W, Hosono S, Kang D, Nakanishi T, Hartman M, Yatabe Y, Hamann U, Karlan BY, Sangrajrang S, Kjaer SK, Gaborieau V, Jensen A, Eccles D, Hogdall E, Shen CY, Brown J, Woo YL, Shah M, Azmi MA, Luben R, Omar SZ, Czene K, Vierkant RA, Nordestgaard BG, Flyger H, Vachon C, Olson JE, Wang X, Levine DA, Rudolph A, Weber RP, Flesch-Janys D, Iversen E, Nickels S, Schildkraut JM, Silva Idos S, Cramer DW, Gibson L, Terry KL, Fletcher O, Vitonis AF, van der Schoot CE, Poole EM, Hogervorst FB, Tworoger SS, Liu J, Bandera EV, Li J, Olson SH, Humphreys K, Orlov I, Blomqvist C, Rodriguez-Rodriguez L, Aittomaki K, Salvesen HB, Muranen TA, Wik E, Brouwers B, Krakstad C, Wauters E, Halle MK, Wildiers H, Kiemeny LA, Mulot C, Aben KK, Laurent-Puig J, Altena AM, Truong T, Massuger LF, Benitez J, Pejovic T, Perez JI, Hoatlin M, Zamora MP, Cook LS, Balasubramanian SP, Kelemen LE, Schneeweiss A, Le ND, Sohn C, Brooks-Wilson A, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Cybulski C, Henderson BE, Menkiszak J, Schumacher F, Wentzensen N, Le Marchand L, Yang HP, Mulligan AM, Glendon G, Engelholm SA, Knight JA, Hogdall CK, Apicella C, Gore M, Tsimiklis H, Song H, Southey MC, Jager A, den Ouweland AM, Brown R, Martens JW, Flanagan JM, Kriege*

- M, Paul J, Margolin S, Siddiqui N, Severi G, Whittemore AS, Baglietto L, McGuire V, Stegmaier C, Sieh W, Muller H, Arndt V, Labreche F, Gao YT, Goldberg MS, Yang G, Dumont M, McLaughlin JR, Hartmann A, Ekici AB, Beckmann MW, Phelan CM, Lux MP, Permuth-Wey J, Peissel B, Sellers TA, Ficarazzi F, Barile M, Ziogas A, Ashworth A, Gentry-Maharaj A, Jones M, Ramus SJ, Orr N, Menon U, Pearce CL, Bruning T, Pike MC, Ko YD, Lissowska J, Figueroa J, Kupryjanczyk J, Chanock SJ, Dansonka-Mieszkowska A, Jukkola-Vuorinen A, Rzepecka IK, Pylkas K, Bidzinski M, Kauppila S, Hollestelle A, Seynaeve C, Tollenaar RA, Durda K, Jaworska K, Hartikainen JM, Kosma VM, Kataja V, Antonenkova NN, Long J, Shrubsole M, Deming-Halverson S, Lophatananon A, Siriwanarangsana P, Stewart-Brown S, Ditsch N, Lichtner P, Schmutzler RK, Ito H, Iwata H, Tajima K, Tseng CC, Stram DO, van den Berg D, Yip CH, Ikram MK, Teh YC, Cai H, Lu W, Signorello LB, Cai Q, Noh DY, Yoo KY, Miao H, Iau PT, Teo YY, McKay J, Shapiro C, Ademuyiwa F, Fountzilas G, Hsiung CN, Yu JC, Hou MF, Healey CS, Luccarini C, Peock S, Stoppa-Lyonnet D, Peterlongo P, Rebbeck TR, Piedmonte M, Singer CF, Friedman E, Thomassen M, Offit K, Hansen TV, Neuhausen SL, Szabo CI, Blanco I, Garber J, Narod SA, Weitzel JN, Montagna M, Olah E, Godwin AK, Yannoukakos D, Goldgar DE, Caldes T, Imyanitov EN, Tihomirova L, Arun BK, Campbell I, Mensenkamp AR, van Asperen CJ, van Roozendaal KE, Meijers-Heijboer H, Collee JM, Oosterwijk JC, Hooning MJ, Rookus MA, van der Luijt RB, Os TA, Evans DG, Frost D, Fineberg E, Barwell J, Walker L, Kennedy MJ, Platte R, Davidson R, Ellis SD, Cole T, Bressac-de Pailleters B, Buecher B, Damiola F, Faivre L, Frenay M, Sinilnikova OM, Caron O, Giraud S, Mazoyer S, Bonadona V, Caux-Moncoutier V, Toloczko-Grabarek A, Gronwald J, Byrski T, Spurdle AB, Bonanni B, Zaffaroni D, Giannini G, Bernard L, Dolcetti R, Manoukian S, Arnold N, Engel C, Deissler H, Rhiem K, Niederacher D, Plendl H, Sutter C, Wappenschmidt B, Borg A, Melin B, Rantala J, Soller M, Nathanson KL, Domchek SM, Rodriguez GC, Salani R, Kaulich DG, Tea MK, Paluch SS, Laitman Y, Skytte AB, Kruse TA, Jensen UB, Robson M, Gerdes AM, Ejlersen B, Foretova L, Savage SA, Lester J, Soucy P, Kuchenbaecker KB, Olswold C, Cunningham JM, Slager S, Pankratz VS, Dicks E, Lakhani SR, Couch FJ, Hall P, Monteiro AN, Gayther SA, Pharoah PD, Reddel RR, Goode EL, Greene MH, Easton DF, Berchuck A, Antoniou AC, Chenevix-Trench G and Dunning AM : Multiple independent variants at the TERT locus are associated with telomere length and risks of breast and ovarian cancer. *Nat Genet*, 45: 371-84, 2013.
- 002 Camargo MC, Kim WH, Chiaravalli AM, Kim KM, Corvalan AH, Matsuo K, Yu J, Sung JJ, Herrera-Goepfert R, Meneses-Gonzalez F, Kijima Y, Natsugoe S, Liao LM, Lissowska J, Kim S, Hu N, Gonzalez CA, Yatabe Y, Koriyama C, Hewitt SM, Akiba S, Gulley ML, Taylor PR and Rabkin CS : Improved survival of gastric cancer with tumour Epstein-Barr virus positivity: an international pooled analysis. *Gut*, 2013.
- 003 Garcia-Closas M, Couch FJ, Lindstrom S, Michailidou K, Schmidt MK, Brook MN, Orr N, Rhee SK, Riboli E, Feigelson HS, Le Marchand L, Buring JE, Eccles D, Miron P, Fasching PA, Brauch H, Chang-Claude J, Carpenter J, Godwin AK, Nevanlinna H, Giles GG, Cox A, Hopper JL, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Dicks E, Howat WJ, Schoof N, Bojesen SE, Lambrechts D, Broeks A, Andrulis IL, Guenel P, Burwinkel B, Sawyer EJ, Hollestelle A, Fletcher O, Winquist R, Brenner H, Mannermaa A, Hamann U, Meindl A, Lindblom A, Zheng W, Devilee P, Goldberg MS, Lubinski J, Kristensen V, Swerdlow A, Anton-Culver H, Dork T, Muir K, Matsuo K, Wu AH, Radice P, Teo SH, Shu XO, Blot W, Kang D, Hartman M, Sangrajrang S, Shen CY, Southey MC, Park DJ, Hammet F, Stone J, Veer LJ, Rutgers EJ, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Peto J, Schrauder MG, Ekici AB, Beckmann MW, Dos Santos Silva I, Johnson N, Warren H, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Truong T, Laurent-Puig P, Kerbrat P, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Milne RL, Perez JI, Menendez P, Muller H, Arndt V, Stegmaier C, Lichtner P, Lochmann M, Justenhoven C, Ko YD, Muranen TA, Aittomaki K, Blomquist C, Greco D, Heikkinen T, Ito H, Iwata H, Yatabe Y, Antonenkova NN, Margolin S, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Balleine R, Tseng CC, Berg DV, Stram DO, Neven P, Dieudonne AS, Leunen K, Rudolph A, Nickels S, Flesch-Janys D, Peterlongo P, Peissel B, Bernard L, Olson JE, Wang X, Stevens K, Severi G, Baglietto L, McLean C, Coetzee GA, Feng Y, Henderson BE, Schumacher F, Bogdanova NV, Labreche F, Dumont M, Yip CH, Taib NA, Cheng CY, Shrubsole M, Long J, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Knight JA, Glendon G, Mulligan AM, Tollenaar RA, Seynaeve CM, Kriege M, Hooning MJ, van den Ouweland AM, van Deurzen CH, Lu W, Gao YT, Cai H, Balasubramanian SP, Cross SS, Reed

- MW, Signorello L, Cai Q, Shah M, Miao H, Chan CW, Chia KS, Jakubowska A, Jaworska K, Durda K, Hsiung CN, Wu PE, Yu JC, Ashworth A, Jones M, Tessier DC, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso MR, Vincent D, Bacot F, Ambrosone CB, Bandera EV, John EM, Chen GK, Hu JJ, Rodriguez-Gil JL, Bernstein L, Press MF, Ziegler RG, Millikan RM, Deming-Halverson SL, Nyante S, Ingles SA, Waisfisz Q, Tsimiklis H, Makalic E, Schmidt D, Bui M, Gibson L, Muller-Myhsok B, Schmutzler RK, Hein R, Dahmen N, Beckmann L, Aaltonen K, Czene K, Irwanto A, Liu J, Turnbull C, Rahman N, Meijers-Heijboer H, Uitterlinden AG, Rivadeneira F, Olsowold C, Slager S, Pilarski R, Ademuyiwa F, Konstantopoulou I, Martin NG, Montgomery GW, Slamon DJ, Rauh C, Lux MP, Jud SM, Bruning T, Weaver J, Sharma P, Pathak H, Tapper W, Gerty S, Durcan L, Trichopoulos D, Tumino R, Peeters PH, Kaaks R, Campa D, Canzian F, Weiderpass E, Johansson M, Khaw KT, Travis R, Clavel-Chapelon F, Kolonel LN, Chen C, Beck A, Hankinson SE, Berg CD, Hoover RN, Lissowska J, Figueroa JD, Chasman DI, Gaudet MM, Diver WR, Willett WC, Hunter DJ, Simard J, Benitez J, Dunning AM, Sherman ME, Chenevix-Trench G, Chanock SJ, Hall P, Pharoah PD, Vachon C, Easton DF, Haiman CA and Kraft P : Genome-wide association studies identify four ER negative-specific breast cancer risk loci. *Nat Genet*, 45: 392-8, 2013.
- 004 Haba S, Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W, Kawakami H and Sakamoto N : Diagnostic ability and factors affecting accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic solid lesions: Japanese large single center experience. *Journal of gastroenterology*, 48: 973-81, 2013.
- 005 Hosoda W, Sasaki E, Murakami Y, Yamao K, Shimizu Y and Yatabe Y : BCL10 as a useful marker for pancreatic acinar cell carcinoma, especially using endoscopic ultrasound cytology specimens. *Pathology international*, 63: 176-82, 2013.
- 006 Kobayashi Y, Fukui T, Ito S, Usami N, Hatooka S, Yatabe Y and Mitsudomi T : How long should small lung lesions of ground-glass opacity be followed? *J Thorac Oncol*, 8: 309-14, 2013.
- 007 Matsuo K, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Ishioka K, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K, Nakamura S, Tajima K and Tanaka H. The aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) Glu504Lys polymorphism interacts with alcohol drinking in the risk of stomach cancer. *Carcinogenesis*, 2013.
- 008 Mitsudomi T, Suda K and Yatabe Y : Surgery for NSCLC in the era of personalized medicine. *Nat Rev Clin Oncol*, 10: 235-44, 2013.
- 009 Ogawa Y, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Honda K, Yuuki S, Hirai T and Ikeda M : Association of cerebral small vessel disease with delusions in patients with Alzheimer's disease. *Int J Geriatr Psychiatry*, 28: 18-25, 2013.
- 010 Shitara K, Yatabe Y, Matsuo K, Sugano M, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Ito S and Muro K : Prognosis of patients with advanced gastric cancer by HER2 status and trastuzumab treatment. *Gastric Cancer*, 16: 261-7, 2013.
- 011 Sugano M, Nagasaka T, Sasaki E, Murakami Y, Hosoda W, Hida T, Mitsudomi T and Yatabe Y : HNF4alpha as a marker for invasive mucinous adenocarcinoma of the lung. *Am J Surg Pathol*, 37: 211-8, 2013.
- 012 Tomizawa K, Ito S, Suda K, Fukui T, Usami N, Hatooka S, Kuwano H, Yatabe Y and Mitsudomi T : Solitary pulmonary metastasis from lung cancer harboring EML4-ALK after a 15-year disease-free interval. *Lung Cancer*, 80: 99-101, 2013.
- 013 Travis WD, Brambilla E, Noguchi M, Nicholson AG, Geisinger K, Yatabe Y, Ishikawa Y, Wistuba I, Flieder DB, Franklin W, Gazdar A, Hasleton PS, Henderson DW, Kerr KM, Nakatani Y, Petersen I, Roggli V, Thunnissen E and Tsao M : Diagnosis of lung adenocarcinoma in resected specimens: implications of the 2011 International Association for the Study of Lung Cancer/American Thoracic Society/European Respiratory Society classification. *Arch Pathol Lab Med*, 137: 685-705, 2013.
- 014 Travis WD, Brambilla E, Noguchi M, Nicholson AG, Geisinger K, Yatabe Y, Ishikawa Y, Wistuba I, Flieder DB, Franklin W, Gazdar A, Hasleton PS, Henderson DW, Kerr KM, Nakatani Y, Petersen I, Roggli V, Thunnissen E and Tsao M : Diagnosis of lung adenocarcinoma in resected specimens: implications of the 2011 International Association for the Study of Lung Cancer/American Thoracic Society/European Respiratory Society classification. *Arch Pathol Lab Med*, 137: 685-705, 2013.
- 015 Travis WD, Brambilla E, Noguchi M, Nicholson AG, Geisinger K, Yatabe Y, Ishikawa Y, Wistuba I, Flieder DB, Franklin W, Gazdar A, Hasleton PS, Henderson DW, Kerr KM, Petersen I, Roggli V, Thunnissen E and Tsao M : Diagnosis of lung cancer in small biopsies and cytology: implications of the 2011 International Association for the Study of Lung Cancer/American Thoracic Society/European Respiratory Society classification. *Arch Pathol Lab Med*, 137: 668-84, 2013.

- 016 **Wakai K, Matsuo K, Matsuda F, Yamada R, Takahashi M, Kawaguchi T, Yatabe Y, Ito H, Hosono S, Tajima K, Naito M, Morita E, Yin G, Sakamoto T, Takashima N, Suzuki S, Nakahata N, Mikami H, Ohnaka K, Watanabe Y, Arisawa K, Kubo M, Hamajima N and Tanaka H** : Genome-wide association study of the genetic factors related to confectionery intake: potential roles of the ADIPOQ gene. *Obesity* (Silver Spring), 2013.
- 017 **Yamashita Y, Akatsuka S, Shinjo K, Yatabe Y, Kobayashi H, Seko H, Kajiyama H, Kikkawa F, Takahashi T and Toyokuni S** : Met is the most frequently amplified gene in endometriosis-associated ovarian clear cell adenocarcinoma and correlates with worsened prognosis. *PLoS One*, 8: e57724, 2013.
- 018 **Waki Hosoda, Eiichi Sasaki, Yoshiko Murakami, Kenji Yamao, Yasuhiro Shimizu and Yasushi Yatabe** : BCL10 as a useful marker for pancreatic acinar cell carcinoma, especially using endoscopic ultrasound cytology specimens. *Pathology International*, 63: 176–182: 2013.
- 019 谷田部 恭 : 【個別化医療を進めるための課題と今後の展望】トピックス 個別化医療における遺伝子・病理診断. 臨床病理レビュー(1345-9236)150号 Page93-97,2013.
- 020 谷田部 恭 : IASLC/CAP/AMPによるEGFR・ALK阻害剤選択のための遺伝子変異テストガイドラインの解説. 呼吸器内科(1884-2887)24巻2号 Page172-178,2013.
- 021 谷田部 恭 : 2013 ASCO/CAPによるHER2テストの診療ガイドライン. 病理と臨床(0287-3745)31巻12号 Page1372-1373,2013.
- 022 谷田部 恭 : 【最新肺癌学-基礎と臨床の最新研究動向-】肺癌の検査・診断 検査・診断 病理検査・診断 生検・細胞診からの遺伝子診断. 日本臨床(0047-1852)71巻増刊6 最新肺癌学 Page427-432,2013.
- 023 谷田部 恭 : 肺腺癌の新展開 組織亜型とEGFR・ALK遺伝子変異. 臨床病理(0047-1860)61巻4号 Page328-33,2013
- 024 柴田典子, 谷田部 恭 : 【分子病理診断の進歩】EGFR. 臨床検査(0485-1420)57巻3号 Page248-255,2013.
- 025 尾関順子, 柴田典子, 植田菜々絵, 谷田部 恭 : 細胞診検体を応用した遺伝子検査. 検査と技術, 42 :33-40, 2014.
- chemotherapy in patients with oropharyngeal and hypopharyngeal squamous cell carcinoma. *Acta Oto-Laryngologica*, 133: 523-530, 2013.
- 003 **Suzuki M, Kawakita D, Hanai N, Hirakawa H, Ozawa T, Terada A, Omori K, Hasegawa Y** : The contribution of neck dissection for residual neck disease after chemoradiotherapy in advanced oropharyngeal and hypopharyngeal squamous cell carcinoma patients. *Int J Clin Oncol*, 18(4):578-84, 2013.
- 004 **Kano S, Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K, Matsuura K, Monden N, Fujii M** : Salvage surgery for recurrent oropharyngeal cancer after chemoradiotherapy. *Int J Clin Oncol*, 18(5): 817-23, 2013.
- 005 **Hasegawa Y, Saikawa M** : The classification and nomenclature system for neck dissection: A systemic and simple system proposed by the japan neck dissection study group. *Oral Cancer*(Symptoms, Management and Risk Factors), Editor:Sheng-Po Hao Nova Biomedical, New York, 151-163, 2013.
- 006 **Miyazaki T, Hasegawa Y, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki A, Okamoto H, Harata I** : Survival impact of pulmonary metastasectomy for patients with head and neck cancer. *Head Neck*, 35(12):1745-51, 2013.
- 007 **Uchida Y, Teranishi M, Nishio N, Sugiura S, Hiramatsu M, Suzuki H, Kato K, Otake H, Yoshida T, Tagaya M, Suzuki H, Sone M, Ando F, Shimokata H, Nakashima T** : Endothelin-1 gene polymorphism in sudden sensorineural hearing loss. *Laryngoscope*, 123(11): E59-65, 2013.
- 008 **Suzuki H, Kato K, Fujimoto Y, Itoh Y, Hiramatsu M, Maruo T, Naganawa S, Hasegawa Y, Nakashima T** : 18F-FDG-PET/CT predicts survival in hypopharyngeal squamous cell carcinoma. *Ann Nucl Med*, 27(3):297-302, 2013.
- 009 **Maseki S, Ijichi K, Nakanishi H, Hasegawa Y, Ogawa T, Murakami S** : Efficacy of gemcitabine and cetuximab combination treatment in head and neck squamous cell carcinoma. *Mol Clin Oncol*, 1(5):918-924, 2013.
- 010 **Adachi M, Hyodo I, Hasegawa Y** : Mandibular reconstruction with fibula flap using a simple and cost-effective template. *J Maxillofac Oral Surg*, 12(2):240-2, 2013.
- 011 **Kano S, Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K, Matsuura K, Monden N, Fujii M** : Matched-pair analysis in patients with advanced oropharyngeal cancer: surgery versus concurrent chemoradiotherapy. *Oncology*, 84(5):290-8, 2013.
- 012 **Hanai N, Kawakita D, Ozawa T, Hirakawa H, Kodaira T,**

頭頸部外科部

- 001 **Hirakawa H, Hasegawa Y, Hanai N, Ozawa T, Hyodo I, Suzuki M** : Surgical site infection in cleancontaminated head and neck cancer surgery: risk factors and prognosis. *Eur Arch Otorhinolaryngol*, 270(3): 1115-23, 2013.
- 002 **Kawakita D, Masui T, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Terada A, Nishio M, Hosoi H, Hasegawa Y** : Impact of position emission tomography with the use of fluorodeoxyglucose on reponse to induction

Hasegawa Y : Neck dissection after chemoradiotherapy for oropharyngeal and hypopharyngeal cancer: the correlation between cervical lymph node metastasis and prognosis. *Int J Clin Oncol*, 19(1):30-7, 2014.

- 013 **Sugitani I, Hasegawa Y, Sugasawa M, Tori M, Higashiyama T, Miyazaki M, Hosoi H, Orita Y, Kitano H** : Super-radical surgery for anaplastic thyroid carcinoma: a large cohort study using the anaplastic thyroid carcinoma research consortium of Japan database. *Head Neck*, 36(3):328-33, 2014.
- 014 小澤泰次郎, 長谷川泰久 : 進行例にどこまで対応できるか 頸部リンパ節転移例に対する対応. *JOHNS*, 29(6):1013-1015, 2013.
- 015 長谷川泰久, 松塚 崇 : センチネルリンパ節. *日本気管食道学会会報*, 64(3): 234-236, 2013.
- 016 本間明宏, 林 隆一, 松浦一登, 加藤健吾, 川端一喜, 門田信也, 長谷川泰久, 鬼塚哲郎, 藤本保志, 岩江信法, 大上研二, 松塚 崇, 吉野邦俊, 藤井正人 : 上顎洞原発扁平上皮癌T4症例の多施設による後ろ向き観察研究. *頭頸部癌*, 39(3):310-316, 2013.
- 017 本間明宏, 林 隆一, 川端一喜, 吉野邦俊, 岩江信法, 長谷川泰久, 加納里志, 丹生健一, 加藤孝邦, 志賀清人, 松浦一登, 門田伸也, 藤井正人 : 中咽頭癌に対する治療の現状—他施設による後ろ向き観察研究—. *頭頸部癌*, 39(4):449-485, 2013.
- 018 花井信広, 小出悠介, 篠崎 剛, 鈴木基之, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 長谷川泰久 : 高齢者頭頸部癌手術の治療成績と術後合併症. *頭頸部外科*, 23(3): 285-293, 2013.
- 019 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 木村隆浩, 別府慎太郎, 中多祐介, 西川大輔, 山下裕司, 長谷川泰久 : 頭頸部再建手術における術後せん妄の検討. *頭頸部外科*, 23(3): 445-450, 2013.
- 020 西川大輔, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎太郎, 長谷川泰久 : 頭頸部外科での院内感染対策. *頭頸部外科*, 23(3): 451-454, 2013.

形成外科部

- 001 **Adachi M, Hyodo I, Hasegawa Y** : Mandibular Reconstruction with Fibula Flap Using a Simple and Cost-Effective Template. *Journal of Maxillofacial and Oral Surgery*, 12: 240-242, 2013.
- 002 **Mizukami T, Hyodo I, Fukamizu H, Mineta H** : Mandibular defect: a comparison of functional and aesthetic outcomes of bony reconstruction vs soft tissue reconstruction - long-term follow-up. *Acta Otolaryngol*, 133: 1304-1310, 2013.
- 003 神山圭史, 水上高秀, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志,

浜田俊介, 金光幸秀 : 切除により側腹部の広範な欠損を生じた大腸癌の1例. *骨軟部腫瘍治療*, 4: 87-90, 2013.

- 004 山田健志, 杉浦英志, 神山圭史, 兵藤伊久夫 : 再発を繰り返し脱分化に至った左大腿部高分化型脂肪肉腫の1例. *骨軟部腫瘍治療*, 4: 55-58, 2013.
- 005 神山圭史, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志 : 肩甲骨骨肉腫の1例. *骨軟部腫瘍治療*, 4: 35-38, 2013.
- 006 神山圭史, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志, 亀井 謙, 八木俊路朗 : 左前腕軟部肉腫の1例. *骨軟部腫瘍治療*, 4: 5-8, 2013.

呼吸器外科部

- 001 **Kobayashi Y, Nakada J, Kuroda H, Sakakura N, Usami N, Sakao Y** : Spinal Epidural Hematoma during Anticoagulant Therapy for Pulmonary Embolism: Postoperative Complications in a Patient with Lung Cancer. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, PMID24492175, 2014.
- 002 **Kobayashi Y, Sakao Y, Deshpande GA, Fukui T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Usami N, Yatabe Y, Mitsudomi T** : The association between baseline clinical-radiological characteristics and growth of pulmonary nodules with ground-glass opacity. *Lung Cancer*, 83(1):61-6,2014.
- 003 **Ozeki N, Fukui T, Taniguchi T, Usami N, Kawaguchi K, Ito S, Sakao Y, Mitsudomi T, Hirakawa A, Yokoi K** : Significance of the serum carcinoembryonic antigen level during the follow-up of patients with completely resected non-small-cell lung cancer. *Eur J Cardiothorac Surg*, 45(4):687-92,2014.
- 004 **Kobayashi Y, Sakao Y, Ito S, Park J, Kuroda H, Sakakura N, Usami N, Mitsudomi T, Yatabe Y** : Transformation to sarcomatoid carcinoma in ALK-rearranged adenocarcinoma, which developed acquired resistance to crizotinib and received subsequent chemotherapies. *J Thorac Oncol*, 8(8):e75-8,2013.
- 005 **Nakada T, Okumura S, Kuroda H, Uehara H, Mun M, Sakao Y, Nakagawa K** : Outcome of Radical Surgery for Pulmonary Metastatic Osteosarcoma with Secondary Spontaneous Pneumothorax: Case Series Report. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*,2013.
- 006 **Kato A, Tsuji T, Sakao Y, Ohashi N, Yasuda H, Fujimoto T, Takita T, Furuhashi M, Kumagai H** : A comparison of systemic inflammation-based prognostic scores in patients on regular hemodialysis. *Nephron Extra*,11:3(1):91-100,2013.
- 007 **Ninomiya H, Kato M, Sanada M, Takeuchi K, Inamura K, Motoi N, Nagano H, Nomura K, Sakao Y, Okumura S, Mano H, Ogawa S, Ishikawa Y** : Allelotypes of lung adenocarcinomas featuring ALK

fusion demonstrate fewer onco- and suppressor gene changes. *BMC Cancer*, 5:13:8,2013.

- 008 **Nagashima T, Sakao Y, Mun M, Ishikawa Y, Nakagawa K, Masuda M, Okumura S** : A clinicopathological study of resected small-sized squamous cell carcinomas of the peripheral lung: prognostic significance of serum carcinoembryonic antigen levels. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, 19(5):351-7,2013.
- 009 **Sakakura N, Uchida T, Kitamura T, Suyama M** : En Bloc Resection of a Large Tuberculous Abscess Using the Stain Plombage Procedure. *Ann Thorac Surg*, 95:348-51, 2013.
- 010 **Sakakura N, Tateyama H, Nakamura S, Taniguchi T, Usami N, Ishikawa Y, Kawaguchi K, Yokoi K** : Diagnostic reproducibility of thymic epithelial tumors using the World Health Organization classification: note for thoracic clinicians. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 61:89-95, 2013.
- 011 **Mizuno T, Taniguchi T, Ishikawa Y, Kawaguchi K, Fukui T, Ishiguro F, Nakamura S, Yokoi K** : Pulmonary metastasectomy for osteogenic and soft tissue sarcoma: who really benefits from surgical treatment? *Eur J Cardiothorac Surg*, 43(4):795-9, 2013.
- 012 富沢健二, 宇佐美範恭, 福本紘一, 坂倉範昭, 福井高幸, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 桑野博行, 光富徹哉, 坂尾幸則 : 肺癌切除例の周術期手術死亡の評価 30日死亡率と90日死亡率の比較. *肺癌*(0386-9628)53巻2号. 93-98, 2013.
- 013 小林祥久, 坂尾幸則 : 【呼吸器救急;対応のコツとピットフォール回避法】救急疾患・病態 緊張性気胸(解説/特集). *救急医学*(0385-8162)37巻6号. 703-706, 2013.
- 014 水野鉄也, 横井香平 : 第3章 2. 全身麻酔下胸腔鏡検査, *VATS 胸膜全書* (医業ジャーナル社). P67-73, 2013.

乳腺科部

- 001 **Yamamoto Y, Ishikawa T, Hozumi Y, Ikeda M, Iwata H, Yamashita H, Toyama T, Chishima T, Saji S, Yamamoto M, Iwase H** : Randomized controlled trial of toremifene 120 mg compared with exemestane 25 mg after prior treatment with a non-steroidal aromatase inhibitor in postmenopausal women with hormone receptor-positive metastatic breast cancer. *BMC Cancer*, 13:239, 2013.
- 002 **Ohno S, Chow L. W. C., Sato N, Masuda N, Sasano H, Takahashi F, Bando H, Iwata H, Morimoto T, Kamigaki S, Nakayama T, Nakamura S, Kuroi K, Aogi K, Kashiwaba M, Yamashita H, Hisamatsu K, Ito Y, Yamamoto Y, Ueno T, Fakhrejahani E, Yoshida N, Toi M** : Randomized trial of preoperative docetaxel with or without capecitabine after 4 cycles of 5-fluoracil-epirubicin-cyclophosphamide (FEC) in early

stage breast cancer: Exploratory analyses identify Ki67 as a predictive biomarker for response to neoadjuvant chemotherapy. *Breast Cancer Research and Treatment*, Volume 142, Issue 1 ,69-80, 2013.

- 003 **Ueno T, Masuda N, Yamanaka T, Saji S, Kuroi K, Sato N, Takei H, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Sasano H, Toi M** : Evaluating the 21-gene assay recurrence score as a predictor of clinical response to 24 weeks of neoadjuvant exemestane in estrogen receptor-positive breast cancer. *Int J Clin Oncol* DOI 10.1007/s10147-013-0614-x, 2013.
- 004 **Mukai H, Watanabe T, Mistmori M, Tsuda H, Nakamura S, Masuda N, Yamamoto N, Shibata T, Sato A, Iwata H, Aogi K** : Final Results of a Safety and Efficacy Trial of Preoperative Sequential Chemoradiation Therapy for the Nonsurgical Treatment of Early Breast Cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0306. *Oncology* 2013;85:336-341 (DOI: 10.1159/000355196), 2013.
- 005 **Kuroi K, Toi M, Ohno S, Nakamura S, Iwata H, Masuda N, Sato N, Tsuda H, Kurosumi M, Akiyama F** : Prognostic significance of subtype and pathologic response in operable breast cancer; a pooled analysis of prospective neoadjuvant studies of JBCRG. *Breast Cancer*. 2013 Dec 14, 2013.
- 006 **Meyer KB, O'Reilly M, Michailidou K, Carlebur S, Edwards SL, French JD, Prathalingham R, Dennis J, Bolla MK, Wang Q, de Santiago I, Hopper JL, Tsimiklis H, Apicella C, Southey MC, Schmidt MK, Broeks A, Van 't Veer LJ, Hogervorst FB, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Fasching PA, Lux MP, Ekici AB, Beckmann MW, Peto J, Dos Santos Silva I, Fletcher O, Johnson N, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Burwinkel B, Guénel P, Truong T, Laurent-Puig P, Menegaux F, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Milne RL, Zamora MP, Arias JI, Benitez J, Neuhausen S, Anton-Culver H, Ziogas A, Dur CC, Brenner H, Müller H, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Schmutzler RK, Engel C, Ditsch N, Brauch H, Brüning T, Ko YD; The GENICA Network, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomäki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Yatabe Y, Dörk T, Helbig S, Bogdanova NV, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Chenevix-Trench G; kConFab Investigators; Australian Ovarian Cancer Study Group, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Lambrechts D, Thienpont B, Christiaens MR, Smeets A, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P,**

- Peterlongo P, Bonanni B, Bernard L, Couch FJ, Olson JE, Wang X, Purrington K, Giles GG, Severi G, Baglietto L, McLean C, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Teo SH, Yip CH, Phuah SY, Kristensen V, Grenaker Alnæs G, Borresen-Dale AL, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve CM, García-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Darabi H, Eriksson K, Hooning MJ, Martens JW, van den Ouweland AM, van Deurzen CH, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Reed MW, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Pharoah PD, Ghoussaini M, Harrington P, Tyrer J, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Hartman M, Hui M, Lim WY, Buhari SA, Hamann U, Försti A, Rüdiger T, Ulmer HU, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Vachon C, Slager S, Fostira F, Pilarski R, Shen CY, Hsiung CN, Wu PE, Hou MF, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker MJ, Ponder BA, Dunning AM, Easton DF* : Fine-Scale Mapping of the FGFR2 Breast Cancer Risk Locus: Putative Functional Variants Differentially Bind FOXA1 and E2F1. *Am J Hum Genet.* 2013 Nov 23. pii: S0002-9297(13)00483-7. doi: 10.1016/j.ajhg.2013.10.026, 2013.
- 007 *Ueno T, Masuda N, Yamanaka T, Saji S, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Sasano H, Toi M* : Evaluating the 21-gene assay Recurrence Score® as a predictor of clinical response to 24 weeks of neoadjuvant exemestane in estrogen receptor-positive breast cancer. *Int J Clin Oncol.* 2013 Oct 8, 2013.
- 008 *Iwata H, Masuda N, Ohno S, Rai Y, Sato Y, Ohsumi S, Hashigaki S, Nishizawa Y, Hiraoka M, Morimoto T, Sasano H, Saeki T, Noguchi S* : A randomized, double-blind, controlled study of exemestane versus anastrozole for the first-line treatment of postmenopausal Japanese women with hormone-receptor-positive advanced breast cancer. *Breast Cancer Res Treat.* 2013 Jun;139(2):441-51. doi: 10, 2013.
- 009 *Iwata H, Fujii H, Masuda N, Mukai H, Nishimura Y, Katsura K, Ellis CE, Gagnon RC, Nakamura S* : Efficacy, safety, pharmacokinetics and biomarker findings in patients with HER2-positive advanced or metastatic breast cancer treated with lapatinib in combination with capecitabine: results from 51 Japanese patients treated in a clinical study. *Breast Cancer.* 2013 May 21, 2013.
- 010 *Yamamoto Y, Ishikawa T, Hozumi Y, Ikeda M, Iwata H, Yamashita H, Toyama T, Chishima T, Saji S, Yamamoto-Ibusuki M, Iwase H* : Randomized controlled trial of toremifene 120 mg compared with exemestane 25 mg after prior treatment with a non-steroidal aromatase inhibitor in postmenopausal women with hormone receptor-positive metastatic breast cancer. *BMC Cancer.* 2013 May 16;13(1):239, 2013.
- 011 *Noguchi S, Masuda N, Iwata H, Mukai H, Horiguchi J, Puttawibul P, Srimuninnimit V, Tokuda Y, Kuroi K, Iwase H, Inaji H, Ohsumi S, Noh WC, Nakayama T, Ohno S, Rai Y, Park BW, Panneerselvam A, El-Hashimy M, Taran T, Sahmoud T, Ito Y* : Efficacy of everolimus with exemestane versus exemestane alone in Asian patients with HER2-negative, hormone-receptor-positive breast cancer in BOLERO-2. *Breast Cancer.* 2013 Feb 13, 2013.
- 012 *French JD, Ghoussaini M, Edwards SL, Meyer KB, Michailidou K, Ahmed S, Khan S, Maranian MJ, O'Reilly M, Hillman KM, Betts JA, Carroll T, Bailey PJ, Dicks E, Beesley J, Tyrer J, Maia AT, Beck A, Knoblauch NW, Chen C, Kraft P, Barnes D, González-Neira A, Alonso MR, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Conroy D, Dennis J, Bolla MK, Wang Q, Hopper JL, Southey MC, Schmidt MK, Broeks A, Verhoef S, Cornelissen S, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsang P, Fasching PA, Loehberg CR, Ekici AB, Beckmann MW, Peto J, dos Santos Silva I, Johnson N, Aitken Z, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Burwinkel B, Guénel P, Truong T, Laurent-Puig P, Menegaux F, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Milne RL, Zamora MP, Arias Perez JI, Benitez J, Anton-Culver H, Brenner H, Müller H, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Lichtner P, Schmutzler RK, Engel C, Brauch H, Hamann U, Justenhoven C; GENICA Network, Aaltonen K, Heikkilä P, Aittomäki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Sueta A, Bogdanova NV, Antonenkova NN, Dörk T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM; kConFab Investigators, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Lambrechts D, Peeters S, Smeets A, Floris G, Chang-Claude J, Rudolph A, Nickels S, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Bonanni B, Sardella D, Couch FJ, Wang X, Pankratz VS, Lee A, Giles GG, Severi G, Baglietto L, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M,*

- Teo SH, Yip CH, Ng CH, Vithana EN, Kristensen V, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Mulligan AM, Devilee P, Seynaeve C, García-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Schoof N, Hooning MJ, Martens JW, Collée JM, Tilanus-Linthorst M, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Balasubramanian SP, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Pharoah PD, Healey CS, Shah M, Pooley KA, Kang D, Yoo KY, Noh DY, Hartman M, Miao H, Sng JH, Sim X, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Sangrajrang S, Gaborieau V, McKay J, Toland AE, Ambrosone CB, Yannoukakos D, Godwin AK, Shen CY, Hsiung CN, Wu PE, Chen ST, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker MJ, Ponder BA, Nevanlinna H, Brown MA, Chenevix-Trench G, Easton DF, Dunning AM : Functional variants at the 11q13 risk locus for breast cancer regulate cyclin D1 expression through long-range enhancers. *Am J Hum Genet.* 2013 Apr 4;92(4):489-503. doi: 10, 2013.
- 013 Bojesen SE, Pooley KA, Johnatty SE, Beesley J, Michailidou K, Tyrer JP, Edwards SL, Pickett HA, Shen HC, Smart CE, Hillman KM, Mai PL, Lawrenson K, Stutz MD, Lu Y, Karevan R, Woods N, Johnston RL, French JD, Chen X, Weischer M, Nielsen SF, Maranian MJ, Ghousaini M, Ahmed S, Baynes C, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, McGuffog L, Barrowdale D, Lee A, Healey S, Lush M, Tessier DC, Vincent D, Bacot F; Australian Cancer Study; Australian Ovarian Cancer Study; Kathleen Cuninghame Foundation Consortium for Research into Familial Breast Cancer (kConFab); Gene Environment Interaction and Breast Cancer (GENICA); Swedish Breast Cancer Study (SWE-BRCA); Hereditary Breast and Ovarian Cancer Research Group Netherlands (HEBON); Epidemiological study of BRCA1 & BRCA2 Mutation Carriers (EMBRACE); Genetic Modifiers of Cancer Risk in BRCA1/2 Mutation Carriers (GEMO), Vergote I, Lambrechts S, Despierre E, Risch HA, González-Neira A, Rossing MA, Pita G, Doherty JA, Alvarez N, Larson MC, Fridley BL, Schoof N, Chang-Claude J, Cicek MS, Peto J, Kalli KR, Broeks A, Armasu SM, Schmidt MK, Braaf LM, Winterhoff B, Nevanlinna H, Konecny GE, Lambrechts D, Rogmann L, Guénel P, Teoman A, Milne RL, Garcia JJ, Cox A, Shridhar V, Burwinkel B, Marme F, Hein R, Sawyer EJ, Haiman CA, Wang-Gohrke S, Andrulis IL, Moysich KB, Hopper JL, Odunsi K, Lindblom A, Giles GG, Brenner H, Simard J, Lurie G, Fasching PA, Carney ME, Radice P, Wilkens LR, Swerdlow A, Goodman MT, Brauch H, Garcia-Closas M, Hillemanns P, Winqvist R, Dürst M, Devilee P, Runnebaum I, Jakubowska A, Lubinski J, Mannermaa A, Butzow R, Bogdanova NV, Dörk T, Pelttari LM, Zheng W, Leminen A, Anton-Culver H, Bunker CH, Kristensen V, Ness RB, Muir K, Edwards R, Meindl A, Heitz F, Matsuo K, du Bois A, Wu AH, Harter P, Teo SH, Schwaab I, Shu XO, Blot W, Hosono S, Kang D, Nakanishi T, Hartman M, Yatabe Y, Hamann U, Karlan BY, Sangrajrang S, Kjaer SK, Gaborieau V, Jensen A, Eccles D, Høgdall E, Shen CY, Brown J, Woo YL, Shah M, Azmi MA, Luben R, Omar SZ, Czene K, Vierkant RA, Nordestgaard BG, Flyger H, Vachon C, Olson JE, Wang X, Levine DA, Rudolph A, Weber RP, Flesch-Janys D, Iversen E, Nickels S, Schildkraut JM, Silva Idos S, Cramer DW, Gibson L, Terry KL, Fletcher O, Vitonis AF, van der Schoot CE, Poole EM, Hogervorst FB, Tworoger SS, Liu J, Bandera EV, Li J, Olson SH, Humphreys K, Orlov I, Blomqvist C, Rodriguez-Rodriguez L, Aittomäki K, Salvesen HB, Muranen TA, Wik E, Brouwers B, Krakstad C, Wauters E, Halle MK, Wildiers H, Kiemeny LA, Mulot C, Aben KK, Laurent-Puig P, Altena AM, Truong T, Massuger LF, Benitez J, Pejovic T, Perez JI, Hoatlin M, Zamora MP, Cook LS, Balasubramanian SP, Kelemen LE, Schneeweiss A, Le ND, Sohn C, Brooks-Wilson A, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Cybulski C, Henderson BE, Menkiszak J, Schumacher F, Wentzensen N, Le Marchand L, Yang HP, Mulligan AM, Glendon G, Engelholm SA, Knight JA, Høgdall CK, Apicella C, Gore M, Tsimiklis H, Song H, Southey MC, Jager A, den Ouweland AM, Brown R, Martens JW, Flanagan JM, Kriege M, Paul J, Margolin S, Siddiqui N, Severi G, Whittemore AS, Baglietto L, McGuire V, Stegmaier C, Sieh W, Müller H, Arndt V, Labrèche F, Gao YT, Goldberg MS, Yang G, Dumont M, McLaughlin JR, Hartmann A, Ekici AB, Beckmann MW, Phelan CM, Lux MP, Permuth-Wey J, Peissel B, Sellers TA, Ficarazzi F, Barile M, Ziogas A, Ashworth A, Gentry-Maharaj A, Jones M, Ramus SJ, Orr N, Menon U, Pearce CL, Brüning T, Pike MC, Ko YD, Lissowska J, Figueroa J, Kupryjanczyk J, Chanock SJ, Dansonka-Mieszkowska A, Jukkola-Vuorinen A, Rzepecka IK, Pylkäs K, Bidzinski M, Kauppila S, Hollestelle A, Seynaeve C, Tollenaar RA, Durda K, Jaworska K, Hartikainen JM, Kosma VM, Kataja V, Antonenkova NN, Long J, Shrubsole M, Deming-

- Halverson S, Lophatananon A, Siriwanarangsana P, Stewart-Brown S, Ditsch N, Lichtner P, Schmutzler RK, Ito H, Iwata H, Tajima K, Tseng CC, Stram DO, van den Berg D, Yip CH, Ikram MK, Teh YC, Cai H, Lu W, Signorello LB, Cai Q, Noh DY, Yoo KY, Miao H, Iau PT, Teo YY, McKay J, Shapiro C, Ademuyiwa F, Fountzilas G, Hsiung CN, Yu JC, Hou MF, Healey CS, Luccarini C, Peock S, Stoppa-Lyonnet D, Peterlongo P, Rebbeck TR, Piedmonte M, Singer CF, Friedman E, Thomassen M, Offit K, Hansen TV, Neuhausen SL, Szabo CI, Blanco I, Garber J, Narod SA, Weitzel JN, Montagna M, Olah E, Godwin AK, Yannoukakos D, Goldgar DE, Caldes T, Imyanitov EN, Tihomirova L, Arun BK, Campbell I, Mensenkamp AR, van Asperen CJ, van Roozendaal KE, Meijers-Heijboer H, Collée JM, Oosterwijk JC, Hooning MJ, Rookus MA, van der Luijt RB, Os TA, Evans DG, Frost D, Fineberg E, Barwell J, Walker L, Kennedy MJ, Platte R, Davidson R, Ellis SD, Cole T, Bressac-de Pailletres B, Buecher B, Damiola F, Faivre L, Frenay M, Sinilnikova OM, Caron O, Giraud S, Mazoyer S, Bonadona V, Caux-Moncoutier V, Toloczko-Grabarek A, Gronwald J, Byrski T, Spurdle AB, Bonanni B, Zaffaroni D, Giannini G, Bernard L, Dolcetti R, Manoukian S, Arnold N, Engel C, Deissler H, Rhiem K, Niederacher D, Plendl H, Sutter C, Wappenschmidt B, Borg A, Melin B, Rantala J, Soller M, Nathanson KL, Domchek SM, Rodriguez GC, Salani R, Kaulich DG, Tea MK, Paluch SS, Laitman Y, Skytte AB, Kruse TA, Jensen UB, Robson M, Gerdes AM, Ejlertsen B, Foretova L, Savage SA, Lester J, Soucy P, Kuchenbaecker KB, Olswold C, Cunningham JM, Slager S, Pankratz VS, Dicks E, Lakhani SR, Couch FJ, Hall P, Monteiro AN, Gayther SA, Pharoah PD, Reddel RR, Goode EL, Greene MH, Easton DF, Berchuck A, Antoniou AC, Chenevix-Trench G, Dunning AM : Multiple independent variants at the TERT locus are associated with telomere length and risks of breast and ovarian cancer. *Nat Genet.* 2013 Apr;45(4):371-84, 384e1-2. doi: 10, 2013.
- 014 Michailidou K, Hall P, Gonzalez-Neira A, Ghoussaini M, Dennis J, Milne RL, Schmidt MK, Chang-Claude J, Bojesen SE, Bolla MK, Wang Q, Dicks E, Lee A, Turnbull C, Rahman N; Breast and Ovarian Cancer Susceptibility Collaboration, Fletcher O, Peto J, Gibson L, Dos Santos Silva I, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomäki K, Blomqvist C, Czene K, Irwanto A, Liu J, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H, Adank M; Hereditary Breast and Ovarian Cancer Research Group Netherlands (HEBON), van der Luijt RB, Hein R, Dahmen N, Beckman L, Meindl A, Schmutzler RK, Müller-Myhsok B, Lichtner P, Hopper JL, Southey MC, Makalic E, Schmidt DF, Uitterlinden AG, Hofman A, Hunter DJ, Chanock SJ, Vincent D, Bacot F, Tessier DC, Canisius S, Wessels LF, Haiman CA, Shah M, Luben R, Brown J, Luccarini C, Schoof N, Humphreys K, Li J, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Couch FJ, Wang X, Vachon C, Stevens KN, Lambrechts D, Moisse M, Paridaens R, Christiaens MR, Rudolph A, Nickels S, Flesch-Janys D, Johnson N, Aitken Z, Aaltonen K, Heikkinen T, Broeks A, Veer LJ, van der Schoot CE, Guénel P, Truong T, Laurent-Puig P, Menegaux F, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Burwinkel B, Zamora MP, Perez JI, Pita G, Alonso MR, Cox A, Brock IW, Cross SS, Reed MW, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Mulligan AM; kConFab Investigators; Australian Ovarian Cancer Study Group, Lindblom A, Margolin S, Hooning MJ, Hollestelle A, van den Ouweland AM, Jager A, Bui QM, Stone J, Dite GS, Apicella C, Tsimiklis H, Giles GG, Severi G, Baglietto L, Fasching PA, Haaberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Brenner H, Müller H, Arndt V, Stegmaier C, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Figueroa J, Lissowska J, Brinton L, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Brauch H, Hamann U, Brüning T; GENICA (Gene Environment Interaction and Breast Cancer in Germany) Network, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bonanni B, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, van Asperen CJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Bogdanova NV, Antonenkova NN, Dörk T, Kristensen VN, Anton-Culver H, Slager S, Toland AE, Edge S, Fostira F, Kang D, Yoo KY, Noh DY, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Sueta A, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Teo SH, Yip CH, Phuah SY, Cornes BK, Hartman M, Miao H, Lim WY, Sng JH, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Shen CY, Hsiung CN, Wu PE, Ding SL, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Blot WJ, Signorello LB, Cai Q, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Simard J, Garcia-Closas M, Pharoah PD, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Benitez J, Easton DF : Large-scale genotyping identifies 41 new loci associated with breast cancer risk.

- Nat Genet. 2013 Apr;45(4):353-61, 361e1-2. doi: 10, 2013.
- 015 **Sawaki M** : Trastuzumab emtansine in the treatment of HER2-positive metastatic breast cancer in Japanese patients. *Breast Cancer: Targets and Therapy* 6: 37-41, 2014.
- 016 **Sawaki M** : Is Intraoperative Radiotherapy a standard technique for Early Breast Cancer? *J Cancer Biol Res* 2 (1): 1015-1018, 2014, 2014.
- 017 **Hattori M, Horio A, Sawaki M, Kondo N, Fujita T, Ushio A, Gondo N, Idota A, Ichikawa M, Iwata H** : Assessment of the clinical efficacy and safety of fulvestrant in heavily pretreated patients with hormone-receptor positive metastatic breast cancer-a single-institution experience. *癌と化学療法* 2013 Dec;40(13):2535-8, 2013.
- 018 **Kawaguchi Ushio A, Hattori M, Kohno N, Kaise H, Iwata H** : Gemcitabine-induced tumor lysis syndrome caused by recurrent breast cancer in a patient without hemodialysis. *癌と化学療法* 2013 Nov;40(11):1529-32, 2013.
- 019 **Hattori M, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Horio A, Ushio A, Gondo N, Idota A, Ichikawa M, Iwata H** : Clinical efficacy and safety assessment of eribulin monotherapy in patients with metastatic breast cancer - a single-institute experience. *癌と化学療法* 2013 Jun;40(6):737-41, 2013.
- 020 **澤木正孝, 岩田広治** : 高齢者乳がん治療の現状と課題. *腫瘍内科*第13巻第2号, pp198-204, 2014.
- 021 **澤木正孝, 岩田広治** : 「(1) 乳がん」. 最新がん薬物療法学, 日本臨床72巻 増刊号2 (通巻第1054号), pp328-332, 2014.
- 022 **澤木正孝** : 術後補助化学療法の適応と課題. *オンコロジー・クリニカルガイド*, pp74-80, 2013.
- 023 **澤木正孝** : 乳がん-化学療法. *クリニシアン* 60巻10号 (通巻622号), pp47-52, 2013.
- 024 **澤木正孝** : 術中照射 (IORT: Intraoperative radiotherapy). チームで取り組む乳がん放射線療法, pp78-79, 2013.
- 025 **澤木正孝** : 乳がん- 外来治療と地域連携. *医学のあゆみ* Vol.246 No.9, pp651-656, 2013.
- 026 **澤木正孝, 岩田広治** : ASCO2012、サンアントニオ2011のトピックス. これからの乳癌診療2013-2014, pp144-152, 2013.
- 027 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 牛尾文, 権藤なおみ, 市川茉莉, 井戸田 愛, 岩田広治** : 乳癌術後骨単独転移症例の検討. *乳癌の臨床*, 28(3), 323-329, 2013.
- 028 **服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 近藤直人, 堀尾章代, 牛尾文, 権藤なおみ, 井戸田 愛, 市川茉莉, 岩田広治** : 市販後臨床における進行再発乳癌に対するエリブリン単剤療法の有効性と安全性. *癌と化学療法* 40, 737, 2013.
- 029 **服部正也, 堀尾章代, 澤木正孝, 近藤直人, 藤田崇史, 牛尾文, 権藤なおみ, 井戸田 愛, 市川茉莉, 岩田広治** : 複数の前治療歴を有するホルモン受容体陽性進行・再発乳癌に対するフルベストラント療法の治療成績 : 単施設の経験. *癌と化学療法* 40, 2535, 2013.
- 030 **服部正也, 岩田広治** : Trastuzumab emtansine (T-DM1). *乳癌の臨床* 28, 293 2013.
- 031 **服部正也** : がん化学療法によるHBV再活性化. *医学のあゆみ* 246, 806, 2013.
- 032 **服部正也, 岩田広治** : ペルツズマブ : 臨床試験と実際の投与方法. *オンコロジー・クリニカルガイド乳癌薬物療法*, 276, 2013.
- 033 **服部正也, 岩田広治** : 今後承認される可能性のある分子標的治療薬 (T-DM1, その他). *オンコロジー・クリニカルガイド乳癌薬物療法*, 310, 2013.
- 034 **服部正也, 岩田広治** : 新しい抗HER2抗体 : ペルツズマブ. *最新医学* 68, 2704, 2013.
- 035 **近藤直人, 岩田広治** : HER2陽性乳癌に対する薬物治療の実際 術前・術後補助療法としての抗HER2療法の意義. *臨床腫瘍プラクティス*Vol.9 No4, 401-404, 2013.
- 036 **近藤直人, 岩田広治** : 乳癌の治療 薬物治療 術前薬物療法. *からだの科学*Vol.2772013, 77-80, 2013.
- 037 **近藤直人, 岩田広治** : エビデンスに基づく補助療法—分子標的治療. *臨床と研究*Vol.90 No.10, 1342-1346, 2013.
- 038 **近藤直人, 岩田広治** : 乳癌治療におけるエベロリムス開発の経緯. *エベロリムスによる乳癌治療の新展開*, 51-57, 2013.

消化器外科部

【原著】

- 001 **Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Komori K, Ito S, Abe T, Kinoshita T, Nimura Y** : Isolated caudate lobectomy with pancreatoduodenectomy for a bile duct cancer. *Langenbecks Arch Surg*,398(8),1145-1150,2013.
- 002 **Haba S, Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W, Kawakami H, Sakamoto N** : Diagnostic ability and factors affecting accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic solid lesions: Japanese large single center experience. *J Gastroenterol*,48(8),973-981,2013.
- 003 **Ogura T, Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Sawaki A, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y** : Prognostic value of K-ras mutation status and subtypes in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration specimens from patients with unresectable pancreatic cancer. *J Gastroenterol*,48(5),640-646,2013.
- 004 **Komori K, Kanemitsu Y, Kimura K, Yawata K, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Shimizu Y** : Detailed Stratification of TNM Stage III Rectal Cancer Based on the Presence/Absence of Extracapsular Invasion of the Metastatic Lymph Nodes. *Dis Colon*

- Rectum,56(6),726-732,2013.
- 005 **Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Hosoda W, Nakamura Y, Shinohara T, Yanagisawa A** : Predictors of Malignancy in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas: Analysis of 310 Pancreatic Resection Patients at Multiple High-Volume Centers. *Pancreas*,42(5),883-888,2013.
- 006 **Okamoto Y, Shinjo K, Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Gao W, Fujii M, Osada H, Sekido Y, Murakami S, Tanaka Y, Joh T, Sato S, Takahashi S, Wakita T, Zhu J, Issa JP, Kondo Y** : Hepatitis Virus Infection Affects DNA Methylation in Mice with Humanized Livers. *Gastroenterology*,146(2),562-572,2014.
- 007 **Hara K, Yamao K, Hijioka S, Mizuno N, Imaoka H, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Haba S, Takeshi O, Nagashio Y, Obayashi T, Shinagawa A, Bhatia V, Shimizu Y, Goto H** : Prospective clinical study of endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy with direct metallic stent placement using a forward-viewing echoendoscope. *Endoscopy*,45(5),392-396,2013.
- 008 **Mizuno N, Yatabe Y, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Shimizu Y, Ko SB, Yamao K** : Cytoplasmic expression of LGR5 in pancreatic adenocarcinoma. *Front Physiol*, 4,269-,2013.
- 009 **Komori K, Kanemitsu Y, Kimura K, Yawata K, Shimizu Y, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Kato T** : Efforts to advance surgical treatments for patients with familial adenomatous polyposis for 40 years in a cancer hospital. *Hepatogastroenterology*,60(124),741-746,2013.
- 010 **Hattori N, Kanemitsu Y, Komori K, Shimizu Y, Sano T, Mitsudomi T, Fukui T** : Outcomes After Hepatic and Pulmonary Metastasectomies Compared With Pulmonary Metastasectomy Alone in Patients With Colorectal Cancer Metastasis to Liver and Lungs. *World J Surg*,37(6),1315-1321,2013.
- 011 **Komori K, Kinoshita T, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Shimizu Y** : Sex Differences Between cT4b and pT4b Rectal Cancers. *Int Surg*,98(3),200-204,2013.
- 012 **Kanemitsu Y, Komori K, Kimura K, Kato T** : D3 Lymph Node Dissection in Right Hemicolectomy with a No-touch Isolation Technique in Patients With Colon Cancer. *Dis Colon Rectum*,56(7),815-824,2013.
- 013 **Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Komori K, Yamao K** : Can mosapride citrate reduce the volume of lavage solution for colonoscopy preparation? *World J Gastroenterol*, 19(5),727-73,2013.
- 014 **Akagi Y, Shirouzu K, Fujita S, Ueno H, Takii Y, Komori K, Ito M, Sugihara K** : Benefit of the measurement of mesorectal extension in patients with pT3N1-2 rectal cancer without pre-operative chemoradiotherapy: Post-operative treatment strategy. *Exp Ther Med*, 5(3),661-666,2013.
- 015 **Murakami H, Iro S, Tanaka H, Kondo E, Kodera Y, Nakanishi H** : Establishment of New Intraperitoneal Paclitaxel-Resistant Gastric Cancer Cell Lines and Comprehensive Gene Expression Analysis. *ANTICANCER RES*,33(10),4299-4308,2013.
- 016 **Toyoda T, Tetsuya T, Yamamoto M, Ban H, Saito N, Takasu S, Shi L, Saito A, Ito S, Yamamura Y, Nishikawa A, Ogawa K, Tanaka T, Tatematsu M** : Gene expression anaalysis of a Helicobacter pylori-infected and high-salt diet-treated mouse gastric tumor model: identification of CD177 as a novel prognostic factor in patients with gastric cancer. *BMC Gastroenterology*, 13(1),122,2013.
- 017 **Mochizuki Y, Ohashi N, Kojima H, Ishigure K, Kinoshita T, Eguchi T, Fujitake S, Ito S, Fujiwara M, Kodera Y** : CPT-11 as a second-line treatment for patients with advanced/metastatic gastric cancer who failed S-1. *Cancer Chemother Pharmacol*,72(31),629-635,2013.
- 018 **Matsuo K, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Ishioka K, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K, Nakamura S, Tajima K, Tanaka H** : The aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) Glu504Lys polymorphism interacts with alcohol drinking in the risk of stomach cancer. *Carcinogenesis*,34(7),1510-1515,2013.
- 019 **Shitara K, Yatabe Y, Matsuo K, Sugano M, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Ito S, Muro K** : Prognosis of patients with advanced gastric cancer by HER2 status and trastuzumab treatment. *Gastric Cancer*,16(2),261-267,2013.
- 020 **Okochi-takada E, Hattori N, Tsukamoto T, Miyamoto K, Ando T, Ito S, Yamamura Y, Wakabayashi M, Nobeyama Y, Ushijima T** : ANGPTL4 is a secreted tumor suppressor that inhibits angiogenesis. *Oncogene*,33(17),2273-2278,2013.
- 021 **Asada K, Ando T, Niwa T, Nanjo S, Wanatabe N, Okochi-Takada E, Yoshida T, Miyamaoto K, Enomoto S, Ichinose M, Tsukamoto T, Ito S, Tatematsu M, Sugiyama T, Ushijima T** : FHL1 on chromosome X is a single-hit gastrointestinal tumor-suppressor gene and contributes to the formation of an epigenetic field defect. *Oncogene*,32(17),2140-2149,2013.
- 022 **Kobayashi Y, Fukui T, Ito S, Shitara k, Ito S, Hatooka S, Mitsudomi T** : Pulmonary metastasectomy for gastric cancer : a 13-year single-institution experience. *Surg Today*,43(12),1382-1389,2013.
- 023 **Chu C, Oda M, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M, Hayashi Y, Nimura Y, Rueckert D, Mori K** :

- Multi-organ segmentation based on spatially-divided probabilistic atlas from 3D abdominal CT images. *Med Image Comput Comput Assist Interv*,16(2),165-172,2013.
- 024 **Oda M, Suito T, Hayashi Y, Kitasaka T, Furukawa K, Miyahara R, Hirooka Y, Goto H, Inuma G, Misawa K, Nawano S, Mori K** : Semi-automated virtual unfolded view generation method of stomach from CT volumes. *Med Image Comput Comput Assist Interv*,16(pt1),332-339,2013.
- 025 **Wolz R, Chu C, Misawa K, Fujiwara M, Mori K, Rueckert D** : Automated abdominal multi-organ segmentation with subject-specific atlas generation. *IEEE Trans Med Imaging*,32(9),1723-1730,2013.
- 026 **Jiang Z, Nimura Y, Hayashi Y, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M, Kajita Y, Wakabayashi T, Mori K** : Anatomical annotation on vascular structure in volume rendered images. *Comput Med Imaging Graph*,37(2),131-141,2013.
- 027 **Ito A, Ito Y, Matsushima S, Tsuchida D, Ogasawara M, Hasegawa J, Misawa K, Kondo E, Kaneda N, Nakanishi H** : New whole-body multimodality imaging of gastric cancer peritoneal metastasis combining fluorescence imaging with ICG-labeled antibody and MRI in mice. *Gastric Cancer* ,17(3),497-507,2014.
- 028 **Kadowaki S, Yatabe Y, Nitta S, Ito Y, Muro K** : Durable response of human epidermal growth factor receptor-2-positive gastric adenocarcinoma to trastuzumab-based chemotherapy. *Case Rep Oncol*, 19(7),210-216,2014.
- 029 **Misawa k, Mochizuki Y, Ohashi N, Matsui T, Nakayama H, Tsuboi K, Sakai M, Ito S, Morita S, Kodera Y** : A randomized phase III trial exploring the prognostic value of extensive intraoperative peritoneal lavage in addition to standard treatment for resectable advanced gastric cancer:CCOG 1102 study. *Jpn J Clin Oncol*,44(1),101-103,2014.
- 030 **Yoshikawa T, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Hirabayashi N, Mikata S, Iwahashi M, Fukushima R, Takiguchi N, Miyashiro I, Morita S, Miyashita Y, Tsuburaya A, Sakamoto J** : Induction of a pathological complete response by four courses of neoadjuvant chemotherapy for gastric cancer: early results of the randomized phase II COMPASS trial. *Ann Surg Oncol*,21(1),213-219,2014.
- 031 **Nishigaki E, Abe T, Yokoyama Y, Fukaya M, Asahara T, Nomoto K, Nagino M** : The Detection of Intraoperative Bacterial Translocation in the Mesenteric Lymph Nodes Is Useful in Predicting Patients at High Risk for Postoperative Infectious Complications After Esophagectomy. *Ann Surg*,259(3),477-484,2014.
- 032 **Yokoyama Y, Nishigaki E, Abe T, Fukaya M, Asahara T, Nomoto K, Nagino M** : Randomized clinical trial of the effect of perioperative synbiotics versus no synbiotics on bacterial translocation after oesophagectomy. *Br J Surg*, 101(3),189-199,2014.
- 033 **Fukaya M, Abe T, Yokoyama Y, Itatsu K, Nagino M** : Two-stage operation for synchronous triple primary cancer of the esophagus, stomach, and ampulla of Vater: report of a case. *Surg Today*,44(5),967-971,2014.
- 034 **Hasegawa T, Yamao K, Hijioka S, Bhatia V, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Kinoshita T, Kohsaki T, Nishimori I, Iwasaki S, Saibara T, Hosoda W, Yatabe Y** : Evaluation of Ki-67 index in EUS-FNA specimens for the assessment of malignancy risk in pancreatic neuroendocrine tumors. *Endoscopy*,46(1),32-38,2014.
- 035 **Kodera Y, Fujitani K, Fukushima N, Ito S, Muro K, Ohashi N, Yoshikawa T, Kobayash D, Tanaka C, Fujiwara M** : Surgical resection of hepatic metastasis from gastric cancer: a review and new recommendation in the Japanese gastric cancer treatment guidelines. *Gastric Cancer*,17(2),206-212,2014.
- 036 **Takahari D, Hamaguchi T, Yoshimura K, Katai H, Ito S, Fuse N, Konishi M, Yasui H, Terashima M, Goto M, Tanigawa N, Shirao K, Sano T, Sasako M** : Survival analysis of adjuvant chemotherapy with S-1plus cisplatin for stage III gastric cancer. *Gastric Cancer*,17(2),383-386,2014.
- 037 **Misawa K, Mochizuki Y, Ohashi N, Matsui T, Nakayama H, Tsuboi K, Sakai M, Ito S, Morita S, Kodera Y** : A Randomized Phase III Trial Exploring the Prognostic Value of Extensive Intraoperative Peritoneal Lavage in Addition to Standard Treatment for Resectable Advanced Gastric Cancer : CCOG 1102 Study. *Jpn J Clin Oncol*,44(1),101-103,2014.
- 038 **Yusa A, Toneri M, Masuda T, Ito S, Yamamoto S, Okochi M, Kondo N, Iwata H, Yatabe Y, Ichinose Y, Kinuta S, Kondo E, Honda H, Arai F, Nakanishi H** : Development of a New Rapid Isolation Device for Circulating Tumor Cells(CTCs) Using 3D Palladium Filter and Its Application for Genetic Analysis. *PLOS ONE*,9(2),88821-,2014.
- 039 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 清水泰博 : (特集) [IPMN国際診療ガイドライン2012の解説と残された課題] 診断の立場から. *膵臓*,28(2),131-135,2013.
- 040 佐藤高光, 脇岡 範, 今岡 大, 原 和生, 水野伸匡, 清水泰博, 山雄健次 : [IPMN/MCN診療の転換期-日本の成績が示すものは-] MCNとSCN MCN臨床像 非典型例をどうとらえるか (男性・頭部)、卵巣型間質は必須か. *肝・胆・膵*,67(5),725-732,2013.
- 041 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平, 中西速夫 : リンパ系からみた癌のリンパ行性転移 胃癌のリンパ行性転移とその治療. *リンパ学*,36(2),95-98,2013.

042 野崎功雄, 後藤田直人, 藤谷恒明, 福島紀雅, 藤田淳也, 伊藤誠二, 大下裕夫, 河村 進, 若尾文彦, 粟田 啓: 幽門側胃切除と胃全摘の両術式に利用可能なクリニカルパス. 日本臨床外科学会雑誌,74(9),2343-2348,2013.

043 金城和寿, 金光幸秀, 小森康司, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博: 拡大切除により治癒切除しえた腸管皮膚瘻合併局所進行盲腸癌の1例. 外科,76(1),87-92,2014.

【症例検討】

001 浅野智成, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 清水泰博: 肝細胞癌下縦隔リンパ節転移に対して腹臥位胸腔鏡下腫瘍摘出術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会雑誌,19(1),35-40,2014.

【分担執筆】

001 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵管内乳頭粘液性腫瘍. 画像診断,33(8),899-911,2013.

002 上原圭介, 沖 英次, 小森康司, 杉原健一: 大腸がん 結腸がん 直腸がん 肛門がん 大腸がんのスクリーニング (<http://www.tri-kobe.org/nccn/guideline/colorectal/>). NCCNガイドライン 日本語版,2013.

003 植村則久: 食道. レジデントノート, 14(17),3288-3292, 2013.

【解説/特集】

001 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下胃全摘術におけるY脚空腸パウチ・Roux-Y再建手術.67(5),559-566,2013.

002 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二: 【切除可能なStageIV胃癌に対する外科治療】手術の適応と成績 腹腔洗浄細胞診陽性例CY1胃癌に対する集学的治療. 臨床外科,68(13),1446-1449,2013.

003 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平: 【胃癌治療の過去と未来】胃がんの集学的治療の近未来. 癌の臨床,59(3),307-313,2013.

004 木下 平, 木下敬弘, 斎浦明夫, 江崎 稔, 坂本裕彦, 伊藤誠二: 【胃癌肝転移に対する治療戦略】胃癌肝転移切除例に関する多施設共同研究. 癌の臨床,59(5),485-489,2013.

005 中西速夫, 舎人 誠, 村上弘城, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二: 【胃癌腹膜転移治療の最前線】胃癌腹腔内微小転移のメカニズムとその検出. 臨床外科,68(6),636-640,2013.

006 藤原道隆, 三澤一成, 田中千恵, 小林大介, 小寺泰弘: 【術前画像診断のポイントと術中解剖認識】胃・十二指腸胃癌-幽門側胃切除術. 臨床外科,68(11),60-67,2013.

整形外科部

001 *Nishida Y, Yamada Y, Tsukushi S, Sugiura H, Urakawa H, Ishiguro N*: Midterm outcome of risedronate therapy for patients with Paget's disease of bone in the central part of Japan. Clin Rheumatol,

32:241-245, 2013.

002 *Taguchi O, Tsujimura K, Kontani K, Harada Y, Nomura S, Ikeda H, Morita A, Sugiura H, Hayashi N, Yatabe Y, Seto M, Tatematsu M, Takahashi T, Fukushima A*: Behavior of bone marrow-derived cells following in vivo transplantation Differentiation into stromal cells with roles in organ maintenance. Am J Pathol, 182:1255-1262, 2013.

003 *Kohyama K, Sugiura H, Yamada K, Hyodo I, Kato H, Kamei Y*: Posterior interosseous nerve palsy secondary to pigmented villonodular synovitis of the elbow: Case report and review of literature. Orthopaedics and Traumatology: Surgery and Research,99:247-251, 2013.

004 *Okuda H, Sugiura H, Yamada K, Hayashi N, Soga N, Ogura Y*: Effect of radiotherapy and bisphosphonate on bone metastases from renal cell carcinoma. Gan To Kagaku Ryoho, 40(11):1497-1501, 2013.

005 *Kozawa E, Sugiura H, Tsukushi S, Urakawa H, Arai E, Futamura N, Nakashima H, Yamada Y, Ishiguro N, Nishida Y*: Multiple primary malignancies in elderly patients with high-grade soft tissue sarcoma. Int J Clin Orthop, Published online:20March, 2013.

006 *Nishida Y, Tsukushi S, Urakawa H, Sugiura H, Nakashima H, Yamada Y, Ishiguro N*: High incidence of regional and in-transit lymph node metastasis in patients with alveolar rhabdomyosarcoma. Int J Clin Oncol, Published online:04 June, 2013.

007 *Nakamura T, Matsumine A, Uchida A, Kawai A, Nishida Y, Kunisada T, Araki N, Sugiura H, Tomita M, Yokouchi M, Ueda T, Sudo A*: Clinical outcomes of Kyocera Modular Limb Salvage system after resection of bone sarcoma of the distal part of the femur:the Japanese Musculoskeletal Oncology Group study. Int Orthop, 38:825-830, 2014.

008 *Okuda H, Matsushima S, Sugiura H, Yamada K, Hamada S, Nishida Y, Ishiguro N*: Equivalent cross-relaxation rate imaging positively correlates with pathological grade and cell density of adipocytic tumors. Magn Reson Imaging, 32:206-210, 2014.

009 *Hamada S, Matsushima S, Sugiura H, Yamada K, Nishida Y, Ishiguro N*: Correlation between equivalent cross-relaxation rate and cellular density in soft tissue tumors. Skeletal Radiol, 43:141-147, 2014.

010 *Sugiura H, Nishida Y, Nakashima H, Yamada Y, Tsukushi S, Yamada K*: Surgical procedures and prognostic factors for local recurrence of soft tissue sarcomas. J Orthop Sci, 19:141-149, 2014.

011 中島浩敦, 吉田雅博, 杉浦英志, 高橋 満, 米川正洋: 加温処理骨を用いた骨盤悪性骨腫瘍切除後の再建とその成績. 整形・災害外科, 56:97-101, 2013.

012 杉浦英志: 転移性骨腫瘍(四肢)の手術療法. 臨床整形外科, 48:663-668, 2013.

- 013 杉浦英志, 奥田洋史, 和佐潤志: 上肢骨転移の病的骨折に対する治療. 中部整災誌, 56:353-354, 2013.
- 014 山田健志, 濱田俊介, 杉浦英志, 細田和貴, 谷田部 恭: 左恥骨部腫瘍. 東海骨軟部腫瘍, 25:7-8, 2013.
- 015 奥田洋史, 山田健志, 杉浦英志, 山田 舞, 谷田部 恭: 膝関節内に発生した軟部肉腫の1例. 東海骨軟部腫瘍, 25:19-20, 2013.
- 016 奥田洋史, 山田健志, 杉浦英志, 佐々木英一, 谷田部 恭: 左大腿筋肉内腫瘍. 東海骨軟部腫瘍, 25:33-34, 2013.
- 017 神山圭史, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志, 亀井 譲, 八木俊路朗: 左前腕軟部肉腫の1例. 骨軟部腫瘍治療, 4:5-8, 2013.
- 018 神山圭史, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志: 肩甲骨骨肉腫の1例. 骨軟部腫瘍治療, 4:35-38, 2013.
- 019 山田健志, 杉浦英志, 神山圭史, 兵藤伊久夫: 再発を繰り返して脱分化に至った左大腿部高分化型脂肪肉腫の1例. 骨軟部腫瘍治療, 4:55-58, 2013.
- 020 濱田俊介, 杉浦英志, 山田健志: 上腕骨軟骨肉腫と合併した坐骨・GCTの1例. 骨軟部腫瘍治療, 4:67-73, 2013.
- 021 神山圭史, 水上高秀, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志, 濱田俊介, 金光幸秀: 切除により側腹部の広範な欠損を生じた大腸癌の1例. 骨軟部腫瘍治療, 4:87-90, 2013.
- 022 奥田洋史, 杉浦英志, 山田健志, 林 宣男, 曾我倫久人, 小倉友二: 腎細胞癌骨転移に対する放射線療法とビスフォスフォネート製剤併用療法. 癌と化学療法, 40:1497-1501, 2013.
- 023 奥田洋史, 杉浦英志: 嚢胞変性を伴った滑膜肉腫の3例. 中部整災誌, 56:361-362, 2013.
- 024 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃, 中島浩敦: 後腹膜発生軟部腫瘍の治療成績. 中部整災誌, 56:1409-1410, 2013.
- 025 杉浦英志: 軟部腫瘍診断・治療に対するポイント. 東海関節, 5:49-55, 2013.

泌尿器科部

原著

- 001 *Taguchi O, Tsujimura T, Kontani K, Harada Y, Nomura S, Hayashi N, et al.*: Behavior of Bone Marrow-Derived Cells Following in Vivo Transplantation: Differentiation into Stromal Cells with Roles in Organ Maintenance. *Am J Pathology*, 182, 1255-1262, 2013.
- 002 *Soga N, Ogura Y and Hayashi N*: The incidence of benign lesions in partial or radical resected suspicious renal masses determined by helical enhanced computed tomography imaging. *Current urology*, 7, 70-73, 2013.
- 003 *Nishikawa K, Soga N, Ishii K, Kato M, Iwamoto Y, Hori Y, Etoh M, Ohkawara T, Yamada T, Uchida K, Kise H, Arima K, Narita M, Shiraiishi T, Sugimura Y*: Manserin is the novel neuroendocrine marker to predict PSA biochemical failure in advanced prostate cancer. *Urologic oncology*, 13, 787-95, 2013.
- 004 *Tomita N, Soga N, Ogura Y, Hayashi N, Shimizu H,*

Kubota T, Ito J, Hirata K, Ohshima Y, Tachibana H, Kodaira T: Preliminary Analysis of Risk Factors for Late Rectal Toxicity after Helical Tomotherapy for Prostate Cancer. *J Radiat Res*, 54, 919-924, 2013.

- 005 *Soga N, Hori Y, Yamakado K, Ikeda H, Imai N, Kageyama S, Nakase K, Yuta A, Hayashi N, Shiku H, Sugimura Y*: Limited expression of cancer-testis antigens in renal cell carcinoma. *Mol Clin Onc* 1: 326-330, 2013.
- 006 奥田洋史, 杉浦英志, 山田健志, 林 宣男, 曾我倫久人, 小倉友二: 腎細胞癌骨転移病変に対する放射線療法とビスフォスフォネート製剤併用療法. 癌と化学療法 (11), 40: 1497-1501, 2013.
- 007 長谷川嘉弘, 神田英輝, 三木 学, 舛井 寛, 吉尾裕子, 山田泰司, 曾我倫久人, 有馬公伸, 杉村芳樹: 膀胱アミロイドーシスに対してDimethyl sulfoxide (DMSO)貼付療法が有効であった1例. 泌尿器科紀要, 59: 673-676, 2013.

婦人科部

- 001 *Permeth-Wey J, Lawrenson K, Shen HC, Velkova A, Tyrer JP, Chen Z, Lin HY, Chen YA, Tsai YY, Qu X, Ramus SJ, Karevan R, Lee J, Lee N, Larson MC, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Antoniou AC, Armasu SM; Australian Cancer Study; Australian Ovarian Cancer Study, Bacot F, Baglietto L, Bandera EV, Barnholtz-Sloan J, Beckmann MW, Birrer MJ, Bloom G, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Brown R, Butzow R, Cai Q, Campbell I, Chang-Claude J, Chanock S, Chenevix-Trench G, Cheng JQ, Cicek MS, Coetzee GA; Consortium of Investigators of Modifiers of BRCA1/2, Cook LS, Couch FJ, Cramer DW, Cunningham JM, Dansonka-Mieszkowska A, Despierre E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Easton DF, Eccles D, Edwards R, Ekici AB, Fasching PA, Fenstermacher DA, Flanagan JM, Garcia-Closas M, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool RM, Gonzalez-Bosquet J, Goodman MT, Gore M, Górski B, Gronwald J, Hall P, Halle MK, Harter P, Heitz F, Hillemanns P, Hoatlin M, Høgdall CK, Høgdall E, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Jim H, Kalli KR, Karlan BY, Kaye SB, Kelemen LE, Kiemeny LA, Kikkawa F, Konecny GE, Krakstad C, Kjaer SK, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Lancaster JM, Le ND, Leminen A, Levine DA, Liang D, Lim BK, Lin J, Lissowska J, Lu KH, Lubiński J, Lurie G, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Nakanishi T, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Nevanlinna H, Nickels S,*

- Noushmehr H, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Pike MC, Poole EM, Raska P, Renner SP, Risch HA, Rodriguez-Rodriguez L, Rossing MA, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Severi G, Shridhar V, Shu XO, Shvetsov YB, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Stram D, Sutphen R, Teo SH, Terry KL, Tessier DC, Thompson PJ, Tworoger SS, van Altena AM, Vergote I, Vierkant RA, Vincent D, Vitonis AF, Wang-Gohrke S, Palmieri Weber R, Wentzensen N, Whittemore AS, Wik E, Wilkens LR, Winterhoff B, Woo YL, Wu AH, Xiang YB, Yang HP, Zheng W, Ziogas A, Zulkifli F, Phelan CM, Iversen E, Schildkraut JM, Berchuck A, Fridley BL, Goode EL, Pharoah PD, Monteiro AN, Sellers TA, Gayther SA : Identification and molecular characterization of a new ovarian cancer susceptibility locus at 17q21.31. *Nat Commun*, 4:1627, 2013.
- 002 Shen H, Fridley BL, Song H, Lawrenson K, Cunningham JM, Ramus SJ, Cicek MS, Tyrer J, Stram D, Larson MC, Köbel M; PRACTICAL Consortium, Ziogas A, Zheng W, Yang HP, Wu AH, Wozniak EL, Woo YL, Winterhoff B, Wik E, Whittemore AS, Wentzensen N, Weber RP, Vitonis AF, Vincent D, Vierkant RA, Vergote I, Van Den Berg D, Van Altena AM, Tworoger SS, Thompson PJ, Tessier DC, Terry KL, Teo SH, Templeman C, Stram DO, Southey MC, Sieh W, Siddiqui N, Shvetsov YB, Shu XO, Shridhar V, Wang-Gohrke S, Severi G, Schwaab I, Salvesen HB, Rzepecka IK, Runnebaum IB, Rossing MA, Rodriguez-Rodriguez L, Risch HA, Renner SP, Poole EM, Pike MC, Phelan CM, Pelttari LM, Pejovic T, Paul J, Orlow I, Omar SZ, Olson SH, Odunsi K, Nickels S, Nevanlinna H, Ness RB, Narod SA, Nakanishi T, Moysich KB, Monteiro AN, Moes-Sosnowska J, Modugno F, Menon U, McLaughlin JR, McGuire V, Matsuo K, Adenan NA, Massuger LF, Lurie G, Lundvall L, Lubiński J, Lissowska J, Levine DA, Leminen A, Lee AW, Le ND, Lambrechts S, Lambrechts D, Kupryjanczyk J, Krakstad C, Konecny GE, Kjaer SK, Kiemeny LA, Kelemen LE, Keeney GL, Karlan BY, Karevan R, Kalli KR, Kajiyama H, Ji BT, Jensen A, Jakubowska A, Iversen E, Hosono S, Høgdall CK, Høgdall E, Hoatlin M, Hillemanns P, Heitz F, Hein R, Harter P, Halle MK, Hall P, Gronwald J, Gore M, Goodman MT, Giles GG, Gentry-Maharaj A, Garcia-Closas M, Flanagan JM, Fasching PA, Ekici AB, Edwards R, Eccles D, Easton DF, Dürst M, du Bois A, Dörk T, Doherty JA, Despiere E, Dansonka-Mieszkowska A, Cybulski C, Cramer DW, Cook LS, Chen X, Charbonneau B, Chang-Claude J, Campbell I, Butzow R, Bunker CH, Brueggmann D, Brown R, Brooks-Wilson A, Brinton LA, Bogdanova N, Block MS, Benjamin E, Beesley J, Beckmann MW, Bandera EV, Baglietto L, Bacot F, Armasu SM, Antonenkova N, Anton-Culver H, Aben KK, Liang D, Wu X, Lu K, Hildebrandt MA; Australian Ovarian Cancer Study Group; Australian Cancer Study, Schildkraut JM, Sellers TA, Huntsman D, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Gayther SA, Pharoah PD, Laird PW, Goode EL, Pearce CL : Epigenetic analysis leads to identification of HNF1B as a subtype-specific susceptibility gene for ovarian cancer. *Nat Commun*, 4:1628, 2013.
- 003 Pharoah PD, Tsai YY, Ramus SJ, Phelan CM, Goode EL, Lawrenson K, Buckley M, Fridley BL, Tyrer JP, Shen H, Weber R, Karevan R, Larson MC, Song H, Tessier DC, Bacot F, Vincent D, Cunningham JM, Dennis J, Dicks E; Australian Cancer Study; Australian Ovarian Cancer Study Group, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Armasu SM, Baglietto L, Bandera EV, Beckmann MW, Birrer MJ, Bloom G, Bogdanova N, Brenton JD, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Brown R, Butzow R, Campbell I, Carney ME, Carvalho RS, Chang-Claude J, Chen YA, Chen Z, Chow WH, Cicek MS, Coetzee G, Cook LS, Cramer DW, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Despiere E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Eccles D, Edwards R, Ekici AB, Fasching PA, Fenstermacher D, Flanagan J, Gao YT, Garcia-Closas M, Gentry-Maharaj A, Giles G, Gjyshi A, Gore M, Gronwald J, Guo Q, Halle MK, Harter P, Hein A, Heitz F, Hillemanns P, Hoatlin M, Høgdall E, Høgdall CK, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Kalli KR, Karlan BY, Kelemen LE, Kiemeny LA, Kjaer SK, Konecny GE, Krakstad C, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee N, Lee J, Leminen A, Lim BK, Lissowska J, Lubiński J, Lundvall L, Lurie G, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Nakanishi T, Narod SA, Ness RB, Nevanlinna H, Nickels S, Noushmehr H, Odunsi K, Olson S, Orlow I, Paul J, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Pike MC, Poole EM, Qu X, Risch HA, Rodriguez-Rodriguez L, Rossing MA, Rudolph A, Runnebaum I, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Severi G, Shen H, Shridhar V, Shu XO, Sieh W, Southey MC, Spellman P, Tajima K, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tworoger SS, van Altena AM, van den Berg D, Vergote I, Vierkant RA, Vitonis AF, Wang-Gohrke S,

- Wentzensen N, Whittemore AS, Wik E, Winterhoff B, Woo YL, Wu AH, Yang HP, Zheng W, Ziogas A, Zulkifli F, Goodman MT, Hall P, Easton DF, Pearce CL, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Iversen E, Monteiro AN, Gayther SA, Schildkraut JM, Sellers TA : GWAS meta-analysis and replication identifies three new susceptibility loci for ovarian cancer. *Nat Genet*, 45(4):362-70,2013.
- 004 Bojesen SE, Pooley KA, Johnatty SE, Beesley J, Michailidou K, Tyrer JP, Edwards SL, Pickett HA, Shen HC, Smart CE, Hillman KM, Mai PL, Lawrenson K, Stutz MD, Lu Y, Karevan R, Woods N, Johnston RL, French JD, Chen X, Weischer M, Nielsen SF, Maranian MJ, Ghousaini M, Ahmed S, Baynes C, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, McGuffog L, Barrowdale D, Lee A, Healey S, Lush M, Tessier DC, Vincent D, Bacot F; Australian Cancer Study; Australian Ovarian Cancer Study; Kathleen Cuningham Foundation Consortium for Research into Familial Breast Cancer (kConFab); Gene Environment Interaction and Breast Cancer (GENICA); Swedish Breast Cancer Study (SWE-BRCA); Hereditary Breast and Ovarian Cancer Research Group Netherlands (HEBON); Epidemiological study of BRCA1 & BRCA2 Mutation Carriers (EMBRACE); Genetic Modifiers of Cancer Risk in BRCA1/2 Mutation Carriers (GEMO), Vergote I, Lambrechts S, Despierre E, Risch HA, González-Neira A, Rossing MA, Pita G, Doherty JA, Alvarez N, Larson MC, Fridley BL, Schoof N, Chang-Claude J, Cicek MS, Peto J, Kalli KR, Broeks A, Armasu SM, Schmidt MK, Braaf LM, Winterhoff B, Nevanlinna H, Konecny GE, Lambrechts D, Rogmann L, Guénel P, Teoman A, Milne RL, Garcia JJ, Cox A, Shridhar V, Burwinkel B, Marme F, Hein R, Sawyer EJ, Haiman CA, Wang-Gohrke S, Andrulis IL, Moysich KB, Hopper JL, Odunsi K, Lindblom A, Giles GG, Brenner H, Simard J, Lurie G, Fasching PA, Carney ME, Radice P, Wilkens LR, Swerdlow A, Goodman MT, Brauch H, Garcia-Closas M, Hillemanns P, Winquist R, Dürst M, Devilee P, Runnebaum I, Jakubowska A, Lubinski J, Mannermaa A, Butzow R, Bogdanova NV, Dörk T, Pelttari LM, Zheng W, Leminen A, Anton-Culver H, Bunker CH, Kristensen V, Ness RB, Muir K, Edwards R, Meindl A, Heitz F, Matsuo K, du Bois A, Wu AH, Harter P, Teo SH, Schwaab I, Shu XO, Blot W, Hosono S, Kang D, Nakanishi T, Hartman M, Yatabe Y, Hamann U, Karlan BY, Sangrajrang S, Kjaer SK, Gaborieau V, Jensen A, Eccles D, Høgdall E, Shen CY, Brown J, Woo YL, Shah M, Azmi MA, Luben R, Omar SZ, Czene K, Vierkant RA, Nordestgaard BG, Flyger H, Vachon C, Olson JE, Wang X, Levine DA, Rudolph A, Weber RP, Flesch-Janys D, Iversen E, Nickels S, Schildkraut JM, Silva Idos S, Cramer DW, Gibson L, Terry KL, Fletcher O, Vitonis AF, van der Schoot CE, Poole EM, Hogervorst FB, Tworoger SS, Liu J, Bandera EV, Li J, Olson SH, Humphreys K, Orlov I, Blomqvist C, Rodriguez-Rodriguez L, Aittomäki K, Salvesen HB, Muranen TA, Wik E, Brouwers B, Krakstad C, Wauters E, Halle MK, Wildiers H, Kiemeny LA, Mulot C, Aben KK, Laurent-Puig P, Altena AM, Truong T, Massuger LF, Benitez J, Pejovic T, Perez JI, Hoatlin M, Zamora MP, Cook LS, Balasubramanian SP, Kelemen LE, Schneeweiss A, Le ND, Sohn C, Brooks-Wilson A, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Cybulski C, Henderson BE, Menkiszak J, Schumacher F, Wentzensen N, Le Marchand L, Yang HP, Mulligan AM, Glendon G, Engelholm SA, Knight JA, Høgdall CK, Apicella C, Gore M, Tsimiklis H, Song H, Southey MC, Jager A, den Ouweland AM, Brown R, Martens JW, Flanagan JM, Krieger M, Paul J, Margolin S, Siddiqui N, Severi G, Whittemore AS, Baglietto L, McGuire V, Stegmaier C, Sieh W, Müller H, Arndt V, Labrèche F, Gao YT, Goldberg MS, Yang G, Dumont M, McLaughlin JR, Hartmann A, Ekici AB, Beckmann MW, Phelan CM, Lux MP, Permuth-Wey J, Peissel B, Sellers TA, Ficarazzi F, Barile M, Ziogas A, Ashworth A, Gentry-Maharaj A, Jones M, Ramus SJ, Orr N, Menon U, Pearce CL, Brüning T, Pike MC, Ko YD, Lissowska J, Figueroa J, Kupryjanczyk J, Chanock SJ, Dansonka-Mieszkowska A, Jukkola-Vuorinen A, Rzepecka IK, Pylkäs K, Bidzinski M, Kauppila S, Hollestelle A, Seynaeve C, Tollenaar RA, Durda K, Jaworska K, Hartikainen JM, Kosma VM, Kataja V, Antonenkova NN, Long J, Shrubsole M, Deming-Halverson S, Lophatananon A, Siriwanarangsana P, Stewart-Brown S, Ditsch N, Lichtner P, Schmutzler RK, Ito H, Iwata H, Tajima K, Tseng CC, Stram DO, van den Berg D, Yip CH, Ikram MK, Teh YC, Cai H, Lu W, Signorello LB, Cai Q, Noh DY, Yoo KY, Miao H, Iau PT, Teo YY, McKay J, Shapiro C, Ademuyiwa F, Fountzilas G, Hsiung CN, Yu JC, Hou MF, Healey CS, Luccarini C, Peock S, Stoppa-Lyonnet D, Peterlongo P, Rebbeck TR, Piedmonte M, Singer CF, Friedman E, Thomassen M, Offit K, Hansen TV, Neuhausen SL, Szabo CI, Blanco I, Garber J, Narod SA, Weitzel JN, Montagna M, Olah E, Godwin AK, Yannoukakos D, Goldgar DE, Caldes T, Imyanitov EN, Tihomirova L, Arun BK, Campbell I, Mensenkamp AR, van Asperen CJ,

van Roozendaal KE, Meijers-Heijboer H, Collée JM, Oosterwijk JC, Hooning MJ, Rookus MA, van der Luijt RB, Os TA, Evans DG, Frost D, Fineberg E, Barwell J, Walker L, Kennedy MJ, Platte R, Davidson R, Ellis SD, Cole T, Bressac-de Paillerets B, Buecher B, Damiola F, Faivre L, Frenay M, Sinilnikova OM, Caron O, Giraud S, Mazoyer S, Bonadona V, Caux-Moncoutier V, Toloczko-Grabarek A, Gronwald J, Byrski T, Spurdle AB, Bonanni B, Zaffaroni D, Giannini G, Bernard L, Dolcetti R, Manoukian S, Arnold N, Engel C, Deissler H, Rhiem K, Niederacher D, Plendl H, Sutter C, Wappenschmidt B, Borg A, Melin B, Rantala J, Soller M, Nathanson KL, Domchek SM, Rodriguez GC, Salani R, Kaulich DG, Tea MK, Paluch SS, Laitman Y, Skytte AB, Kruse TA, Jensen UB, Robson M, Gerdes AM, Ejlertsen B, Foretova L, Savage SA, Lester J, Soucy P, Kuchenbaecker KB, Olswold C, Cunningham JM, Slager S, Pankratz VS, Dicks E, Lakhani SR, Couch FJ, Hall P, Monteiro AN, Gayther SA, Pharoah PD, Reddel RR, Goode EL, Greene MH, Easton DF, Berchuck A, Antoniou AC, Chenevix-Trench G, Dunning AM : Multiple independent variants at the TERT locus are associated with telomere length and risks of breast and ovarian cancer. *Nat Genet*, 45(4):371-842, 2013.

- 005 **Katsumata N, Yoshikawa H, Kobayashi H, Saito T, Kuzuya K, Nakanishi T, Yasugi T, Yaegashi N, Yokota H, Kodama S, Mizunoe T, Hiura M, Kasamatsu T, Shibata T, Kamura T; Japan Clinical Oncology Group** : Phase III randomised controlled trial of neoadjuvant chemotherapy plus radical surgery vs radical surgery alone for stages IB2, IIA2, and IIB cervical cancer : a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0102). *Br J Cancer*, 108(10):1957-1963, 2013.
- 006 **Hosono S, Matsuo K, Ito H, Oze I, Hirose K, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H** : Polymorphisms in base excision repair genes are associated with endometrial cancer risk among postmenopausal Japanese women. *Int J Gynecol Cancer*, 23(9):1561-1568, 2013.

麻酔科部

- 001 **Kobayashi R, Mori S, Wakai K, Fukumoto K, Saito T, Katayama T, Nakata J, Fukui T, Ito S, Abe T, Hatooka S, Hosoda R, Mitsudomi T** : Paravertebral block via the surgical field versus epidural block for patients undergoing thoracotomy: a randomized clinical trial. *Surg Today*. 2013;43:963-9
- 002 **Kobayashi Y, Nakada J, Kuroda H, Sakakura**

N, Usami N, Sakao Y : Spinal Epidural Hematoma during Anticoagulant Therapy for Pulmonary Embolism: Postoperative Complications in a Patient with Lung Cancer. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*. 2014 Feb 4. [Epub ahead of print]

放射線診断・I V R部

- 001 **Ikeda M, Okusaka T, Furuse J, Mitsunaga S, Ueno H, Yamaura H, Inaba Y, Takeuchi Y, Satake M, Arai Y** : A multi-institutional phase II trial of hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis. *Cancer Chemother Pharmacol*, 72(2):463-70, 2013.
- 002 **Ikeda M, Arai Y, Park SJ, Takeuchi Y, Anai H, Kim JK, Inaba Y, Aramaki T, Kwon SH, Yamamoto S, Okusaka T** : Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group (JIVROSG), Korea Interventional Radiology in Oncology Study Group (KIVROSG). Prospective study of transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma: an Asian cooperative study between Japan and Korea. *J Vasc Interv Radiol*, 24(4):490-500, 2013.
- 003 **Aramaki T, Arai Y, Inaba Y, Sato Y, Saito H, Sone M, Takeuchi Y** : Phase II study of percutaneous transesophageal gastrotubing for patients with malignant gastrointestinal obstruction; JIVROSG-0205. *J Vasc Interv Radiol*, 24(7):1011-7, 2013.
- 004 **Inaba Y, Kanai F, Aramaki T, Yamamoto T, Tanaka T, Yamakado K, Kaneko S, Kudo M, Imanaka K, Kora S, Nishida N, Kawai N, Seki H, Matsui O, Arioka H, Arai Y** : A randomized phase II study of TSU-68 in patients with hepatocellular carcinoma treated by transarterial chemoembolization. *Eur J Cancer*, 49(13):2832-40, 2013.
- 005 **Ito A, Ito Y, Matsushima S, Tsuchida D, Ogasawara M, Hasegawa J, Misawa K, Kondo E, Kaneda N, Nakanishi H** : New whole-body multimodality imaging of gastric cancer peritoneal metastasis combining fluorescence imaging with ICG-labeled antibody and MRI in mice. *Gastric Cancer*, 17(3):497-507, 2013.
- 006 **Hamada S, Matsushima S, Sugiura H, Yamada K, Nishida Y, Ishiguro N** : Correlation between equivalent cross-relaxation rate and cellular density in soft tissue tumors. *Skeletal Radiol*, 43(2):141-7, 2014.
- 007 **Okuda H, Matsushima S, Sugiura H, Yamada K, Hamada S, Nshida Y, Ishiguro N** : Equivalent cross-relaxation rate imaging positively correlates with pathological grade and cell density of adipocytic tumors. *Magn Reson Imaging*, 32(3):206-10, 2014.

- 008 **Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Kinoshita Y, Era S, Takahashi K, Inaba Y** : Visualization of liver uptake function using the uptake contrast-enhanced ratio in hepatobiliary phase imaging. *Magn Reson Imaging*, 32(6):654-9,2014.
- 009 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 加藤弥菜 : ドレナージカテーテルの種類. *臨床画像*, 29(7):784-9,2013.
- 010 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 川田紘資, 村田慎一, 稲葉吉隆 : 腎瘻造設. *臨床画像* 29(7):842-7,2013.
- 011 佐藤洋造, 小倉友二 : 尿管形成術 : Double-Jステントを含む. *臨床画像*, 29(7):848-53,2013.
- 012 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 稲葉吉隆 : 動注リザーバー : 留置困難例に対する技術. *IVR会誌*, 28(4):93-5,2013.
- 013 稲葉吉隆 : 骨転移に対するIVR. *メディカル朝日*, 43(1):36-7,2014.
- 014 佐藤洋造, 福嶋敬子 : 経皮経肝の門脈塞栓術 (PTPE) ・腫瘍血管塞栓術. *プロフェッショナルがんナーシング*, 4(1):26-7,2014.
- 015 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 鹿島正隆 : IVR医に必要な抗がん剤についての知識. *IVR会誌*, 29(1):72-6,2014.
- 016 加藤弥菜 : 抗悪性腫瘍薬の副作用とその対策 - 肝障害. 最新がん薬物療法学 : がん薬物療法の最新知見. *日本臨牀*, 72(Suppl 2):550-4,2014.
- 放射線治療部
- 001 **Nakahara R, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Tomita N, Inokuchi H, Mizoguchi N, Goto Y, Ito Y, Naganawa S** : Treatment outcomes of definitive chemoradiotherapy for patients with hypopharyngeal cancer. *J Radiat Res*, 53(6) : 906-15,2012.
- 002 **Goto Y, Kodaira T, Fuwa N, Mizoguchi N, Nakahara R, Nomura M, Tomita N, Tachibana H** : Alternating chemoradiotherapy in patients with nasopharyngeal cancer: prognostic factors and proposal for individualization of therapy. *J Radiat Res* ,54(1) : 98-107,2013.
- 003 **Sawaki M, Kondo N, Horio A, Ushio A, Gondo N, Adachi E, Hattori M, Fujita T, Tachibana H, Kodaira T, Iwata H** : Feasibility of intraoperative radiation therapy for early breast cancer in Japan: a single-center pilot study and literature review. *Breast Cancer* ,2012.
- 004 **Okano S, Yoshino T, Fujii M, Onozawa Y, Kodaira T, Fujii H, Akimoto T, Ishikura S, Oguchi M, Zenda S, de Blas B, Tahara M** : Phase II study of cetuximab plus concomitant boost radiotherapy in Japanese patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J of Clin Oncol*, 43(5):476-82,2013.
- 005 **Hanai N, Kawakita D, Ozawa T, Hirasakawa H, Kodaira T, Hasegawa Y** : Neck dissection after chemoradiotherapy for oropharyngeal and hypopharyngeal cancer: the correlation between cervical lymph node metastasis and prognosis. *Int J Clin Oncol*, 19(1):30-7,2014.
- 006 **Yamashita H, Niibe Y, Toita T, Kazumoto T, Nishimura T, Kodaira T, Eto H, Kinoshita R, Tsujino K, Onishi H, Takemoto M, Hayakawa K** : High-dose rate intra-cavitary brachytherapy combined with external beam radiation therapy for under 40 years old patients with invasive uterine cervical carcinoma: clinical outcomes in 118 patients in a Japanese multi-institutional study JASTRO. *Jpn J of Clin Oncol*, 43(5):547-52, 2013.
- 007 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Hayashi N, Shimizu H, Kubota T, Ito J, Hirata K, Ohshima Y, Tachibana H, Kodaira T** : Preliminary analysis of risk factors for late rectal toxicity after helical tomotherapy for prostate cancer. *J Radiat Res*,54(5):919-24, 2013.
- 008 **Kato K, Nakajima T, Ito Y, Katada C, Ishiyama H, Tokunaga SY, Tanaka M, Hironaka S, Hashimoto T, Ura T, Kodaira T, Yoshimura KI** : Phase II Study of Concurrent Chemoradiotherapy at the Dose of 50.4 Gy with Elective Nodal Irradiation for Stage II-III Esophageal Carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*,43(6):608-15, 2013.
- 009 **Goto Y, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Tomita N, Ito J, Hanai N, Ozawa T, Hirasakawa H, Suzuki H, Hasegawa Y** : Clinical Outcome and Patterns of Recurrence of Head and Neck Squamous Cell Carcinoma with a Limited Field of Postoperative Radiotherapy. *Jpn J of Clin Oncol*, 43(7):719-25,2013.
- 010 **Kasuya G, Toita T, Furutani K, Kodaira T, Ohno T, Kaneyasu Y, Yoshimura R, Uno T, Yogi A, Ishikura S, Hiraoka M** : Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer. *Radiation Oncol*,8:139,2013.
- 011 **Goto M, Hanai N, Ozawa T, Hirasakawa H, Suzuki H, Hyodo I, Kodaira T, Ogawa T, Fujimoto Y, Terada A, Kato H, Hasegawa Y** : Prognostic factors and outcomes for salvage surgery in patients with recurrent squamous cell carcinoma of the tongue. *Asia Pac J Clin Oncol*, 2013.
- 012 **Hirata K, Kodaira T, Tomita N, Ohshima Y, Ito J, Tachibana H, Nakanishi T, Fuwa N** : Clinical Efficacy of Alternating Chemoradiotherapy by Conformal Radiotherapy Combined with Intracavitary Brachytherapy for High-risk Cervical Cancer. *Jpn J of Clin Oncol*, in press,2013.
- 013 **Tomita N, Kodaira T, Teshima T, Ogawa K, Kumazaki Y, Yamauchi C, Toita T, Uno T, Sumi M,**

Onishi H, Kenjo M, Nakamura K : Japanese Structure Survey of High-precision Radiotherapy in 2012 Based on Institutional Questionnaire about the Patterns of Care. Jpn J of Clin Oncol, in press, 2013.

- 014 *Makita C, Nakamura T, Takayama K, Takada A, Fuwa N, Sakuma H* : Proton beam therapy and continuous intra-arterial chemotherapy for polymorphous low-grade adenocarcinoma in the hard palate. Case Rep Oncol, 6:66-71, 2013.
- 015 *Makita C, Nakamura T, Takada A, Takayama K, Suzuki M, Ishikawa Y, Azami Y, Kato T, Tsukiyama I, Kikuchi Y, Hareyama M, Murakami M, Fuwa N, Hata M, Inoue T* : Clinical outcomes and toxicity of proton beam therapy for advanced cholangiocarcinoma. Radiat Oncol, 9:26, 2014.
- 016 古平 毅 : 新版 基礎からの臨床医学 島本佳寿広 編 名古屋大学出版. 第3部 疾患の治療 第2章 放射線治療, 225-237, 2013.
- 017 古平 毅 : 知っておきたい放射線治療の新しい知識-専門医の診方・治し方 トモセラピー 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 85(3): 218-222, 2013.

緩和ケア部

- 001 小森康永 : その時 (集団精神療法と家族療法の) 歴史が動いた. 家族療法研究, 30(2):192-197, 2013.
- 002 小森康永 : 書評『ミルトン・エリクソン 二月の男』家族療法研究, 30(3):295-296, 2013.

その他誌上への発表

- 001 小森康永 : ナラティブ・メディスン・ワークショップ in 宇部. 精神療法, 39(2):284-292, 2013.
- 002 小森康永 : ロバート・コールズとWCウィリアムズ. 精神療法, 39 (3) ; 435-443, 2013.
- 003 小森康永 : 人生を語ること. 精神療法, 39(4):592-600, 2013.
- 004 小森康永 : 患者の身体を読む. 精神療法, 39(5):767-774, 2013.
- 005 小森康永 : 精読. 精神療法, 39(6):927-934, 2013.
- 006 小森康永 : 二つの受容をめぐって ナラティブ・サイコoncロジーの立場から. 精神療法, 39(6):885-889, 2013.
- 007 HM. チョチノフ (小森康永, 奥野光訳) : ディグニティセラピー. 北大路書房, 2013.8.
- 008 金 有淑, 小森康永, 崔智媛 : ナラティブ・プレイセラピー. Hakjisa, 2013 (韓国語).
- 009 小森康永 : ナラティブ・プラクティスの地図. 精神療法, 40(1):80-84, 2014.
- 010 小森康永 : エンド・オブ・ライフ・ケア. 家族看護, 12 (1):73-81, 2014.
- 011 小森康永 : 配慮、表現、そして参入について. 精神療法, 40(1):134-140, 2014.

看護部

- 001 吉川 恵, 阿部まゆみ, 浅場 香 : 在宅療養中のがん体験者の“生きる”を支える対話の場づくり 地域包括緩和ケアの伸展をめざして. 看護管理, 医学書院, Vol.24 No.1, p51, 2013.
- 002 南谷志野, 梶原智代美, 高木仁美 : A県立病院合同看護管理研修の効果分析-看護管理への関心度、自己効力感、キャリア志向の研修前中後比較-. 日本看護管理学会誌17(2), p136-145, 2013.
- 003 福嶋敬子 : 経皮経肝的門脈塞栓術 (PTPE) ・腫瘍血管塞栓術. プロフェッショナルがんナーシング, メディカ出版, vol.4 no.1, P.26-27, 2014.
- 004 高畑知帆子 : 抗がん剤の血管外漏出への対応に関するマニュアルと教育. 消化器最新看護, 日経研出版, p 25-30, 2014.
- 005 久保 知 : 緩和的放射線療法の治療計画とケアへ脳転移・骨転移・脊髄圧迫～. がん看護特集「がん放射線療法看護～治療計画から看護支援を考える～, 南江堂, 18巻6号10月号, p625～628, 2013.
- 006 久保 知 : 頭頸部癌における外来化学療法を取り入れている施設の現状や取り組み. 頭頸部癌FRONTER, メディカルレビュー社, p76-80, 2013.
- 007 久保 知 : 病棟・外来・治療室で行うアセスメントと患者サポート・食道. がん放射線療法ケアガイド新訂版, 中山書店, p162-169, 2013.
- 008 久保 知 : 緩和的放射線療法の治療計画とケア. がん看護, 南江堂, p625-628, 2013.
- 009 宮原久枝 : ナラティブ・オンコロジーにおけるパラレル・チャート忘れられないMさんとの出会い. N : ナラティブとケア, 遠見書房, p14-15, 2014.
- 010 野口見知子, 柴田亜弥子, 山田健司 : 事例でひもとく手術看護一倫理問題への対処第1回-. 手術看護エキスパート, 日経研, p73-76, 2013.
- 011 高木礼子 : 乳がん納得のいく治療をえらぶために「治療中の生活Q&A」. 別冊NHKきょうの健康, HNK出版, p70-77, 2013.
- 012 翠 邦治 : 効果的な労いと実践の意味づけで、忙しくても人員不足でも元気な部署に. ナースマネージャー, 日経研, p26～31, 2014.

薬剤部

- 001 立松三千子, 栗木玲子, 秦 毅司, 室 圭 : 医香薬薬連携による外来がん患者サポート. 日本緩和医療薬学雑誌, 7 : 13-19, 2014.
- 002 立松三千子 : 経口抗がん剤の服薬指導-アドヒアランス向上をめざした多職種連携-. 医学のあゆみ 第5土曜特集, 246 : 749-754, 2013.
- 003 立松三千子 : 病院と保険薬局との連携～看護師がキーパーソン～. がん看護 1・2月増刊号, 19 : 147-150, 2014.

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

疫学予防部

- 001 Ikeda M, Aleksic B, Yamada K, Iwayama Y, Matsuo K, Numata S, Watanabe Y, Ohnuma T, Kaneko T, Fukuo Y, Okochi T, Toyota T, Hattori E, Shimodera S, Itakura M, Nunokawa A, Shibata N, Tanaka H, Yoneda H, Arai H, Someya T, Ohmori T, Yoshikawa T, Ozaki N, Iwata N : Genetic evidence for association between NOTCH4 and schizophrenia supported by a GWAS follow-up study in a Japanese population. *Mol Psychiatry*, 18(6):636-8, 2013.
- 002 Shitara K, Sawaki A, Matsuo K, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Niwa Y, Muro K : A retrospective comparison of S-1 plus cisplatin and capecitabine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer. *Int J Clin Oncol*, 18(3):539-46, 2013.
- 003 Shitara K, Yatabe Y, Matsuo K, Sugano M, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Ito S, Muro K : Prognosis of patients with advanced gastric cancer by HER2 status and trastuzumab treatment. *Gastric Cancer*, 16(2):261-7, 2013.
- 004 Islam T, Ito H, Sueta A, Hosono S, Hirose K, Watanabe M, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K : Alcohol and dietary folate intake and risk of breast cancer: a case-control study in Japan. *Eur J Cancer*, 22(4):358-66, 2013.
- 005 Garcia_closas M, Cough F, Lindstrom S, Michailidou K, Schmidt MK, Brook M, Orr N, Thie SK, Riboli E, Feigelson HS, Le Marchand L, Buring JE, Eccles D, Mrion P, Fasching PA, Bruch H, Chang-Claude J, Carpenter J, Godwin A, Nevanlinna H, Giles GG, Cox A, Hopper JL, Humphreys MK, Wang Q, Dennis J, Dicks E, Howat WJ, Schoof N, Bojesen SE, Lambrechts D, Broeks A, Andrulis IL, Guenel P, Burwinkel B, Sawyer EJ, Hollestelle A, Fletcher O, Winqvist R, Brenner H, Mannermaa A, Hamann U, Meindl A, Lindblom A, Zheng W, Devilee P, Goldberg MS, Lubinski J, Kristensene V, Swerdlow A, Anton-Culver H, Dork T, Muir K, Matsuo K, Wu AH, Radice P, Teo SH, Shu XO, Blot W, Kang D, Hartman M, Sangrajrang S, Shen CY, Sothey MC, Park DJ, Hammet F, Stone J, Veer LJV, Rutgers EJ, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Peto J, Schrauder MG, Ekici AB, Beckmann MW, dos Santos Silva I, Johnson N, Warren H, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Truong T, Laurent-Puig P, Kerbrat P, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Milne RL, Arias Perez JJ, Menendez P, Muller H, Arndt V, Stegmaier C, Lichtner P, Lochmann M, Justenhoven C, Ko YD, The GenicaNetwork, Muranen TA, Aittomaki K, Blomqvist C, Greco D, Heikkinen T, Ito H, Iwata H, Yatabe Y, Antonenkova NN, Margolin S, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Balleine R, kConFab Investigators, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Neven P, Dieudonne AS, Leunen K, Rudolph A, Nickels S, Flesch-Janys D, Peterlongo P, Peissel B, Bernard L, Olson JE, Wang X, Stevens K, Severi G, Baglietto L, McLean C, Coetzee GA, Feng Y, Henderson BE, Schumacher F, Bogdanova NV, Labreche F, Dumont M, Yip CH, Mohd Taib NA, Cheng CY, Shrubsole M, Long J, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Knight JA, Glendon G, Mulligan AM, Tollenaar RAEM, Seynaeve CM, Krieger M, Hooning MJ, van den Ouweland AMW, van Deurzen CHM, Lu W, Gao YT, Cai H, Balasubramanian SP, Cross SS, Reed MWR, Signorello L, Cai Q, Shah M, Miao H, Chan CW, Chia KS, Jakubowska A, Jaworska K, Durda K, Hsiung CN, Wu PE, Yu JC, Ashworth A, Jones M, Tessier DC, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso MR, Vincent D, Bacot F, Ambrosone CB, Bandera EV, John EM, Chen GK, Hu JJ, Rodiquiz-Gil JL, Bernstein L, Press MF, Ziegler RG, Millikan RM, Deming-Halverson SL, Nyante S, Ingles SA, Waisfisz Q, Tsimikilis H, Makalic E, Schmidt D, Bui M, Gibson L, Muller-Myhsok B, Hein R, Dahmen N, Beckmann L, Aaltonen K, Czene K, Irwanto A, Liu J, Turnbull C, FBCS, Rahman N, Meijers-Heijboer H, Uitterlinden AG, Rivadeneira F, ABCTB Investigators Olswold C, Slager S, Pilarski R, Ademuyiwa F, Konstantopoulou I, Martin NG, Montgomery GW, Slamon DJ, Rauh C, Lux MP, Jud SM, Bruning T, Weaver JE, Sharma P, Pathak H, Tapper W, Gerty S, Durcan L, Trichopoulos D, Tumino R, Peeters PH, Kaaks R, Campa D, Canzian F, Weiderpass E, Johansson M, Khaw KT, Travis R, Clavel-Chapelon F, Kolonel LN, Chen C, Beck A, Hankinson SE, Berg C, Hoover RN, Lissowska J, Figueroa J, Chasman DI, Gaudet MM, Diver WR, Willett WC, Hunter DJ, Simard J, Benitez J, Duning AM, Sherman ME, Chenevix-Trench G, Chanock SJ, Hall P, Pharoah P, Vachon C, Easton DF, Haiman CA, Kraft P : Genome-wide association studies identify four ER-negative specific breast cancer risk loci. *Nat Genet*, 45(4):392-8, 2013.
- 006 Wakai K, Matsuo K, Matsuda F, Yamada R,

- Takahashi M, Kawaguchi T, Yatabe Y, Ito H, Hosono S, Tajima K, Naito M, Morita E, Yin G, Sakamoto T, Takashima N, Suzuki S, Nakahata N, Mikami H, Ohnaka K, Watanabe Y, Arisawa K, Kubo M, Hamajima N, Tanaka H; the J-MICC Study Group : Genome-wide association study of the genetic factors related to confectionery intake: Potential roles of the ADIPOQ gene. *Obesity* (Silver Spring). 21(11):2413-9, 2013.
- 007 Michailidou K, Hall P, Gonzalez-Neira A, Ghoussaini M, Dennis J, Milne RL, Schmidt MK, Chang-Claude J, Bojesen SE, Bolla MK, Wang Q, Dicks E, Lee A, Turnbull C, Rahman N; Breast and Ovarian Cancer Susceptibility Collaboration, Fletcher O, Peto J, Gibson L, Dos Santos Silva I, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomäki K, Blomqvist C, Czene K, Irwanto A, Liu J, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H, Adank M; Hereditary Breast and Ovarian Cancer Research Group Netherlands (HEBON), van der Luijt RB, Hein R, Dahmen N, Beckman L, Meindl A, Schmutzler RK, Müller-Myhsok B, Lichtner P, Hopper JL, Southey MC, Makalic E, Schmidt DF, Uitterlinden AG, Hofman A, Hunter DJ, Chanock SJ, Vincent D, Bacot F, Tessier DC, Canisius S, Wessels LF, Haiman CA, Shah M, Luben R, Brown J, Luccarini C, Schoof N, Humphreys K, Li J, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Couch FJ, Wang X, Vachon C, Stevens KN, Lambrechts D, Moisse M, Paridaens R, Christiaens MR, Rudolph A, Nickels S, Flesch-Janys D, Johnson N, Aitken Z, Aaltonen K, Heikkinen T, Broeks A, Veer LJ, van der Schoot CE, Guénel P, Truong T, Laurent-Puig P, Menegaux F, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Burwinkel B, Zamora MP, Perez JI, Pita G, Alonso MR, Cox A, Brock IW, Cross SS, Reed MW, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Mulligan AM; kConFab Investigators; Australian Ovarian Cancer Study Group, Lindblom A, Margolin S, Hoening MJ, Hollestelle A, van den Ouweland AM, Jager A, Bui QM, Stone J, Dite GS, Apicella C, Tsimiklis H, Giles GG, Severi G, Baglietto L, Fasching PA, Haeberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Brenner H, Müller H, Arndt V, Stegmaier C, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Figueroa J, Lissowska J, Brinton L, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Brauch H, Hamann U, Brüning T; GENICA (Gene Environment Interaction and Breast Cancer in Germany) Network, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bonanni B, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, van Asperen CJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Bogdanova NV, Antonenkova NN, Dörk T, Kristensen VN, Anton-Culver H, Slager S, Toland AE, Edge S, Fostira F, Kang D, Yoo KY, Noh DY, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Sueta A, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Teo SH, Yip CH, Phuah SY, Cornes BK, Hartman M, Miao H, Lim WY, Sng JH, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Shen CY, Hsiung CN, Wu PE, Ding SL, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Blot WJ, Signorello LB, Cai Q, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Simard J, Garcia-Closas M, Pharoah PD, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Benitez J, Easton DF : Large-scale genotyping identifies 41 novel breast cancer susceptibility loci. *Nat Genet*. 45(4):353-61, 2013.
- 008 Bojesen S, Pooley K, Johnatty S, Beesley J, Michailidou K, Tyrer J, Edwards S, Pickett H, Shen H, Smart C, Hillman K, Mai P, Lawrenson K, Stutz M, Lu Y, Karevan R, Woods N, Johnston R, French J, Chen X, Wesicher M, Nielsen S, Maranian M, Ghoussaini M, Ahmed S, Baynes C, Humphreys M, Wang J, Dennis J, McGuffog L, Barrowdale D, Lee A, Healey S, Lush M, Tessier D, Vincent D, Bacot F, Australian Cancer Study, Australian Ovarian Cancer Study Group, Vergote I, Lambrechts S, Despiere E, Risch H, Gonzalez-Neira A, Rossing M, Pita G, Doherty J, Álvarez N, Larson M, Fridley B, Schoof N, Chang-Claude J, Cicek M, Peto J, Kalli K, Broeks A, Armasu S, Schmidt M, Braaf L, Winterhoff B, Nevanlinna H, Konecny G, Lambrechts D, Rogmann L, Guénel P, Teoman A, Milne R, Garcia J, Cox A, Shridhar V, Burwinkel B, Marme F, Hein R, Sawyer E, Haiman C, Wang-Gohrke S, Andrulis I, Moysich K, Hopper J, Odunsi K, Lindblom A, Giles G, Brenner H, Simard J, Lurie G, Fasching P, Carney M, Radice P, Wilkens L, Swerdlow A, Goodman M, Brauch H, Garcia-Closas M, Hillemanns P, Winqvist R, Dürst M, Devilee P, Runnebaum I, Jakubowska A, Lubinski J, Mannermaa A, Butzow R, Bogdanova N, Dörk T, Pelttari L, Zheng W, Leminen A, Anton-Culver H, Bunker C, Kristensen V, Ness R, Muir K, Edwards R, Meindl A, Heitz F, Matsuo K, Bois A, Wu A, Harter P, Teo S, Schwaab I, Shu X, Blot W, Hosono S, Kang D, Nakanishi T, Hartman M, Yatabe Y, Hamann U, Karlan B, Sangrajrang S, Kjaer S, Gaborieau V, Jensen A, Eccles D,

- Høgdall E, Shen C, Brown J, Woo Y, Shah M, Mat Adenan N, Luben R, Omar S, Czene K, Vierkant R, Nordestgaard B, Flyger H, Vachon C, Olson J, Wang X, Levine D, Rudolph A, Weber R, Flesch-Janys D, Iversen E, Nickels S, Schildkraut J, Dos-Santos-Silva I, Cramer D, Gibson L, Terry K, Fletcher O, Vitonis A, van der Schoot E, Poole E, Hogervorst F, Tworoger S, Liu J, Bandera E, Li J, Olson S, Humphreys K, Orlov I, Blomqvist C, Rodriguez-Rodriguez L, Aittomäki K, Salvesen H, Muranen T, Wik E, Brouwers B, Krakstad C, Wauters E, Halle M, Wildiers H, Kiemeny-L, Mulot C, Aben K, Laurent-Puig P, van Altena A, Truong T, Massuger L, Benitez J, Pejovic T, Arias Perez J, Hoatlin M, Zamora M, Cook L, Balasubramanian S, Kelemen L, Schneeweiss A, Le N, Sohn C, Brooks-Wilson A, Tomlinson I, Kerin M, Miller N, Cybulski C, kConFab Investigators, Henderson B, Menkiszak J, Schumacher F, Wentzensen N, Le Marchand L, Yang H, Mulligan A, Glendon G, Engelholm S, Knight J, Høgdall C, Apicella C, Gore M, Tsimiklis H, Song H, Southey M, Jager A, van den Ouweland A, R, Martens J, Flanagan J, Kriege M, Paul J, Margolin S, Siddiqui N, Severi G, Whittemore A, Baglietto L, McGuire V, Stegmaier C, Sieh W, Müller H, Arndt V, LabrèChe F, Gao Y, Goldberg M, Yang G, Dumont M, McLaughlin J, Hartmann A, Ekici A, Beckmann M, Phelan C, Lux M, Permuth-Wey J, Peissel B, Sellers T, Ficarazzi F, Barile M, Ziogas A, Ashworth A, Gentry-Maharaj A, Jones M, Ramus S, Orr N, Menon U, The Genica Network, Pearce C, Brüning T, Pike M, Ko Y, Lissowska J, Figueroa J, Kupryjanczyk J, Chanock S, Dansonka-Mieszkowska A, Jukkola-Vuorinen A, Rzepecka I, Pylkäs K, Bidzinski M, Kauppila S, Hollestelle A, Seynaeve C, Monteiro A, Tollenaar R, Durda K, Jaworska K, Hartikainen J, Kosma V, Kataja V, Antonenkova N, Long J, Shrubsole M, Deming-Halverson S, Lophatananon A, Siriwanarangsana P, Stewart-Brown S, Ditsch N, Lichtner P, Schmutzler R, Ito H, Iwata H, Tajima K, Tseng C, Stram D, den D, Yip C, Ikram M, Teh Y, Cai H, Lu W, Signorello L, Cai Q, Noh D, Yoo K, Miao H, Iau P, Teo Y, McKay J, Shapiro C, Ademuyiwa F, Fountzilas G, Hsiung C, Yu J, Hou M, Healey C, Luccarini C, Wang Q, Peock S, Stoppa-Lyonnet D, Peterlongo P, SWE-BCRA, Rebbeck T, Piedmonte M, Singer C, Friedman E, Thomassen M, Offit K, Hansen T, Neuhausen S, Szabo C, Blanco I, Garber J, Narod S, Weitzel J, Montagna M, Olah E, Godwin A, Yannoukakos D, Goldgar D, Caldes T, Imyanitov E, Tihomirova L, Arun B, Campbell I, Mensenkamp A, van Asperen C, van Roozendaal K, Meijers-Heijboer H, HEBON, Collée J, Oosterwijk J, Hooning M, Rookus M, van der Luijt R, van Os T, Evans D, Frost D, Fineberg E, Embrace, Barwell J, Walker L, Kennedy M, Platte R, Davidson R, Ellis S, Cole T, de Pailleters B, Buecher B, Damiola F, Collaborators G, Faivre L, Frenay M, Sinilnikova O, Caron O, Giraud S, Mazoyer S, Bonadona V, Caux-Moncoutier V, Toloczko-Grabarek A, Gronwald J, Byrski T, Spurdle A, Bonanni B, Zaffaroni D, Giannini G, Bernard L, Dolcetti R, Manoukian S, Norbert A, Engel C, Helmut D, Rhiem K, Alfons M, Dieter N, Hansjoerg P, Christian S, Wappenschmidt B, Borg A, Melin B, Rantala J, Soller M, Nathanson K, Domchek S, Rodriguez G, Salani R, Kaulich D, Tea M, Paluch S, Laitman Y, Skytte A, Kruse T, Jensen U, Robson M, Gerdes A, Ejlertsen B, Foretova L, Savage S, Lester J, Soucy P, Kuchenbaecker K, Olswold C, Cunningham J, Slager S, Pankratz V, Dicks E, Lakhani S, Couch F, Hall P, Gayther S, Pharoah P, Reddel R, Goode E, Greene M, Easton D, Berchuck A, Antoniou A, Chenevix-Trench G, Dunning A : Multiple independent TERT variants associated with telomere length and risks of breast and ovarian cancer. *Nat Genet*, 45(4):371-84, 2013.
- 009 Peters U, Jiao S, Schumacher FR, Hutter CM, Aragaki AK, Baron JA, Berndt SJ, Bezieau S, Brenner H, Butterbach K, Caan BJ, Carlson CS, Casey G, Chan AT, Chang-Claude J, Chanock SJ, Chen LS, GCoetzee GA, Coetzee AG, Conti DV, Curtis K, Duggan D, Edwards T, Fuchs CS, Gallinger S, Giovannucci EL, Gogarten SM, Gruber SB, Haile RB, Harrision TA, Hayes RB, Henderson BE, Hoffmeister M, Hopper JL, Hudson TJ, Hunter DJ, Jackson RD, Jenkins MA, Kolonel LN, Kooperberg C, Kury S, Jee SH, Jia WH, LCroix AZ, Larue CC, Laurie CA, Le Marchand L, Lemier M, Levine D, Lindor NM, Liu Y, Ma J, Makar KW, Matsuo K, Newcomb PA, Potter JD, Prentice RL, Qu C, Rohan T, Rosse SA, Schoen RE, Seminara D, Shrubsole M, Shu XO, Slattery ML, Taberna D, Thibodeau SN, Ulrich CM, Vijayaraghavan R, Weir B, White E, Xiang Y, Zanke BW, Zeng YX, Zhang B, Zheng W, Hsu L : Identification of Genetic Susceptibility Loci for Colorectal Tumors in a Genome-Wide Meta-analysis. *Gastroenterology*, 144(4):799-807, 2013.
- 010 Permuth-Wey J, Lawrenson K, Shen HC, Velkova A, Tyrer JP, Chen Z, Lin HY, Ann Chen Y, Tsai YY, Qu X, Ramus SJ, Karevan R, Lee J, Lee N, Larson MC, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Antoniou AC, Armasu SM; stralian Cancer

- Study; stralian Ovarian Cancer Study, Bacot F, Baglietto L, Bandera EV, Barnholtz-Sloan J, Beckmann MW, Birrer MJ, Bloom G, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Brown R, Butzow R, Cai Q, Campbell I, Chang-Claude J, Chanock S, Chenevix-Trench G, Cheng JQ, Cicek MS, Coetzee GA; Consortium of Investigators of Modifiers of BRCA1/2, Cook LS, Couch FJ, Cramer DW, Cunningham JM, Dansonka-Mieszkowska A, Despierre E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Easton DF, Eccles D, Edwards R, Ekici AB, Fasching PA, Fenstermacher DA, Flanagan JM, Garcia-Closas M, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool RM, Gonzalez-Bosquet J, Goodman MT, Gore M, Górski B, Gronwald J, Hall P, Halle MK, Harter P, Heitz F, Hillemanns P, Hoatlin M, Høgdall CK, Høgdall E, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Jim H, Kalli KR, Karlan BY, Kaye SB, Kelemen LE, Kiemeny LA, Kikkawa F, Konecny GE, Krakstad C, Krüger Kjaer S, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Lancaster JM, Le ND, Leminen A, Levine DA, Liang D, Kiong Lim B, Lin J, Lissowska J, Lu KH, Lubiński J, Lurie G, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Nakanishi T, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Nevanlinna H, Nickels S, Noushmehr H, Odunsi K, Olson SH, Orlov I, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Pike MC, Poole EM, Raska P, Renner SP, Risch HA, Rodriguez-Rodriguez L, Anne Rossing M, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Severi G, Shridhar V, Shu XO, Shvetsov YB, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Stram D, Sutphen R, Teo SH, Terry KL, Tessier DC, Thompson PJ, Tworoger SS, van Altena AM, Vergote I, Vierkant RA, Vincent D, Vitonis AF, Wang-Gohrke S, Palmieri Weber R, Wentzensen N, Whittemore AS, Wik E, Wilkens LR, Winterhoff B, Ling Woo Y, Wu AH, Xiang YB, Yang HP, Zheng W, Ziogas A, Zulkifli F, Phelan CM, Iversen E, Schildkraut JM, Berchuck A, Fridley BL, Goode EL, Pharoah PD, Monteiro AN, Sellers TA, Gayther SA : Identification and molecular characterization of a new ovarian cancer susceptibility locus at 17q21.31 Nat Commun, 4:1627, 2013.*
- 011 *Zheng W, Zhang B, Cai Q, Sung H, Michailidou K, Shi J, Cho JY, Long J, Dennis J, Hymphreys MK, Wang Q, Lu W, Gao YT, Li C, Cai F, Park S, Yoo KY, Noh DY, Han W, Dunning AM, Benitez J, Vincent D, Bacot F, Tessier D, Kim SW, Le MH, Lee JW, Lee JY, Xiang YB, Zheng Y, Wang W, Ji BT, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tanaka H, Wu AH, Tseng CC, van den Berg D, Stram DO, Teo SH, Yip CH, Kang IN, Wong TY, Shen CY, Yu JC, Huang CS, Hous MF, Hartman M, Miao H, Lee SC, Putti TC, Muir K, Laphatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Sangrajrang S, Shen H, Chen K, Wu PE, Ren Z, Haiman CA, Sueta A, Kim M, Khoo US, Iwasaki M, Pharoah PDP, Wen Q, Hall P, Shu XO, Easton DF, Kang D : Common genetic determinants of breast-cancer risk in East Asian women: a collaborative study of 23,637 breast cancer cases and 25,579 controls. Hum Mol Genet, 22(12):2539-50, 2013.*
- 012 *Shen H, Fridley BL, Song H, Lawrenson K, Cunningham JM, Ramus SJ, Cicek MS, Tyrer J, Stram D, Larson MC, Köbel M; PRACTICAL Consortium, Ziogas A, Zheng W, Yang HP, Wu AH, Wozniak EL, Ling Woo Y, Winterhoff B, Wik E, Whittemore AS, Wentzensen N, Palmieri Weber R, Vitonis AF, Vincent D, Vierkant RA, Vergote I, Van Den Berg D, Van Altena AM, Tworoger SS, Thompson PJ, Tessier DC, Terry KL, Teo SH, Templeman C, Stram DO, Southey MC, Sieh W, Siddiqui N, Shvetsov YB, Shu XO, Shridhar V, Wang-Gohrke S, Severi G, Schwaab I, Salvesen HB, Rzepecka IK, Runnebaum IB, Anne Rossing M, Rodriguez-Rodriguez L, Risch HA, Renner SP, Poole EM, Pike MC, Phelan CM, Pelttari LM, Pejovic T, Paul J, Orlov I, Zawiah Omar S, Olson SH, Odunsi K, Nickels S, Nevanlinna H, Ness RB, Narod SA, Nakanishi T, Moysich KB, Monteiro AN, Moes-Sosnowska J, Modugno F, Menon U, McLaughlin JR, McGuire V, Matsuo K, Mat Adenan NA, Massuger LF, Lurie G, Lundvall L, Lubiński J, Lissowska J, Levine DA, Leminen A, Lee AW, Le ND, Lambrechts S, Lambrechts D, Kupryjanczyk J, Krakstad C, Konecny GE, Krüger Kjaer S, Kiemeny LA, Kelemen LE, Keeney GL, Karlan BY, Karevan R, Kalli KR, Kajiyama H, Ji BT, Jensen A, Jakubowska A, Iversen E, Hosono S, Høgdall CK, Høgdall E, Hoatlin M, Hillemanns P, Heitz F, Hein R, Harter P, Halle MK, Hall P, Gronwald J, Gore M, Goodman MT, Giles GG, Gentry-Maharaj A, Garcia-Closas M, Flanagan JM, Fasching PA, Ekici AB, Edwards R, Eccles D, Easton DF, Dürst M, du Bois A, Dörk T, Doherty JA, Despierre E, Dansonka-Mieszkowska A, Cybulski C, Cramer DW, Cook LS, Chen X, Charbonneau B, Chang-Claude J, Campbell I, Butzow R, Bunker CH, Brüeggmann D, Brown R, Brooks-Wilson A, Brinton LA, Bogdanova N, Block MS, Benjamin E, Beesley J, Beckmann MW, Bandera EV, Baglietto L, Bacot F, Armasu SM, Antonenkova N, Anton-Culver H, Aben KK, Liang D, Wu X, Lu K, Hildebrandt MA; stralian*

- Ovarian Cancer Study Group; stralian Cancer Study, Schildkraut JM, Sellers TA, Huntsman D, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Gayther SA, Pharoah PD, Laird PW, Goode EL, Leigh Pearce C* : Epigenetic Analysis Leads to Identification of HNF1B as a Subtype-Specific Susceptibility Gene for Ovarian Cancer. *Nat Commun*, 4:1628, 2013.
- 013 *Matsuo K, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Ishioka K, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K, Nakamura S, Tajima K, Tanaka H* : The aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) Glu504Lys polymorphism interacts with alcohol drinking in the risk of stomach cancer. *Carcinogenesis*, 34(7):1510-5, 2013.
- 014 *Camargo CM, Kim WH, Maria Chiaravalli A, Kim KM, Corvalan AH, Matsuo K, Yatabe Y, Yu J, Sung JJY, Herrera-Goepfert R, Meneses-Gonzalez F, Kijima Y, Natsugoe S, Cho WH, Lissowska J, Kim S, Gonzalez CA, Koriyama C, Akiba S, Gulley ML, Taylor PR, Rabkin CS* : Improved survival of gastric cancer with tumour Epstein-Barr virus positivity: an international pooled analysis. *Gut*, 63(2):236-43, 2014.
- 015 *Pharoah PD, Tsai YY, Ramus SJ, Phelan CM, Goode EL, Lawrenson K, Buckley M, Fridley BL, Tyrer JP, Shen H, Weber R, Karevan R, Larson MC, Song H, Tessier DC, Bacot F, Vincent D, Cunningham JM, Dennis J, Dicks E; Australian Cancer Study; Australian Ovarian Cancer Study Group, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Armasu SM, Baglietto L, Bandera EV, Beckmann MW, Birrer MJ, Bloom G, Bogdanova N, Brenton JD, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Brown R, Butzow R, Campbell I, Carney ME, Carvalho RS, Chang-Claude J, Chen YA, Chen Z, Chow WH, Cicek MS, Coetzee G, Cook LS, Cramer DW, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Despierre E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Eccles D, Edwards R, Ekici AB, Fasching PA, Fenstermacher D, Flanagan J, Gao YT, Garcia-Closas M, Gentry-Maharaj A, Giles G, Gjyshi A, Gore M, Gronwald J, Guo Q, Halle MK, Harter P, Hein A, Heitz F, Hillemanns P, Hoatlin M, Høgdall E, Høgdall CK, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Kalli KR, Karlan BY, Kelemen LE, Kiemenev LA, Kjaer SK, Konecny GE, Krakstad C, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee N, Lee J, Leminen A, Lim BK, Lissowska J, Lubiński J, Lundvall L, Lurie G, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Nakanishi T, Narod SA, Ness RB, Nevanlinna H, Nickels S, Noushmehr H, Odunsi K, Olson S, Orlov I, Paul J, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Pike MC, Poole EM, Qu X, Risch HA, Rodriguez-Rodriguez L, Rossing MA, Rudolph A, Runnebaum I, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Severi G, Shen H, Shridhar V, Shu XO, Sieh W, Southey MC, Spellman P, Tajima K, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tworoger SS, van Altena AM, van den Berg D, Vergote I, Vierkant RA, Vitonis AF, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wik E, Winterhoff B, Woo YL, Wu AH, Yang HP, Zheng W, Ziogas A, Zulkifli F, Goodman MT, Hall P, Easton DF, Pearce CL, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Iversen E, Monteiro AN, Gayther SA, Schildkraut JM, Sellers TA* : GWAS meta-analysis and replication identifies three new susceptibility loci for ovarian cancer. *Nat Genet*, 45(4):362-70, 2013.
- 016 *French JD, Ghousaini M, Edwards SL, Meyer KB, Michailidou K, Ahmed S, Khan S, Maranian MJ, O'Reilly M, Hillman KM, Betts JA, Carroll T, Bailey PJ, Dicks E, Beesley J, Tyrer J, Maia AT, Beck A, Knoblauch NW, Chen C, Kraft P, Barnes D, González-Neira A, Alonso MR, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Conroy D, Dennis J, Bolla MK, Wang Q, Hopper JL, Southey MC, Schmidt MK, Broeks A, Verhoef S, Cornelissen S, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Fasching PA, Loehberg CR, Ekici AB, Beckmann MW, Peto J, Dos Santos Silva I, Johnson N, Aitken Z, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Burwinkel B, Guénel P, Truong T, Laurent-Puig P, Menegaux F, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Milne RL, Zamora MP, Arias Perez JI, Benitez J, Anton-Culver H, Brenner H, Müller H, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Lichtner P, Schmutzler RK, Engel C, Brauch H, Hamann U, Justenhoven C; The GENICA Network, Aaltonen K, Heikkilä P, Aittomäki K, Blomquist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Sueta A, Bogdanova NV, Antonenkova NN, Dörk T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM; kConFab Investigators, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Lambrechts D, Peeters S, Smeets A, Floris G, Chang-Claude J, Rudolph A, Nickels S, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Bonanni B, Sardella D, Couch FJ, Wang X, Pankratz VS, Lee A, Giles GG, Severi G, Baglietto L, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Teo SH, Yip CH, Ng CH, Vithana EN, Kristensen V, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winquist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G,*

- Mulligan AM, Devilee P, Seynaeve C, García-Closas M, Figueroa J, Chanoock SJ, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Schoof N, Hoening MJ, Martens JW, Collée JM, Tilanus-Linthorst M, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Balasubramanian SP, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Pharoah PD, Healey CS, Shah M, Pooley KA, Kang D, Yoo KY, Noh DY, Hartman M, Miao H, Sng JH, Sim X, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Sangrajang S, Gaborieau V, McKay J, Toland AE, Ambrosone CB, Yannoukakos D, Godwin AK, Shen CY, Hsiung CN, Wu PE, Chen ST, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker MJ, Ponder BA, Nevanlinna H, Brown MA, Chenevix-Trench G, Easton DF, Dunning AM* : Functional Variants at the 11q13 Risk Locus for Breast Cancer Regulate Cyclin D1 Expression through Long-Range Enhancers. *Am J Hum Genet*, 92(4):489-503, 2013.
- 017 *Tanikawa C, Matsuo K, Kubo M, Takahashi A, Ito H, Tanaka H, Yatabe Y, Yamo K, Kamatani N, Tajima K, Nakamura Y, Matsuda K* : Impact of PSCA variation on gastric ulcer susceptibility. *Plos One*, 8(5):e63698, 2013.
- 018 *Sato F, Sawamura M, Ojima M, Tanaka K, Hanioka T, Tanaka H, Matsuo K* : Smoking increases risk of tooth loss: A meta-analysis of the literature. *World J Meta-analysis*, 1(1): 16-26, 2013.
- 019 *Shi J, Sung H, Zhang B, Lu W, Choi JY, Xiang YB, Kim MK, Iwasaki M, Long J, Ji BT, Park SK, Zheng Y, Tsugane S, Yoo KY, Wang W, Noh DY, Han W, Kim SW, Lee MH, Lee JW, Lee JY, Shen CY, Matsuo K, Ahn SH, Gao YT, Shu XO, Cai Q, Kang D, Zheng W* : New Breast Cancer Risk Variant Discovered at 10q25 in East Asian Women Cancer. *Epidemiol Biomarker Prev*, 22(7):1297-303, 2013.
- 020 *Hishida A, Okada R, Naito M, Morita E, Wakai K, Hamajima N, Hosono S, Nanri H, Turin TC, Suzuki S, Kuwabara K, Mikami H, Budhathoki S, Watanabe I, Arisawa K, Kubo M, Tanaka H* : Polymorphisms in genes encoding antioxidant enzymes (SOD2, CAT, GPx, TXNRD, SEPP1, SEP15 and SELS) and risk of chronic kidney disease in Japanese - cross-sectional data from the J-MICC study. *J Clin Biochem Nutr*, 53(1):15-20, 2013.
- 021 *Iwanaga M, Chiang CJ, Soda M, Lai MS, Yang YW, Miyazaki Y, Matsuo K, Matsuda T, Sobue T* : Incidence of lymphoplasmacytic lymphoma/Waldenström's macroglobulinaemia in Japan and Taiwan population-based cancer registries, 1996-2003. *Int J Cancer*, 134(1):174-80, 2014.
- 022 *Shitara K, Matsuo K, Muro K, Doi T, Ohtsu A* : Progression-free survival and post-progression survival in patients with advanced gastric cancer treated with first-line chemotherapy. *J Cancer Res Clin Oncol*, 139(8):1383-9, 2013.
- 023 *Hishida A, Okada R, Guang Y, Naito M, Wakai K, Hosono S, Nakamura K, Turin TC, Suzuki S, Niimura H, Mikami H, Otonari J, Kuriyama N, Katsuura S, Kubo M, Tanaka H, Hamajima N* : MTHFR, MTR and MTRR polymorphisms and risk of chronic kidney disease in Japanese: cross-sectional data from the J-MICC Study. *Int Urol Nephrol*, 45(6):1613-20, 2013.
- 024 *Nakao M, Chihara D, Niimi A, Ueda R, Tanaka H, Morishima Y, Matsuo K* : Impact of being overweight on outcomes of hematopoietic SCT: a meta-analysis. *Bone Marrow Transplant*, 49(1):66-72, 2014.
- 025 *Hosono S, Matsuo K, Ito H, Oze I, Hirose K, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H* : Polymorphisms in base excision repair genes are associated with endometrial cancer risk among postmenopausal Japanese women. *Int J Gynecol Cancer*, 23(9):1561-8, 2013.
- 026 *Taniguchi C, Tanaka H, Oze I, Ito H, Saka H, Tachibana K, Tokoro A, Nozaki Y, Nakamichi N, Suzuki Y, Suehisa H, Sakakibara H* : Factors associated with weight gain after smoking cessation therapy in Japan. *Nurs Res*, 62(6):414-21, 2013.
- 027 *Tanaka H* : Advances in cancer epidemiology in Japan. *Int J Cancer*, 134(4):747-54, 2014.
- 028 *Ito H, Gallus S, Hosono S, Oze I, Fukumoto K, Yatabe Y, Hida T, Mitsudomi T, Negri E, Yokoi K, Tajima K, La Vecchia C, Tanaka H, Matsuo K* : Time to first cigarette and lung cancer risk in Japan. *Ann Oncol*, 24(11):2870-5, 2013.
- 029 *Nakao M, Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Mizuno N, Yatabe Y, Yamao K, Niimi A, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K* : Cigarette smoking and pancreatic cancer risk: a revisit with an assessment of the nicotine dependence phenotype. *Asian Pac J Cancer Prev*, 14(7):4409-13, 2013.
- 030 *Sasazuki S, Charvat H, Hara A, Wakai K, Nagata C, Nakamura K, Tsuji I, Sugawara Y, Tamakoshi A, Matsuo K, Oze I, Mizoue T, Tanaka K, Inoue M, Tsugane S* : Diabetes mellitus and cancer risk: Pooled analysis of eight cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 104(11):1499-507, 2013.
- 031 *Hishida A, Wakai K, Naito M, Tamura T, Kawai S, Hamajima N, Oze I, Imaizumi T, Turin TC, Suzuki S, Kheradmand M, Mikami H, Ohnaka K, Watanabe Y, Arisawa K, Kubo M, Tanaka H* : Polymorphisms in PPAR Genes (PPARD, PPARG, and PPARGC1A) and the Risk of Chronic Kidney Disease in Japanese: Cross-Sectional Data from the J-MICC Study. *PPAR Res*, 980471, 2013.

- 032 *Shitara K, Yuki S, Tahahari D, Nakamura M, Kondo C, Tsuda T, Kii T, Tsuji Y, Utsunomiya S, Ichikawa D, Hosokawa A, Ishiguro A, Sakai D, Hironaka S, Oze I, Matsuo K, Muro K* : Randomised phase II study comparing dose-escalated weekly paclitaxel vs standard-dose weekly paclitaxel for patients with previously treated advanced gastric cancer. *Br J Cancer*, 110(2):271-7, 2014.
- 033 *Chihara D, Ito H, Matsuda T, Shibata A, Katsumi A, Nakamura S, Tomotaka S, Morton L, Weisenburger D, Matsuo K* : Differences in incidence and trends of haematological malignancies in Japan and the United States. *British Journal of Haematology*, 164(4):536-545, 2014.
- 034 *Chihara D, Ito H, Matsuda T, Katanoda K, Shibata A, Taniguchi S, Utsunomiya A, Sobue T, Matsuo K* : Association between decreasing trend in the mortality of adult T-cell leukemia/lymphoma and allogeneic hematopoietic stem cell transplants in Japan: analysis of Japanese vital statistics and Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT). *Blood Cancer J*, 15;3:e159, 2013.
- 035 *Lin Y, Totsuka Y, He Y, Kikuchi S, Qiao Y, Wei W, Inoue M, Tanaka H* : Epidemiology of esophageal cancer in Japan and China. *J Epidemiol*, 23(4): 233-242, 2013.
- 036 *Hishida A, Wakai K, Okada R, Morita E, Hamajima N, Hosono S, Higaki Y, Turin TC, Suzuki S, Motahareh K, Mikami H, Tashiro N, Watanabe I, Katsuura S, Kubo M, Tanaka H, Naito M* : Significant interaction between RETN -420 G/G genotype and lower BMI on decreased risk of Type2 DM in Japanese - the J-MICC Study. *Endocr J*, 60(2):237-43, 2014.
- 037 *Nakamura A, Niimura H, Kuwabara K, Takezaki T, Morita E, Wakai K, Hamajima N, Nishida Y, Turin TC, Suzuki S, Ohnaka K, Uemura H, Ozaki E, Hosono S, Mikami H, Kubo M, Tanaka H* : Gene-gene combination effect and interactions among ABCA1, APOA1, SR-B1, and CETP polymorphisms for serum high-density lipoprotein-cholesterol in the Japanese population. *PLoS One*, 20;8(12), 2013.
- 038 細野覚代, 大木いずみ, 松田彩子, 伊藤秀美, 祖父江友孝 : 子宮頸癌の罹患と死亡の動向. *産科と婦人科*, 80(10):1285-1290, 2013.
- 039 谷口千枝, 田中英夫, 武田佳司実, 尾瀬 功, 岡 さおり, 坂 英雄, 榎原久孝 : 薬局での対面販売による禁煙補助薬によって禁煙成功者を生みだすのに要したコストの推計. *厚生*の指標, 61(3):25-31, 2014.
- 040 千原 大 : 地域がん登録情報に基づくATLの罹患動向と患者死亡率推移. *血液内科*, 68(1):41-44, 2014.

腫瘍病理学部

【原 著】

- 001 *Ohta M, Abe A, Ohno F, Hasegawa Y, Tanaka H, Maseki S, Kondo E, Kurita K, Nakanishi H* : Positive and negative regulation of podoplanin expression by TGF- β and histone deacetylase inhibitors in oral and pharyngeal squamous cell carcinoma cell lines. *Oral Oncol*, Jan;49(1):20-6, 2013.
- 002 *Murakami H., Nakanishi H., Tanaka H., Ito S., Misawa K., Ito Y., Ikehara Y., Kondo E., Kodera Y.* : Establishment and characterization of novel gastric signet-ring cell and non signet-ring cell, poorly-differentiated adenocarcinoma cell lines with low and high malignant potential. *Gastric Cancer*, Jan;16(1):74-83, 2013.
- 003 *Saito K, Takigawa N, Ohtani N, Iioka H, Tomita Y, Ueda R, Fukuoka J, Kuwahara K, Ichihara E, Kiura K and Kondo E.* : Anti-tumor impact of p14ARF on gefitinib-resistant non-small cell lung cancers. *Mol. Cancer Ther*, 12(8):1616-1628, 2013.
- 004 *Murakami H, Ito S, Tanaka H, Kondo E, Kodera Y, Nakanishi H.* : Establishment of new intraperitoneal paclitaxel-resistant gastric cancer cell lines and comprehensive gene expression analysis. *Anticancer Res*. Oct;33(10):4299-307, 2013.
- 005 *Matsuyama M, Tanaka H, Inoko A, Goto H, Yonemura S, Kobori K, Hayashi Y, Kondo E, Itohara S, Izawa I, Inagaki M.* : Defect of mitotic vimentin phosphorylation causes microphthalmia and cataract via aneuploidy and senescence in lens epithelial cells. *J Biol Chem*, Dec 13;288(50):35626-35, 2013.
- 006 *Ito A, Ito Y, Matsushima S, Tsuchida D, Ogasawara M, Hasegawa J, Misawa K, Kondo E, Kaneda N, Nakanishi H.* : New whole-body multimodality imaging of gastric cancer peritoneal metastasis combining fluorescence imaging with ICG-labeled antibody and MRI in mice. *Gastric Cancer*, 2013 Nov 28.
- 007 *Yusa A, Toneri T, Masuda T, Ito S, Yamamoto S, Okochi M, Kondo N, Iwata H, Yatabe Y, Ichinosawa Y, Kinuta S, Kondo E, Honda H, Arai F, Nakanishi H.* : Development of a New Rapid Isolation Device for Circulating Tumor Cells (CTCs) Using 3D Palladium Filter and Its Application for Genetic Analysis. *PLoS ONE* Feb 11;9(2):e88821, 2014.
- 008 *Saito K, Sakaguchi M, Iioka H, Matsui M, Nakanishi H, Huh NH and Kondo E.* : Coxsackie and adenovirus receptor is a critical regulator for the survival and growth of oral squamous carcinoma cells. *Oncogene*, Mar 6;33(10):1274-86, 2014.

分子腫瘍学部

- 001 **Sekido Y** : Molecular pathogenesis of malignant mesothelioma. *Carcinogenesis*, 34:1413-9, 2013.
- 002 **Natsume A, Ito M, Katsushima K, Ohka F, Hatanaka A, Shinjo K, Sato S, Takahashi S, Ishikawa Y, Takeuchi I, Shimogawa H, Uesugi M, Okano H, Kim SU, Wakabayashi T, Issa JP, Sekido Y, Kondo Y** : Chromatin regulator PRC2 is a key regulator of epigenetic plasticity in glioblastoma. *Cancer Res*, 73: 4559-4570, 2013.
- 003 **Jeon HS, Choi YY, Fukuoka J, Fujii M, Lyakh LA, Song SH, Travis WD, Park JY, Jen J** : High expression of SNIP1 correlates with poor prognosis in non-small cell lung cancer and SNIP1 interferes with the recruitment of HDAC1 to RB. *in vitro.Lung Cancer*, 82:24-30, 2013.
- 004 **duVerle D, Takeuchi I, Murakami-Tonami Y, Kadomatsu K, Tsuda K** : Discovering Combinatorial Interactions in Survival Data. *Bioinformatics*, 29: 3053-9, 2013.
- 005 **Chew S-H, Okazaki Y, Nagai H, Misawa N, Akatsuka S, Yamashita K, Jiang L, Yamashita Y, Noguchi M, Hosoda K, Sekido Y, Takahashi T, Toyokuni S** : Cancer-promoting role of adipocytes in asbestos-induced mesothelial carcinogenesis through dysregulated adipocytokine production. *Carcinogenesis*, 35 : 164-72, 2014.
- 006 **Fukatsu A, Ishiguro F, Tanaka I, Kudo T, Nakagawa K, Shinjo K, Kondo Y, Fujii M, Hasegawa Y, Tomizawa K, Mitsudomi T, Osada H, Hata Y, Sekido Y** : RASSF3 downregulation increases malignant phenotypes of non-small cell lung cancer. *Lung Cancer*, 83:23-9, 2014.
- 007 **Kim TA, Kang JM, Hyun JS, Lee B, Kim SJ, Yang ES, Hong S, Lee HJ, Fujii M, Niederhuber JE, Kim SJ** : Smad7-Skp2 complex orchestrates c-Myc stability, impacting on the cytostatic effect of TGF- β . *J Cell Sci*, 82:24-30, 2013.
- 008 **Okamoto Y, Shinjo K, Shimizu Y, Sano T, Yamao K, Gao W, Fujii M, Osada H, Sekido Y, Murakami S, Tanaka Y, Joh T, Sato S, Takahashi S, Wakita T, Zhu J, Issa JP, Kondo Y** : Hepatitis virus infection affects DNA methylation in mice with humanized livers. *Gastroenterology*, 146: 562-572, 2014.
- 009 **Tahara T, Yamamoto E, Madireddi P, Suzuki H, Maruyama R, Chung W, Garriga J, Jelinek J, Yamano HO, Sugai T, Kondo Y, Toyota M, Issa JP, Estecio MR** : Colorectal carcinomas with CpG island methylator phenotype 1 frequently contain mutations in chromatin regulators. *Gastroenterology*, 146: 530-538, 2014.
- 010 **Kondo Y** : Shall we crosstalk? - The relationship between DNA methylation and histone H3 lysine 27 trimethylation. *Bioessays*, 36: 128, 2014.
- 011 **Tahara T, Yamamoto E, Suzuki H, Maruyama R, Chung W, Garriga J, Jelinek J, Yamano HO, Sugai T, An B, Shureiqi I, Toyota M, Kondo Y, Estecio MR, Issa JP** : Fusobacterium in Colonic Flora and Molecular Features of Colorectal Carcinoma. *Cancer Res*, 74: 1311-1318, 2014.
- 012 **Katsushima K, Kondo Y** : Non-coding RNAs as epigenetic regulator of glioma stem-like cell differentiation. *Front. Genet*, 5: 1-8, 2014.
- 013 **Fernandez-Cuesta L, Plenker D, Osada H, Sun R, Menon R, Leenders F, Ortiz-Cuaran S, Peifer M, Bos M, DaBler J, Malchers F, Schottle J, Vogel W, Dahmen I, Koker M, Ullrich RT, Wright GM, Russell PA, Wainer Z, Solomon B, Brambilla E, Nagy-Mignotte H, Moro-Sibilot D, Brambilla CG, Lantuejoul S, Altmuller J, Becker C, Nurnberg P, Heuckmann JM, Stoelben E, Petersen I, Clement JH, Sanger J, Muscarella LA, la Torre A, Fazio VM, Lahortiga I, Perera T, Ogata S, Parade M, Brehmer D, Vingron M, Heukamp LC, Buettner R, Zander T, Wolf J, Perner S, Ansen S, Haas SA, Yatabe Y, Thomas RK** : CD74-NRG1 fusions in lung adenocarcinoma. *Cancer Discovery*, 4: 415-22, 2014.
- 014 **Tanaka I, Osada H, Fujii M, Fukatsu A, Hida T, Horio Y, Kondo Y, Sato A, Hasegawa Y, Tsujimura T, Sekido Y** : LIM-domain protein AJUBA suppresses malignant mesothelioma cell proliferation via Hippo signaling cascade. *Oncogene* in press.

遺伝子医療研究部

[原著]

- 001 **Taguchi O, Tsujimura K, Kontani K, Harada Y, Nomura S, Ikeda H, Morita A, Sugiura H, Hayashi N, Yatabe Y, Seto M, Tatematsu M, Takahashi T, Fukushima A** : Behavior of Bone Marrow-Derived Cells Following in Vivo Transplantation: Differentiation into Stromal Cells with Roles in Organ Maintenance. *Am J Pathol*, 182: 1255-1262, 2013.
- 002 **Yoshida N, Nishikori M, Izumi T, Imaizumi Y, Sawayama Y, Niino D, Tashima M, Hoshi S, Ohshima K, Shimoyama M, Seto M, Tsukasaki K** : Primary peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified of the thyroid with autoimmune thyroiditis. *Br J Haematol*, 161: 214-223, 2013.
- 003 **Teshima K, Nara M, Watanabe A, Ito M, Ikeda S, Hatano Y, Oshima K, Seto M, Sawada K, Tagawa H** : Dysregulation of BMI1 and microRNA-16

collaborate to enhance an anti-apoptotic potential in the side population of refractory mantle cell lymphoma. *Oncogene*, 33:2191-2203, 2013.

- 004 **Seto, M** : Malignant lymphoma as a consequence of clonal evolution. *Hematol Oncol*, 31 Suppl 1:84-88, 2013.
- 005 **Karube K, Tsuzuki S, Yoshida N, Arita K, Kato H, Katayama M, Ko Y-H, Ohshima K, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M** : Comprehensive gene expression profiles of NK cell neoplasms identify vorinostat as an effective drug candidate. *Cancer Letter*, 333: 47-55, 2013.
- 006 **Arita K, Maeda-Kasugai Y, Ohshima K, Tsuzuki S, Suguro-Katayama M, Karube K, Yoshida N, Sugiyama T, Seto M** : Generation of mouse models of lymphoid neoplasm using retroviral gene transduction of in vitro-induced germinal center B and T cells. *Exp Hematol*, 41:731-741, 2013.
- 007 **Seto M, Yoshida N, Umino A, Karube K, Utsunomiya A** : Molecular characterization of T/NK-cell malignancies. *Rinsho Ketsueki*, 54:628-635, 2013.
- 008 **Ha SY, Sung J, Ju H, Karube K, Kim SJ, Kim WS, Seto M, Ko YH** : Epstein-Barr virus-positive nodal peripheral T cell lymphomas: clinicopathologic and gene expression profiling study. *Pathol Res Pract*, 209:448-454, 2013.
- 009 **Yamamoto K, Tsuzuki S, Minami Y, Yamamoto Y, Abe A, Ohshima K, Seto M, Naoe T** : Functionally Deregulated AML1/RUNX1 Cooperates with BCR-ABL to Induce a Blastic Phase-Like Phenotype of Chronic Myelogenous Leukemia in Mice. *Plos One*, 8(9):e74864, 2013.
- 010 **Yoshida N, Oda M, Kuroda Y, Katayama Y, Okikawa Y, Masunari T, Fujiwara M, Takashi Nishisaka, Sasaki N, Sadahira Y, Mihara K, Asaoku K, Matsui H, Seto M, Kimura A, Arihiro K, Sakai A** : Clinical significance of sIL-2R levels in B-cell lymphomas. *Plos One*, 8:e78730, 2013.

腫瘍免疫学部

【原著】

- 001 **Miyazaki Y, Fujiwara H, Asai H, Ochi F, Ochi T, Azuma T, Ishida T, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Yasukawa M** : Development of a novel redirected T-cell-based adoptive immunotherapy targeting human telomerase reverse transcriptase for adult T-cell leukemia. *Blood*, 121: 4894-4901, 2013.
- 002 **Kondo S, Demachi-Okamura A, Hirosawa T, Maki H, Fujita M, Uemura Y, Akatsuka Y, Yamamoto E, Shibata K, Ino K, Kikkawa F, Kuzushima K** : An HLA-modified ovarian cancer cell line induced CTL responses specific to an epitope derived from claudin-1

presented by HLA-A*24:02 molecules. *Hum Immunol*, 74: 1103-10, 2013.

- 003 **Asai H, Fujiwara H, Kitazawa S, Kobayashi N, Ochi T, Miyazaki Y, Ochi F, Akatsuka Y, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Ikeda H, Shiku H, Yasukawa M** : Adoptive transfer of genetically engineered WT1-specific cytotoxic T lymphocytes does not induce renal injury. *J Hematol Oncol*, 7:3, 2014.
- 004 **Ochi F, Fujiwara H, Tanimoto K, Asai H, Miyazaki Y, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Barrett J, Ishii E, Yasukawa M** : Gene-Modified Human α/β -T Cells Expressing a Chimeric CD16-CD3 ζ Receptor as Adoptively Transferable Effector Cells for Anticancer Monoclonal Antibody Therapy. *Cancer Immunol Res*, 3: 249-262, 2014.

【総説・単行本】

- 001 張 エイ, 劉 天懿, 鈴木元晴, 廣澤成美, 坂本 安, 葛島清隆, 植村靖史 : iNKT細胞と樹状細胞の相互作用による IL-27/osteopontin産生制御. *臨床免疫・アレルギー科*, 61: 158-163,

感染腫瘍学部

- 001 **Saito S, Murata T, Kanda T, Isomura H, Narita Y, Sugimoto A, Kawashima D, Tsurumi T** : Epstein-Barr virus deubiquitinase downregulates TRAF6-mediated NF- κ B signaling during productive replication. *J Virol*, 87: 4060-4070, 2013.
- 002 **Kawashima D, Kanda T, Murata T, Saito S, Sugimoto A, Narita Y, Tsurumi T** : Nuclear transport of Epstein-Barr virus DNA polymerase is dependent on the BMRF1 polymerase processivity factor and molecular chaperone Hsp90. *J Virol*, 87: 6482-6491, 2013.
- 003 **Sugimoto A, Sato Y, Kanda T, Murata T, Narita Y, Kawashima D, Kimura H, Tsurumi T** : Different distributions of Epstein-Barr virus early and late gene transcripts within viral replication compartments. *J Virol*, 87: 6693-6699, 2013.
- 004 **Murata T, Iwata S, Siddiquey MN, Kanazawa T, Goshima F, Kawashima D, Kimura H, Tsurumi T** : Heat shock protein 90 inhibitors repress latent membrane protein 1 (LMP1) expression and proliferation of Epstein-Barr virus-positive natural killer cell lymphoma. *PLoS One*, 8: e63566, 2013.
- 005 **Murata T, Narita Y, Sugimoto A, Kawashima D, Kanda T, Tsurumi T** : Contribution of myocyte enhancer factor 2 (MEF2) family transcription factors to BZLF1 expression in Epstein-Barr virus reactivation from latency. *J Virol*, 87: 10148-10162, 2013.

006 **Kanda T, Horikoshi N, Murata T, Kawashima D, Sugimoto A, Narita Y, Kurumizaka H, Tsurumi T** : Interaction between basic residues of Epstein-Barr virus EBNA1 protein and cellular chromatin mediates viral plasmid maintenance. *J Biol Chem*, 288: 24189-24199, 2013.

007 **Yamashita Y, Ito Y, Isomura H, Takemura N, Okamoto A, Motomura K, Tsuchiuchi T, Natsume A, Wakabayashi T, Toyokuni S, Tsurumi T** : Lack of presence of the human cytomegalovirus in human glioblastoma. *Mod Pathol*, 27: 922-929, 2013.

その他誌上への発表

008 **Sato Y, Tsurumi T** : Genome guardian p53 and viral infections. *Rev Med Virol*, 23: 213-220, 2013.

009 **Murata T, Tsurumi T** : Epigenetic modification of the Epstein-Barr virus BZLF1 promoter regulates viral reactivation from latency. *Front Genet*, 4: 53, 2013.

010 **Murata T, Tsurumi T** : Switching of EBV cycles between latent and lytic states. *Rev Med Virol*, 24: 142-153, 2013.

分子病態学部

【原著】

001 **Itatani Y, Kawada K, Fujishita T, Kakizaki F, Hirai H, Matsumoto T, Iwamoto M, Inamoto S, Hatano E, Hasegawa S, Maekawa T, Uemoto S, Sakai Y, Taketo MM** : Loss of SMAD4 from colorectal cancer cells promotes CCL15 expression to recruit CCR1+ myeloid cells and facilitate liver metastasis. *Gastroenterology*, 145: 1064-1075, 2013.

002 **Patnode M, Yu S-Y, Cheng C-W, Ho M-Y, Tegesjo L, Sakuma K, Uchimura K, Khoo K-H, Kannagi R, Rosen S** : KSGal6ST generates galactose-6-O-sulfate in high endothelial venules but does not contribute to L-selectin dependent lymphocyte homing. *Glycobiology*, 23: 381-394, 2013.

腫瘍医化学部

【原著】

001 **Jeong HJ, Ohmuro-Matsuyama Y, Ohashi H, Ohsawa F, Tatsu Y, Inagaki M, Ueda H** : Detection of vimentin serine phosphorylation by multicolor Quenchbodies. *Biosens Bioelectron*, 40: 17-23, 2013.

002 **Kasahara K, Goto H, Izawa I, Kiyono T, Watanabe N, Elowe S, Nigg EA, Inagaki M** : PI 3-kinase-dependent phosphorylation of Plk1-Ser99 promotes its association with 14-3-3 γ and is required for metaphase-

anaphase transition. *Nat Commun*, 4: 1882, 2013.

003 **Odaka C, Loranger A, Takizawa K, Ouellet M, Tremblay MJ, Murata S, Inoko A, Inagaki M, Marceau N** : Keratin 8 Is Required for the Maintenance of Architectural Structure in Thymus Epithelium. *PLoS ONE*, 8: e75101, 2013.

004 **Matsuyama M, Tanaka H, Inoko A, Goto H, Yonemura S, Kobori K, Hayashi Y, Kondo E, Itohara S, Izawa I, Inagaki M** : Defect of mitotic vimentin phosphorylation causes microphthalmia and cataract via aneuploidy and senescence in lens epithelial cells. *J Biol Chem*, 288: 35626-35635, 2013.

005 **Neise D, Sohn D, Stefanski A, Goto H, Inagaki M, Wesselborg S, Budach W, Stühler K, Jänicke RU** : The p90 ribosomal S6 kinase (RSK) inhibitor BI-D1870 prevents gamma irradiation-induced apoptosis and mediates senescence via RSK- and p53-independent accumulation of p21WAF1/CIP1. *Cell Death Dis*, 4: e859, 2013.

006 **Ikawa K, Satou A, Fukuhara M, Matsumura S, Sugiyama N, Goto H, Fukuda M, Inagaki M, Ishihama Y, Toyoshima F** : Inhibition of endocytic vesicle fusion by Plk1-mediated phosphorylation of vimentin during mitosis. *Cell Cycle*, 13: 126-137, 2014.

007 **Kaneko M, Matsuzawa K, Matsui T, Akita H, Sugiyama I, Ishidate F, Nakano A, Takashima S, Goto H, Inagaki M, Kaibuchi K, Watanabe T** : Plk1 phosphorylates CLIP-170 and regulates its binding to microtubules for chromosome alignment. *Cell Struct Funct*, 39: 45-59, 2014.

008 **Kitagawa M, Fung SYS, Hameed UFS, Goto H, Inagaki M, Lee SH** : Cdk1 Coordinates Timely Activation of MKlp2 Kinesin with Relocation of the Chromosome Passenger Complex for Cytokinesis. *Cell Rep*, 7: 166-179, 2014.

【総説および単行本】

009 **Goto H, Inoko A, Inagaki M** : Cell cycle progression by the repression of primary cilia formation in proliferating cells. *Cell Mol life Sci*, 70: 3893-3905, 2013.

010 **Goto H, Inagaki M** : Method for generation of antibodies specific for site- and post-translational modifications. *Monoclonal Antibodies. Methods and Protocols*, Second Edition. "Methods in molecular biology" series (eds. Ossipow V, Fischer N). Humana Press, 1131: 21-31, 2014.

011 **Goto H, Inagaki M** : New Insights into Roles of Intermediate Filament (IF) Phosphorylation and Progeria Pathogenesis. *IUBMB Life*, 66: 195-200, 2014.

012 後藤英仁, 稲垣昌樹 : DNA損傷チェックポイントとがん-Chk1阻害剤の展望と問題点. *生化学*, 85: 145-151, 2013.

013 後藤英仁, 稲垣昌樹 : 抗リン酸化抗体による新たな細胞周

期研究. ヒトと医学のステージへ拡大する細胞周期 (中山敬一編). 実験医学増刊号, 31: 186-193 (316-323), 2013.

014 猪子誠人, 稲垣昌樹: 一次繊毛動態による新たな細胞増殖制御機構-トリコプレイン・オーロラAキナーゼ経路-. 化学と生物, 51: 524-533, 2013.

015 後藤英仁: チェックポイントキナーゼ1 (Chk1) による細胞周期の制御. 生体の科学, 印刷中.